

くすりの適正使用協議会 御中

医薬品および医療に関する意識調査
結果報告書

平成 22 年 9 月

スナッジ・ラボ株式会社

目次

I.調査の概要

I-1.	調査の目的	P2
I-2.	調査設計	P2
I-3.	調査結果の集計・分析方法	P3

II. 調査結果

II-1.	調査項目の分類	P3
II-2.	回答者の属性	P4
II-3.	調査結果の概要	P6
II-4.	調査結果(要約編)	P9
II-5.	調査結果(詳細編)	
	II-5-1. 調査結果の総括	P55
	II-5-2. 調査結果内容	P60

III.調査票	P171
---------	------

I 調査の概要

I-1. 調査の目的

- 1) 2005 年の調査結果にみる医療・医薬品に関する患者・一般生活者の意識がどのように変わってきているかを把握する。(但し、調査方法をFAX調査からインターネット調査へ変更しているためあくまで参考比較にとどめる)
- 2) 「くすり教育」や「コンコーダンス指向のくすりのしおり」に関連する一般生活者の意識やニーズも探索する。
- 3) 上記結果を踏まえ、今後の協議会の活動の方向性を検討する基礎資料とする。

I-2. 調査設計

調査名: 薬に関するアンケート

調査方法: WEB調査

調査対象: 株式会社ボーダーズが保有する調査パネル(72 万人)から対象者を抽出条件に基づき選定

抽出条件: 平成 22 年における 20-69 歳の全国成人男女(8344 万人の年齢構成に合わせた層化抽出を行う)

*参照データ”日本の将来推計人口平成 18 年 12 月推計” 国立社会保障・人口問題研究所

	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男性	8.7%	10.9%	10.1%	9.7%	10.6%	49.9%
女性	8.3%	10.7%	10.0%	9.8%	11.3%	50.1%
合計	16.9%	21.6%	20.1%	19.5%	21.8%	100.0%

調査期間: 2010 年 7 月 30 日(金)~8 月 2 日(月)

配信数: 10,000

回収数: 1,500(上記の性年代別人口構成比に従う)

	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男性	130	165	151	145	158	749
女性	124	160	150	148	169	751
合計	254	325	301	293	327	1,500

調査実査機関: 株式会社エスミ

I-3. 調査結果の集計・分析方法

計 45 問(内副問 19 問)の全設問に対し、時系列比較分析、層別分析を行う。

ただし 1999 年、2005 年度調査結果との時系列比較分析は、今回の調査方法がFAX調査でなくインターネット調査であることからあくまで参考としての位置付けと考える。また必要に応じて質問間のクロス分析を行う。

II. 調査結果

II-1. 調査項目の分類

設問	
Q1	健康状態
Q2	病気になった時の対応
Q3	病院の選択方法
Q4	医療機関に対する満足度
Q4SQ	医療機関に対し満足している点
Q5	治療に自分の意思が反映されていたか
Q5SQ1	自分の意思が反映されていたと思う時
Q5SQ2	自分の意思が反映されていないことについて
Q6	かかりつけ薬局の有無
Q6SQ	かかりつけ薬局を決めている理由
Q7	1年以内の処方薬の有無
Q7SQ	処方薬をもらった場所(施設)
Q8	処方薬についての説明有無
Q8SQ1	処方薬について説明をした人
Q8SQ2	処方薬の説明内容
Q8SQ3	処方薬の説明方法
Q8SQ4	処方薬の説明に対する理解度
Q9	処方薬について尋ねた経験
Q10	処方薬の説明をしてほしい相手
Q11	処方薬について役立つ情報
Q12	お薬手帳の利用状況
Q13	薬の説明用紙の必要性
Q13SQ	説明用紙の改良点
Q14	処方薬に関する情報の入手先
Q14SQ	薬の情報を入手するサイト
Q15	消費者くすり相談室やくすり相談窓口の利用経験
Q16	処方薬の服用状況
Q16SQ1	処方薬を指示通りに使わない理由
Q16SQ2	余った処方薬の取り扱い
Q16SQ3	余った処方薬について
Q17	1年以上使い続けている薬の有無
Q17SQ	1年以上使い続けている薬の定期的な確認
Q18	処方薬に対する不安
Q19	副作用に対する不安
Q20	処方薬による副作用の経験
Q20SQ	処方薬による副作用発現時の対応
Q21	処方薬による副作用についての考え
Q22	医薬品副作用被害者救済制度の認知
Q23	市販薬購入の際の相談有無
Q23SQ1	市販薬購入の際の相談結果
Q23SQ2	市販薬購入の際に相談しない理由
Q24	使用薬の特性の理解度
Q24SQ	使用薬に関する知識の習得方法
Q25	中学校での「医薬品教育」の認知状況
Q26	中学校での「医薬品教育」が必要と思うこと

II-2. 回答者の属性

属性	実数(人)	構成比(%)
<u>1. 性別</u>		
男性	749	49.9
女性	751	50.1
<u>2. 年齢</u>		
20代	254	16.9
30代	325	21.7
40代	301	20.1
50代	293	19.5
60代	327	21.8
<u>3. 職業</u>		
経営・管理職	89	5.9
専門・技術職	156	10.4
自営業	150	10.0
常勤のお勤め人	319	21.3
パート・アルバイト(派遣社員・契約社員含む)	209	13.9
専業主婦	358	23.9
学生	56	3.7
無職(定年退職後も含む)	143	9.5
その他	20	1.3
<u>4. 最終学歴</u>		
中学卒	36	2.4
高校卒	488	32.5
短大・高専・専門学校卒	347	23.1
大学・大学院卒	629	41.9
<u>5. 現在の通院状況</u>		
慢性的な病気で通院中である	505	33.7
カゼやケガなどの急性疾患で通院中である	45	3.0
現在通院していない	950	63.3
<u>6. 1年間の通院回数</u>		
2回以内	707	47.1
3回～11回	550	36.7
12回以上	243	16.2

属性	実数(人)	構成比(%)
7. 居住地		
北海道	69	4.6
青森県	15	1.0
岩手県	11	0.7
宮城県	23	1.5
秋田県	17	1.1
山形県	7	0.5
福島県	22	1.5
茨城県	24	1.6
栃木県	15	1.0
群馬県	12	0.8
埼玉県	91	6.1
千葉県	99	6.6
東京都	191	12.7
神奈川県	141	9.4
新潟県	22	1.5
富山県	9	0.6
石川県	21	1.4
福井県	4	0.3
山梨県	6	0.4
長野県	20	1.3
岐阜県	20	1.3
静岡県	30	2.0
愛知県	96	6.4
三重県	20	1.3
滋賀県	10	0.7
京都府	39	2.6
大阪府	134	8.9
兵庫県	81	5.4
奈良県	20	1.3
和歌山県	8	0.5
鳥取県	2	0.1
島根県	3	0.2
岡山県	24	1.6
広島県	26	1.7
山口県	7	0.5
徳島県	6	0.4
香川県	8	0.5
愛媛県	19	1.3
高知県	7	0.5
福岡県	57	3.8
佐賀県	5	0.3
長崎県	7	0.5
熊本県	15	1.0
大分県	8	0.5
宮崎県	11	0.7
鹿児島県	9	0.6
沖縄県	9	0.6

II-3. 調査結果の概要

医薬品に関する一般市民の意識が1999年、2005年に実施した調査結果と比較することでどのように変わってきているかを検証し、その内容を今後の協議会活動の方向性検討に反映させることを目的として、本調査を2010年に実施した。

以下に結果の概要を示す。

①軽い病気になった時の対応について。「休養をとったり、栄養のあるものを食べたり、体を動かしたり（運動）して様子をみる」が約半数と、過去2回の調査よりも増加した。その分医療（市販薬の購入、医療機関の受診）へのアクセスが減少している傾向が見られた。

②保険薬局を決めている人の割合について。過去2回の調査結果と較べあまり変化が見られない。保険薬局を決めている理由として、「病院からの距離が近い」、「スタッフの対応がとてもよい」、「家・職場からの距離が近い」が上位に挙げられ、スタッフの対応とともに立地が重要なポイントであった。

③治療に自分の意思が反映されているかについて。「思う」人は約半数であり、「医師から納得のいく説明がされた時」、「処方薬を変更する時」、「治療法を変える時」にそう思うとしていた。さらに、自分の意思が反映されていた人ほど、医療機関に対する満足度も高かった。一方、自分の意思が反映されていないと感じる人は、自分が「病気や治療法などの知識がないから、意思が出せない」、「医師とは相談しにくいので難しい」、「病気や治療について事前に学習できる機会がない」などとする割合が高く、医師に対し質問をしたり、希望を伝えたりしづらい関係にあることが考えられた。

④処方薬について説明を受けているかについて。過去2回の調査と受けている割合はほぼ同じ水準であるが、「十分に説明を受けた」割合が増加している。また、薬の説明を受けた職種では「薬剤師」の割合が増加傾向にある。また通院回数が多い人ほど「医師」から説明を受けている割合が高い。説明の内容は「使用方法」、「効き目」、「使用量」、「薬の名前」が上位となった。「十分に説明を受けた」と回答した人の割合は、「薬の副作用が出たときの対処方法」と「飲み忘れたときの対処方法」の説明を受けた人では高くなり、使用方法や使用量だけではなく、プラスアルファの情報提供が患者に「十分な説明」と感じさせる可能性が考えられた。

⑤処方薬の説明に対する理解度について。「よくわかった」、「まあわかった」が96%であった。特に「よくわかった」の割合は、「医師から」説明を受けた人、「印刷物の説明があり、印刷物をもらった」人で高くなり、両方の条件を満たした人では理解度さらに高くなった。

⑥お薬手帳を「利用している」について。利用しているは約3分の1であったが、通院回数が多い人ほどお薬手帳を利用している傾向がみられた。薬の説明が書かれた印刷物を必要と思うかについては「いまもらっているものをもらいたい」と現状肯定派が約2分の1であった。なお、約20%を占める「内容を改良したものをもらいたい」とした人では、「家に帰ってから確認できる詳しい内容のもの」と「実際の薬の写真が載っているもの」を望んでいた。

⑦処方薬に関する情報をどこから入手しているかについて。インターネットからが、過去2回の調査結果と比べて増加傾向を示した。調査方法が前回までのFAX調査からインターネット調査に変更されたことも要因の一つではないか。また「慢性疾患で通院中」や通院回数が多い人では、積極的に情報を入手する傾向がみられた。インターネットで情報を入手するサイトとしては、「医薬品情報の専門サイト」、「製薬会社のホームページ」が多かった。

⑧処方薬について専門家に尋ねたかについて。「医師に」と「薬剤師に」が多いが、ほぼ同程度であった。しかしそれ以上に「尋ねたことはない」が多く、2005年より増加傾向が見られ、通院回数が多いほど尋ねる傾向がみられた。なお、尋ねたことがある人ほど、治療に自分の意思が反映されていると回答している割合が高かった。

⑨処方薬の服用状況について。「きちんと指示通りに使う」「だいたい指示通りに使う」が約90%と過去2回の調査と比べて大きな変化は見られない。なお、余った処方薬について約6割の人は捨てるとしているが、「保存しておいて同じ症状の時に使う」は約4割おり、通院回数が多い人では同じ症状の時に使おうとする傾向が見られた。

⑩1年以上使い続けている処方薬について。約3割の人は「ある」としているが、その処方薬について専門家に定期的に確認をしないで「黙って使い続けている」がそうち約3割存在している。適正使用の観点から問題があると思われる。

⑪処方薬を使うときどの程度副作用を意識するかについて。「気にしている」とする人は、過去2回の調査と比較すると少しずつではあるが減少傾向にある。治療に自分の意思が反映されていないとする人ほど、不安を感じる割合が高くなった。

処方薬について副作用を経験したかについて「ある」とする割合は減少傾向がみられた。

⑫市販薬の購入時に薬剤師や登録販売者に相談したことがあるかについて。「相談したことがある」は4分の1程度で、薬剤師や登録販売者にあまり相談していない結果であった。相談した場合は「症状などを聞いてくれて、薬の使い方がわかった」という点が評価されていた。一方、薬剤師や登録販売者に相談しない理由は、「薬を指定して買うので相談したことがない」、「説明を聞くのが煩わしくて相談していない」が多かった。

⑬中学校で「医薬品教育」が行われることを知っているかについて。「医薬品教育」の認知状況は約4%と低かったが、「医薬品教育」に必要と考える項目については「くすりは効果と副作用（不利益なことなども含む）の兼ね合いで用いるものであること」、「使用説明書を読み理解し、くすりを指示通り使用すること」、「くすりを使用しているときに、いつもと違う症状が出ないか注意・観察すること」などが上位に挙げられた。通院回数が多い人では各項目の回答率が高く、医薬品教育に対する関心が高いと言える。また前述した「治療に自分の意思が反映されていない」と感じる人がそう感じる理由の上位に「病気や治療法などの知識がないから」「病気や治療について事前に学習できる機会がない」が挙げられていることを考えると中学校で行われることとなった医薬品教育の意義は高いと考える。

以上まとめると、処方薬に関する一般市民への説明は充実してきている。特に、使用方法や使用量に加えて副作用の対処方法や飲み忘れての対処方法についての説明が充実感につながっている。しかしながら、余った処方薬を捨てずに再利用する、また、医療者の確認を受けないまま1年以上長期服用している人が少なからずいることは、適正使用に関する服薬指導項目として追加する必要があると思われる。さらに、処方薬について医師や薬剤師に尋ねない患者が増えていることと、市販薬の購入時に薬剤師や販売登録者に相談する人は少数派であることから、一般市民への「医薬品教育」による教育の必要性は高まっていると考えられる。

II-4. 調查結果(要約編)

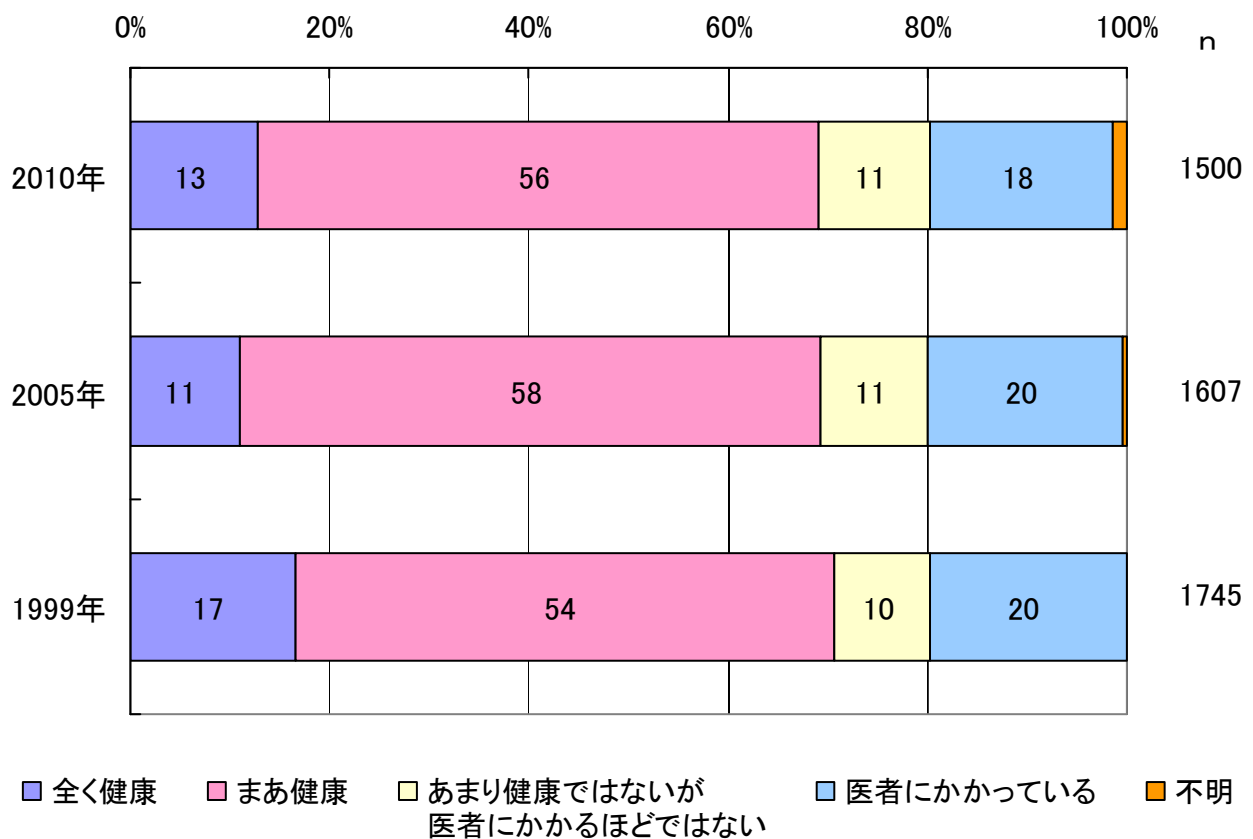
II-4. 調査結果(要約編)

Q1. 健康状態

現在の健康状態について、「全く健康」は13%、「まあ健康(普通)」は56%で、合計69%が健康であると回答しており、この割合は、1999年調査の71%、2005年調査の69%とほぼ同じ水準である。

Q1. あなたの現在の健康状態について、当てはまるものをひとつ選んで下さい。
(○はひとつ)

1. 全く健康
2. まあ健康(普通)
3. あまり健康ではないが、医者にかかるほどではない
4. 医者にかかっている

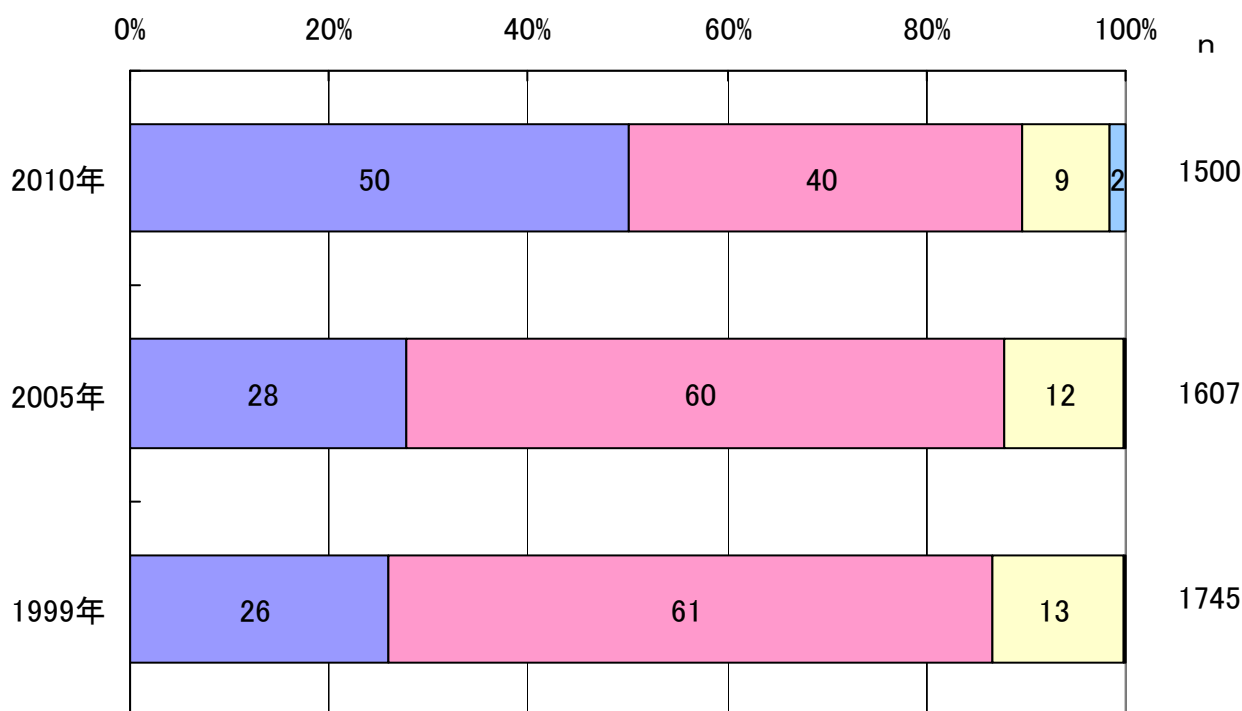


Q2. 病気になった時の対応

軽い病気になった時の対応として「休養をとったり、栄養のあるものを食べたり、体を動かしたり(運動)して様子を見る」が50%、「まず市販の薬を使い、様子を見る」が40%、「とにかく医者に行き、診察を受け、薬をもらう」は9%となった。過去2回の調査と比較すると「休養をとったり、栄養のあるものを食べたり、体を動かしたり(運動)して様子を見る」割合が増え、医療へのアクセスが減少している傾向が見られた。

Q2. 普段、あなたは、風邪ぎみや腹痛等のような体の変調を覚えた時、最初にどうしますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. 休養をとったり、栄養のあるものを食べたり、体を動かしたり(運動)して様子を見る。
2. まず市販の薬(一般用医薬品)を使い、様子を見る。
3. とにかく医者に行き、診察を受け、薬をもらう。



- 休養をとったり、栄養のあるものを食べたり、体を動かしたり(運動)して様子を見る
- まず市販の薬(一般用医薬品)を使い、様子を見る
- とにかく医者に行き、診察を受け、薬をもらう
- 不明

※2005年、1999年の回答選択肢

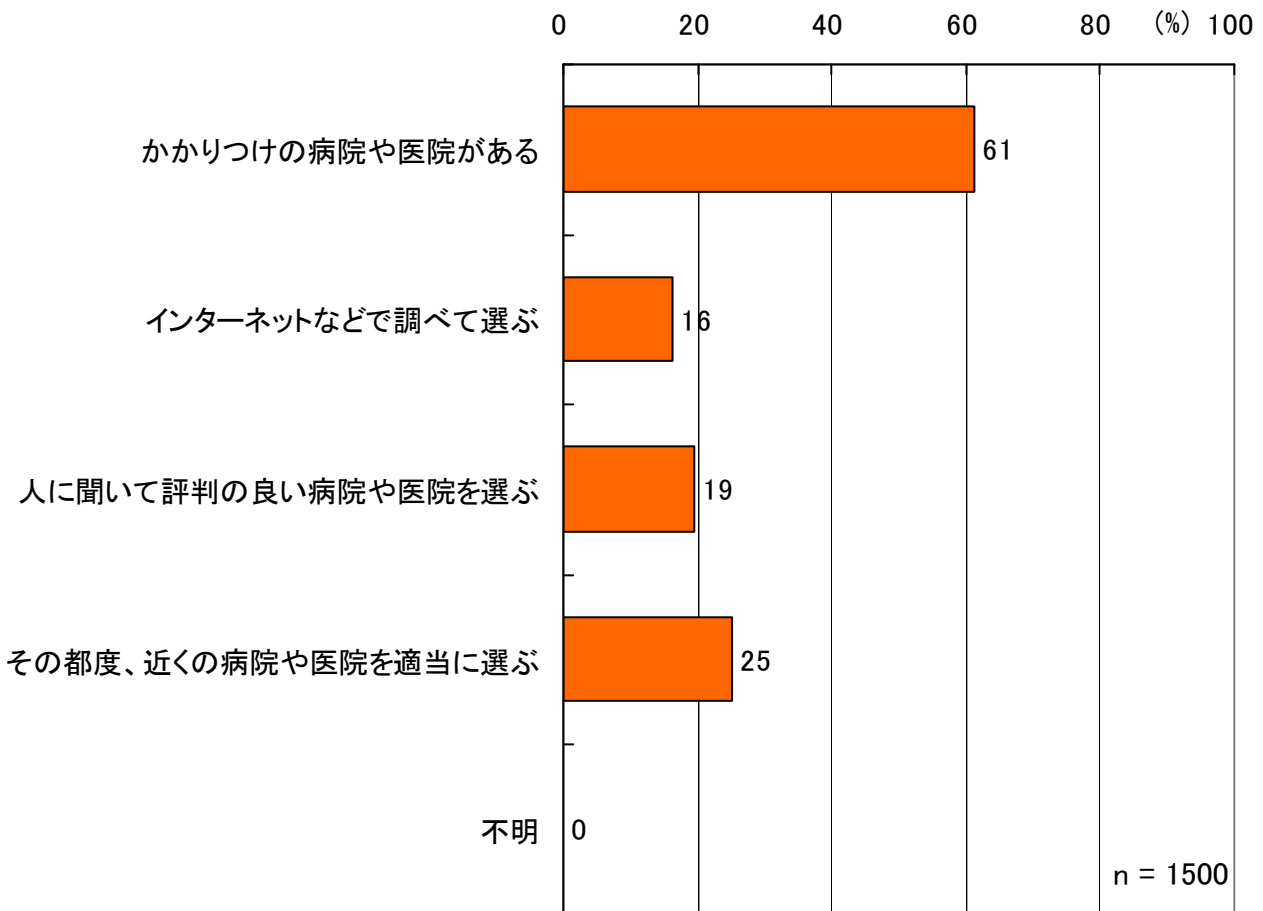
1. 「薬など飲まず様子を見る」
2. 「市販の薬(大衆薬)を飲み、様子を見る」
3. 「医者に行き、薬をもらう」

Q3. 病院の選択方法

「かかりつけの病院や医院がある」人は 61%で過半数をしめた。「その都度、近くの病院や医院を適当に選ぶ」「人に聞いて評判の良い病院や医院を選ぶ」「インターネットなどで調べて選ぶ」はそれぞれ 25%、19%、16%であった。

Q3. あなたは、病院や医院(以下、歯科や産科は除く)をどのように選んでいますか。(○はいくつでも)

1. かかりつけの病院や医院がある。
2. インターネットなどで調べて選ぶ。
3. 人に聞いて評判の良い病院や医院を選ぶ。
4. その都度、近くの病院や医院を適当に選ぶ。

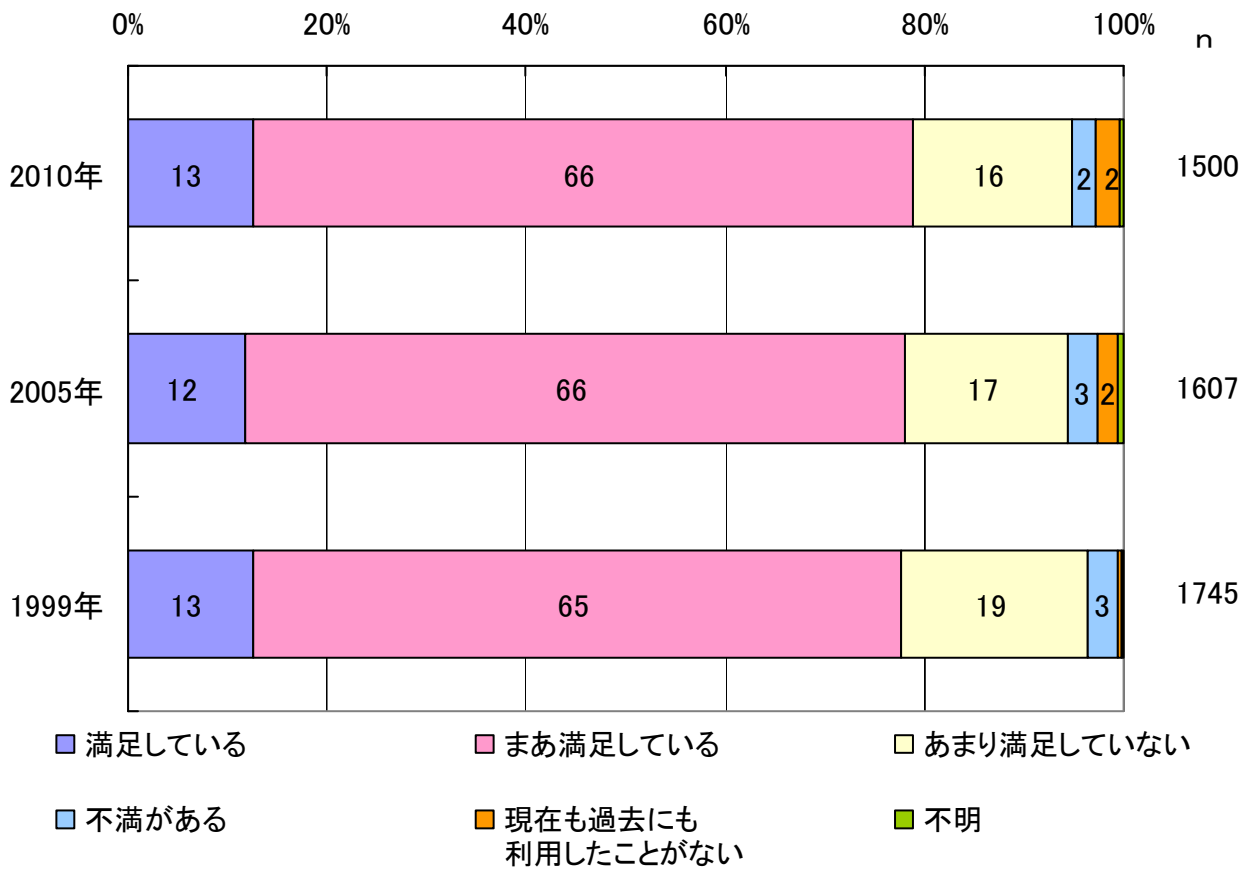


Q4. 医療機関に対する満足度

最近利用した病院に「満足している」は13%、「まあ満足している」は66%で、合計79%が満足していると回答している。1999年の78%、2005年の78%とほぼ同じ水準である。「満足している」「まあ満足している」と回答した人が評価している点は、「医師や看護師が親切だから」が44%、「治療法などをよく説明してくれるので」33%、「医師や看護師がよく話を聞いてくれるので」27%が上位にあがっており、医療者の対応が患者の満足度に大きく影響しているといえる。時系列で見ると1999年はそれぞれ53%、41%、36%、2005年は49%、37%、34%と、上位にある項目の順位は変わらないものの、割合は徐々に減少している。

Q4. あなたは、最近に利用した、または現在利用している病院や医院について、どの程度満足していますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. 満足している
2. まあ満足している
3. あまり満足していない
4. 不満がある
5. 現在も過去にも利用したことがない

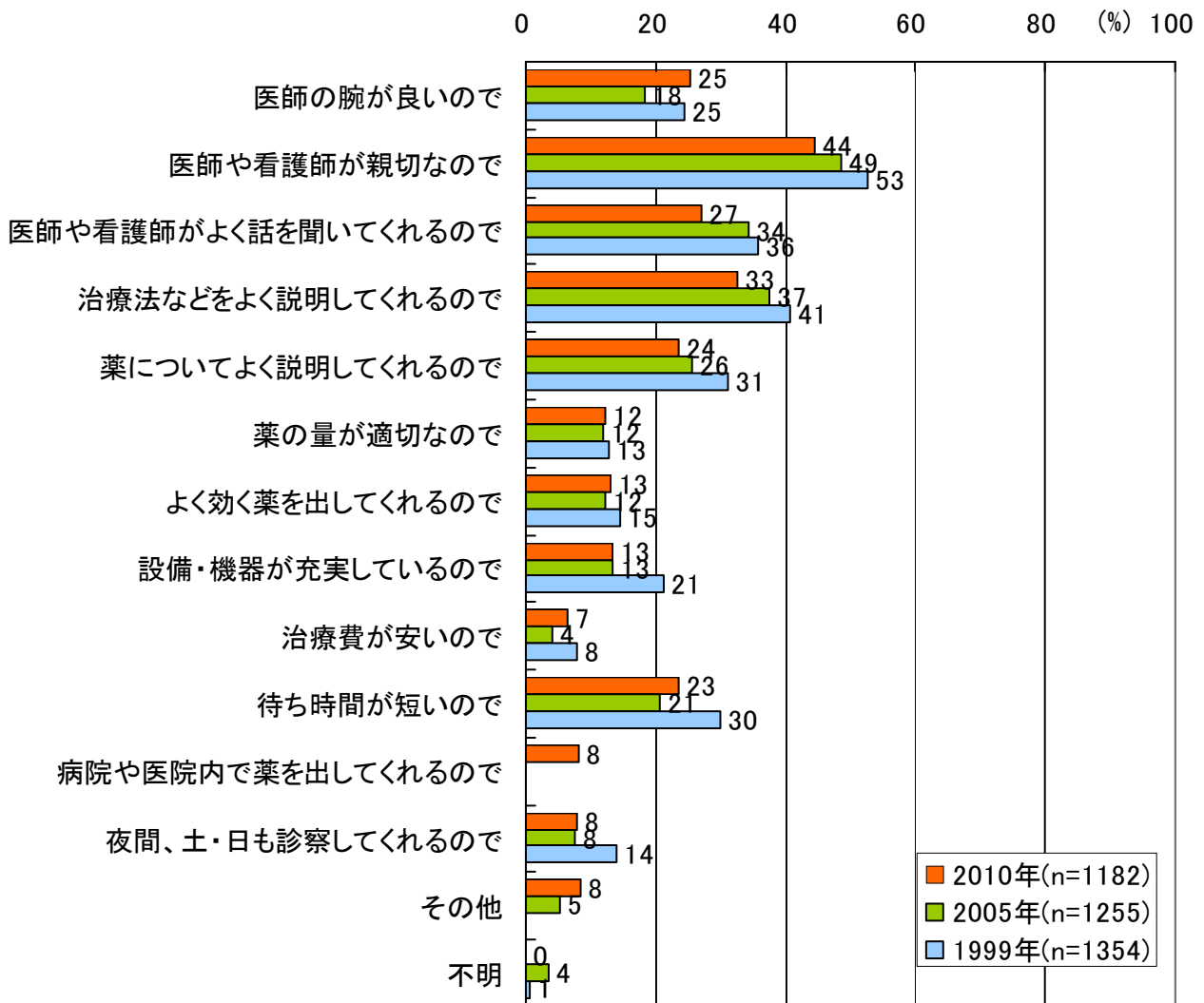


Q4SQ. 医療機関に対し満足している点

Q4SQ. 【Q4で「1.満足している」もしくは「2.まあ満足している」を選んだ方】

利用している病院や医院に満足している点は、どんなことですか。(○はいくつでも)

1. 医師の腕が良いので
2. 医師や看護師が親切なので
3. 医師や看護師がよく話を聞いてくれるので
4. 治療法などをよく説明してくれるので
5. 薬についてよく説明してくれるので
6. 薬の量が適切なので
7. よく効く薬を出してくれるので
8. 設備・機器が充実しているので
9. 治療費が安いので
10. 待ち時間が短いので
11. 病院や医院内で薬を出してくれるので
12. 夜間、土・日も診察してくれるので
13. その他()



※2010年から、「病院や医院内で薬を出してくれるので」を追加
2005年から、「その他」を追加

Q5. 治療に自分の意思が反映されていたか

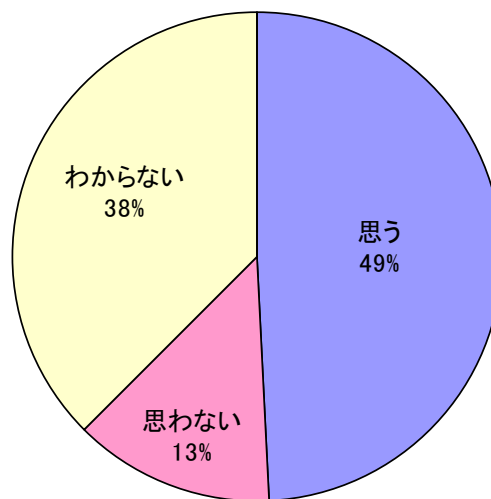
治療に自分の意思が反映されていると「思う」人は 49%、「思わない」人は 13%である。

自分の意思が反映されていたと思うのは「医師から納得のいく説明がされた時」が 65%、「処方薬を変更する時」40%、「治療法を変える時」25%である。

一方、自分の意思が反映されていないと感じる人では「病気や治療法などの知識がないから、意思が出せない」52%、「医師とは相談しにくいので難しい」36%、「病気や治療について事前に学習できる機会がない」31%で、医師に対し質問をしたり、希望を伝えたりしづらい関係にあることが想像できる。

Q5. あなたは、自分の病気の治療(方針や過程)について自分もしくは保護者の意思が反映されていたと思いますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. 思う。
2. 思わない。
3. わからない。

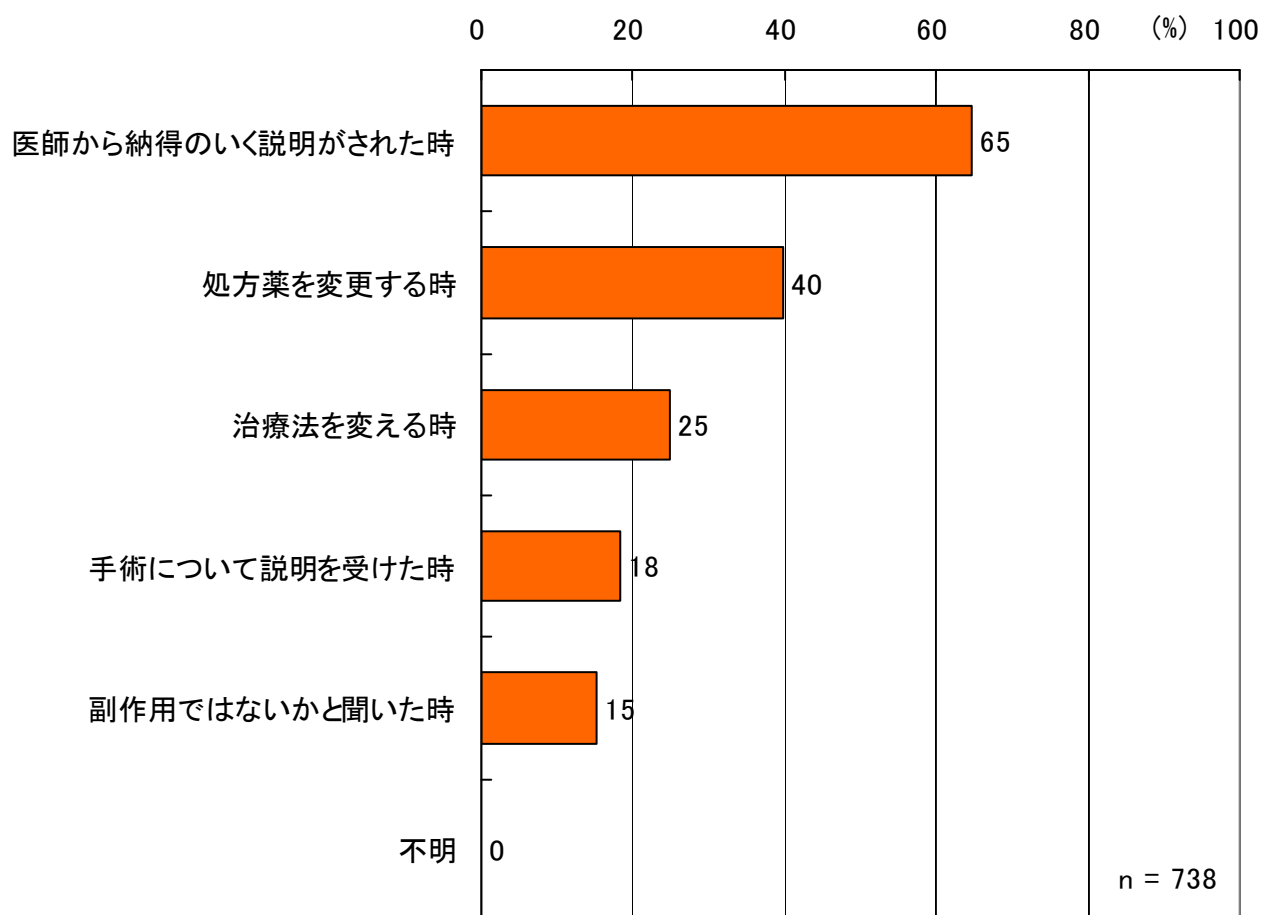


n = 1500

Q5SQ1. 自分の意思が反映されていたと思う時

Q5SQ1. 【Q5で「1.思う」を選んだ方】自分もしくは保護者の意思が、どんな時に反映されていたと思いましたか。(〇はいくつでも)

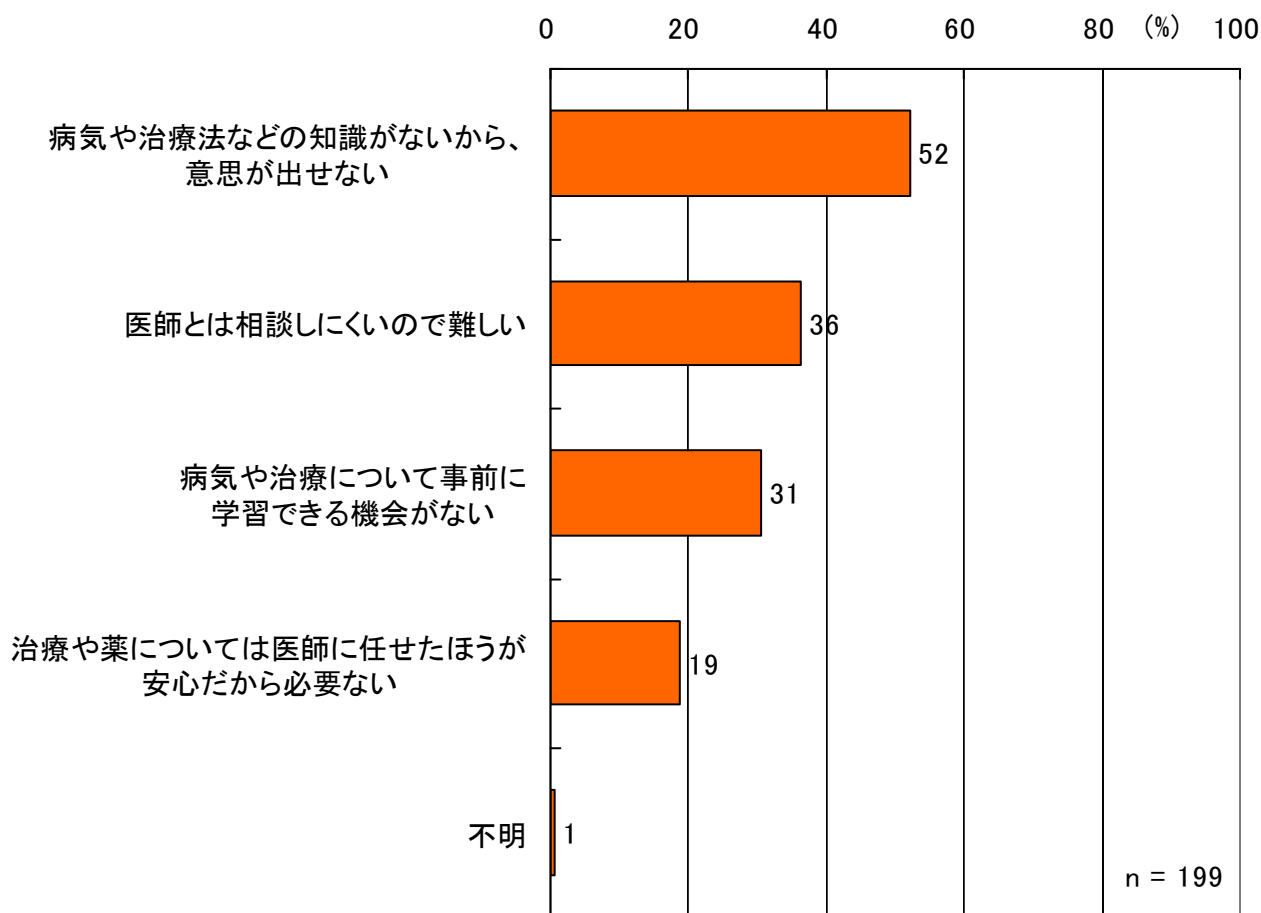
1. 手術について説明を受けた時。
2. 治療法を変える時。
3. 処方薬を変更する時。
4. 副作用ではないかと聞いた時。
5. 医師から納得のいく説明がされた時



Q5SQ2. 自分の意思が反映されていないことについて

Q5SQ2. 【Q5で「2.思わない」を選んだ方】自分もしくは保護者の意思が反映されていないことについてどう思いますか。(〇はいくつでも)

1. 病気や治療法などの知識がないから、意思が出せない。
2. 医師とは相談しにくいので難しい。
3. 病気や治療について事前に学習できる機会がない。
4. 治療や薬については医師に任せたいほうが安心だから必要ない。



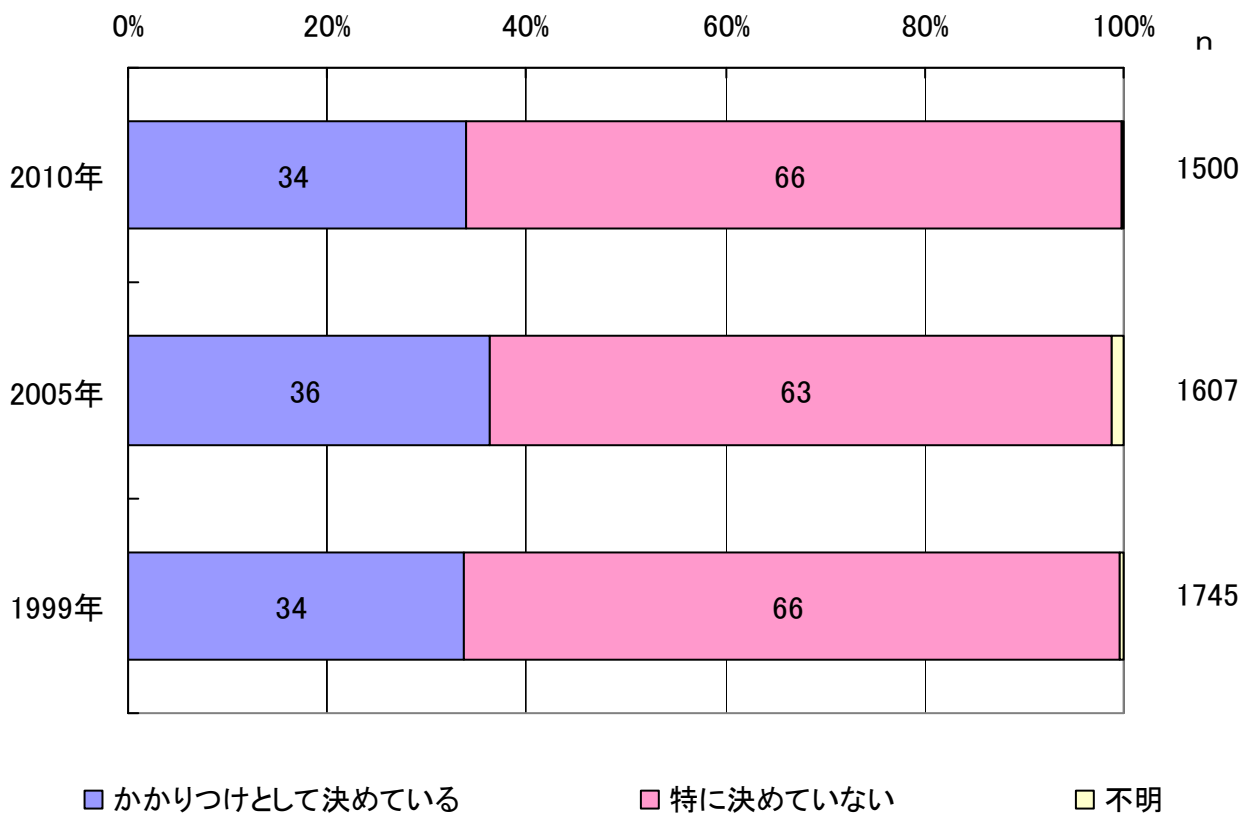
Q6. かかりつけ薬局の有無

保険薬局を決めている人の割合は34%で、1999年の34%、2005年の36%とほぼ同じ水準である。

保険薬局を決めている理由は、「病院からの距離が近い」50%、「スタッフの応対がとてもよい」35%、「家・職場からの距離が近い」31%が上位にあげられ、スタッフの対応とともに立地が重要なポイントであることがわかる。

Q6. あなたは、処方せんを出して薬をもらう保険薬局を決めていますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。
(○はひとつ)

1. かかりつけとして決めている。
2. 特に決めていない。

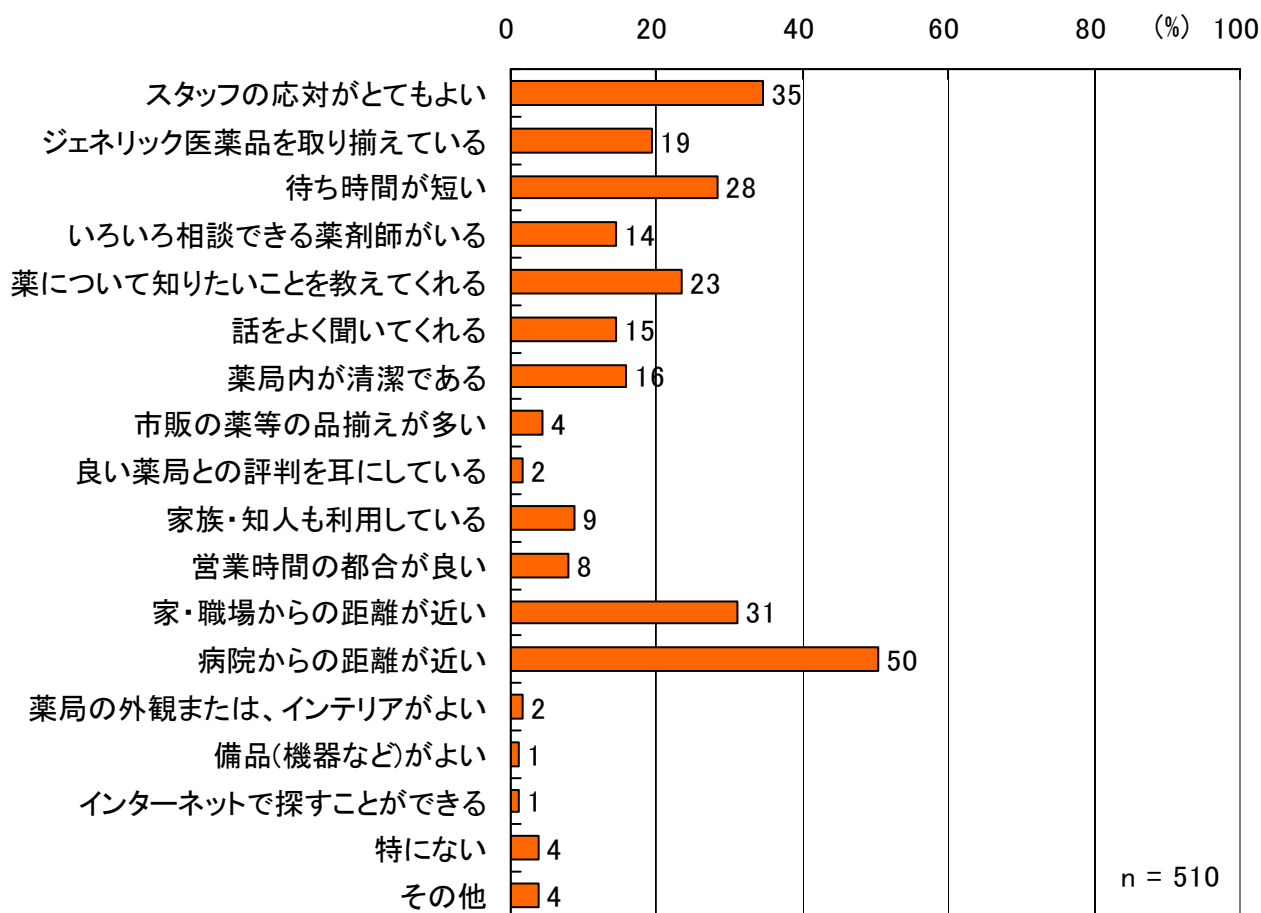


Q6SQ. かかりつけ薬局を決めている理由

Q6SQ. 【Q6で「1.かかりつけとして決めている」を選んだ方】薬局を決めている理由はどのようなことですか。

(〇はいくつでも)

1. スタッフの対応がとてもよい
2. ジェネリック医薬品を取り揃えている
3. 待ち時間が短い
4. いろいろ相談できる薬剤師がいる
5. 薬について知りたいことを教えてくれる
6. 話をよく聞いてくれる
7. 薬局内が清潔である
8. 市販の薬等の品揃えが多い
9. 良い薬局との評判を耳にしている
10. 家族・知人も利用している
11. 営業時間の都合が良い
12. 家・職場からの距離が近い
13. 病院からの距離が近い
14. 薬局の外観または、インテリアがよい
15. 備品(機器など)がよい
16. インターネットで探すことができる
17. 特にない
18. その他()



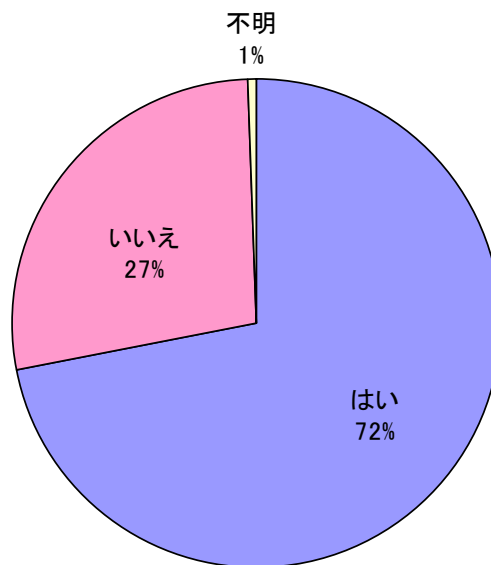
Q7. 1年以内の処方薬の有無

過去1年以内に薬を処方してもらった人の割合は72%である。そのうち院外での処方率は77%、院内が35%である。

Q7. あなたが、最近(過去1年以内)、病院や医院に行って、薬をもらいましたか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

(病院や医院で処方せんをもらい、保険薬局で薬をもらう場合も含めてお答え下さい。)

1. はい
2. いいえ

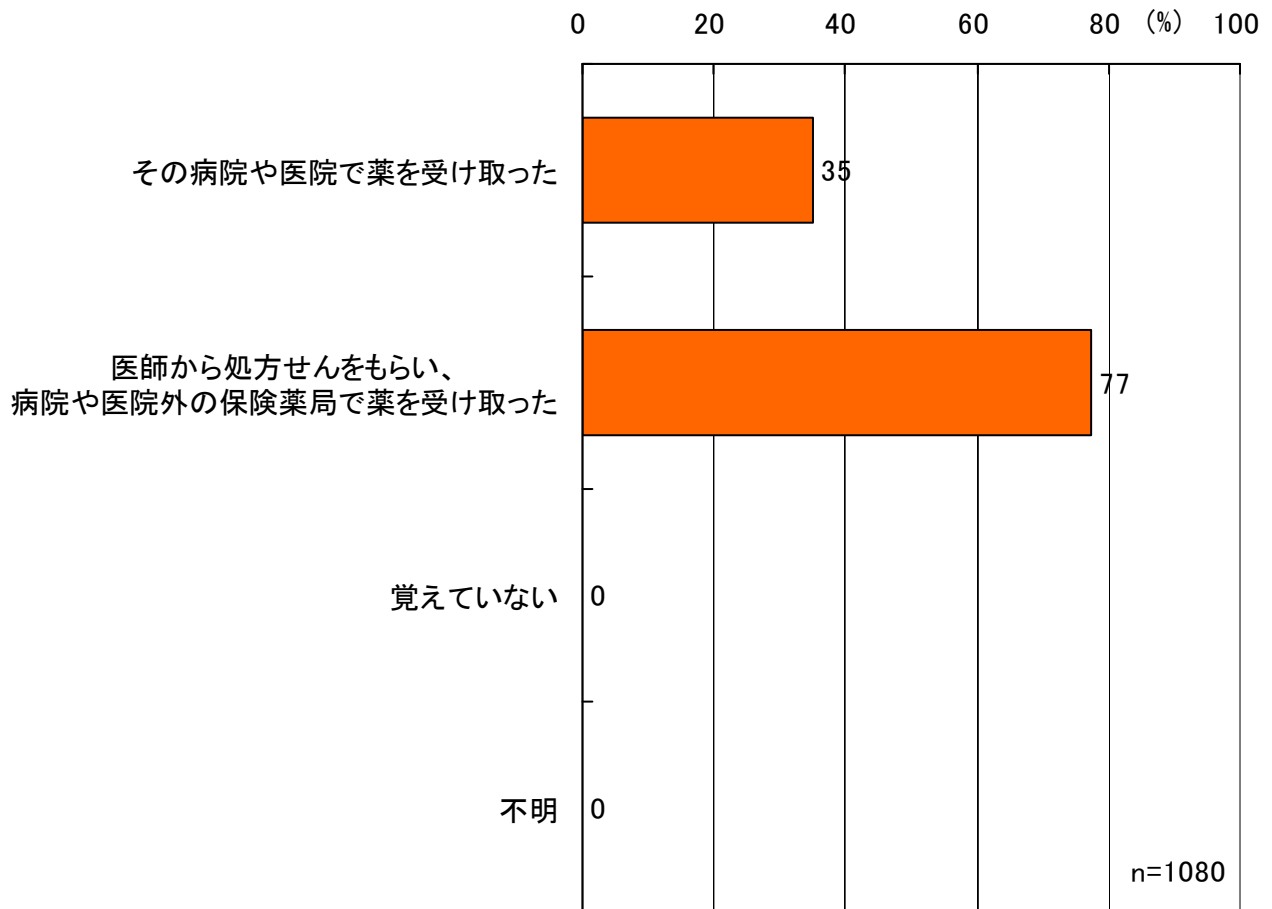


n = 1500

Q7SQ. 処方薬をもらった場所(施設)

Q7SQ. 【Q7で「1.はい」を選んだ方】あなたは、その時に、どこで薬をもらいましたか。(〇はいくつでも)

1. その病院や医院で薬を受け取った
2. 医師から処方せんをもらい、病院や医院外の保険薬局で薬を受け取った
3. 覚えていない



Q8. 処方薬についての説明有無

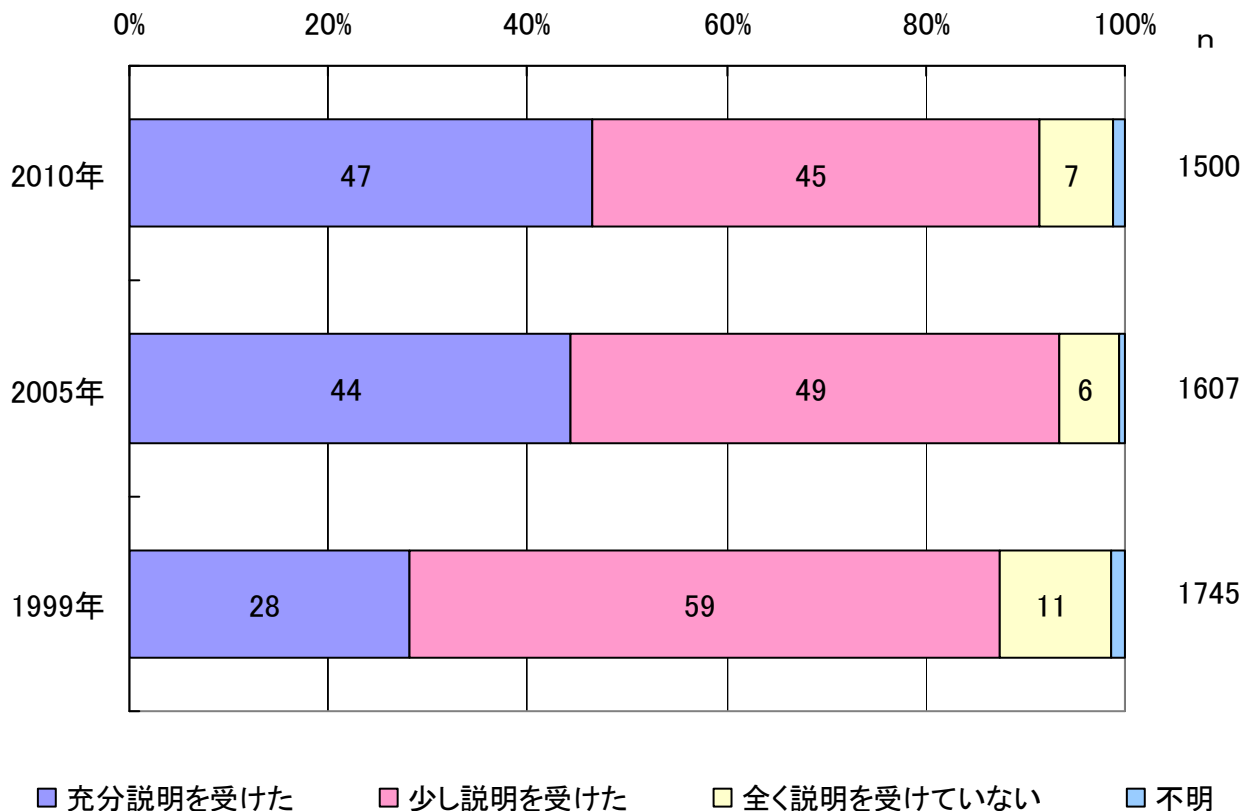
処方薬について説明を受けた場合は、1999年の87%、2005年の93%とほぼ同じ水準であるが、「十分に説明を受けている」割合が増加している。

薬の説明は「薬剤師から」が83%、「医師から」が42%、「看護師から」が10%であり、1999年の57%、52%、14%、2005年の69%、50%、10%から比べると「薬剤師から」の割合が毎回10ポイント以上ずつ増加している。

説明内容は「使用方法」85%、「効き目」79%、「使用量」74%、「薬の名前」63%が上位となった。

Q8. あなたは、その時に処方された薬の「薬の名前」「効き目」「使用方法」「使用量」「副作用」について、医師や薬剤師、看護師から説明(印刷物も含む)を受けましたか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. 充分説明を受けた
2. 少し説明を受けた
3. 全く説明を受けていない(→Q9へ)

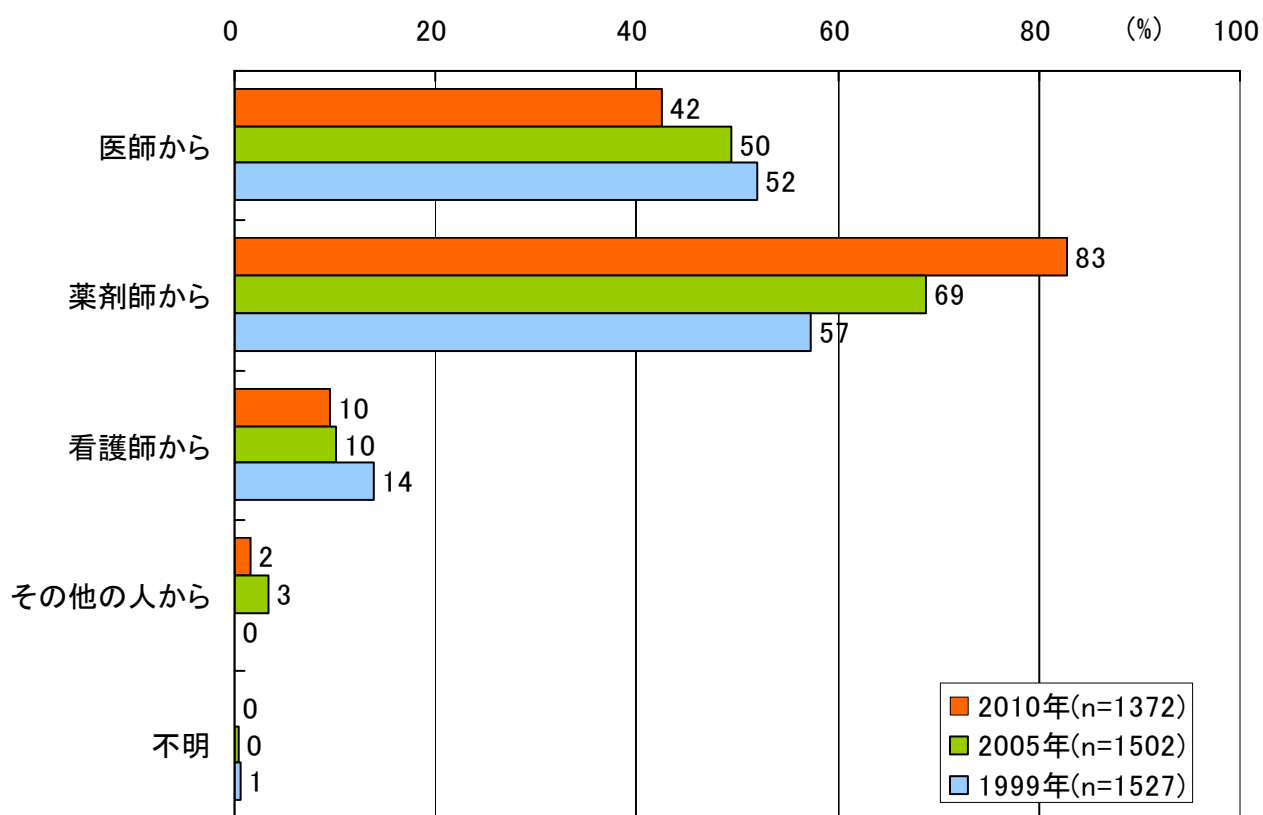


Q8SQ1. 処方薬について説明をした人

Q8SQ1. 【Q8で「1.充分説明を受けた」「2.少し説明を受けた」を選んだ方】

処方された薬の説明は、誰から受けましたか。(〇はいくつでも)

1. 医師から
2. 薬剤師から
3. 看護師から
4. その他の人から

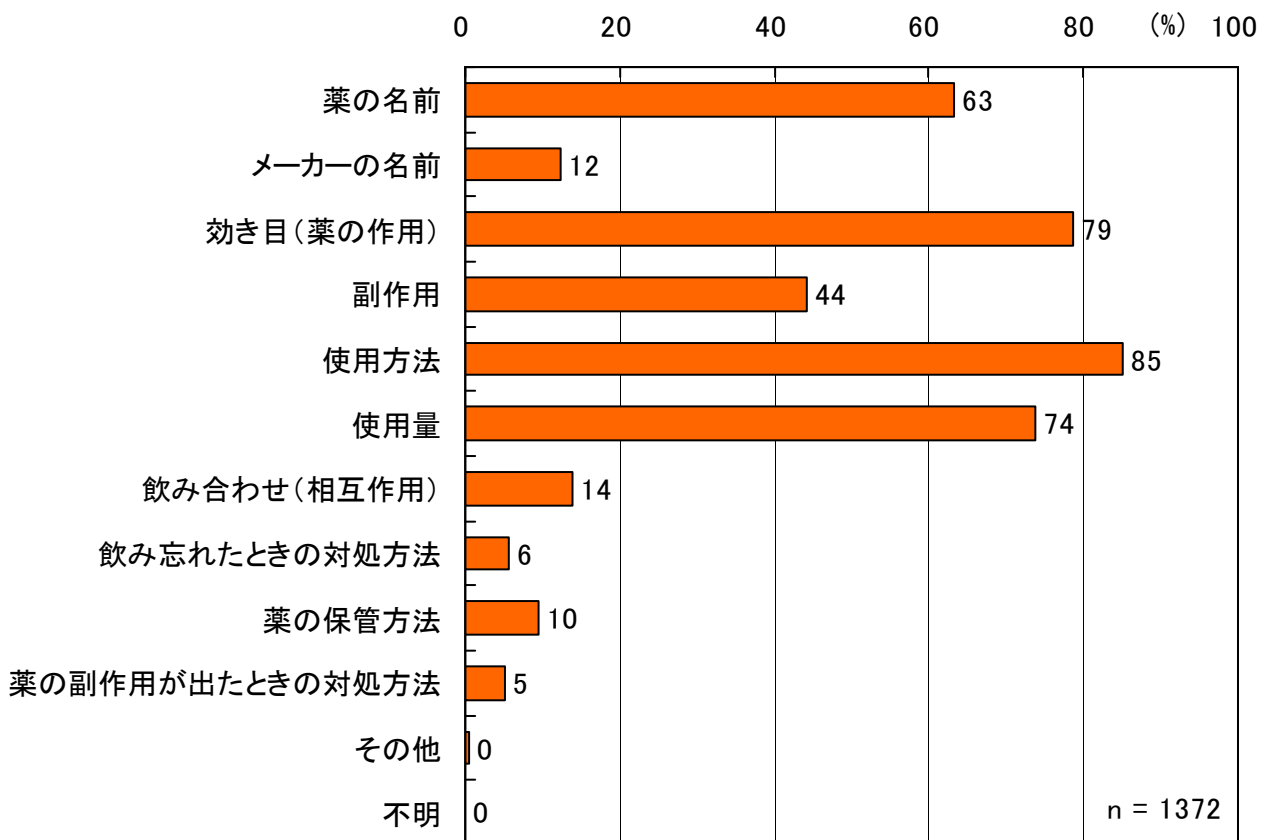


Q8SQ2. 処方薬の説明内容

Q8SQ2. 【Q8で「1.充分説明を受けた」「2.少し説明を受けた」を選んだ方】

処方された薬について、どのような説明(印刷物も含む)を受けましたか。(○はいくつでも)

1. 薬の名前
2. メーカーの名前
3. 効き目(薬の作用)
4. 副作用
5. 使用方法
6. 使用量
7. 飲み合わせ(相互作用)
8. 飲み忘れたときの対処方法
9. 薬の保管方法
10. 薬の副作用が出たときの対処方法
11. その他()



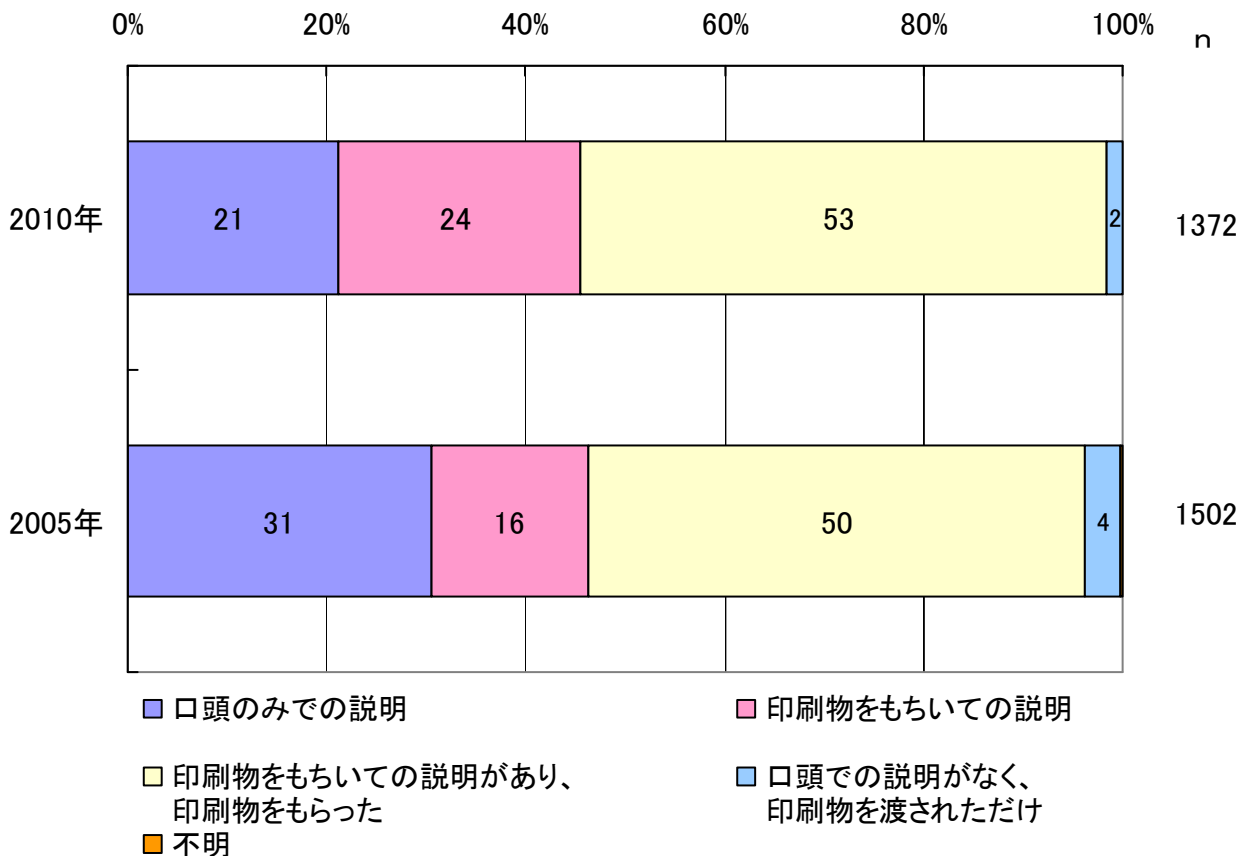
Q8SQ3. 処方薬の説明方法

説明方法は「印刷物を用いての説明があり、印刷物をもらった」が 53%、「印刷物を用いての説明」が 24%、「口頭での説明がなく、印刷物を渡されただけ」が 2%であり、印刷物の利用が約 8 割を占め、「口頭のみ」は 21%となった。

Q8SQ3. 【Q8で「1.充分説明を受けた」「2.少し説明を受けた」を選んだ方】

処方された薬について、どのように説明を受けましたか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. 口頭のみでの説明
2. 印刷物をもちいての説明
3. 印刷物をもちいての説明があり、印刷物をもらった
4. 口頭での説明がなく、印刷物を渡されただけ



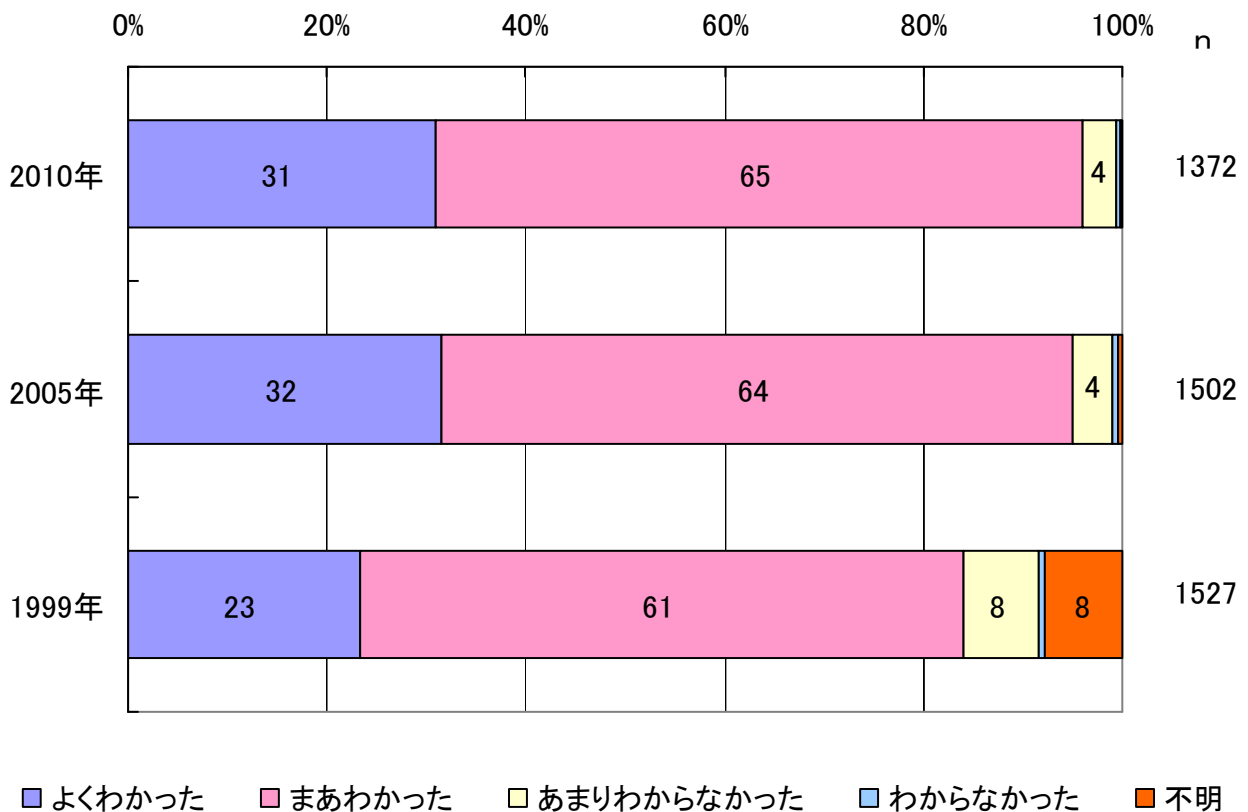
Q8SQ4. 処方薬の説明に対する理解度

処方薬の説明に対する理解度は「よくわかった」が 31%、「まあわかった」が 65%で 96%の人が理解している。2005 年の 32%、64%と比べて、ほぼ同じ水準である。

Q8SQ4. 【Q8で「1.充分説明を受けた」「2.少し説明を受けた」を選んだ方】

処方された薬の説明を受けて、どの程度、説明の内容がわかりましたか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. よくわかった
2. まあわかった
3. あまりわからなかった
4. わからなかった

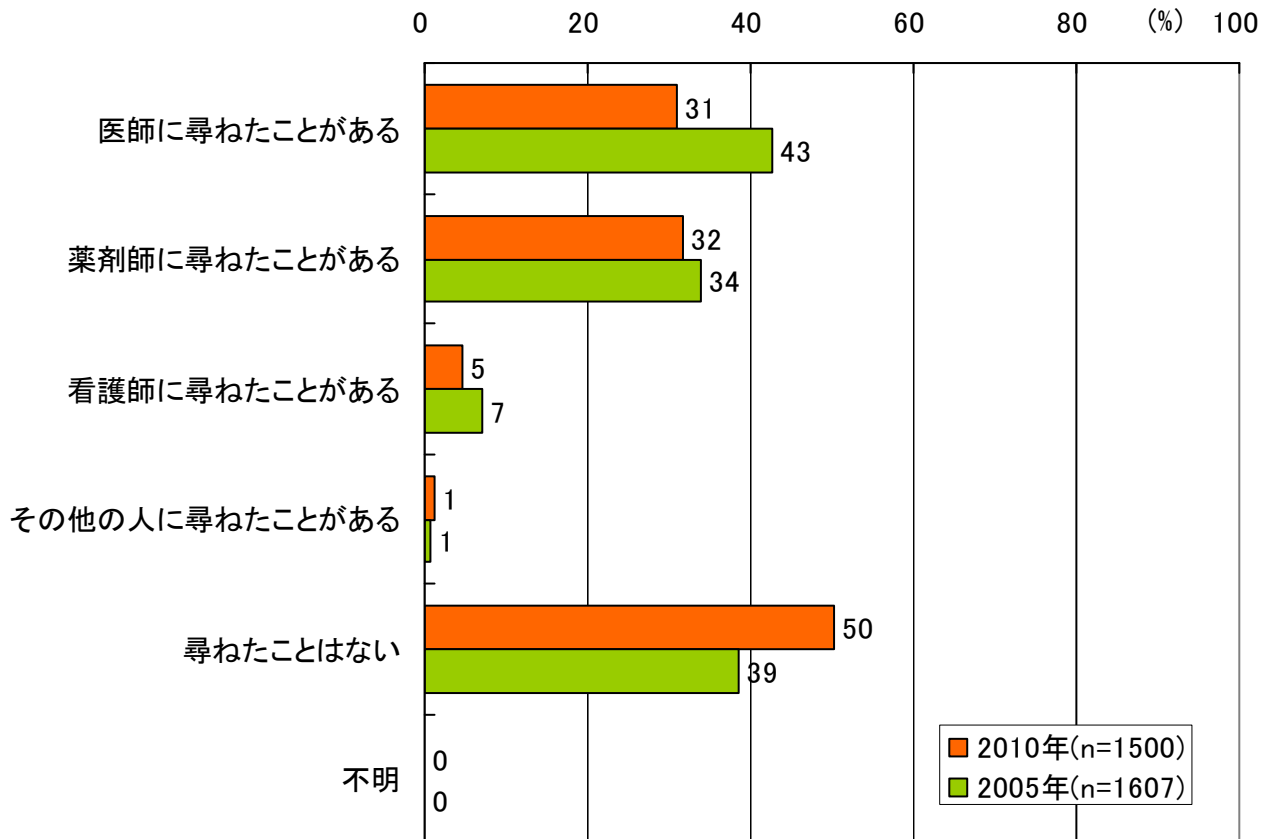


Q9. 処方薬について尋ねた経験

薬について「医師に尋ねたことがある」は 31%、「薬剤師に尋ねたことがある」32%、「看護師に尋ねたことがある」は5%であった。2005年の43%、34%、7%と比べると、特に「医師に訪ねたことがある」が12ポイント減少している。一方、「尋ねたことはない」は、2005年よりも11ポイント増加している。

Q9. あなたは今まで、医師が処方した薬をもらうときに「薬の名前」「効き目」「使用方法」「使用量」「副作用」について、医師や薬剤師、看護師に尋ねたことがありますか。(○はいくつでも)

1. 医師に尋ねたことがある
2. 薬剤師に尋ねたことがある
3. 看護師に尋ねたことがある
4. その他の人に尋ねたことがある
5. 尋ねたことはない

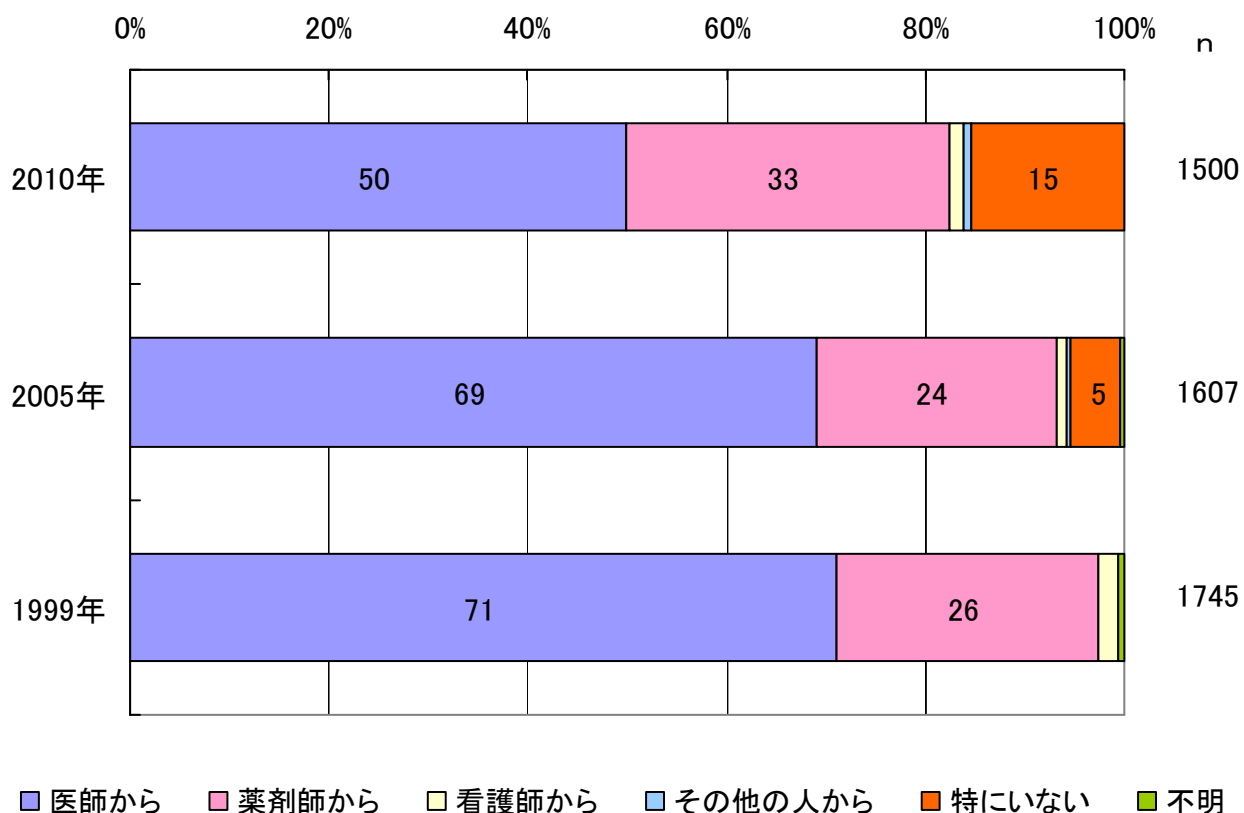


Q10. 処方薬の説明をしてほしい相手

処方薬の説明を「医師から」聞きたいは50%、「薬剤師から」が33%で、1999年の71%、26%、2005年の69%、24%に比べて「医師から」の割合が約20ポイント減少している。

Q10. あなたは、医師が処方した薬の「説明」を誰から聞きたいと思いますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. 医師から
2. 薬剤師から
3. 看護師から
4. その他の人から
5. 特にいない

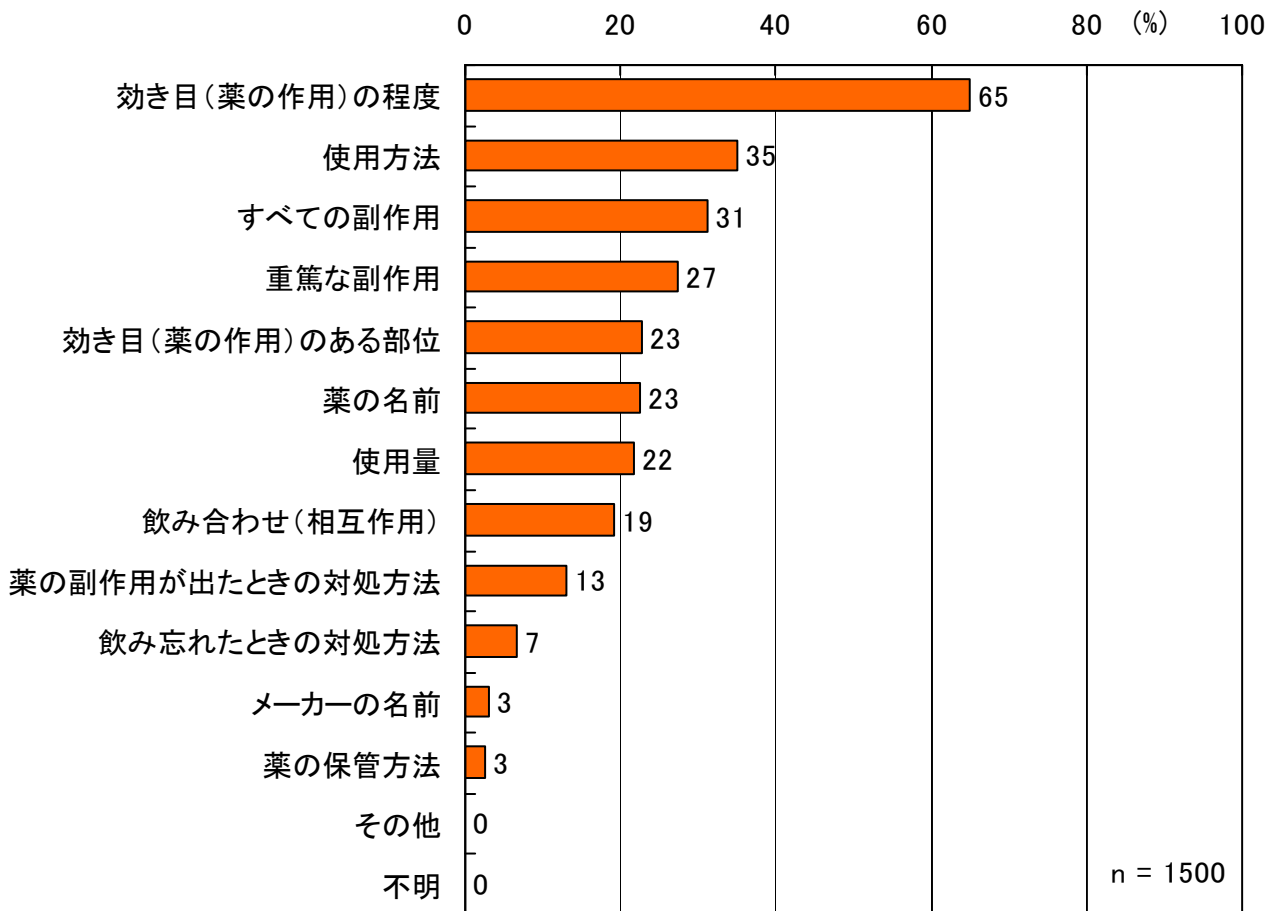


Q11. 処方薬について役立つ情報

処方薬について役立つ情報は「効き目(薬の作用)の程度」が65%で最も多く、次いで「使用方法」35%、「すべての副作用」31%があげられた。

Q11. あなたは、医師が処方した薬をもらう時、どんな情報が役立つと思いますか。当てはまるものを選んでください。(〇は3つまで)

1. 薬の名前
2. メーカーの名前
3. 効き目(薬の作用)の程度
4. 効き目(薬の作用)のある部位
5. 重篤な副作用
6. すべての副作用
7. 使用方法
8. 使用量
9. 飲み合わせ(相互作用)
10. 飲み忘れたときの対処方法
11. 薬の保管方法
12. 薬の副作用が出たときの対処方法
13. その他()

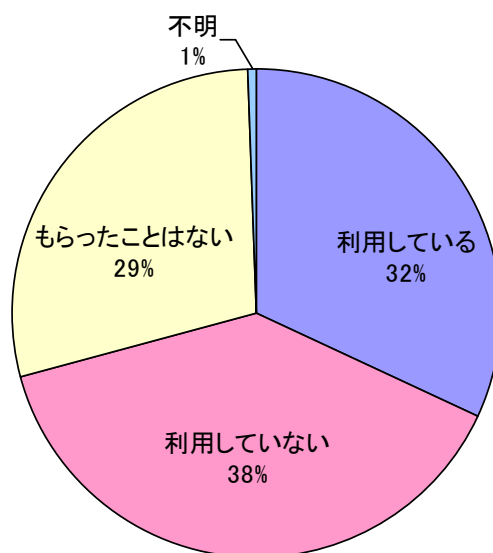


Q12. お薬手帳の利用状況

お薬手帳を「利用している」は 32%、「利用していない」38%、「もらったことはない」は 29%であった

Q12. あなたは、病院や医院または保険薬局からもらっている「お薬手帳」を利用していますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. 利用している
2. 利用していない
3. もらったことはない



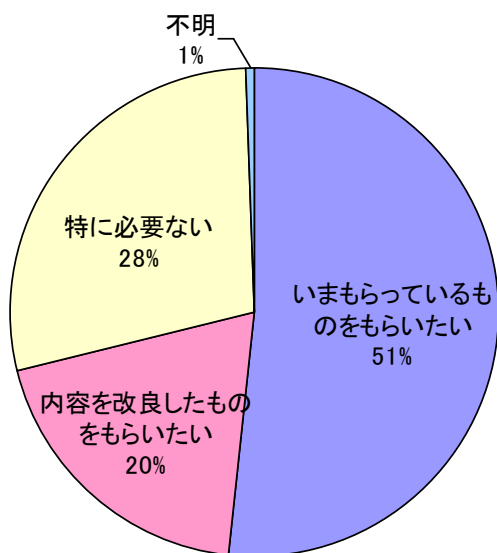
n = 1500

Q13. 薬の説明用紙の必要性

薬の説明が書かれた印刷物について「いまもらっているものをもらいたい」が 51%、「内容を改良したものをもらいたい」が 20%で、合計 71%が印刷物を必要としている。「特に必要ない」は 28%であった。

Q13. あなたは、病院や医院または保険薬局で、薬の説明が書かれた紙(印刷物)が必要と思いますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. いまもらっているものをもらいたい
2. 内容を改良したものをもらいたい
3. 特に必要ない



n = 1500

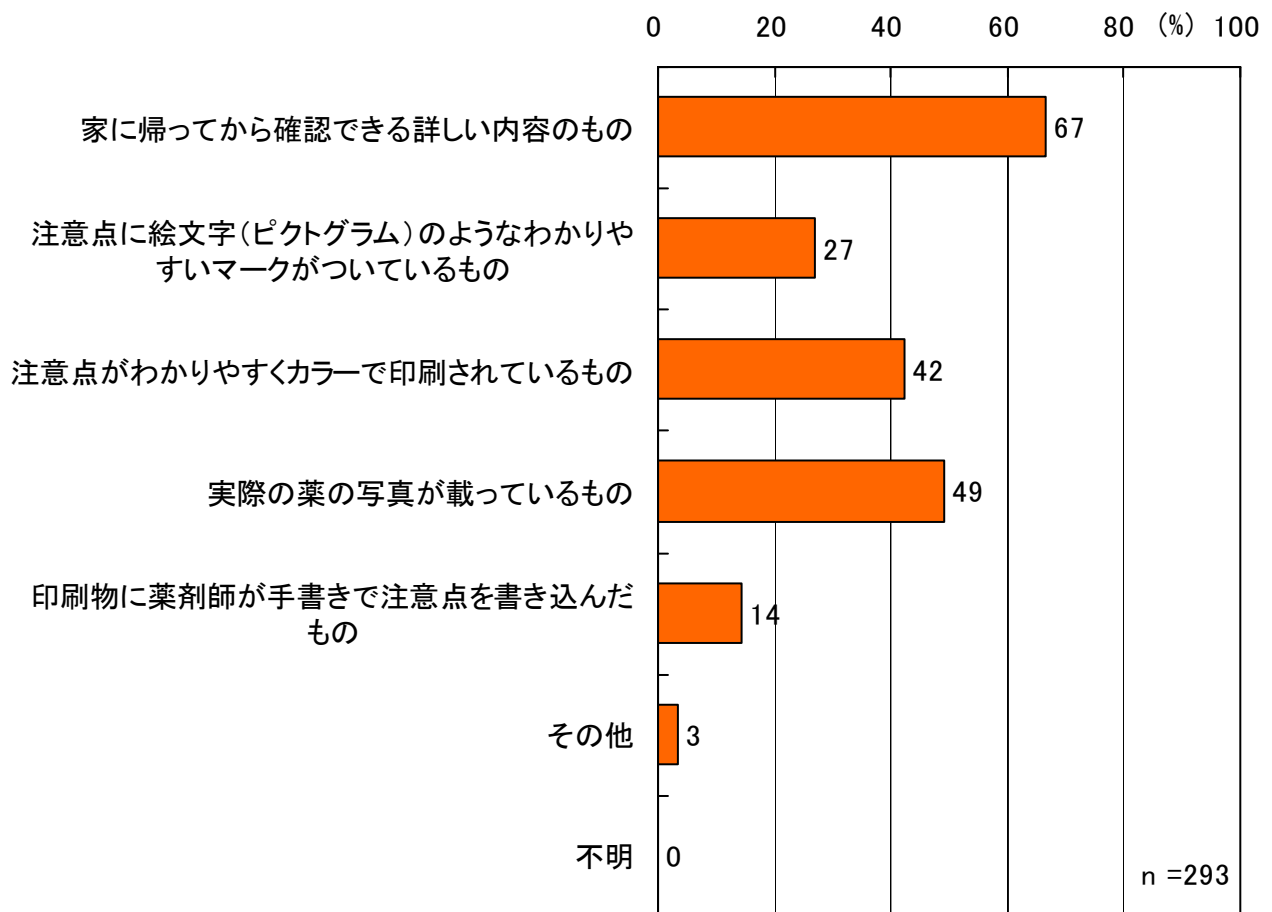
Q13SQ. 説明用紙の改良点

説明用紙の内容を改良してもらいたい点は、「家に帰ってから確認できる詳しい内容のもの」が 67%、「実際の薬の写真が載っているもの」が 49%であった。

Q13SQ. 【Q13 で「2.内容を改良したものをもらいたい」を選んだ方】

病院や医院または保険薬局で、薬の説明が書かれた紙(印刷物)として、どのようなものがあるとよいと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 家に帰ってから確認できる詳しい内容のもの
2. 注意点に絵文字(ピクトグラム)のようなわかりやすいマークがついているもの
3. 注意点がわかりやすくカラーで印刷されているもの
4. 実際の薬の写真が載っているもの
5. 印刷物に薬剤師が手書きで注意点を書き込んだもの
6. その他()



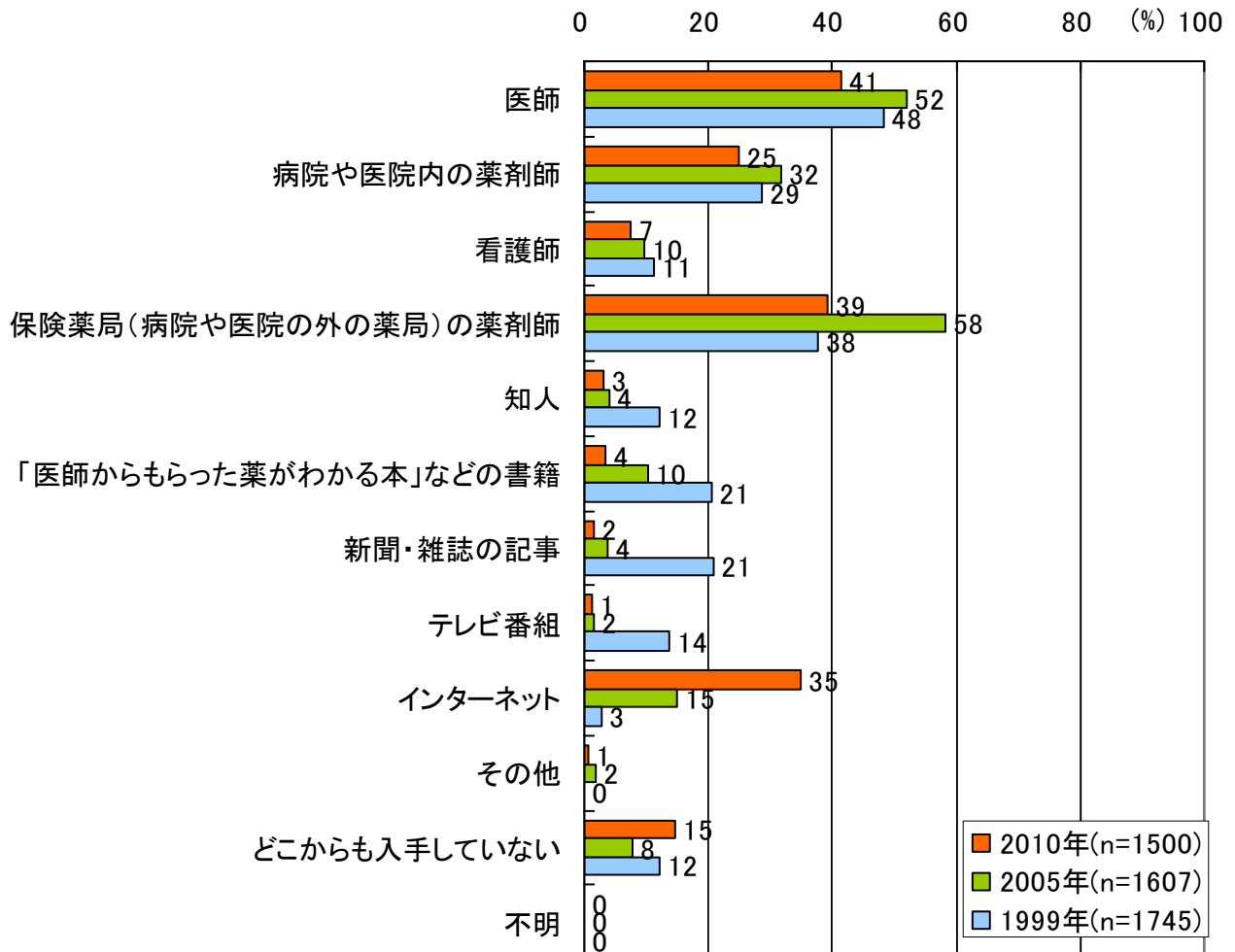
Q14. 処方薬に関する情報の入手先

処方薬に関する情報は「医師」からが41%、保険薬局の薬剤師」からが39%、「インターネット」からが35%である。2005年の52%、58%、15%と比べると傾向が大きく変わっているが、これは調査方法が前回までのFAX調査からインターネット調査に変更されたことも1つの要因として考えられる。

インターネットで情報を入手するサイトは、「医薬品情報の専門サイト」からの情報入手が78%、「製薬会社のホームページ」が40%であった。

Q14. あなたは、医師が処方した薬についての情報を、どこから入手していますか。(○はいくつでも)

1. 医師
2. 病院や院内の薬剤師
3. 看護師
4. 保険薬局(病院や医院の外の薬局)の薬剤師
5. 知人
6. 「医師からもらった薬がわかる本」などの書籍
7. 新聞・雑誌の記事
8. テレビ番組
9. インターネット
10. その他()
11. どこからも入手していない



Q14SQ. 薬の情報を入手するサイト

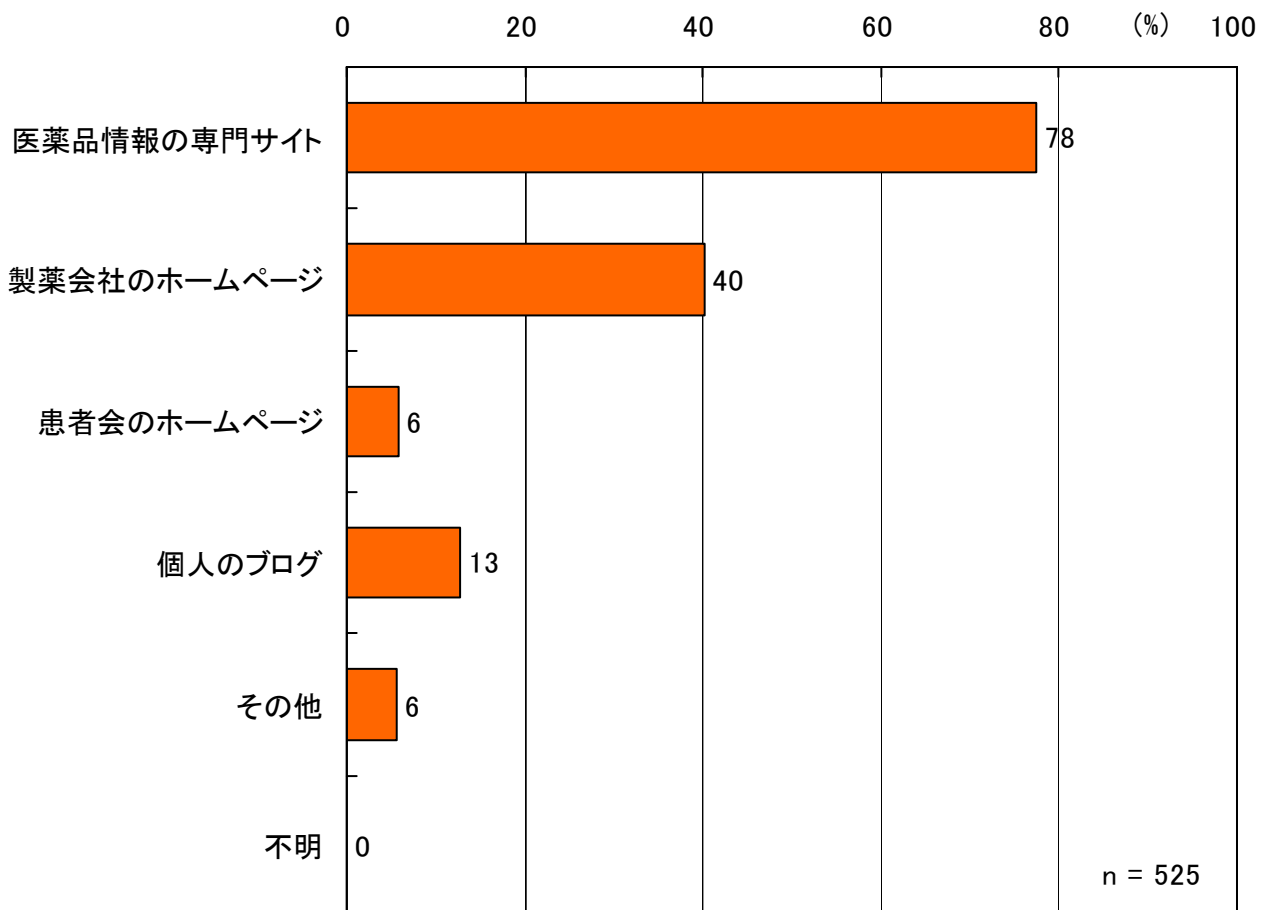
Q14SQ. 【Q14で「9.インターネット」を選んだ方】

医師が処方した薬についての情報をインターネットのどのようなサイトで薬の情報を入手されていますか。

(日頃利用されているサイト、検索サイトでヒットしたホームページ経由等)

(〇はいくつでも)

1. 医薬品情報の専門サイト
2. 製薬会社のホームページ
3. 患者会のホームページ
4. 個人のブログ
5. その他()

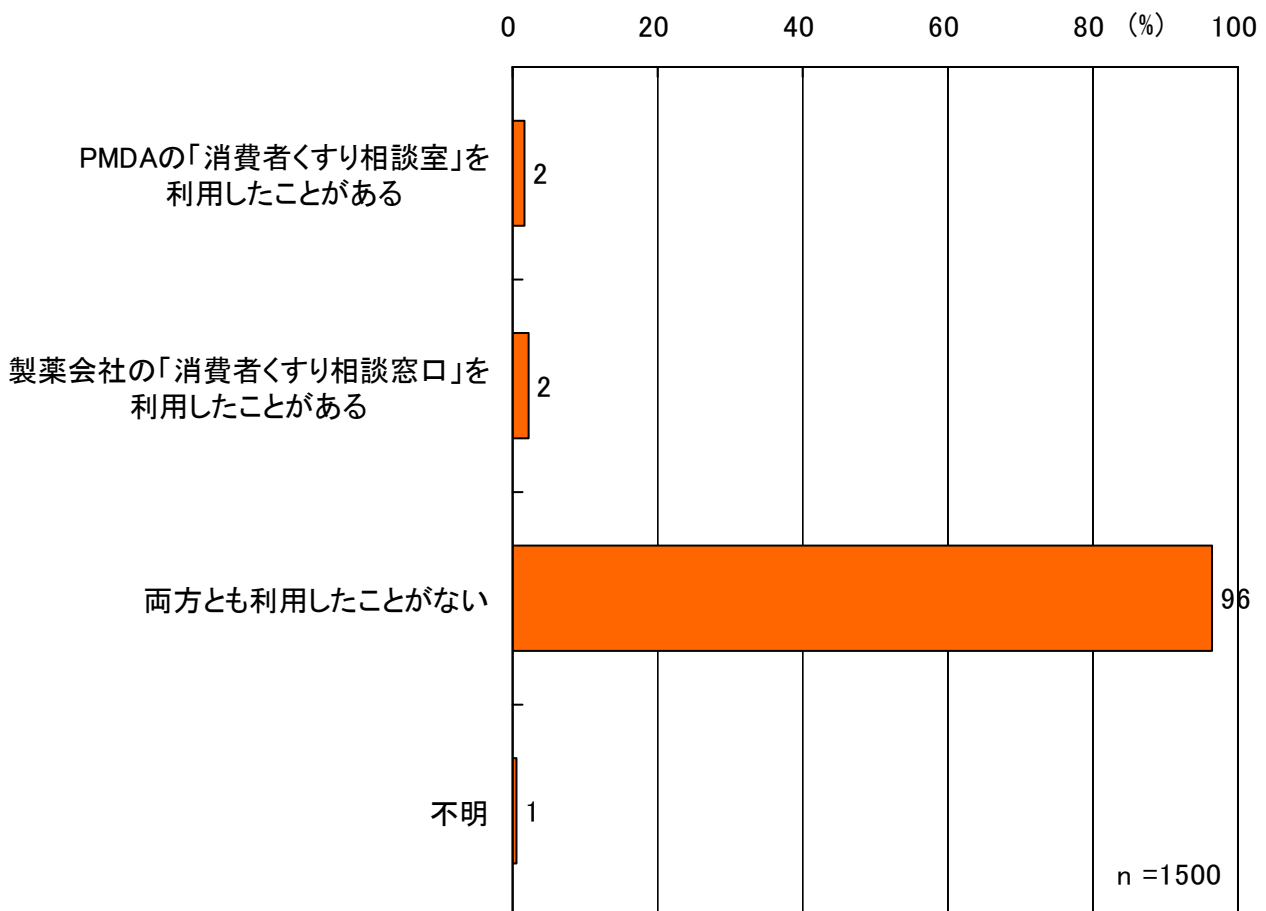


Q15. 消費者くすり相談室やくすり相談窓口の利用経験

「消費者くすり相談室を利用したことがある」は 2%、「消費者薬相談窓口を利用したことがある」も 2%で、利用している人はとても少ないと言える。これらのサービスの存在自体が認知されていない可能性も考えられる。

Q15. あなたは、医薬品医療機器総合機構(厚生労働省の関係機関、以下 PMDA)の「消費者くすり相談室」や各製薬会社の「消費者くすり相談窓口」を利用したことがありますか。(○はいくつでも)

1. PMDA の「消費者くすり相談室」を利用したことがある
2. 製薬会社の「消費者くすり相談窓口」を利用したことがある
3. 両方とも利用したことがない



Q16. 処方薬の服用状況

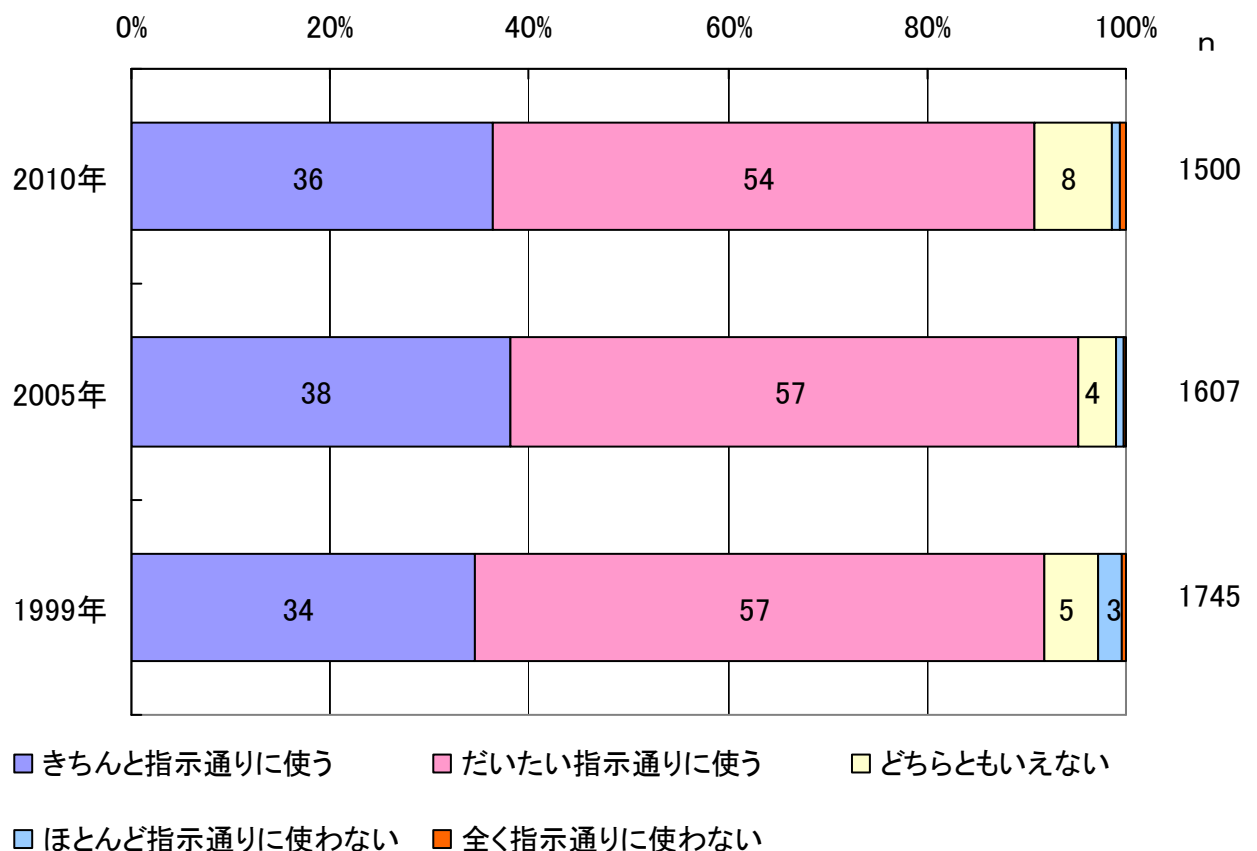
処方薬を「きちんと指示通りに使う」は 36%、「だいたい指示通りに使う」が 54%で合計 90%であり、「指示を守る」姿勢がうかがえる。1999 年の 34%、54%、2005 年の 38%、57%と比べ大きな変化は見られない

余った処方薬については「すぐに捨てる」が 8%、「保存して時間がたてば捨てる」が 49%で合計 57%が捨てると回答した。

余った処方薬について「医療費が無駄だと思う」が 48%、「次の診療のときに医師や薬剤師に伝えるべきである」が 27%、「きちんと飲んでないので良くならない」が 26%であった。

Q16. あなたは、医師が処方した薬を、指示通りに使いますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。
(○はひとつ)

1. きちんと指示通りに使う
2. だいたい指示通りに使う
3. どちらともいえない
4. ほとんど指示通りに使わない
5. 全く指示通りに使わない

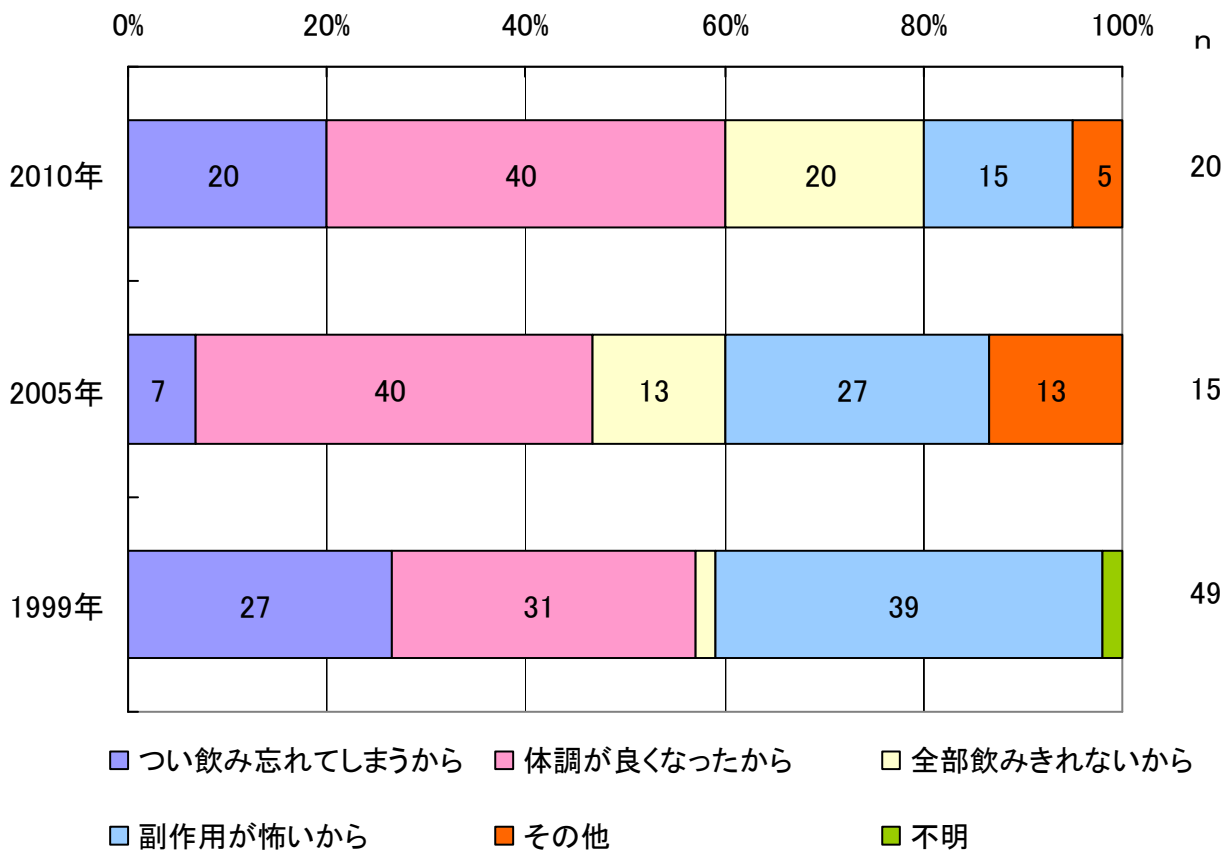


Q16SQ1. 処方薬を指示通りに使わない理由

Q16SQ1. 【Q16 で「4.ほとんど指示通りに使わない」「5.全く指示通りに使わない」を選んだ方】

あなたが、医師が処方した薬を、指示通りに使わない理由は何ですか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. つい使い忘れてしまうから
2. 体調が良くなったから
3. 全部使いきれないから
4. 副作用が怖いから
5. その他()

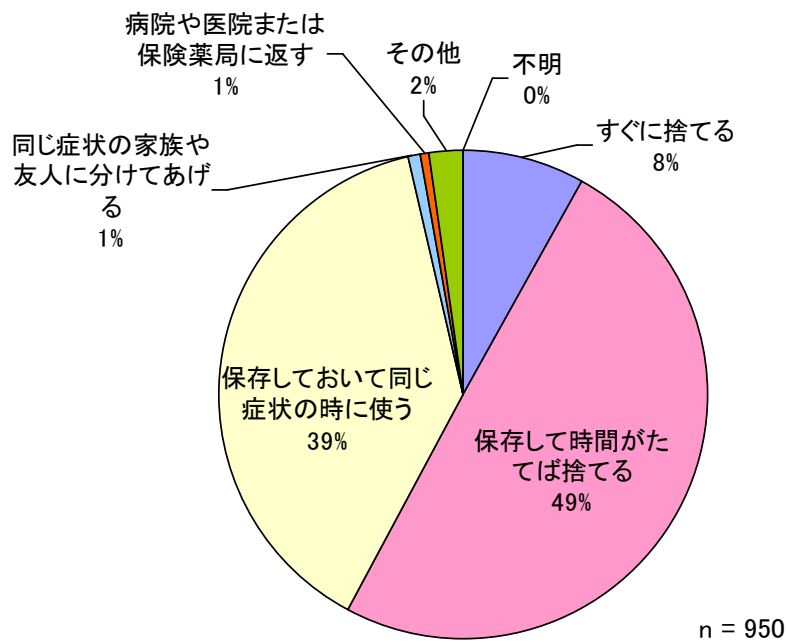


Q16SQ2. 余った処方薬の取り扱い

Q16SQ2. 【Q16 で「2. だいたい指示通りに使う」～「5. 全く指示通りに使わない」を選んだ方】

医師が処方した薬を、きちんと指示通りに使わない場合、医師が処方した薬が手元に余ることがあると思いますが、どうしていますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. すぐに捨てる
2. 保存して時間がたてば捨てる
3. 保存しておいて同じ症状の時に使う
4. 同じ症状の家族や友人に分けてあげる
5. 病院や医院または保険薬局に返す
6. その他()

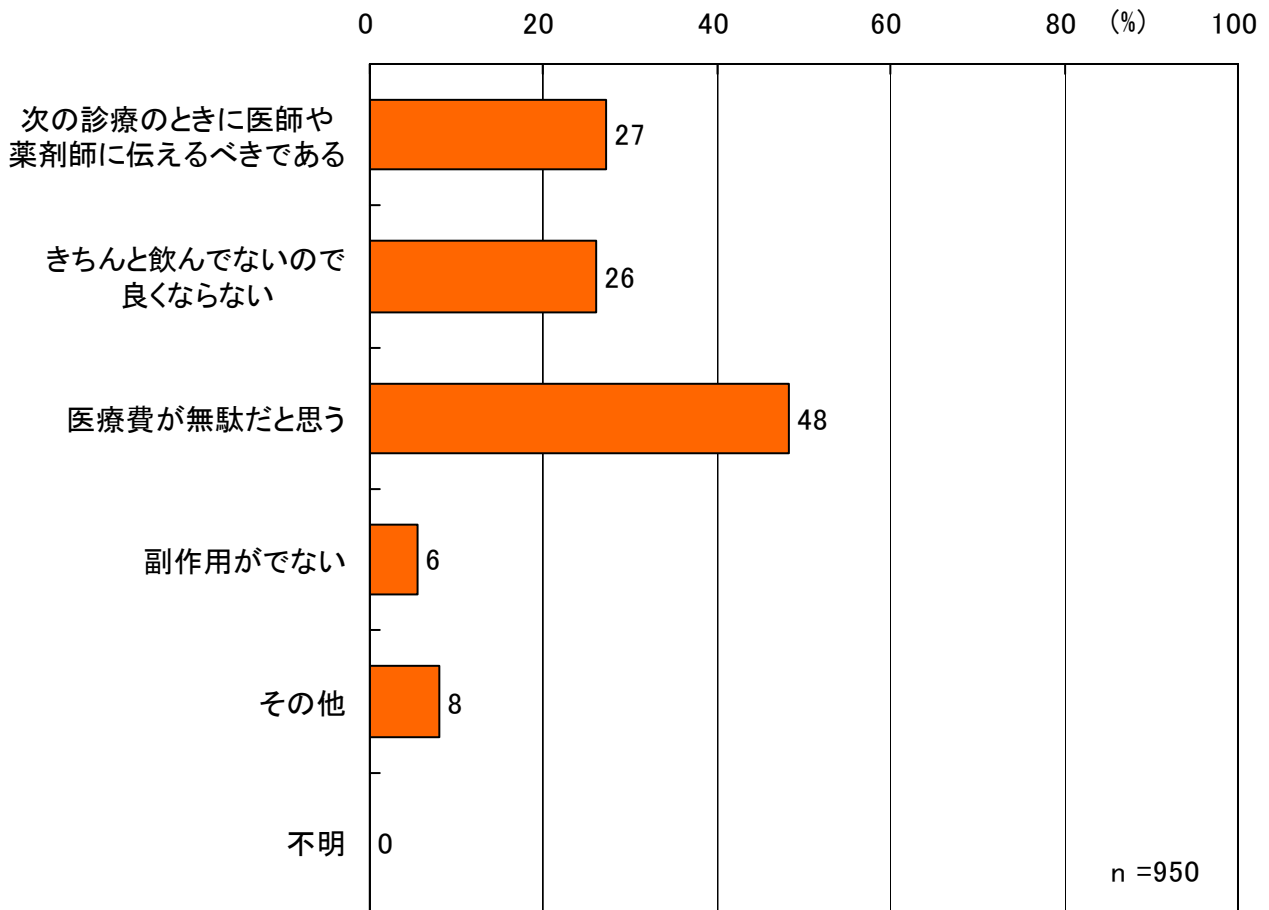


Q16SQ3. 余った処方薬について

SQ3. 【Q16 で「2. だいたい指示通りに使う」～「5. 全く指示通りに使わない」を選んだ方】

医師が処方した薬を、きちんと指示通りに使わない場合、薬が手元に余ることについてどう思われますか。あなたのお考えに近いものに当てはまるものを選んで下さい。(○はいくつでも)

1. 次の診療のときに医師や薬剤師に伝えるべきである
2. きちんと飲んでないので良くならない
3. 医療費が無駄だと思う
4. 副作用がでない
5. その他()



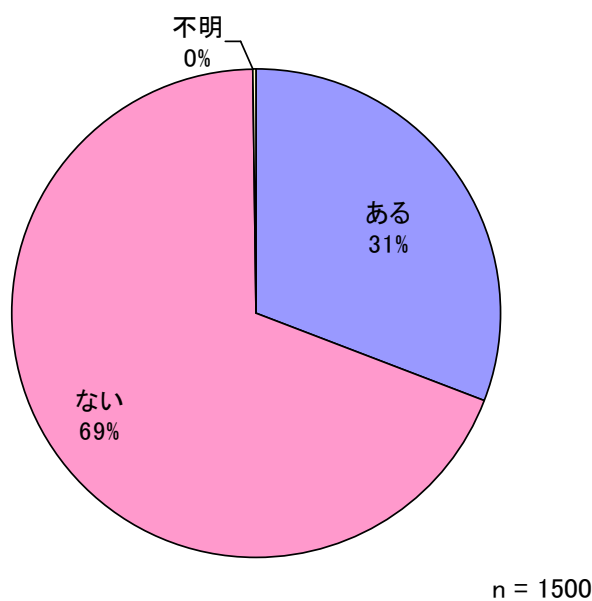
Q17. 1年以上使い続けている薬の有無

1年以上使い続けている薬が「ある」は31%、「ない」は69%である。

使い続けている薬について、「定期的に服用状況を聞かれている」は59%、「自分から服用状況を教えている」は13%で合計72%が定期的な確認を行っている。一方で、「問題ないから黙って使い続けている」も27%存在している。

Q17. 現在、処方された薬で1年以上使い続けている薬がありますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。
(○はひとつ)

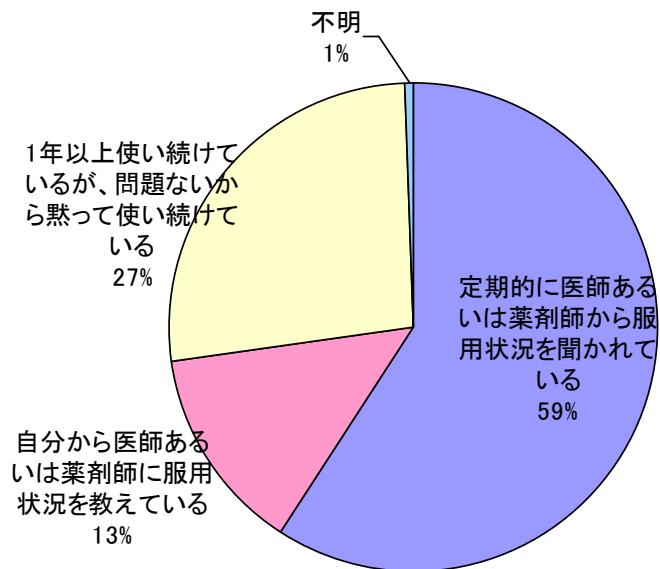
1. ある。
2. ない。



Q17SQ. 1年以上使い続けている薬の定期的な確認

Q17SQ. 【Q17で「1.ある」を選んだ方】1年以上使い続けている薬について定期的な確認はしていますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. 定期的に医師あるいは薬剤師から服用状況を聞かれている。
2. 自分から医師あるいは薬剤師に服用状況を教えている。
3. 1年以上使い続けているが、問題ないから黙って使い続けている。



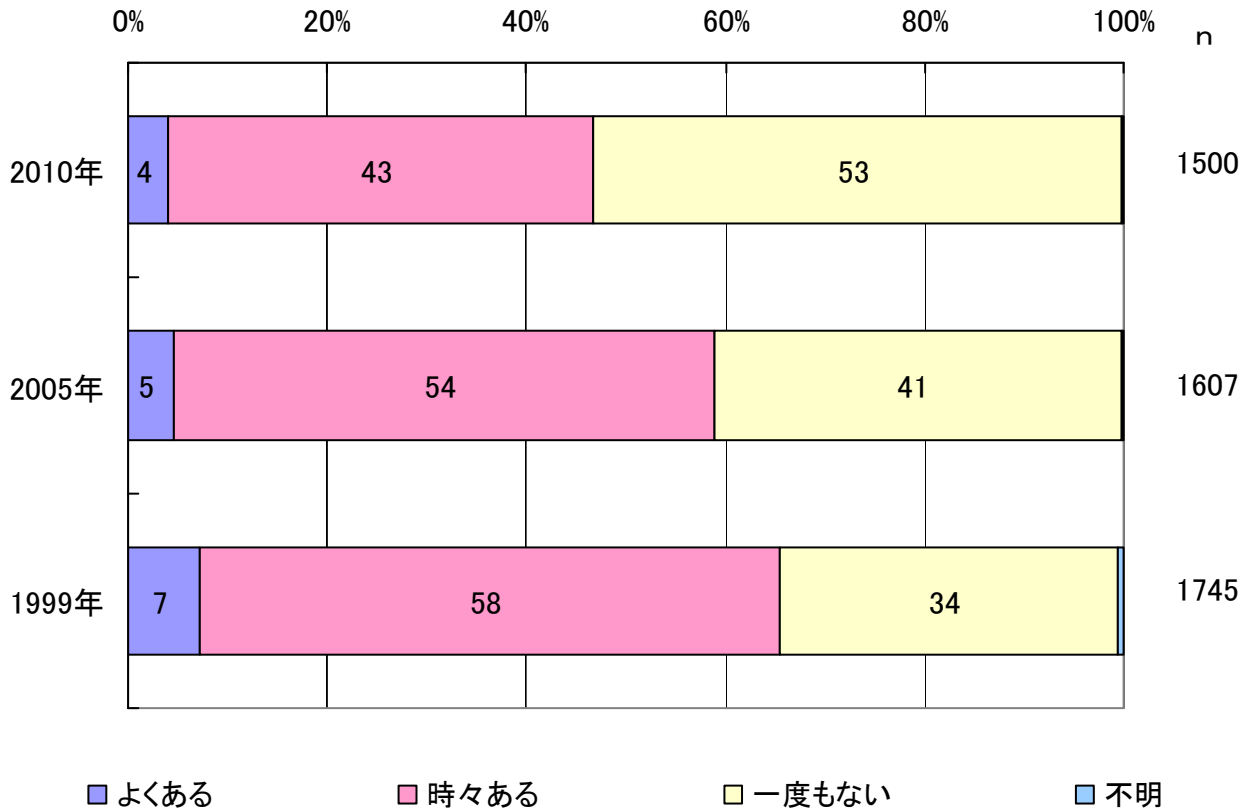
n = 461

Q18. 処方薬に対する不安

処方薬に関する不安に思うことが「よくある」は4%、「時々ある」は43%で、合計47%が不安を感じた事があると回答している。1999年の7%、58%、2005年の5%、54%、2005年の5%、54%と比較し、徐々に不安が減少する傾向がみられる。

Q18. あなたは、医師が処方した薬について、不安に思ったことはありますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. よくある
2. 時々ある
3. 一度もない

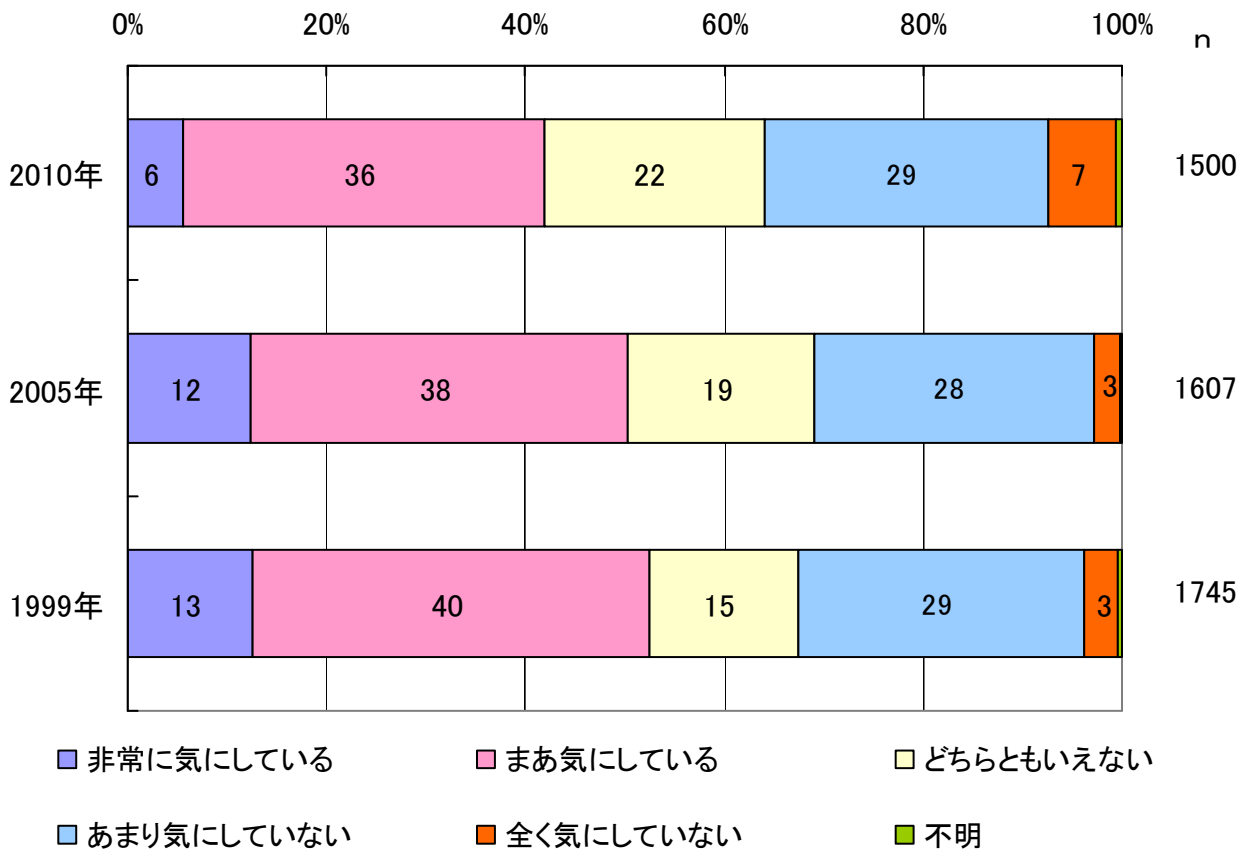


Q19. 副作用に対する不安

副作用を「非常に気にしている」は6%、「まあ気にしている」は36%で合計42%が気にしていると回答している。1999年の13%、40%、2005年の12%、38%と比較すると、少しずつではあるが減少傾向にある。

Q19. あなたは、医師が処方した薬を使うとき、副作用をどの程度気にしていますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. 非常に気にしている
2. まあ気にしている
3. どちらともいえない
4. あまり気にしていない
5. 全く気にしていない



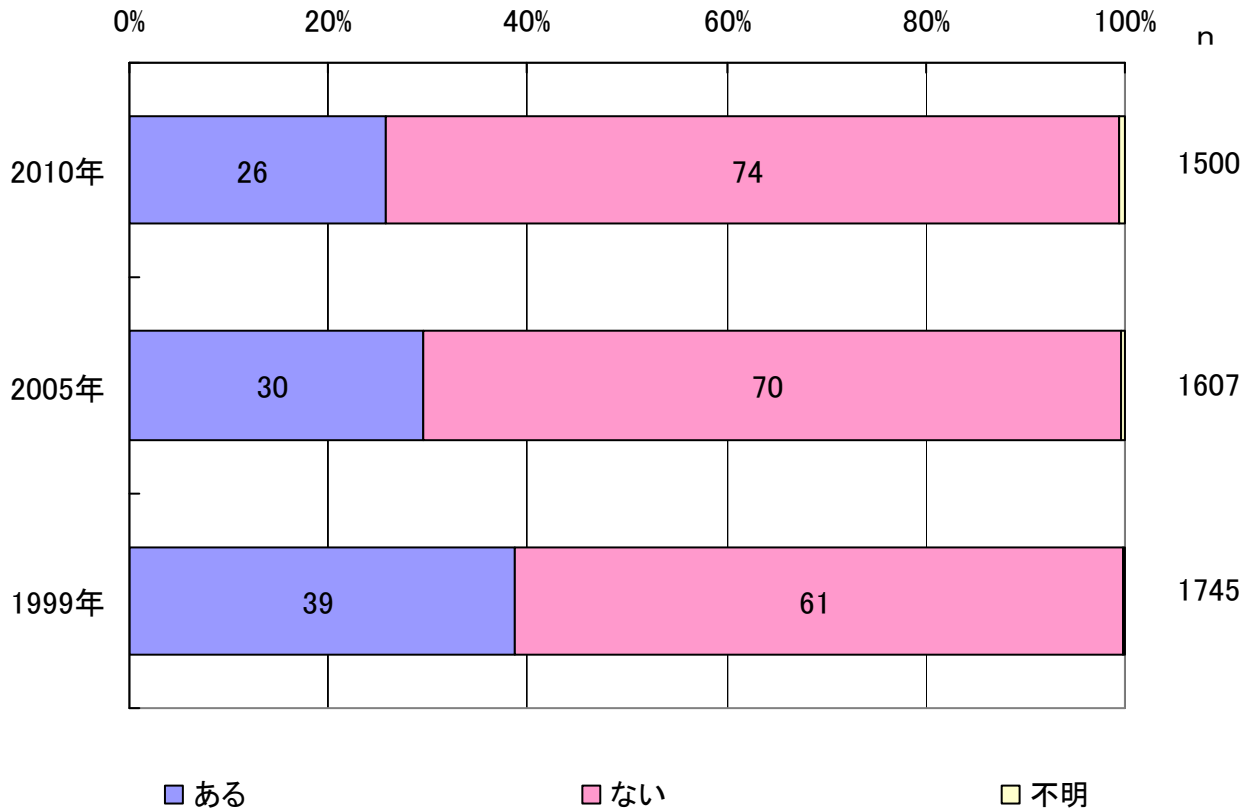
Q20. 処方薬による副作用の経験

副作用の経験が「ある」は26%で、1999年の39%、2005年の30%から減少傾向にある。

副作用が出たときに「医師に相談した」が67%、「薬をのむのをやめた」が24%、「インターネットで調べた」が20%である。2005年の74%、40%、8%と比較し、「インターネットで調べた」の割合が増加しているが、これもQ14同様に調査手法の変更も1つの要因として考えられる。

Q20. あなたは、過去に医師が処方した薬の副作用と思われる経験をしたことがありますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. ある
2. ない

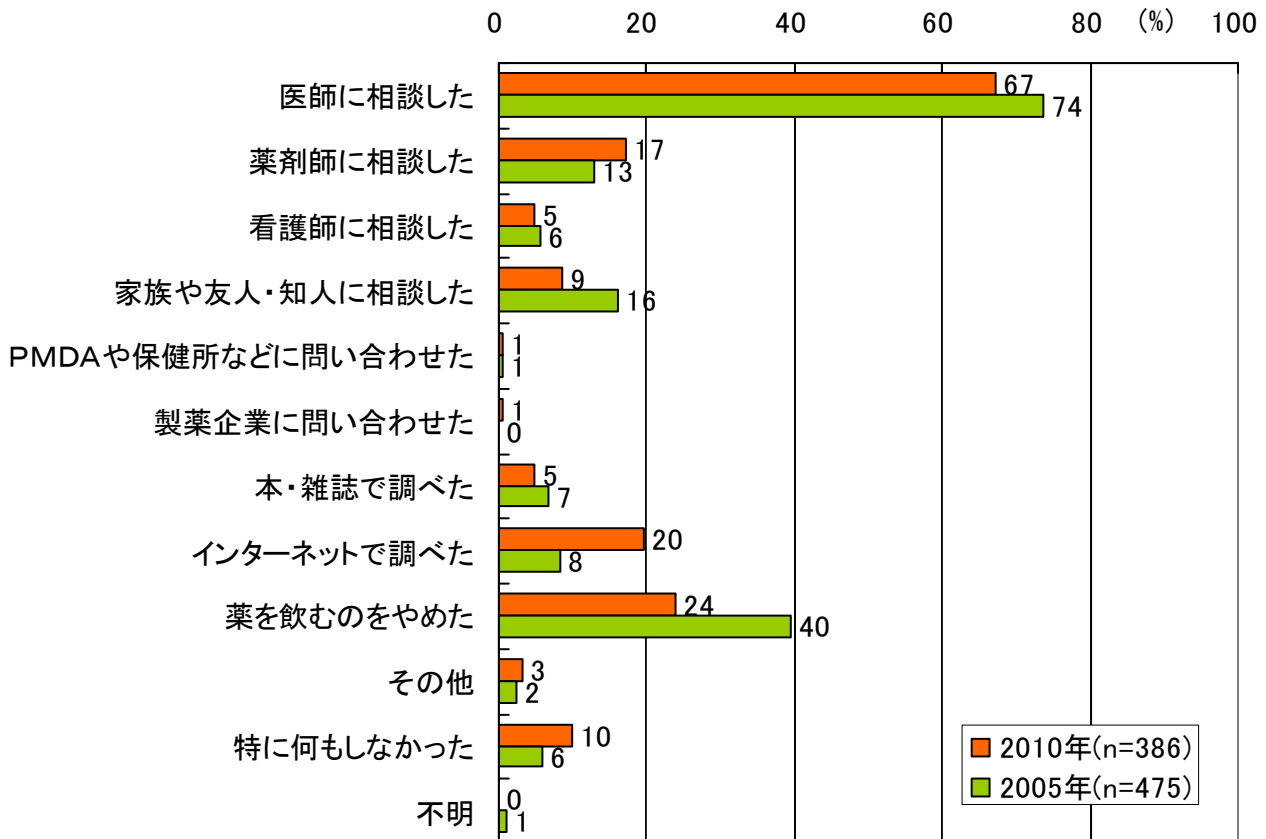


Q20SQ. 処方薬による副作用発現時の対応

Q20SQ. 【Q20で「1.ある」を選んだ方】

あなたは、医師が処方した薬の副作用が出たと思われた時に、どのようにしましたか。(〇はいくつでも)

1. 医師に相談した
2. 薬剤師に相談した
3. 看護師に相談した
4. 家族や友人・知人に相談した
5. PMDAや保健所などに問い合わせた
6. 製薬企業に問い合わせた
7. 本・雑誌で調べた
8. インターネットで調べた
9. 薬を飲むのをやめた
10. その他()
11. 特に何もしなかった

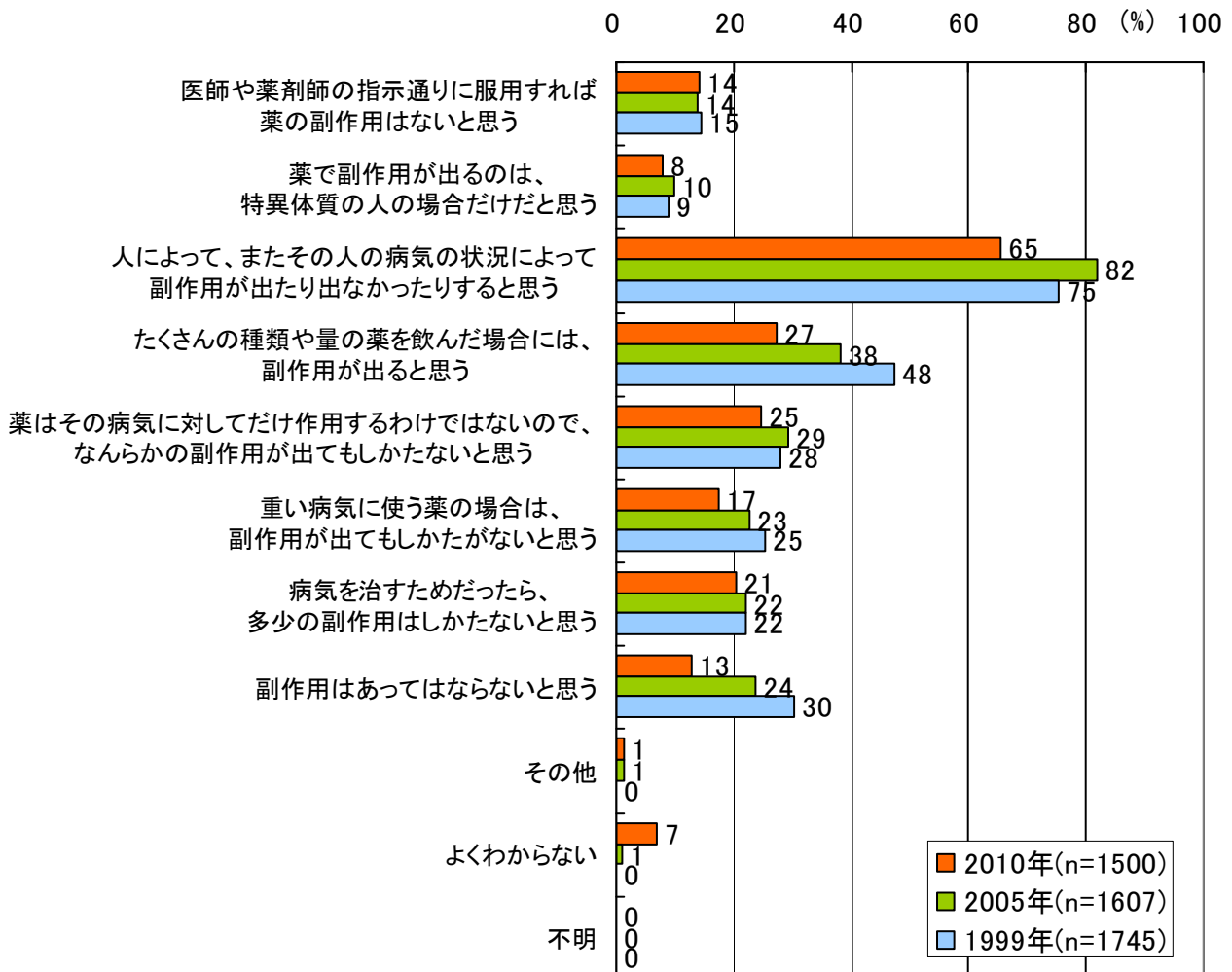


Q21. 処方薬による副作用についての考え

処方薬の副作用について「人によって、またその人の病気の状況によって副作用が出たり出なかったりと思う」が 65%、「たくさんの種類や量の薬を飲んだ場合には、副作用が出ると思う」が 27%、「薬はその病気に対してだけ作用するわけではないので、なんらかの副作用が出てもしかたないと思う」が 25%であった。2005 年の 82%、38%、29%と同じ傾向ではあるが、回答率は減少した。

Q21. あなたは、医師が処方した薬の副作用について、どうお考えですか。(○はいくつでも)

1. 医師や薬剤師の指示通りに服用すれば薬の副作用はないと思う
2. 薬で副作用が出るのは、特異体質の人の場合だけだと思う
3. 人によって、またその人の病気の状況によって副作用が出たり出なかったりと思う
4. たくさんの種類や量の薬を飲んだ場合には、副作用が出ると思う
5. 薬はその病気に対してだけ作用するわけではないので、なんらかの副作用が出てもしかたないと思う
6. 重い病気に使う薬の場合は、副作用が出てもしかたがないと思う
7. 病気を治すためだったら、多少の副作用はしかたないと思う
8. 副作用はあってはならないと思う
9. その他()
10. よくわからない

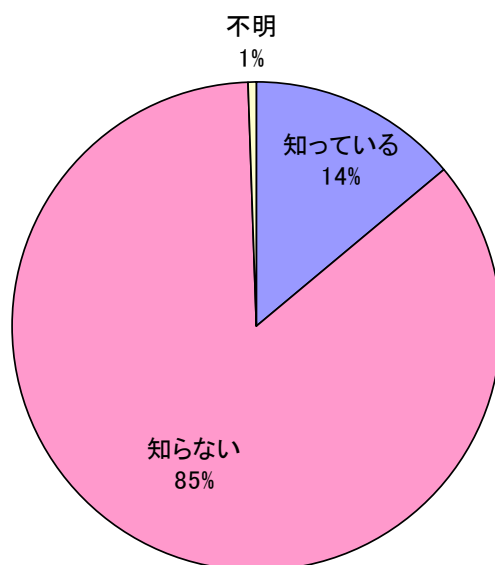


Q22. 医薬品副作用被害救済制度の認知

国の医薬品副作用被害救済制度を「知っている」は14%、「知らない」は85%であり、救済制度の認知度が低いことがわかる。

Q22. 国の医薬品副作用被害救済制度があることを知っていますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。
(○はひとつ)

1. 知っている
2. 知らない



n = 1500

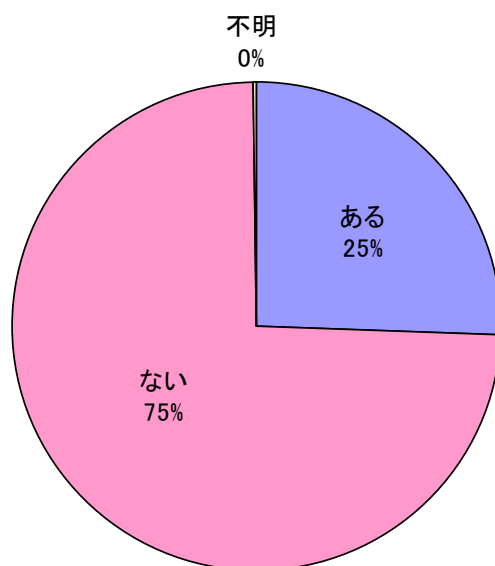
Q23. 市販薬購入の際の相談有無

市販薬の購入時に薬剤師などに相談したことが「ある」は 25%、「ない」は 75%であった。

相談の結果「自分に合う薬を選択できた」が 47%、「症状などを聞いてくれて、薬の使い方がわかった」が 67%である。

Q23. あなたは、過去に市販の薬(一般用医薬品)を買うにあたり、薬剤師や登録販売者に相談したことがありますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. ある
2. ない

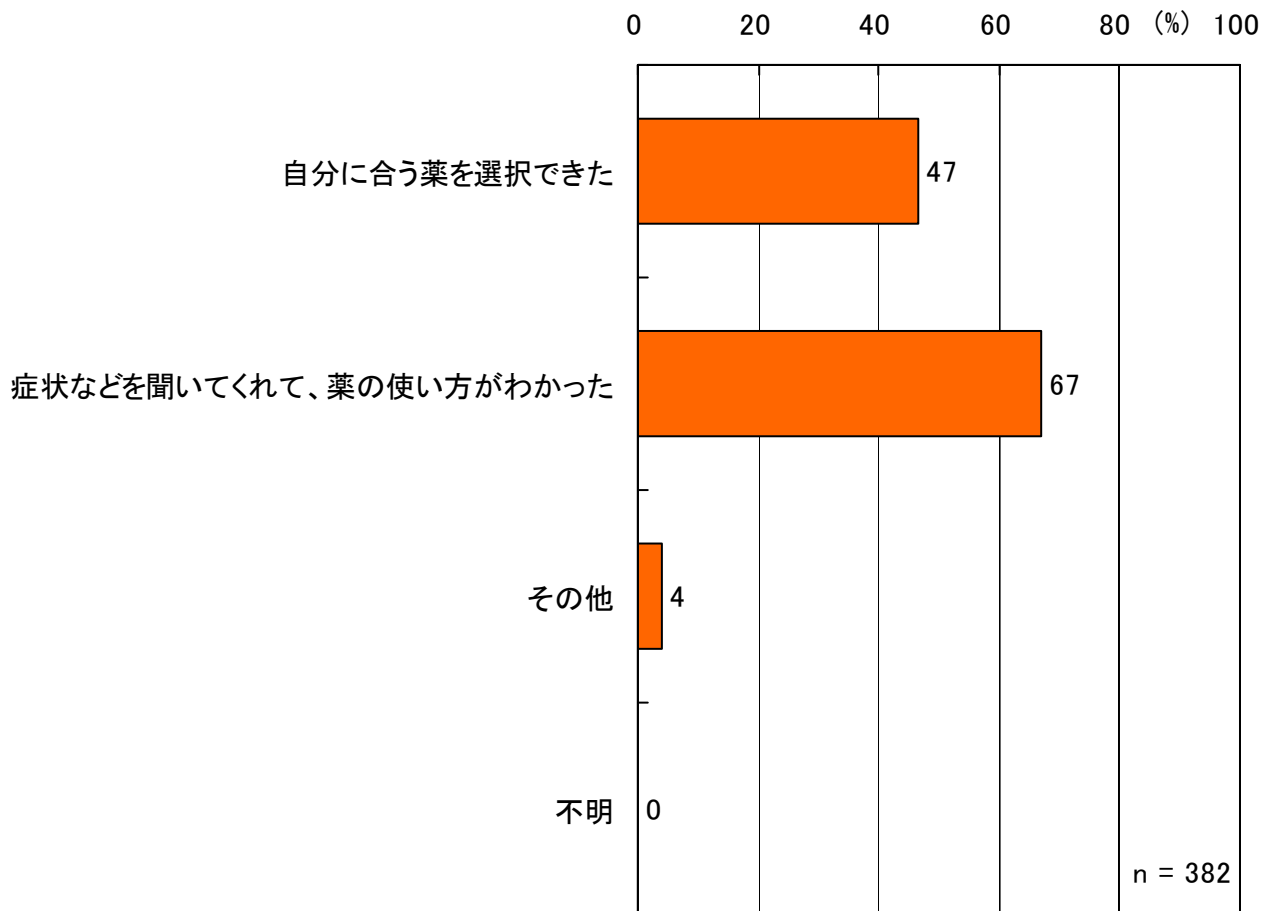


n = 1500

Q23SQ1. 市販薬購入の際の相談結果

Q23SQ1. 【Q23 で「1.ある」を選んだ方】薬剤師や登録販売者に相談の結果、どう思いましたか。(〇はいくつでも)

1. 自分に合う薬を選択できた。
2. 症状などを聞いてくれて、薬の使い方がわかった。
3. その他()

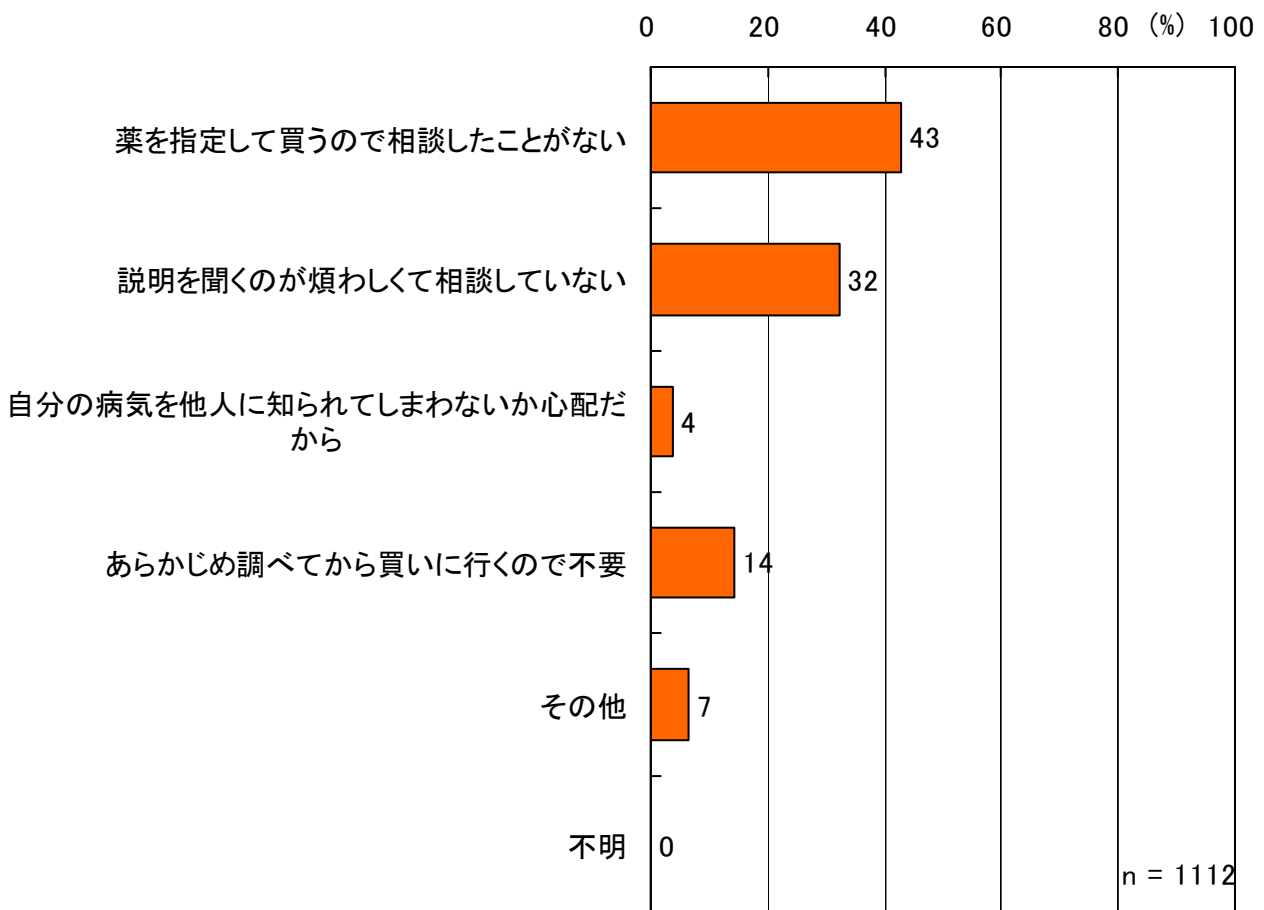


Q23SQ2. 市販薬購入の際に相談しない理由

薬剤師や登録販売者に相談しない理由は、「薬を指定して買うので相談したことがない」が 43%、「説明を聞くのが煩わしくて相談していない」が 32%である。

Q23SQ2. 【Q23 で「2.ない」を選んだ方】薬剤師や登録販売者に相談しないのは、どうしてですか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. 薬を指定して買うので相談したことがない。
2. 説明を聞くのが煩わしくて相談していない。
3. 自分の病気を他人に知られてしまわないか心配だから。
4. あらかじめ調べてから買いに行くので不要。
5. その他()



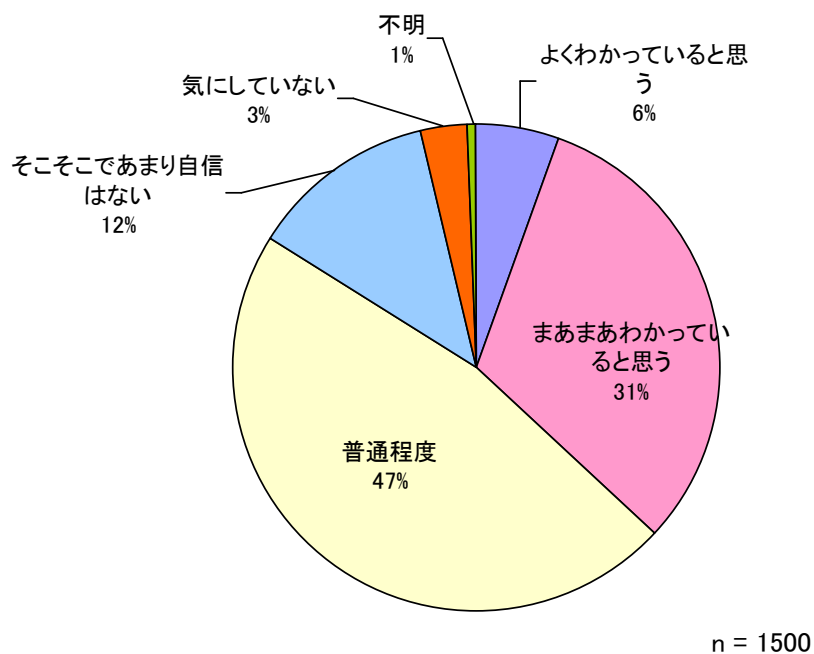
Q24. 使用薬の特性の理解度

使用している薬について「よくわかっていると思う」は 6%、「まあまあわかっていると思う」は 31%で合計 37%が理解していると回答した。

薬の特性に関する知識は「医師、薬剤師、看護師などの専門家から」得たい人は 69%、「インターネットで」が 67%であった。

Q24. あなた自身が用いている薬の特性(効き目、副作用、使用法など)についてどの程度理解できていると思いますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. よくわかっていると思う。
2. まあまあわかっていると思う。
3. 普通程度。
4. そこそこであまり自信はない。
5. 気にしていない。

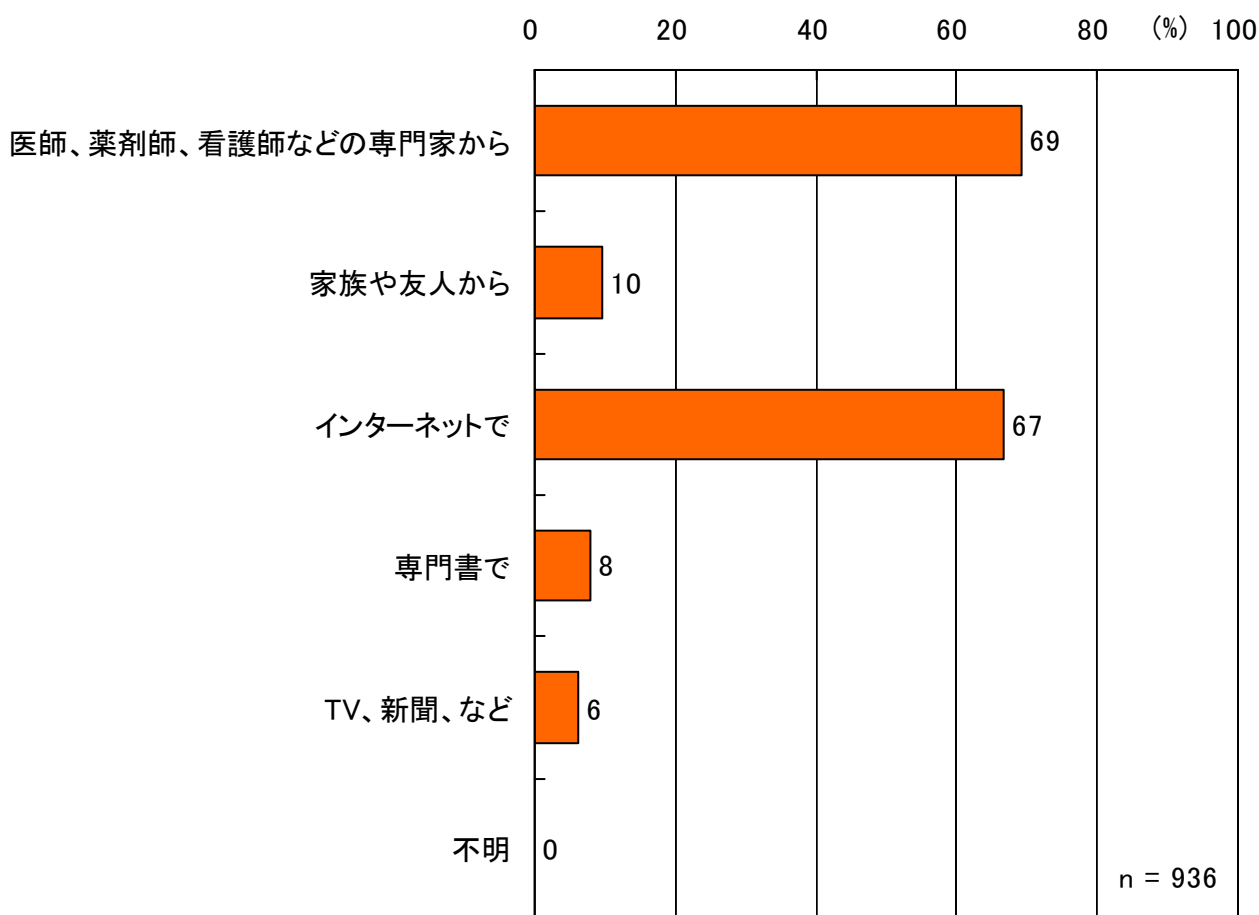


Q24SQ. 使用薬に関する知識の習得方法

Q24SQ. 【Q24 で「1.よくわかっていると思う」、「2.まあまあ分かっていると思う」以外を選んだ方】

これから薬の特性について理解しようとする、どのような方法で知識を得たいと思いますか。(○は
いくつでも)

1. 医師、薬剤師、看護師などの専門家から。
2. 家族や友人から。
3. インターネットで。
4. 専門書で。
5. TV、新聞、など

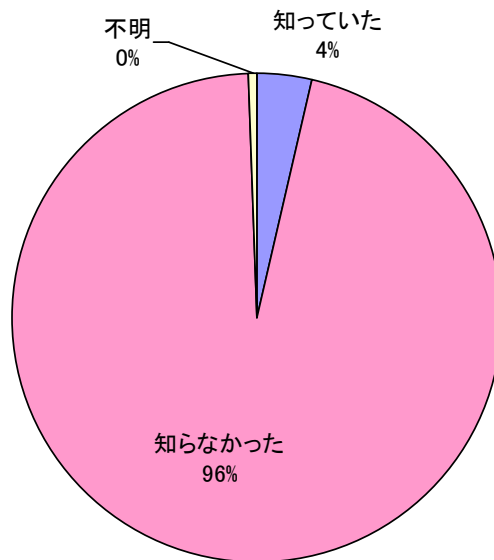


Q25. 中学校での「医薬品教育」の認知状況

「医薬品教育」について「知っていた」は4%、「知らなかった」は96%で認知度が低いことがわかる。

Q25. 中学校で「医薬品教育」(平成24年度から)が行われることになりました。「医薬品教育」では「医薬品の主作用と副作用があることおよび正しい薬の使い方」を学ぶことになります。知っていましたか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. 知っていた。
2. 知らなかった。



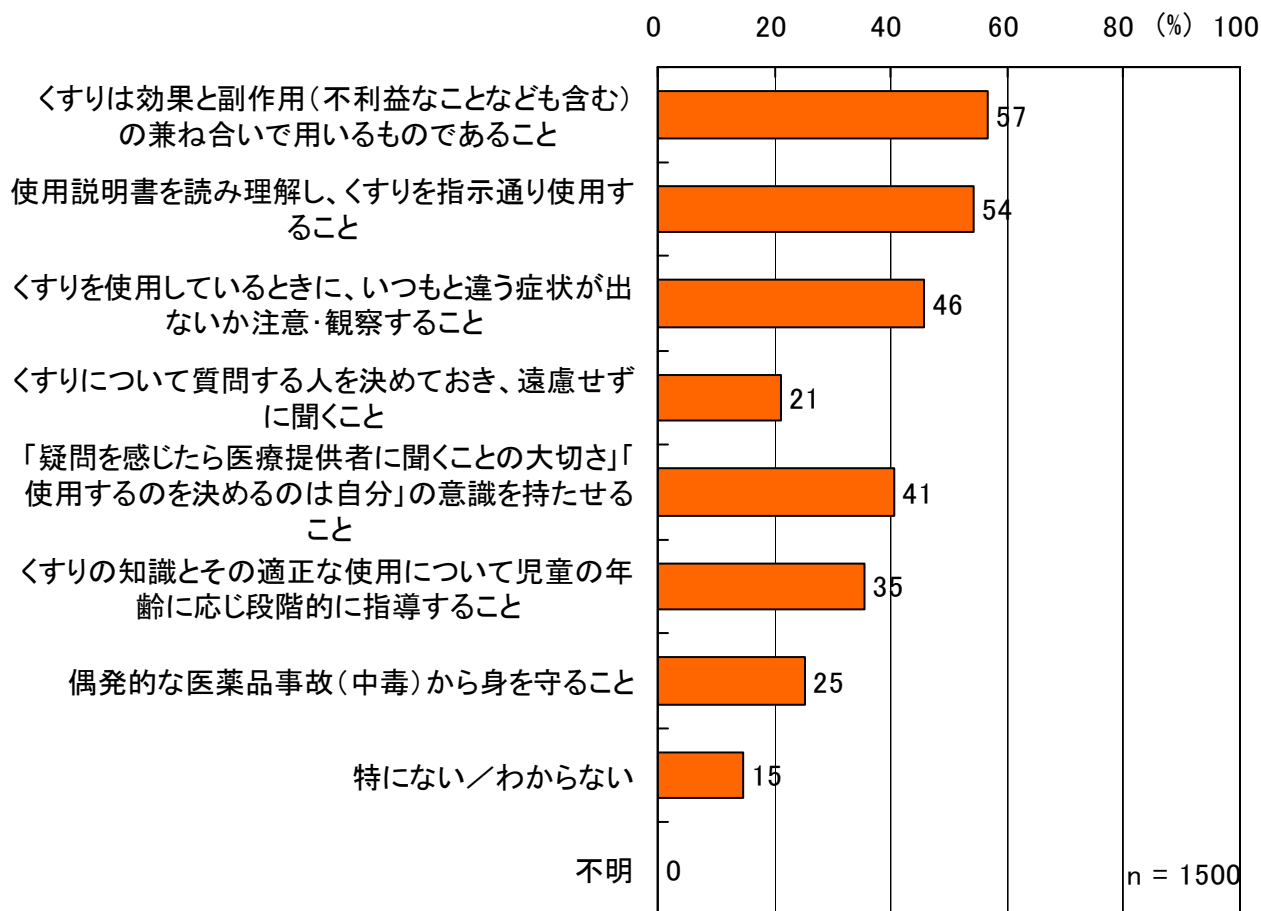
n = 1500

Q26. 中学校での「医薬品教育」で必要と思うこと

「医薬品教育」で特に必要だと思うのは「くすりは効果と副作用（不利益なことなども含む）の兼ね合いで用いるものであること」が 57%、「使用説明書を読み理解し、くすりを指示通り使用すること」が 54%、「くすりを使用しているときに、いつもと違う症状が出ないか注意・観察すること」が 46%であった。

Q26. あなたは「医薬品教育」において、薬について具体的に特に必要だと思うのはどれですか。（○はいくつでも）

1. くすりは効果と副作用（不利益なことなども含む）の兼ね合いで用いるものであること。
2. 使用説明書を読み理解し、くすりを指示通り使用すること
3. くすりを使用しているときに、いつもと違う症状が出ないか注意・観察すること
4. くすりについて質問する人を決めておき、遠慮せずに聞くこと
5. 「疑問を感じたら医療提供者に聞くことの大切さ」「使用するのを決めるのは自分」の意識を持たせること
6. くすりの知識とその適正な使用について児童の年齢に応じ段階的に指導すること
7. 偶発的な医薬品事故（中毒）から身を守ること
8. 特にない／わからない



II-5. 調査結果(詳細編)

II-5-1. 調査結果の総括

◆健康状態や病気になったときの対応

現在の健康状態について、「全く健康」は13%、「まあ健康(普通)」は56%で、合計69%が健康であると回答しており、この割合は、1999年調査の71%、2005年調査の69%とほぼ同じ水準である。そして、軽い病気になった時の対応として「休養をとったり、栄養のあるものを食べたり、体を動かしたり(運動)して様子を見る」が50%、「まず市販の薬を使い、様子を見る」が40%、「とにかく医者に行き、診察を受け、薬をもらう」は9%となった。過去2回の調査と比較すると「休養をとったり、栄養のあるものを食べたり、体を動かしたり(運動)して様子を見る」割合が増え、医療へのアクセスが減少している傾向が見られた。

◆病院(病院)の選択方法

「かかりつけの病院や医院がある」人は61%で過半数をしめた。年代別では20代が54%であるのに対し60代では75%と、年齢の高い人ほど割合が高い。また「慢性疾患で通院中」の人では84%と特に高く、それ以外の人50%と大きな差が見られた。

「その都度、近くの病院や医院を適当に選ぶ」「人に聞いて評判の良い病院や医院を選ぶ」「インターネットなどで調べて選ぶ」はそれぞれ25%、19%、16%であった。「インターネットなどで調べて選ぶ」は20代で28%、30代25%、40代17%と全体を上回り、若い人ほど活用している傾向がみられた。

◆かかりつけ薬局の有無と選択理由

保険薬局を決めている人の割合は34%で、年代別では60代で52%、特に男性-60代では58%で高い。また「慢性疾患で通院中」の人では58%で、それ以外の人22%と差が見られた。病気になったとき「とにかく医者に行き、診察を受け、薬をもらう」人は64%、「かかりつけの病院や医院がある」人も49%とかかりつけ薬局を決めている割合が高い。保険薬局を決めている理由は、「病院からの距離が近い」50%、「スタッフの対応がとてもよい」35%、「家・職場からの距離が近い」31%が上位にあげられ、スタッフの対応とともに立地が重要なポイントであることが挙げられた。

◆治療への自分の意思の反映状況

治療に自分の意思が反映されていると「思う」人は49%、「思わない」人は13%である。

「思う」は男性-60代で59%とやや高く、30代、40代の女性でそれぞれ40%とやや低くなっている。「慢性疾患で通院中」の人では59%とそれ以外の人44%と差がみられた。

自分の意思が反映されていたと思うのは「医師から納得のいく説明がされた時」が65%、「処方薬を変更する時」40%、「治療法を変える時」25%である。さらに、自分の意思決定が反映されている人ほど、医療機関に対する満足度も高かった。

一方、自分の意思が反映されていないと感じる人では「病気や治療法などの知識がないから、意思が出せない」52%、「医師とは相談しにくいので難しい」36%、「病気や治療について事前に学習できる機会がない」31%で、医師に対し質問をしたり、希望を伝えたりしづらい関係にあることが想像できる。

◆処方薬についての説明状況

処方薬について説明を受けた場合は、1999年の87%、2005年の93%とほぼ同じ水準であるが、「十分に説明を受けた」の割合が増加している。薬の説明を受けた職種では「薬剤師から」が83%、「医師から」が42%、「看護師から」が10%であり、1999年の57%、52%、14%、2005年の69%、50%、10%から比べると「薬剤師から」の割合が毎回10ポイント以上ずつ増加している。また通院回数が多い人ほど医師から説明を受けている割合が高い。

説明内容は「使用方法」85%、「効き目」79%、「使用量」74%、「薬の名前」63%が上位となった。

「十分に説明を受けた」と回答した人の割合は、「医師から」説明を受けた人が60%、「薬剤師から」が53%であり、「看護師から」の39%に比べ高い。また「薬の副作用が出たときの対処方法」と「飲み忘れたときの対処方法」の説明を受けた人ではそれぞれ78%で全体平均の47%を大きく上回る。最低限必要な使用方法や使用量だけではなく、プラスアルファの情報提供が患者に「十分な説明」と感じさせている可能性が考えられる。

◆処方薬の説明方法

説明方法は「印刷物を用いての説明があり、印刷物をもらった」が53%、「印刷物を用いての説明」が24%、「口頭での説明がなく、印刷物を渡されただけ」が2%であり、印刷物の利用が約8割を占め、「口頭のみ」は21%となった。また通院回数が多い人ほど、印刷物をもらい説明を受けている割合が高い。また説明をする人と説明方法の関係をみると、看護師は「口頭のみでの説明」が26%に対し、医師は21%、薬剤師は17%である。また処方場所との関係では、院内処方では「口頭のみでの説明」が26%、印刷物を用いての説明は71%、院外処方ではそれぞれ17%、81%と、院外処方の方が印刷物を用いての説明割合が高い傾向がみられた。

◆処方薬の説明の理解度

処方薬の説明に対する理解度は「よくわかった」が31%、「まあわかった」が65%で96%の人が理解している。処方薬の説明に対する理解度（よくわかったの割合）は、「医師から」説明を受けた人、「印刷物の説明があり、印刷物をもらった人」で高くなった。両方の条件を満たした人の理解度は48%と全体平均の31%に比べ高くなった。

◆処方薬について尋ねた経験

薬について「医師に尋ねたことがある」は31%、「薬剤師に尋ねたことがある」32%、「看護師に尋ねたことがある」は5%であった。一方、「尋ねたことはない」は、2005年より11ポイント増加している。性別では女性で情報希求の傾向が強く、「医師に訪ねたことがある」が34%、「薬剤師に尋ねたことがある」が37%であるのに対し、男性ではそれぞれ28%、27%であった。通院回数別は「12回以上」では53%、44%、「2回以内」では19%、23%と通院回数が多いほど医師や薬剤師に尋ねる傾向がみられる。「医師」「薬剤師」「看護師」に尋ねたことがある人ほど、治療に自分の意思が反映されていると回答している割合が高かった。

◆お薬手帳の利用状況と薬の説明用紙の必要性

お薬手帳を「利用している」は32%、「利用していない」38%、「もらったことはない」は29%であった。「利用している」人の割合を性別にみると、男性が26%に対し女性は38%と女性が男性を12ポイント上回り、特に女性-30代では51%と高くなった。また通院回数が「2回以内」では24%であるのに対し、「12回以上」では43%と、通院回数が多いほどお薬手帳を利用している傾向がみられた。

薬の説明が書かれた印刷物について「いまもらっているものをもらいたい」が 51%、「内容を改良したものをもらいたい」が 20%で、合計 71%が印刷物を必要としている。「特に必要ない」は 28%であった。年代別では、20代で「必要ない」が 35%であり、特に男性-20代では 41%と高い。

「内容を改良したものをもらいたい」という回答者の説明用紙の内容を改良してもらいたい点は、「家に帰ってから確認できる詳しい内容のもの」が 67%、「実際の薬の写真が載っているもの」が 49%であった。性別で見ると、男性は女性よりも「詳しい内容のもの（男性 72%、女性 60%）」、女性は男性よりも「写真が載っているもの（男性 42%、女性 58%）」を希望する割合が高く、対象によって改良ニーズが異なることが判明した。

◆薬の情報入手先

処方薬に関する情報は「医師」からが 41%、保険薬局の薬剤師からが 39%、「インターネット」からが 35%である。2005 年の 52%、58%、15%と比べると傾向が大きく変わっているが、これは調査方法が前回までの FAX 調査からインターネット調査に変更されたことも1つの要因として考えられる。また「慢性疾患で通院中」や通院回数が多い人では、積極的に情報を入手する傾向がみられた。

インターネットで情報を入手するサイトは、「医薬品情報の専門サイト」からの情報入手が 78%、「製薬会社のホームページ」が 40%であった。

◆処方薬の服薬状況と余った処方薬の扱い

処方薬を「きちんと指示通りに使う」は 36%、「だいたい指示通りに使う」が 54%で合計 90%であり、「指示を守る」姿勢がうかがえる。1999 年、2005 年と比べて大きな変化は見られない。

余った処方薬については「すぐに捨てる」が 8%、「保存して時間がたてば捨てる」が 49%で合計 57%が捨てると回答した。「保存しておいて同じ症状の時に使う」は 39%で、特に「慢性疾患で通院中」の人で 47%と高くなった。また 3 回以上通院している人は同じ症状の時に使おうと考える傾向が見られる。また余った処方薬について「医療費が無駄だと思う」が 48%、「次の診療のときに医師や薬剤師に伝えるべきである」が 27%、「きちんと飲んでないので良くならない」が 26%であった。

◆1年以上使い続けている処方薬の有無の医療者の確認状況

1年以上使い続けている薬が「ある」は 31%、「ない」は 69%である。「ある」の割合は、年齢による差が大きく、20代が 17%であるのに対し、60代では 50%と半数を占める。「慢性疾患で通院中」の人では 79%、通院回数が「12回以上」では 81%と全体を大きく上回った。

使い続けている薬について、「定期的に服用状況を聞かれている」は 59%、「自分から服用状況を教えている」は 13%で合計 72%が定期的な確認を行っている。一方で、「問題ないから黙って使い続けている」も 27%存在し、適正使用上の課題が指摘されていると思われる。

◆副作用に対する不安

副作用を「非常に気にしている」は 6%、「まあ気にしている」は 36%で合計 42%が気にしていると回答している。1999 年の 13%、40%、2005 年の 12%、38%と比較すると、少しずつではあるが減少傾向にある。性別では男性が 5%、31%であるのに対し、女性では 6%、42%と女性の方が不安を感じる割合が高い。治療に自分の意思が反映されていないほど、不安を感じる割合がたかくなった。

◆処方薬による副作用の経験と対処法

副作用の経験が「ある」は 26%で、1999 年の 39%、2005 年の 30%から減少傾向にある。「慢性疾患で通院中」は 38%で、それ以外の人 20%を大きく上回った。また通院回数が多くなるほど副作用の経験が高くなる傾向が見られた。副作用が出たときに「医師に相談した」が 67%、「薬をのむのをやめた」が 24%、「インターネットで調べた」が 20%である。2005 年の 74%、40%、8%と比較し、「インターネットで調べた」の割合が増加しているが、これも調査手法の変更も1つの要因として考えられる。また通院回数が多いほど、医師に相談したり、インターネットで調べる傾向が見られた。

◆医薬品副作用被害救済制度の認知

国の医薬品副作用被害救済制度を「知っている」は 14%、「知らない」は 85%であり、救済制度の認知度が低いことがわかる。また「急性疾患で通院中」の人、通院回数が多い人ほど救済制度について知っている割合が高かった。

◆市販薬の購入の際の相談状況

市販薬の購入時に薬剤師などに相談したことが「ある」は 25%であった。「ある」は女性が 30%で男性 21%に比べ 9 ポイント高く、年代別では 20 代で 14%と低くなった。また通院回数が多いほど相談する傾向が見られた。相談の結果「症状などを聞いてくれて、薬の使い方がわかった」が 67%でも最も多く、次いで「自分に合う薬を選択できた」が 47%である。20 代ではそれぞれ 63%、69%、60 代では 74%、35%であり、年代により感想が異なっている。反対に薬剤師や登録販売者に相談しない理由は、「薬を指定して買うので相談したことがない」が 43%、「説明を聞くのが煩わしくて相談していない」が 32%である。通院回数が少ないほど、相談することに煩わしさを感じる傾向が見られ、薬剤師や登録販売者の相談機能についてあまり普及してないことが示された。

◆使用薬剤に関する知識の習得方法

使用している薬剤の理解度が低い(使用薬の特性の理解度で「よくわかっている」「まあまあわかっていると思う」以外)回答者は、「医師、薬剤師、看護師などの専門家から」得たい人が 69%、「インターネットで」が 67%であった。60 代ではそれぞれ 72%、55%で専門家からの割合が高くなったが、その他の年代ではほぼ同じ割合となった。また通院回数が多い人ほど専門家から情報を得ようとする傾向がみられた。

◆中学校での「医薬品教育」に対するニーズ

中学校における「医薬品教育」について「知っていた」は 4%と、認知状況は低いものの、「医薬品教育」に必要と考える項目として「くすりは効果と副作用(不利益なことなども含む)の兼ね合いで用いるものであること」が 57%、「使用説明書を読み理解し、くすりを指示通り使用すること」が 54%、「くすりを使用しているときに、いつもと違う症状が出ないか注意・観察すること」が 46%であった。また全体的に通院回数が多い人で各項目の回答率が高く、医薬品教育に対する関心が高いと言える。一方、年代別では 20 代で「特になし/わからない」が 25%と、全体の 15%を 10 ポイント上回り、関心の低さがうかがえる。治療意思決定への関わりへ少ない人の理由の上位に「病気や治療法などの知識がすくないから」「病気や治療について事前に学習できる機会がない」があげられていることから中学校カリキュラムにおける早期教育の意義が高いと考えられる。

II-5-2. 調査結果内容

Q1. 健康状態

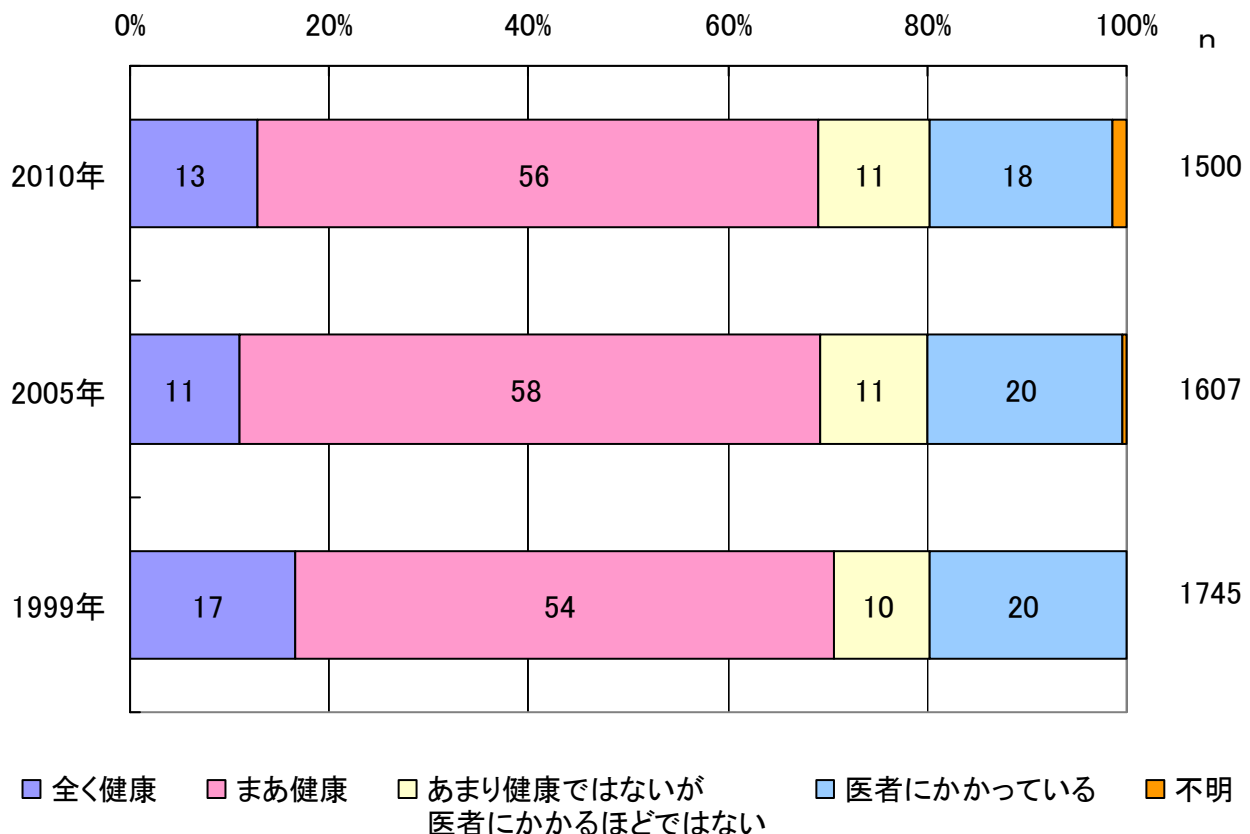
現在の健康状態について、「全く健康」は13%、「まあ健康(普通)」は56%で、合計69%が健康であると回答しており、この割合は、1999年調査の71%、2005年調査の69%とほぼ同じ水準である。年代別では20代、30代がそれぞれ76%、78%と全体を上回っている。

一方、「医者にかかっている」の割合は18%で、年齢とともにその割合は高くなり、20代の11%に対し、50代では23%、60代では29%である。特に男性-50代で26%、60代で35%と高い。

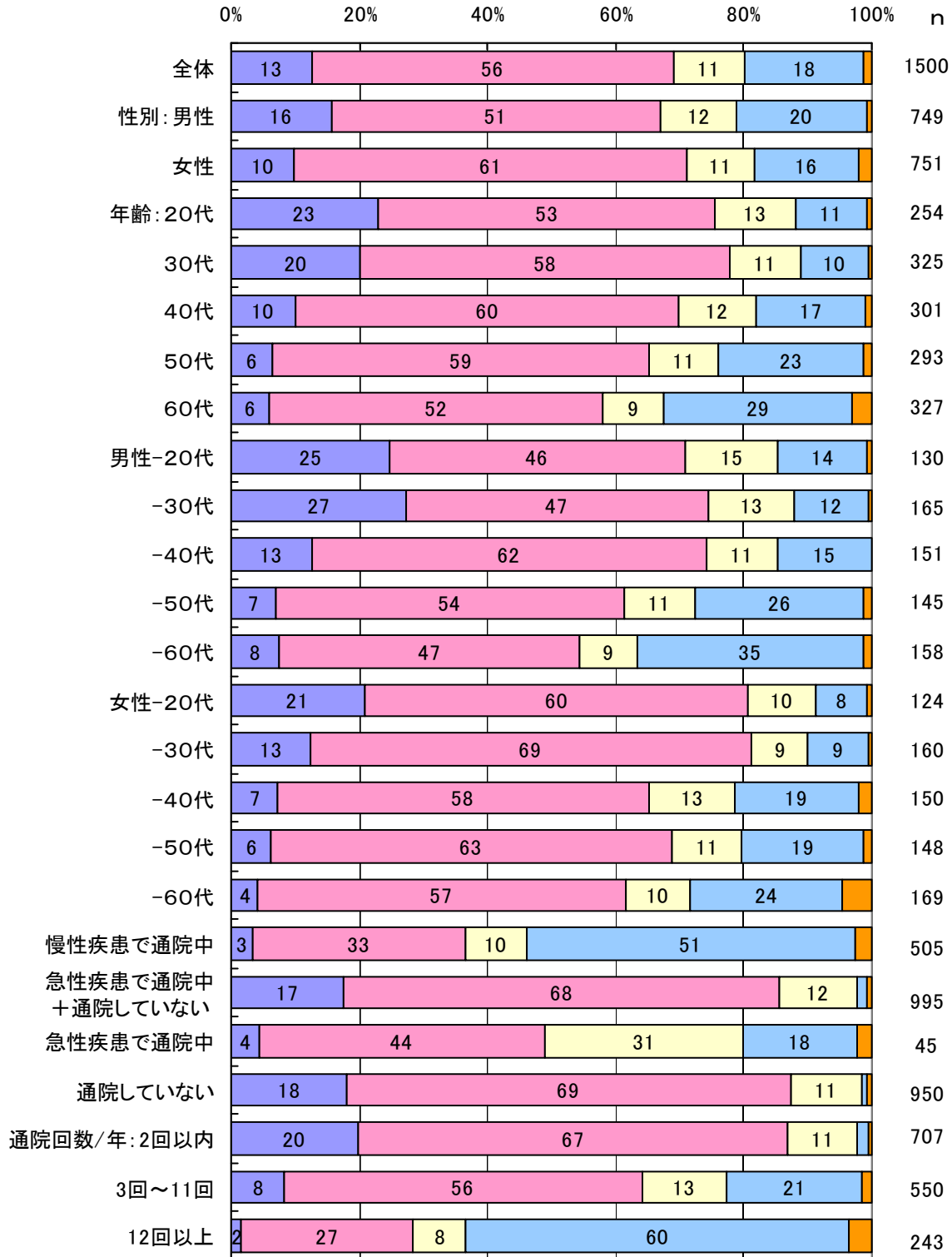
Q1. あなたの現在の健康状態について、当てはまるものをひとつ選んで下さい。

(○はひとつ)

1. 全く健康
2. まあ健康(普通)
3. あまり健康ではないが、医者にかかるほどではない
4. 医者にかかっている



Q1. 健康状態



■ 全く健康
 ■ まあ健康(普通)
 ■ あまり健康ではないが、
 医者にかかるほどではない
 ■ 医者にかかっている
 ■ 不明

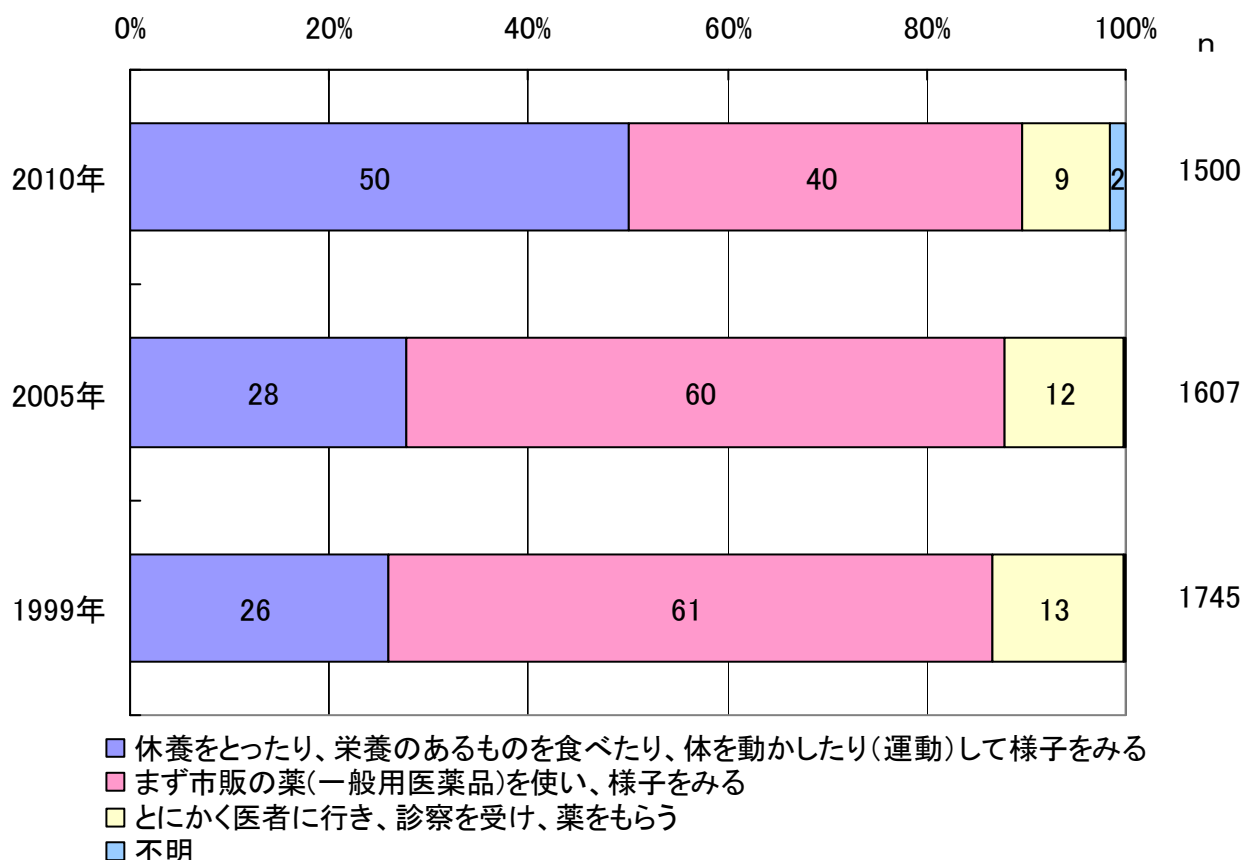
Q2. 病気になった時の対応

軽い病気になった時の対応として「休養をとったり、栄養のあるものを食べたり、体を動かしたり(運動)して様子を見る」が50%、「まず市販の薬を使い、様子を見る」が40%、「とにかく医者に行き、診察を受け、薬をもらう」は9%となった。過去2回の調査と比較すると「休養をとったり、栄養のあるものを食べたり、体を動かしたり(運動)して様子を見る」割合が増え、医療へのアクセスが減少している傾向が見られた。

「慢性疾患で通院中」の人は、「医者に行き薬をもらう」が18%であるのに対し、それ以外の人(急性疾患で通院中、通院していない)では4%であった。

Q2. 普段、あなたは、風邪ぎみや腹痛等のような体の変調を覚えた時、最初はどうしますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

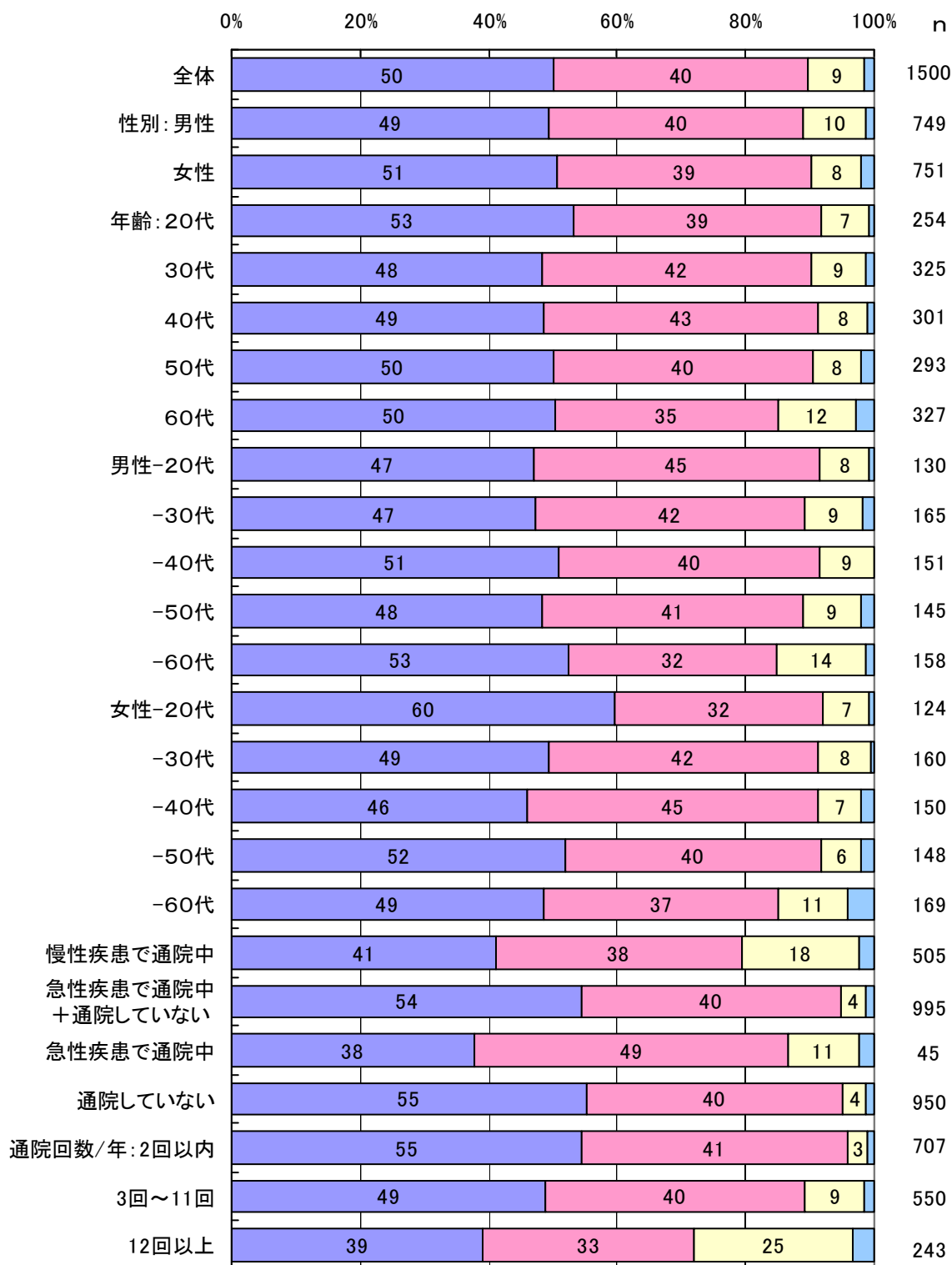
1. 休養をとったり、栄養のあるものを食べたり、体を動かしたり(運動)して様子を見る。
2. まず市販の薬(一般用医薬品)を使い、様子を見る。
3. とにかく医者に行き、診察を受け、薬をもらう。



※2005年、1999年の回答選択肢

1. 「薬など飲まず様子を見る」
2. 「市販の薬(大衆薬)を飲み、様子を見る」
3. 「医者に行き、薬をもらう」

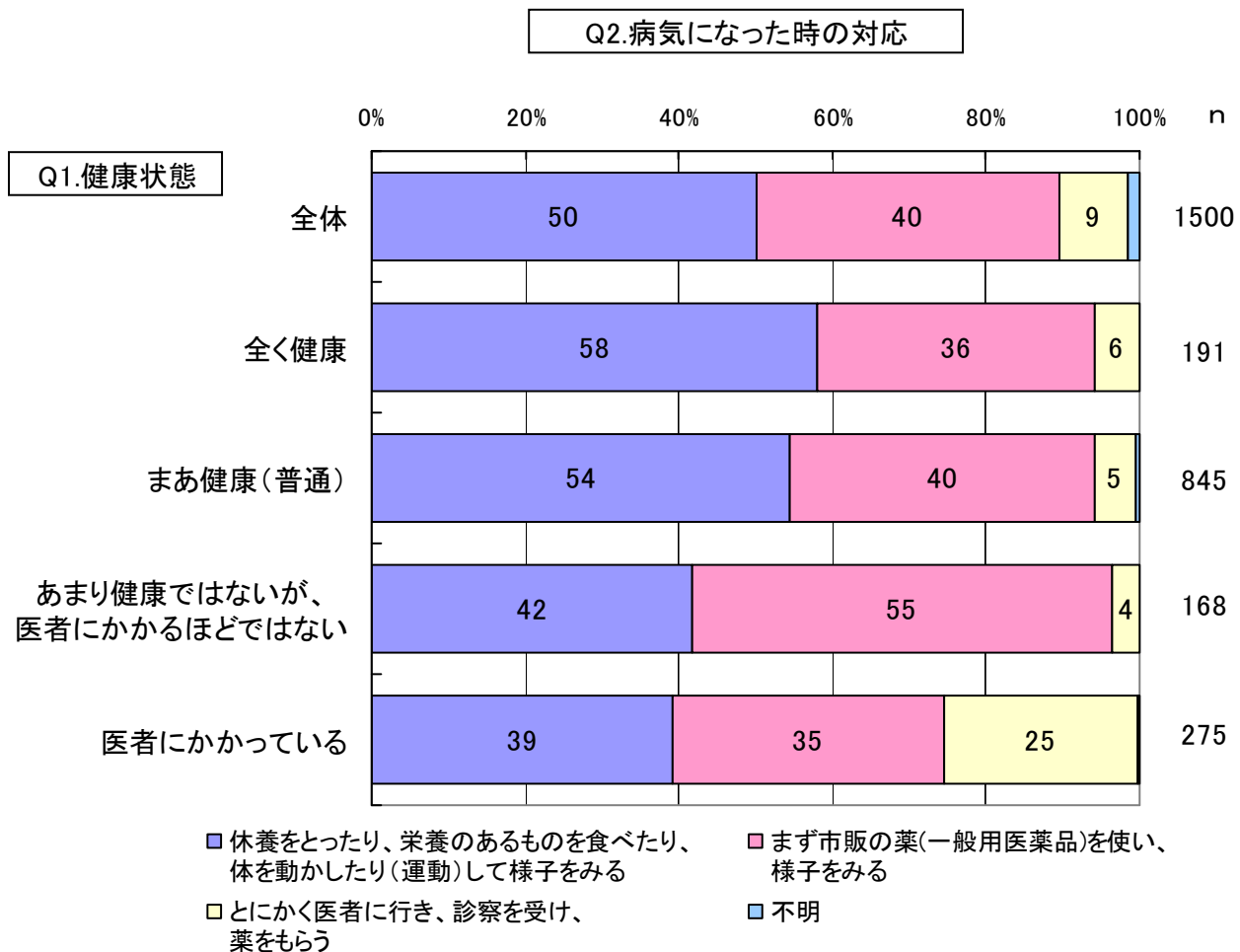
Q2. 病気になった時の対応



- 休養をとったり、栄養のあるものを食べたり、体を動かしたり(運動)して様子を見る
- まず市販の薬(一般用医薬品)を使い、様子を見る
- とにかく医者に行き、診察を受け、薬をもらう
- 不明

健康状態別にみた「病気になった時の対応」

「様子を見る」の割合は、「全く健康」「まあ健康」と回答した人ではそれぞれ 58%、54%であるのに対し、「医者にかかっている」と回答した人では 39%と低い。また「とにかく医者に行き、診察を受け、薬をもらおう」と回答した人の割合は、現在「医者にかかっている」と回答した人では 25%で、医者にかかっていない人(4~6%)と大きな差が見られた。



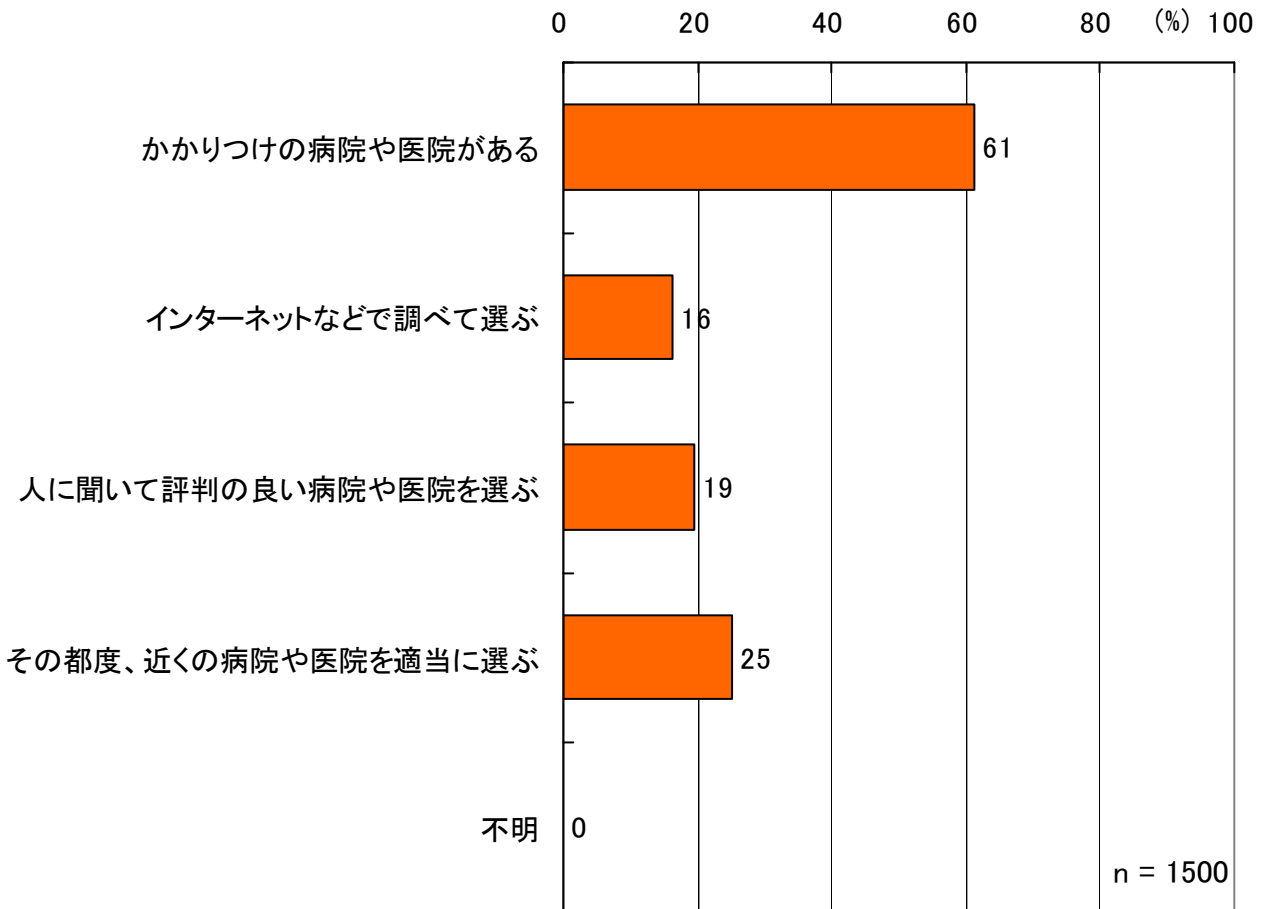
Q3. 病院の選択方法

「かかりつけの病院や医院がある」人は61%で過半数をしめた。年代別では20代が54%であるのに対し60代では75%と、年齢の高い人ほど割合が高い。また「慢性疾患で通院中」の人では84%と特に高く、それ以外の人50%と大きな差が見られた。

「その都度、近くの病院や医院を適当に選ぶ」「人に聞いて評判の良い病院や医院を選ぶ」「インターネットなどで調べて選ぶ」はそれぞれ25%、19%、16%であった。「インターネットなどで調べて選ぶ」は20代で28%、30代25%、40代17%と全体を上回り、若い人ほど活用している傾向がみられた。

Q3. あなたは、病院や医院(以下、歯科や産科は除く)をどのように選んでいますか。(〇はいくつでも)

1. かかりつけの病院や医院がある。
2. インターネットなどで調べて選ぶ。
3. 人に聞いて評判の良い病院や医院を選ぶ。
4. その都度、近くの病院や医院を適当に選ぶ。



Q3. 病院の選択方法

(%)	かかりつけの病院や 医 院 が あ る	イン ター ネ ッ ト な ど で 選 ぶ	人に 聞 い て 評 判 の 良 い 病 院 や 医 院 を 選 ぶ	その 都 度 、 近 く の 病 院 を 選 ぶ	不 明	n
全体	61	16	19	25	0	1500
性別 男性	59	15	16	27	0	749
女性	63	18	23	24	0	751
年齢 20代	54	28	22	28	0	254
30代	53	25	21	28	0	325
40代	60	17	22	30	0	301
50代	63	9	18	25	0	293
60代	75	6	15	16	1	327
男性 - 20代	50	28	18	30	0	130
- 30代	51	20	19	31	0	165
- 40代	60	13	19	28	0	151
- 50代	58	11	14	30	0	145
- 60代	75	4	12	16	1	158
女性 - 20代	58	27	26	27	1	124
- 30代	54	29	24	24	0	160
- 40代	59	21	25	32	0	150
- 50代	69	6	21	21	0	148
- 60代	74	9	18	17	0	169
慢性疾患で通院中	84	13	14	12	0	505
急性疾患で通院中 + 通院していない	50	18	22	32	0	995
急性疾患で通院中 通院していない	58	29	31	24	0	45
通院回数/年: 2回以内	44	16	21	36	0	707
3回~11回	72	16	21	19	0	550
12回以上	88	18	11	10	0	243

病気になった時の対応別にみた「病院の選択方法」

かかりつけの病院がある人の割合は、病気になったときにすぐに医者に行く人では 89%と高い。

		Q3 病院の選択方法					n
		かかりつけの病院がある	インターネットなどで調べると選ぶ	人に聞いて医者の評判を判断する	その都度、近くにある病院を選ぶ	不明	
(%)							
全体		61	16	19	25	0	1500
Q2病気に なった時の対応	休養をとったり、栄養のあるものを食べたり、体を動かしたり(運動)して様子を見る	58	18	21	26	0	750
	まず市販の薬(一般用医薬品)を使い、様子を見る	59	16	20	28	0	594
	とにかく医者に行き、診察を受け、薬をもらう	89	8	7	11	0	132

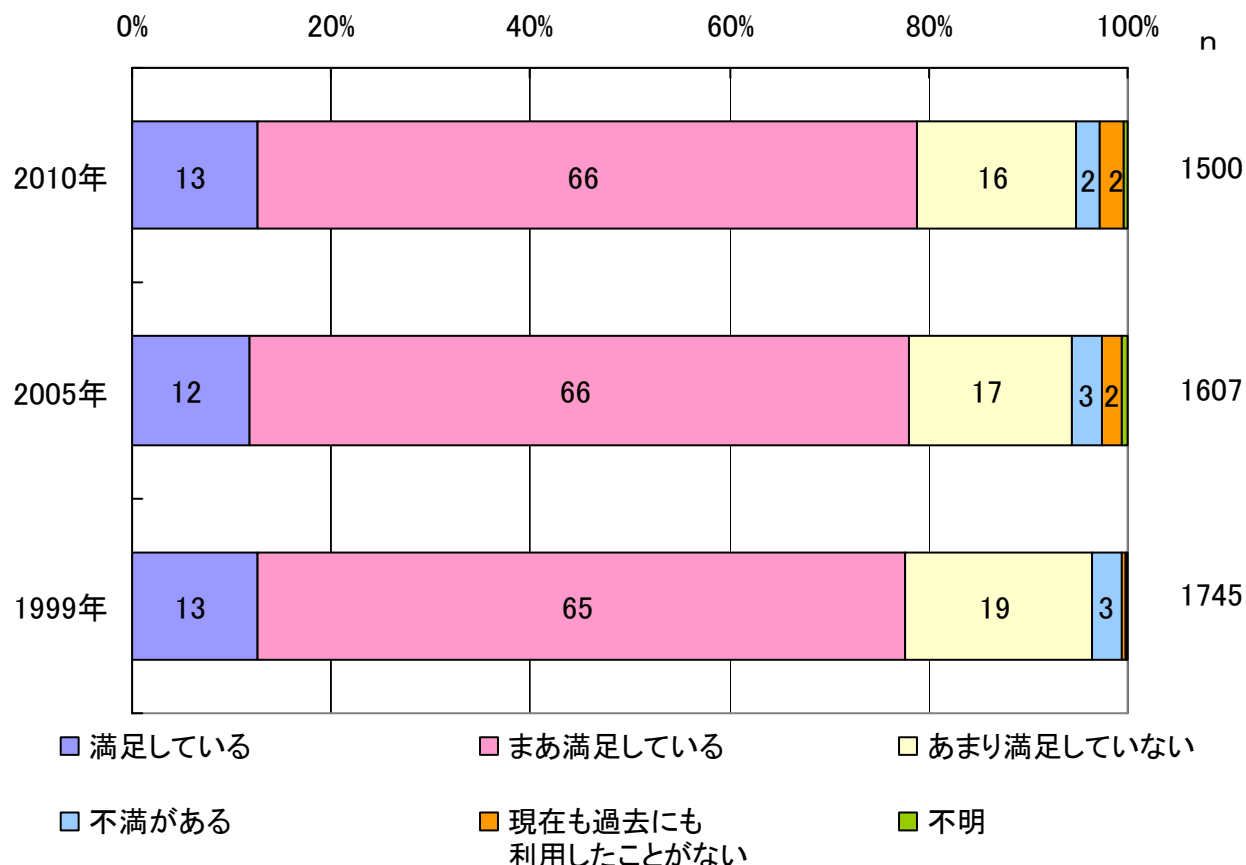
Q4. 医療機関に対する満足度

最近利用した病院に「満足している」は13%、「まあ満足している」は66%で、合計79%が満足していると回答している。1999年の78%、2005年の78%とほぼ同じ水準である。性別年代別では「満足している」の割合が、男性-50代で8%、女性-30代で6%とやや低くなっている。

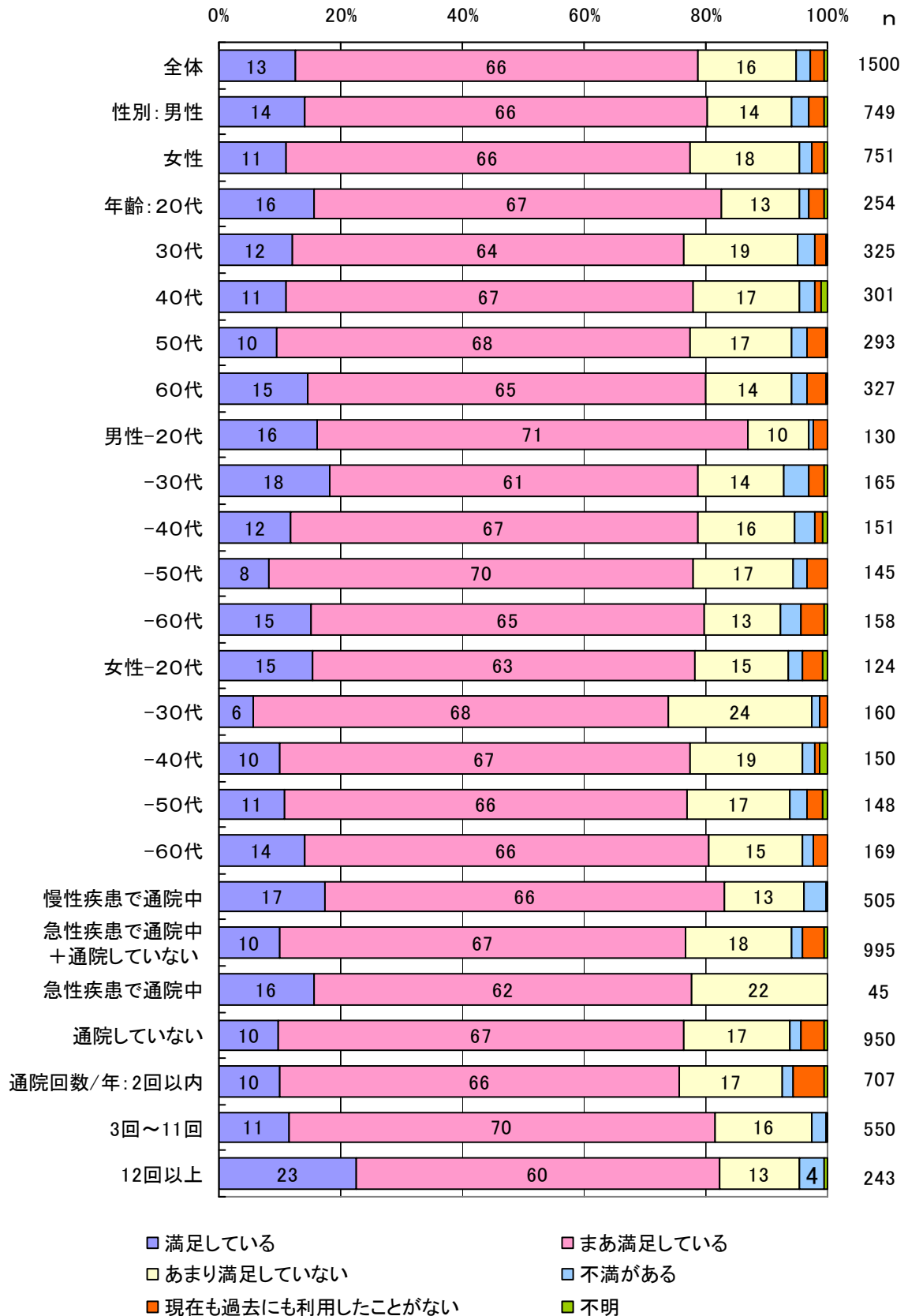
「満足している」「まあ満足している」と回答した人が評価している点は、「医師や看護師が親切だから」が44%、「治療法などをよく説明してくれるので」33%、「医師や看護師がよく話を聞いてくれるので」27%が上位にあがっており、医療者の対応が患者の満足度に大きく影響しているといえる。時系列で見ると1999年はそれぞれ53%、41%、36%、2005年は49%、37%、34%と、上位にある項目の順位は変わらないものの、割合は徐々に減少している。

Q4. あなたは、最近に利用した、または現在利用している病院や医院について、どの程度満足していますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. 満足している
2. まあ満足している
3. あまり満足していない
4. 不満がある
5. 現在も過去にも利用したことがない



Q4. 医療機関に対する満足度

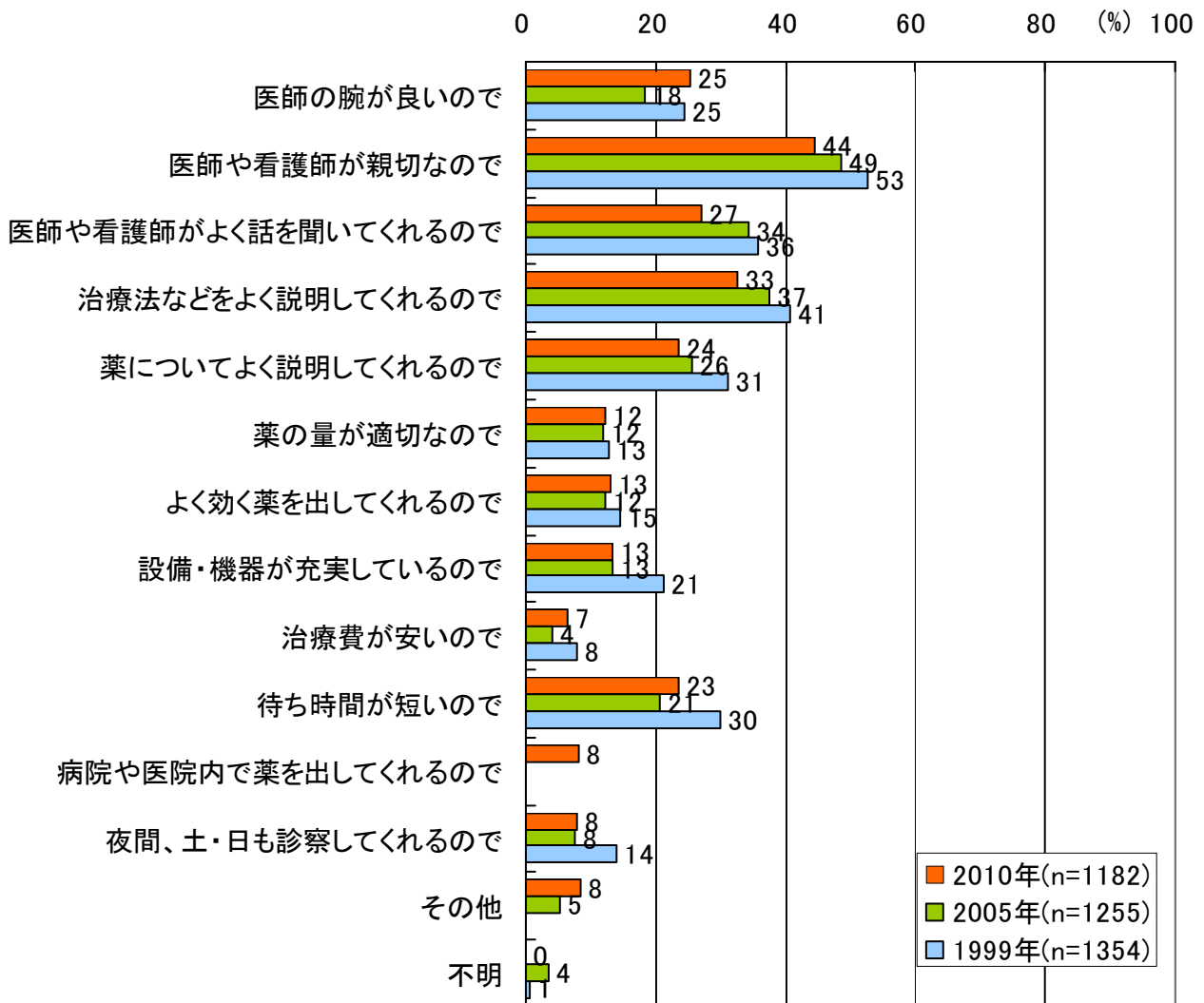


Q4SQ. 医療機関に対し満足している点

Q4SQ. 【Q4で「1.満足している」もしくは「2.まあ満足している」を選んだ方】

利用している病院や医院に満足している点は、どんなことですか。(〇はいくつでも)

1. 医師の腕が良いので
2. 医師や看護師が親切なので
3. 医師や看護師がよく話を聞いてくれるので
4. 治療法などをよく説明してくれるので
5. 薬についてよく説明してくれるので
6. 薬の量が適切なので
7. よく効く薬を出してくれるので
8. 設備・機器が充実しているので
9. 治療費が安いので
10. 待ち時間が短いので
11. 病院や医院内で薬を出してくれるので
12. 夜間、土・日も診察してくれるので
13. その他()



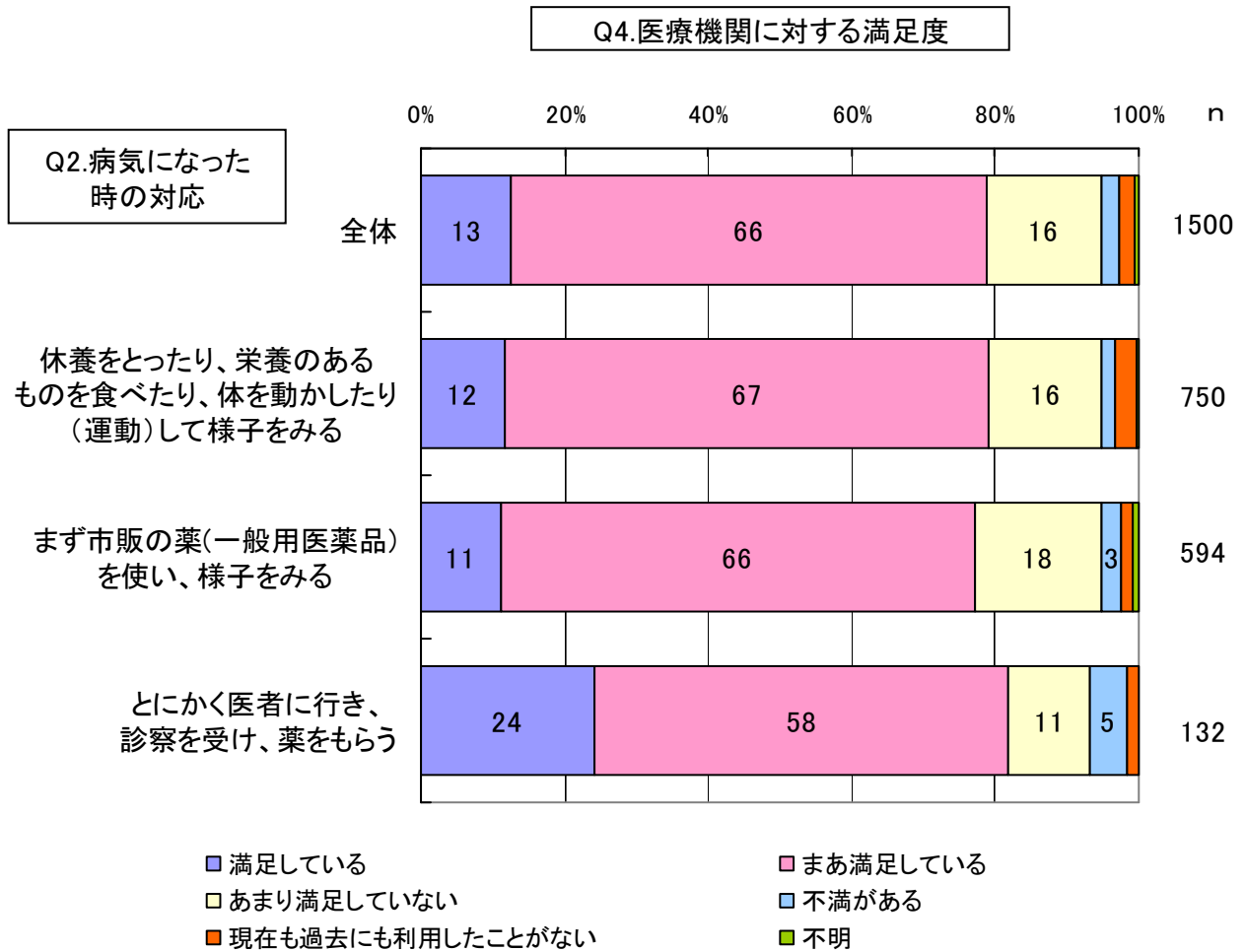
※2010年から、「病院や医院内で薬を出してくれるので」を追加
2005年から、「その他」を追加

Q4SQ. 医療機関に対し満足している点

(%)	医師の腕が良いので	医師や看護師が親切なので	医師や看護師がよく話を聞いてくれるので	治療法などをよく説明してくれるので	薬についてよく説明してくれるので	薬の量が適切なので	よく効く薬を出してくれるので	設備・機器が充実しているので	治療費が安いので	待ち時間が短いので	病院や院内で薬を出してくれるので	夜間、土・日も診察してくれるので	その他	不明	n
全体	25	44	27	33	24	12	13	13	7	23	8	8	8	0	1182
性別 男性	26	39	24	31	21	10	12	13	7	25	7	9	8	0	601
女性	25	49	30	34	27	14	14	13	6	22	9	7	9	0	581
年齢 20代	22	40	20	23	23	10	19	12	6	25	7	8	8	0	210
30代	25	39	21	25	20	9	15	11	8	23	5	10	10	0	248
40代	25	46	29	30	23	11	14	11	6	24	7	7	9	0	235
50代	25	47	30	39	24	12	9	12	7	24	8	8	9	1	227
60代	29	49	34	45	27	18	9	20	5	22	12	6	6	0	262
男性 - 20代	22	34	20	27	26	12	19	11	6	23	4	7	7	1	113
- 30代	25	35	21	25	19	8	13	8	12	22	5	9	10	1	130
- 40代	24	44	24	23	18	8	14	10	8	27	7	7	9	0	119
- 50代	27	45	23	35	18	10	8	15	5	29	7	14	7	1	113
- 60代	32	40	34	45	24	14	6	23	6	25	13	6	5	0	126
女性 - 20代	22	48	20	19	21	7	19	13	5	27	10	8	8	0	97
- 30代	25	44	22	25	21	10	17	14	5	24	5	10	10	0	118
- 40代	26	47	34	37	29	14	15	11	4	21	8	7	9	0	116
- 50代	24	49	37	44	31	15	11	10	9	19	10	3	11	1	114
- 60代	26	57	35	44	30	22	12	17	5	20	12	7	7	0	136
慢性疾患で通院中	32	50	37	42	30	19	15	18	6	24	10	8	6	0	420
急性疾患で通院中 +通院していない	21	41	22	28	20	9	12	11	7	23	7	8	10	0	762
急性疾患で通院中 通院していない	34	46	17	29	26	11	17	14	6	17	6	9	0	0	35
通院回数/年:2回以内	21	37	21	26	20	8	11	10	6	22	6	8	11	0	534
3回~11回	25	48	30	34	21	15	13	14	6	25	10	7	8	0	448
12回以上	39	57	37	48	39	19	19	20	8	23	11	9	3	0	200

病気になった時の対応別にみた「医療機関に対する満足度」

医療機関に「満足している」人の割合は、「とにかく医者に行き、診療を受け、薬をもらう」人のうち24%を占める。セルフメディケーションや市販薬を使用している人と差が見られた。



Q5. 治療に自分の意思が反映されていたか

治療に自分の意思が反映されていると「思う」人は 49%、「思わない」人は 13%である。

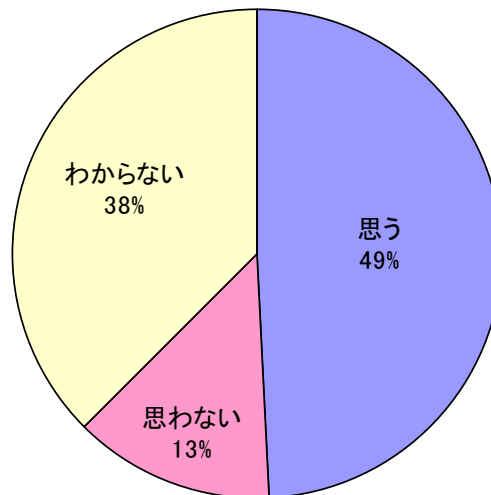
「思う」は男性-60代で 59%とやや高く、30代、40代の女性でそれぞれ 40%とやや低くなっている。「慢性疾患で通院中」の人では 59%とそれ以外の人の 44%と差がみられた。

自分の意思が反映されていたと思うのは「医師から納得のいく説明がされた時」が 65%、「処方薬を変更する時」40%、「治療法を変える時」25%である。

一方、自分の意思が反映されていないと感じる人では「病気や治療法などの知識がないから、意思が出せない」52%、「医師とは相談しにくいので難しい」36%、「病気や治療について事前に学習できる機会がない」31%で、医師に対し質問をしたり、希望を伝えたりしづらい関係にあることが想像できる。

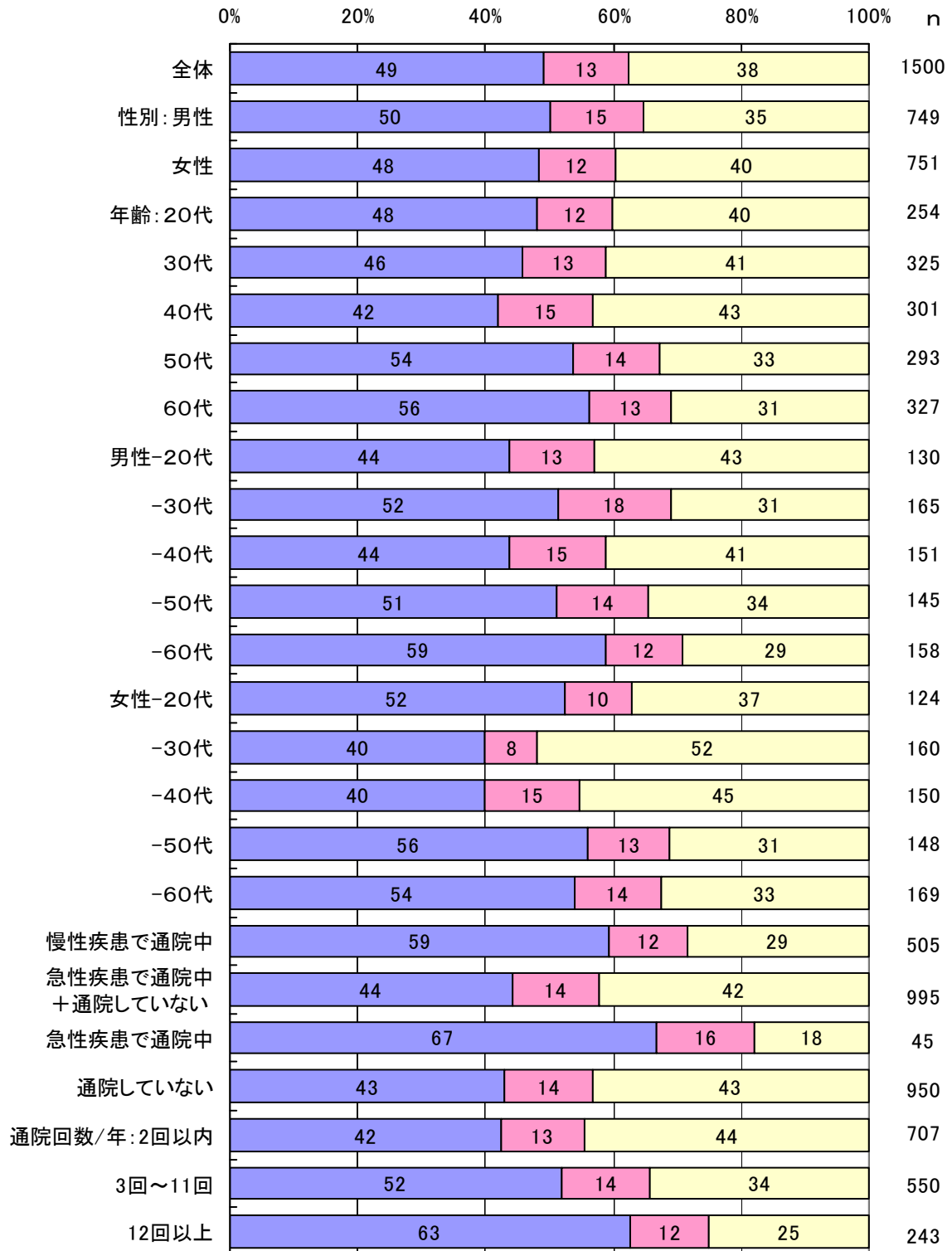
Q5. あなたは、自分の病気の治療(方針や過程)について自分もしくは保護者の意思が反映されていたと思いますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. 思う。
2. 思わない。
3. わからない。



n = 1500

Q5. 治療に自分の意思が反映されていたか



■ 思う

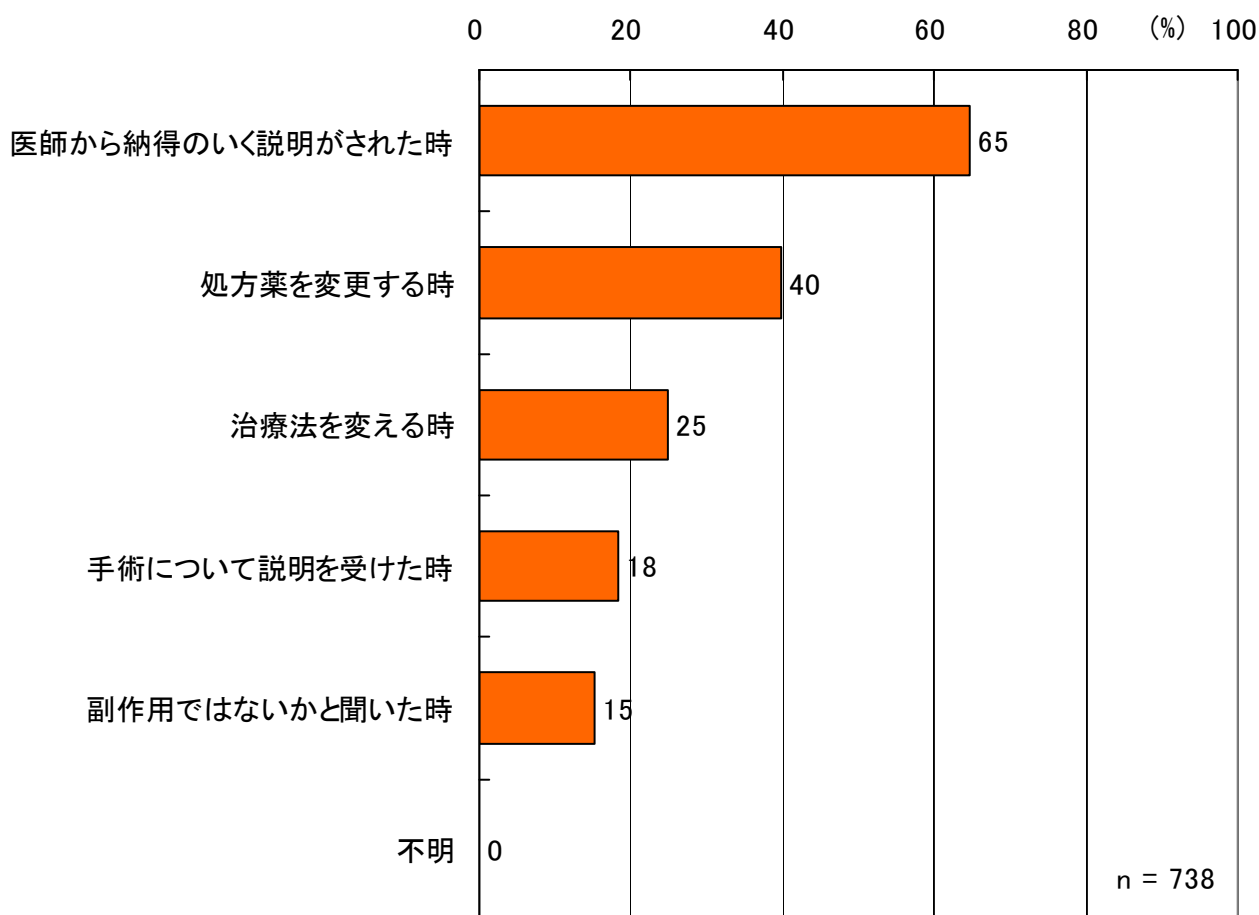
■ 思わない

□ わからない

Q5SQ1. 自分の意思が反映されていたと思う時

Q5SQ1. 【Q5で「1.思う」を選んだ方】自分もしくは保護者の意思が、どんな時に反映されていたと思いましたか。(〇はいくつでも)

1. 手術について説明を受けた時。
2. 治療法を変える時。
3. 処方薬を変更する時。
4. 副作用ではないかと聞いた時。
5. 医師から納得のいく説明がされた時



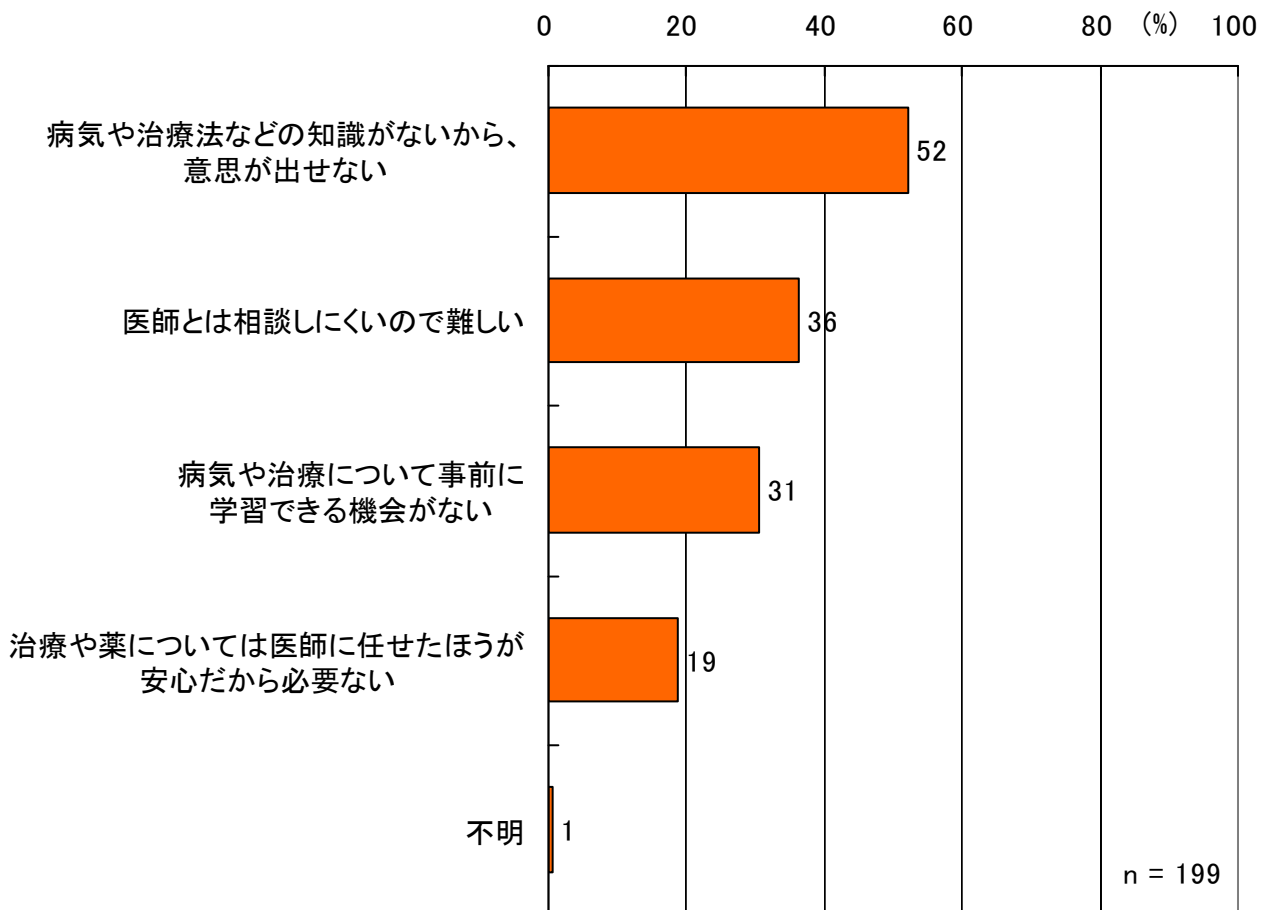
Q5SQ1. 自分の意思が反映されていたと思う時

(%)	説明師がさらされた時 医師が納得のいく	処方薬を変更する時	治療法を変える時	手術について説明を受けた時	副作用ではないかと聞いた時	不明	n
全体	65	40	25	18	15	0	738
性別 男性	65	38	27	22	15	0	375
女性	64	41	22	15	15	1	363
年齢 20代	53	40	33	11	20	1	122
30代	70	37	19	17	15	0	149
40代	68	42	25	17	16	0	126
50代	62	43	25	15	15	1	157
60代	68	38	24	29	13	0	184
男性 - 20代	60	35	35	12	21	0	57
- 30代	74	34	20	19	14	0	85
- 40代	64	42	26	21	15	0	66
- 50代	57	45	32	20	16	0	74
- 60代	68	35	27	31	13	0	93
女性 - 20代	48	45	31	9	18	2	65
- 30代	64	41	19	14	16	0	64
- 40代	73	42	23	13	17	0	60
- 50代	67	41	18	10	14	1	83
- 60代	68	40	22	26	12	0	91
慢性疾患で通院中	65	52	29	22	18	0	299
急性疾患で通院中 + 通院していない	65	31	22	16	13	0	439
急性疾患で通院中 通院していない	50	27	30	27	27	0	30
通院回数/年: 2回以内	65	30	21	14	13	0	300
3回~11回	65	39	27	20	14	0	286
12回以上	65	60	30	25	22	0	152

Q5SQ2. 自分の意思が反映されていないことについて

Q5SQ2. 【Q5で「2.思わない」を選んだ方】自分もしくは保護者の意思が反映されていないことについてどう思いますか。(〇はいくつでも)

1. 病気や治療法などの知識がないから、意思が出せない。
2. 医師とは相談しにくいので難しい。
3. 病気や治療について事前に学習できる機会がない。
4. 治療や薬については医師に任せたほうが安心だから必要ない。

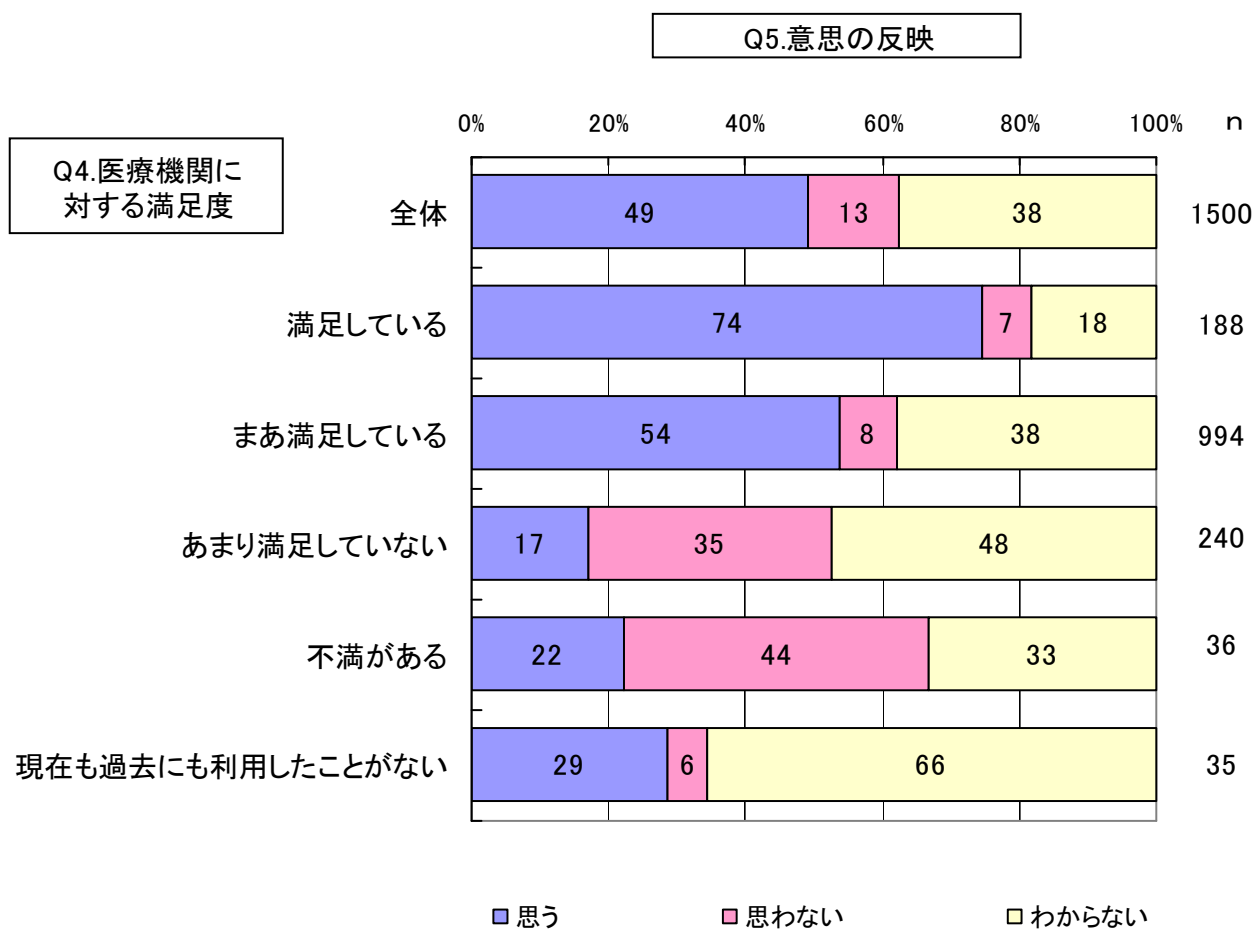


Q5SQ2. 自分の意思が反映されていないことについて

(%)	思知病 が識気 が出が せなや ない治 か療 ない法 らな 、ど 意の	い医 の師 でと 難は しい相 しい談 しく	会事病 が前気 ないに い学治 習療 できにつ るいて 機	安医治 心師療 だにや か任薬 らせに 必要た なほ ういて がは	不 明	n
全体	52	36	31	19	1	199
性別 男性	50	29	34	23	1	109
女性	56	44	27	13	0	90
年齢 20代	47	30	23	30	3	30
30代	62	29	33	31	0	42
40代	51	33	38	13	0	45
50代	53	48	23	8	0	40
60代	48	40	33	14	0	42
男性 - 20代	53	35	24	24	6	17
- 30代	59	21	38	34	0	29
- 40代	39	22	39	22	0	23
- 50代	48	33	29	14	0	21
- 60代	47	42	37	16	0	19
女性 - 20代	38	23	23	38	0	13
- 30代	69	46	23	23	0	13
- 40代	64	45	36	5	0	22
- 50代	58	63	16	0	0	19
- 60代	48	39	30	13	0	23
慢性疾患で通院中	50	31	21	24	0	62
急性疾患で通院中 +通院していない	53	39	35	16	1	137
急性疾患で通院中 通院していない	57	71	43	29	0	7
通院回数/年:2回以内	58	37	30	17	0	93
3回~11回	54	34	32	17	1	76
12回以上	30	40	30	27	0	30

医療機関の満足度別に見た「意思の反映」

自分の意思が反映されていると思う人の割合は、医療機関に「満足している」で 74%、「まあ満足している」で 54%と、「あまり満足していない」17%、「不満がある」22%と差が見られた。



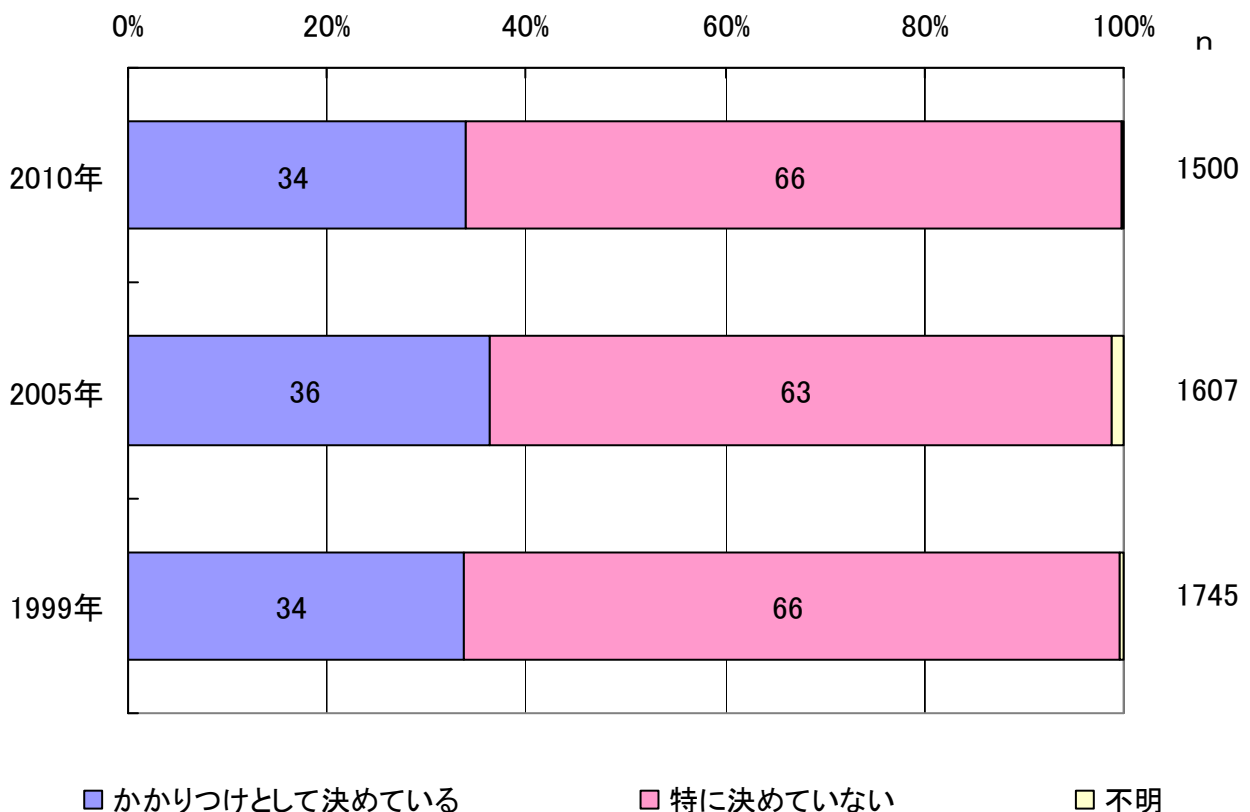
Q6. かかりつけ薬局の有無

保険薬局を決めている人の割合は 34%で、1999 年の 34%、2005 年の 36%とほぼ同じ水準である。年代別では 60 代で 52%、特に男性-60 代では 58%で高い。また「慢性疾患で通院中」の人では 58%で、それ以外の人 22%と大差が見られた。地域別にみると「北陸」で 21%とやや低いが、その他の地域では大きな違いは見られない。

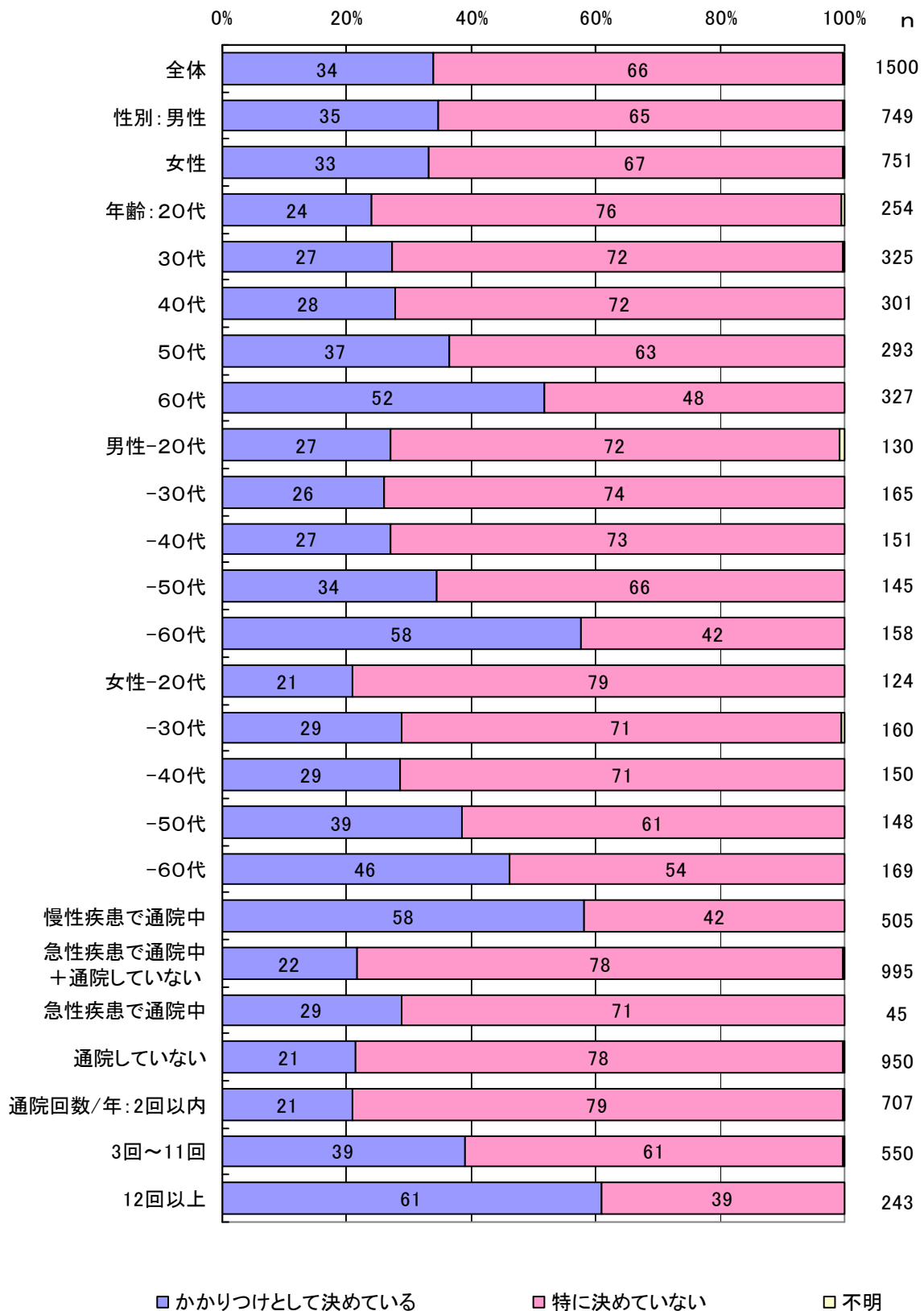
保険薬局を決めている理由は、「病院からの距離が近い」50%、「スタッフの応対がとてもよい」35%、「家・職場からの距離が近い」31%が上位にあげられ、スタッフの対応とともに立地が重要なポイントであることがわかる。

Q6. あなたは、処方せんを出して薬をもらう保険薬局を決めていますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。
(○はひとつ)

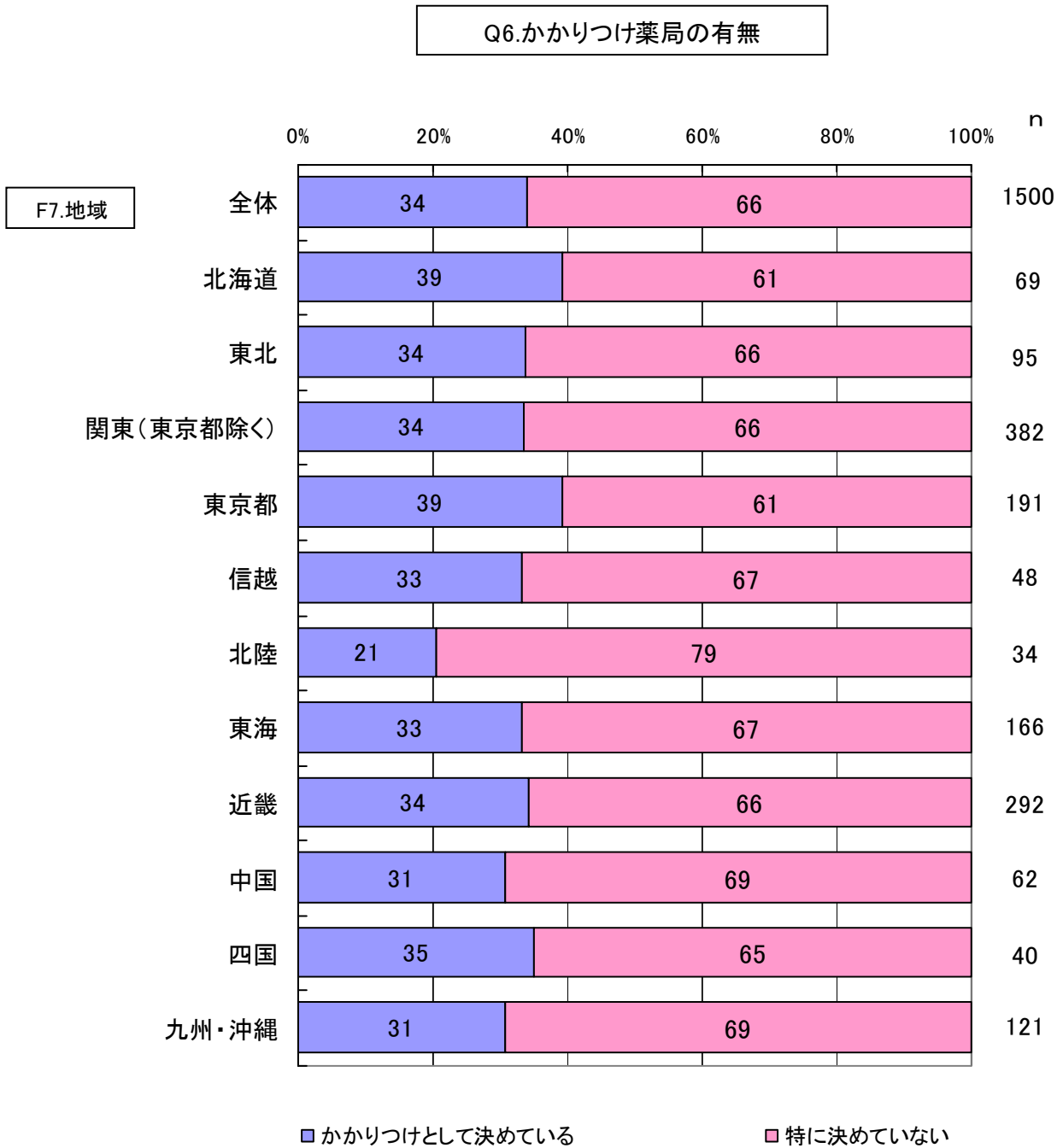
1. かかりつけとして決めている。
2. 特に決めていない。



Q6. かかりつけ薬局の有無



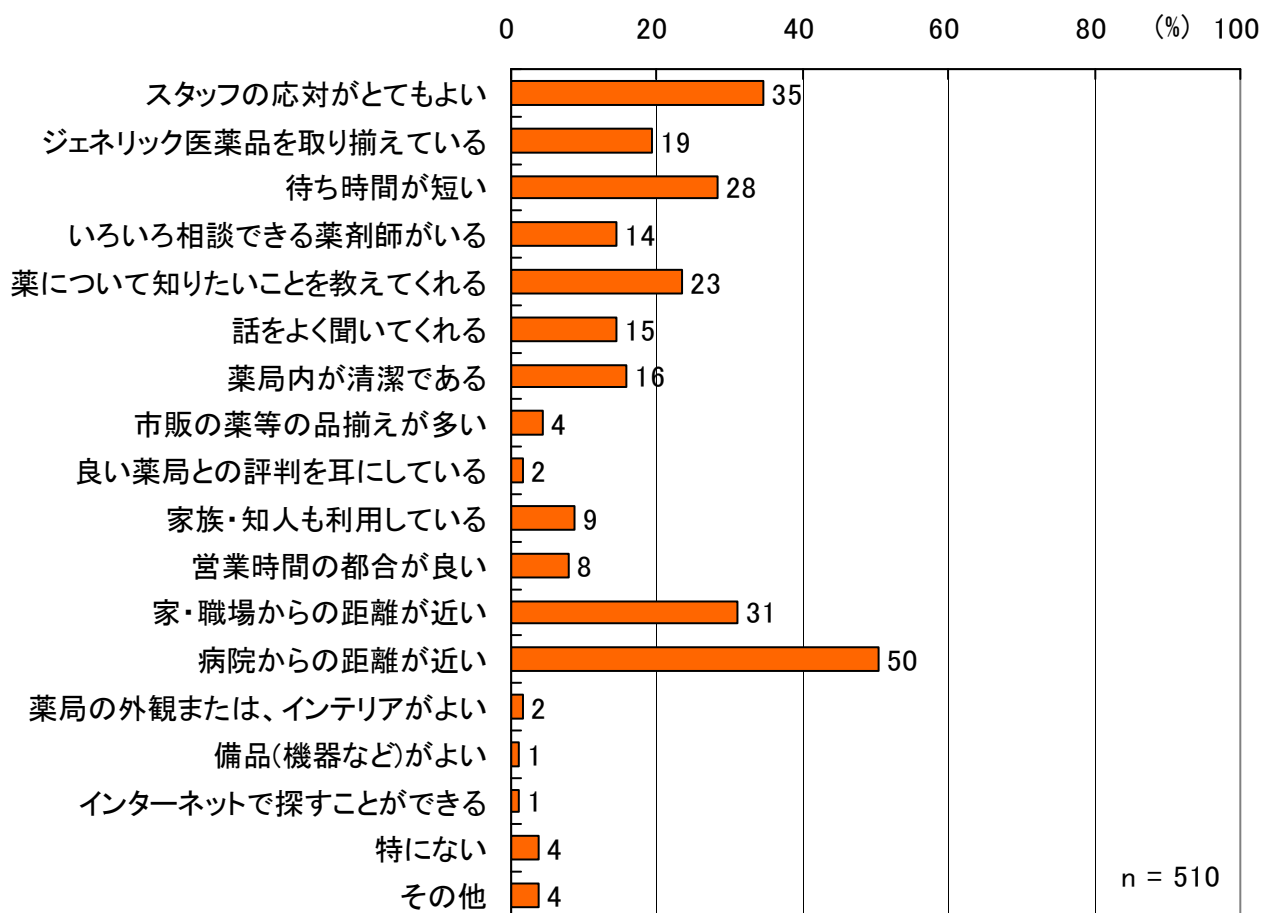
地域別にみた「かかりつけ薬局の有無」



Q6SQ. かかりつけ薬局を決めている理由

Q6SQ. 【Q6で「1.かかりつけとして決めている」を選んだ方】薬局を決めている理由はどのようなことですか。
(〇はいくつでも)

1. スタッフの対応がとてもよい
2. ジェネリック医薬品を取り揃えている
3. 待ち時間が短い
4. いろいろ相談できる薬剤師がいる
5. 薬について知りたいことを教えてくれる
6. 話をよく聞いてくれる
7. 薬局内が清潔である
8. 市販の薬等の品揃えが多い
9. 良い薬局との評判を耳にしている
10. 家族・知人も利用している
11. 営業時間の都合が良い
12. 家・職場からの距離が近い
13. 病院からの距離が近い
14. 薬局の外観または、インテリアがよい
15. 備品(機器など)がよい
16. インターネットで探すことができる
17. 特にない
18. その他()



Q6SQ. かかりつけ薬局を決めている理由

(%)	スタッフの対応がとてよい	ジェネリック医薬品を取り揃えている	待ち時間が短い	いろいろ相談できる薬剤師がいる	薬について知りたいことを教えてくれる	話をよく聞いてくれる	薬局内が清潔である	市販の薬等の品揃えが多い	良い薬局との評判を耳にしている	家族・知人も利用している	営業時間の都合が良い	家・職場からの距離が近い	病院からの距離が近い	薬局の外観または、インテリアがよい	備品（機器など）がよい	インターネットで探すことができる	特になし	その他	不明	n
全体	35	19	28	14	23	15	16	4	2	9	8	31	50	2	1	1	4	4	0	510
性別 男性	35	19	32	12	21	13	15	5	1	7	7	30	48	1	1	1	5	5	0	260
女性	34	20	25	17	26	16	16	3	2	10	8	32	53	2	1	1	3	2	0	250
年齢 20代	39	16	33	13	21	8	16	11	3	13	13	28	43	5	2	3	3	2	0	61
30代	42	13	26	10	20	15	12	3	2	8	6	34	44	4	3	2	1	1	0	89
40代	31	15	30	18	25	21	12	2	1	8	6	40	52	1	0	0	5	2	0	84
50代	35	29	24	20	28	10	13	1	0	8	9	30	54	0	1	0	3	3	0	107
60代	31	20	30	12	22	16	21	5	2	8	7	27	53	0	1	1	6	7	0	169
男性 - 20代	40	14	23	11	29	9	17	11	3	11	9	29	34	3	3	3	6	3	0	35
- 30代	44	12	33	14	23	19	14	5	2	9	7	37	40	5	5	2	2	2	0	43
- 40代	32	17	37	5	10	10	7	2	0	7	5	29	59	0	0	0	5	5	0	41
- 50代	30	32	26	18	28	8	14	0	0	6	8	30	48	0	0	0	6	4	0	50
- 60代	34	19	35	10	18	15	19	8	1	5	8	26	52	0	0	1	5	8	0	91
女性 - 20代	38	19	46	15	12	8	15	12	4	15	19	27	54	8	0	4	0	0	0	26
- 30代	39	15	20	7	17	11	11	2	2	7	4	30	48	4	2	2	0	0	0	46
- 40代	30	14	23	30	40	33	16	2	2	9	7	51	47	2	0	0	5	0	0	43
- 50代	39	26	23	21	28	12	12	2	0	11	11	30	60	0	2	0	0	2	0	57
- 60代	27	21	24	14	27	17	23	3	3	12	6	27	55	0	1	0	6	6	0	78
慢性疾患で通院中	34	22	31	16	25	16	17	4	1	6	7	32	52	1	1	1	4	6	0	294
急性疾患で通院中 + 通院していない	35	16	25	12	21	13	13	5	2	12	9	30	48	2	2	1	4	1	0	216
急性疾患で通院中 通院していない	46	31	62	23	15	8	15	15	0	8	0	31	31	0	0	0	0	8	0	13
通院回数/年: 2回以内	38	17	26	12	25	17	16	7	3	14	12	33	44	3	2	2	4	1	0	147
3回~11回	27	15	28	12	17	10	13	2	1	7	4	27	55	0	0	0	5	4	0	215
12回以上	41	28	31	21	30	19	20	5	1	6	9	35	50	1	1	1	3	6	0	148

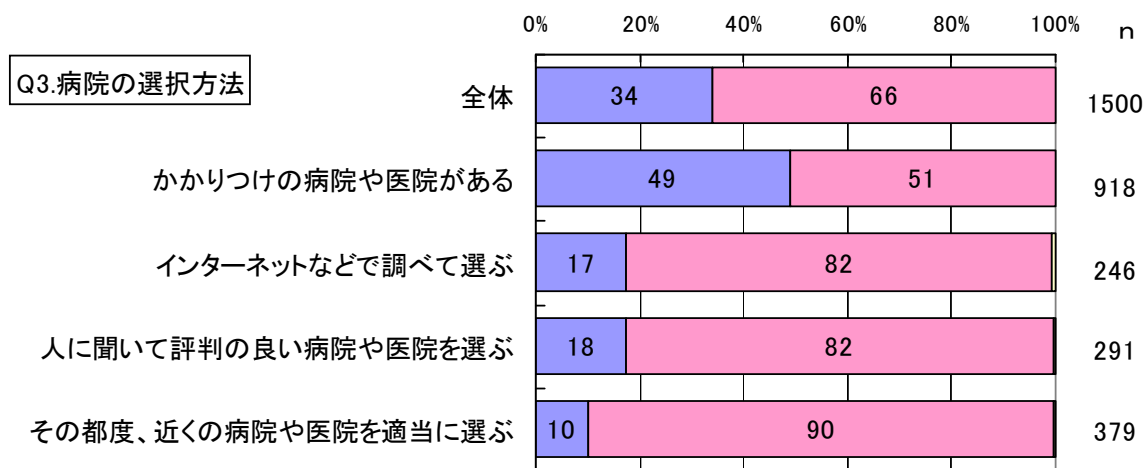
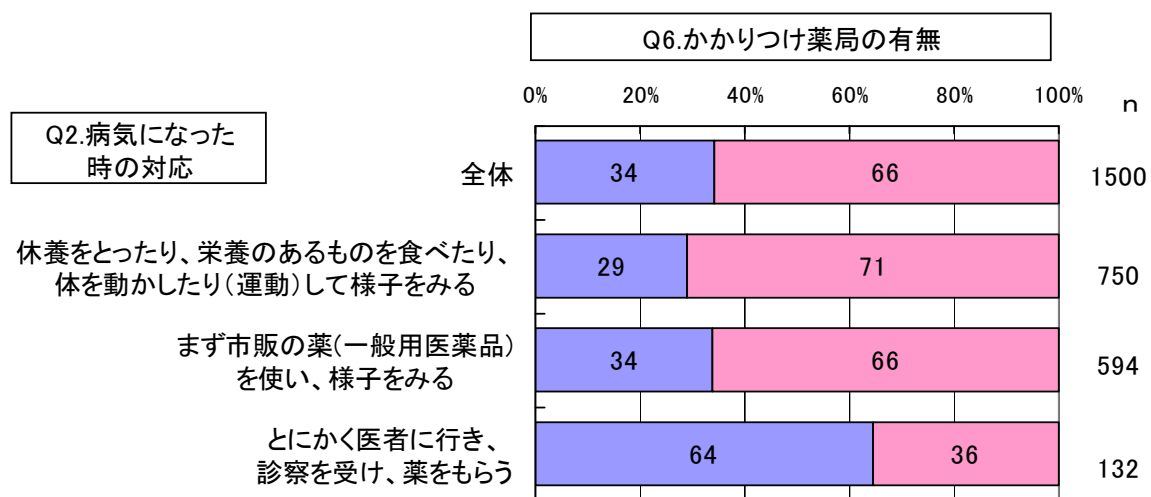
地域別にみた「かかりつけ薬局を決めている理由」

	スタッフの対応がともよい	ジェネリック医薬品を取り揃えている	待ち時間が短い	いろいろ相談できる薬剤師がいる	薬について知りたいことを教えてくれる	話をよく聞いてくれる	薬局内が清潔である	市販の薬等の品揃えが多い	良い薬局との評判を耳にしている	家族・知人も利用している	営業時間の都合が良い	家・職場からの距離が近い	病院からの距離が近い	薬局の外観または、インテリアがよい	備品（機器など）がよい	インターネットで探すことができる	特になし	その他	n
(%)																			
全体	35	19	28	14	23	15	16	4	2	9	8	31	50	2	1	1	4	4	510
北海道	15	19	19	4	7	4	7	4	0	4	0	19	48	0	0	0	7	15	27
東北	22	19	22	13	22	13	6	0	0	6	3	31	47	0	0	0	3	0	32
関東(東京都除く)	38	26	28	16	27	20	20	5	3	7	7	23	59	2	2	2	5	2	128
東京都	35	17	32	13	16	15	21	5	4	8	12	35	52	1	1	1	4	3	75
信越	38	19	25	19	25	13	19	0	0	0	6	38	38	0	6	0	6	0	16
北陸	29	0	14	29	29	14	29	0	0	29	14	29	71	14	14	0	0	0	7
東海	36	22	31	13	22	16	15	7	0	13	4	35	49	0	0	2	4	2	55
近畿	36	14	34	14	28	11	12	3	0	12	10	40	42	1	0	1	2	4	100
中国	47	21	26	21	21	11	16	11	5	11	16	42	42	11	0	0	0	5	19
四国	43	14	29	14	7	7	7	0	0	7	0	21	43	0	0	0	7	0	14
九州・沖縄	30	19	22	14	35	16	16	5	0	8	11	24	57	3	3	0	3	11	37

病院の選択方法別にみた「かかりつけ薬局の有無」

かかりつけ薬局を決めている人の割合は、「とにかく医者に行く」人では 64%と、セルフメディケーションによる治療や市販薬を用いる人に比べ高い。

また「かかりつけの病院や医院がある人」では 49%と約半数であるのに対し、かかりつけの病院や医院がない人では 10~17%と低くなっている。



■ かかりつけとして決めている

■ 特に決めていない

□ 不明

Q7. 1年以内の処方薬の有無

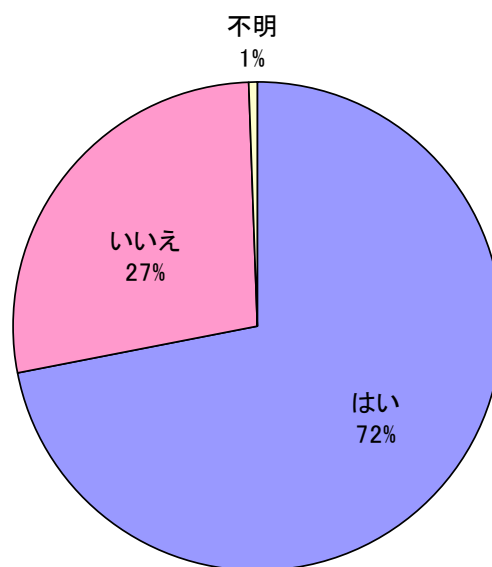
過去1年以内に薬を処方してもらった人の割合は72%である。年代別では60代で80%とやや高いが、20代から50代では、67%、68%、74%、70%とそれほど差が見られない。

そのうち院外での処方薬は77%、院内が35%である。

Q7. あなたが、最近(過去1年以内)、病院や医院に行って、薬をもらいましたか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

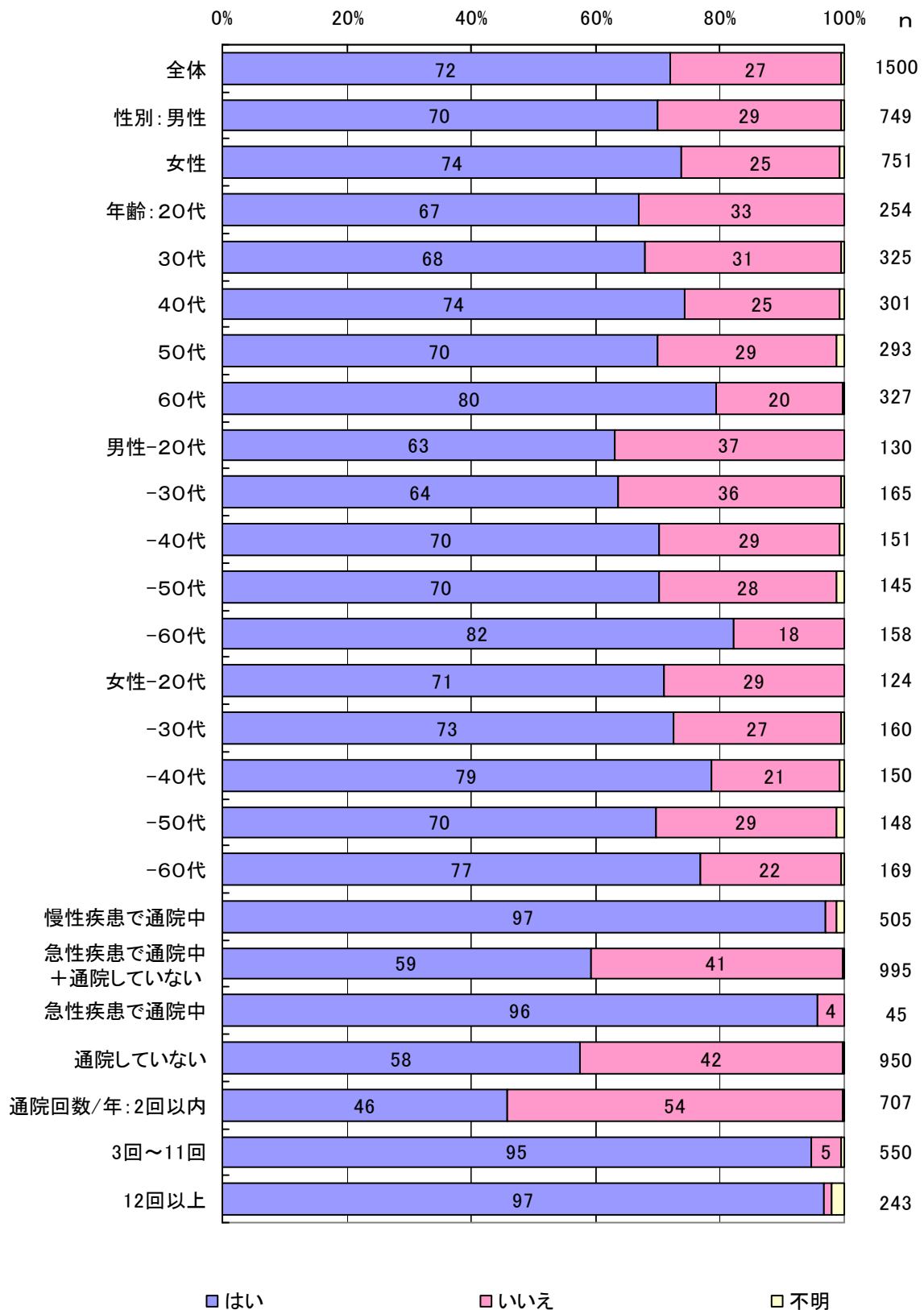
(病院や医院で処方せんをもらい、保険薬局で薬をもらう場合も含めてお答え下さい。)

1. はい
2. いいえ



n = 1500

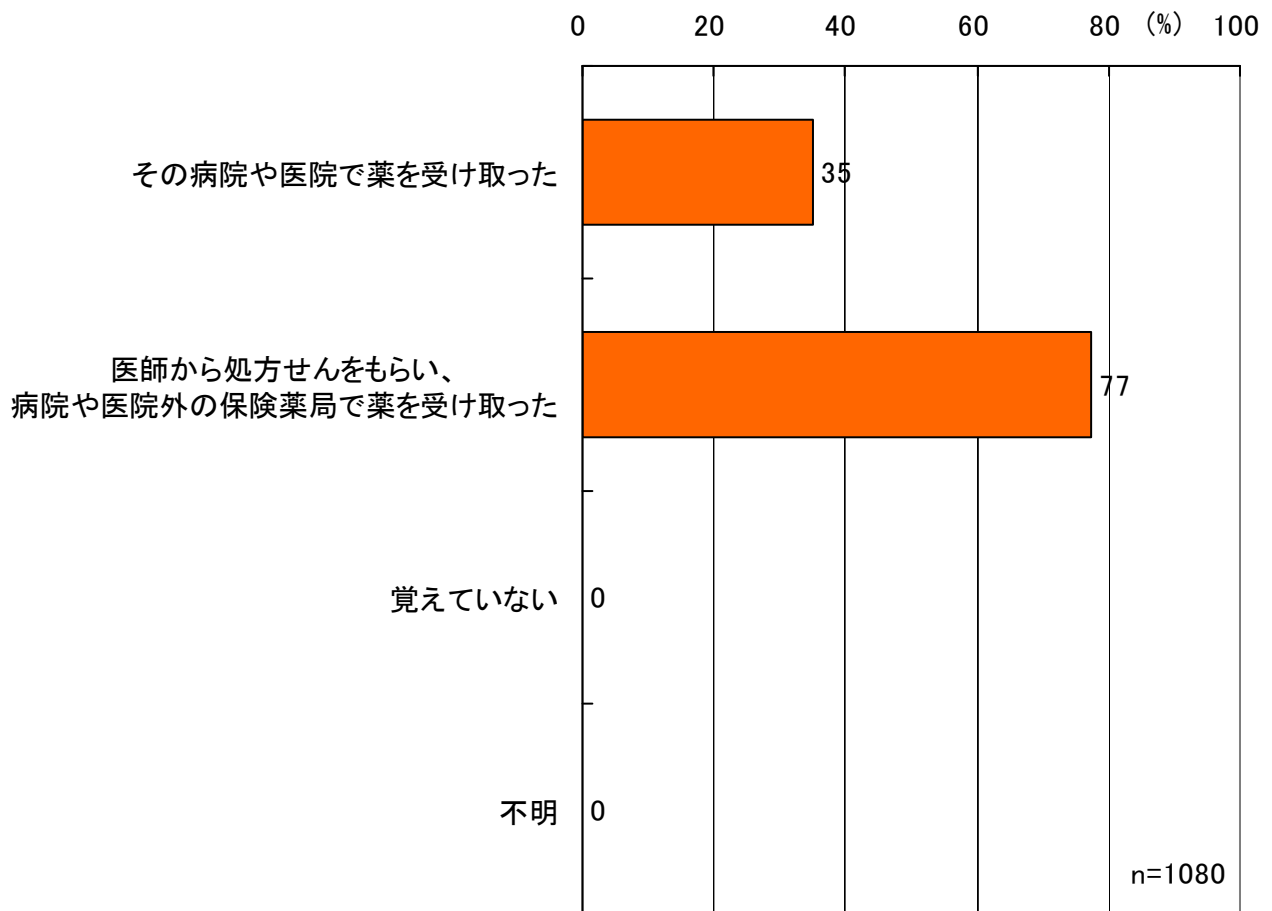
Q7. 1年以内の処方薬の有無



Q7SQ. 処方薬をもらった場所(施設)

Q7SQ. 【Q7で「1.はい」を選んだ方】あなたは、その時に、どこで薬をもらいましたか。(〇はいくつでも)

1. その病院や医院で薬を受け取った
2. 医師から処方せんをもらい、病院や医院外の保険薬局で薬を受け取った
3. 覚えていない



Q7SQ. 処方薬をもらった場所(施設)

(%)	その病 院や医 院で薬 を受 け取 った	外 受 取 った 薬 局 で 薬 を	医 師 か ら 処 方 せ ん を	覚 え て い な い	不 明	n
全体	35	77	0	0		1080
性別 男性	34	77	1	0		525
女性	36	78	0	0		555
年齢 20代	35	77	2	1		170
30代	33	80	0	0		221
40代	36	79	0	0		224
50代	36	76	0	0		205
60代	35	76	0	0		260
男性 - 20代	34	76	2	0		82
- 30代	31	77	1	0		105
- 40代	34	77	0	0		106
- 50代	36	77	0	1		102
- 60代	35	75	0	0		130
女性 - 20代	36	78	1	1		88
- 30代	34	82	0	0		116
- 40代	38	81	0	0		118
- 50代	36	74	0	0		103
- 60代	35	76	0	1		130
慢性疾患で通院中	34	79	0	0		490
急性疾患で通院中 + 通院していない	36	76	1	0		590
急性疾患で通院中 通院していない	51	74	2	0		43
通院回数/年: 2回以内	31	74	1	0		324
3回~11回	36	78	0	0		521
12回以上	39	80	0	0		235

Q8. 処方薬についての説明有無

処方薬について説明を受けた場合は、1999年の87%、2005年の93%とほぼ同じ水準であるが、「十分に説明を受けている」割合が増加している。

薬の説明は「薬剤師から」が83%、「医師から」が42%、「看護師から」が10%であり、1999年の57%、52%、14%、2005年の69%、50%、10%から比べると「薬剤師から」の割合が毎回10ポイント以上ずつ増加している。また通院回数が多い人ほど医師から説明を受けている割合が高い。

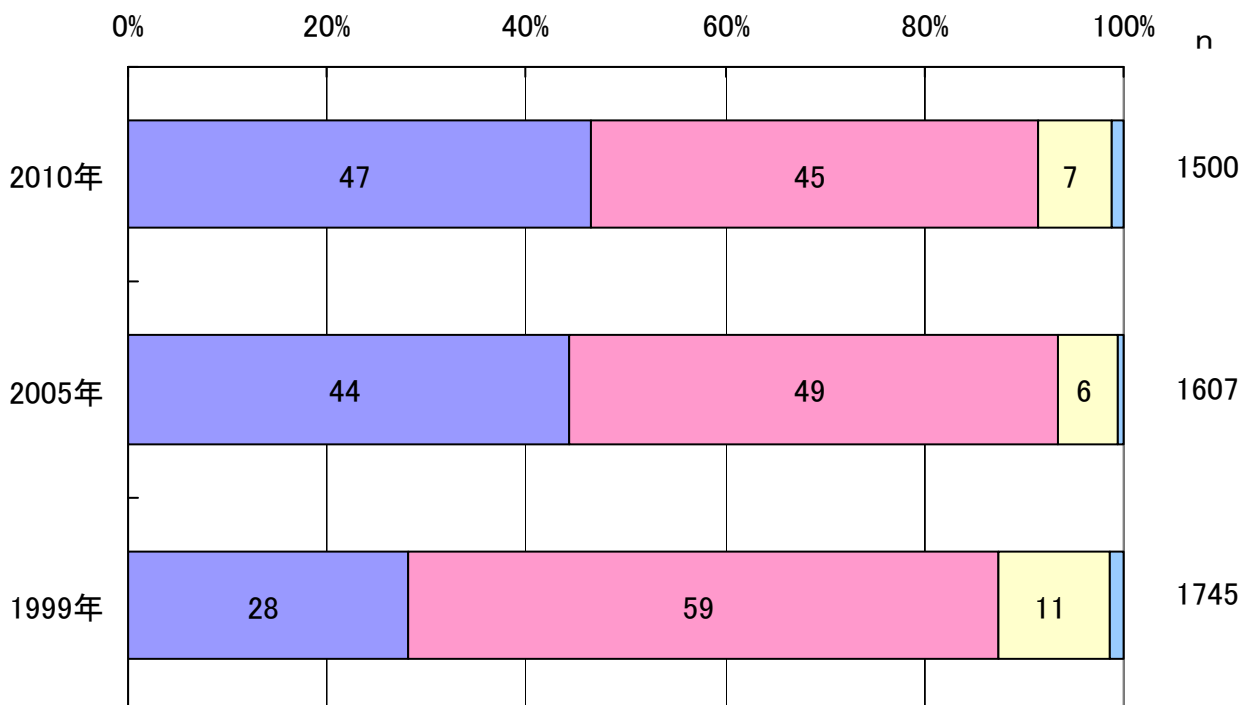
説明内容は「使用方法」85%、「効き目」79%、「使用量」74%、「薬の名前」63%が上位となった。

「十分に説明を受けた」と回答した人の割合は、「医師から」説明を受けた人が60%、「薬剤師から」が53%であり、「看護師から」の39%に比べ高い。また「薬の副作用が出たときの対処方法」と「飲み忘れたときの対処方法」の説明を受けた人ではそれぞれ78%で全体平均の47%を大きく上回る。最低限必要な使用方法や使用量だけではなく、プラスアルファの情報提供が患者に「十分な説明」と感じさせている可能性が考えられる。

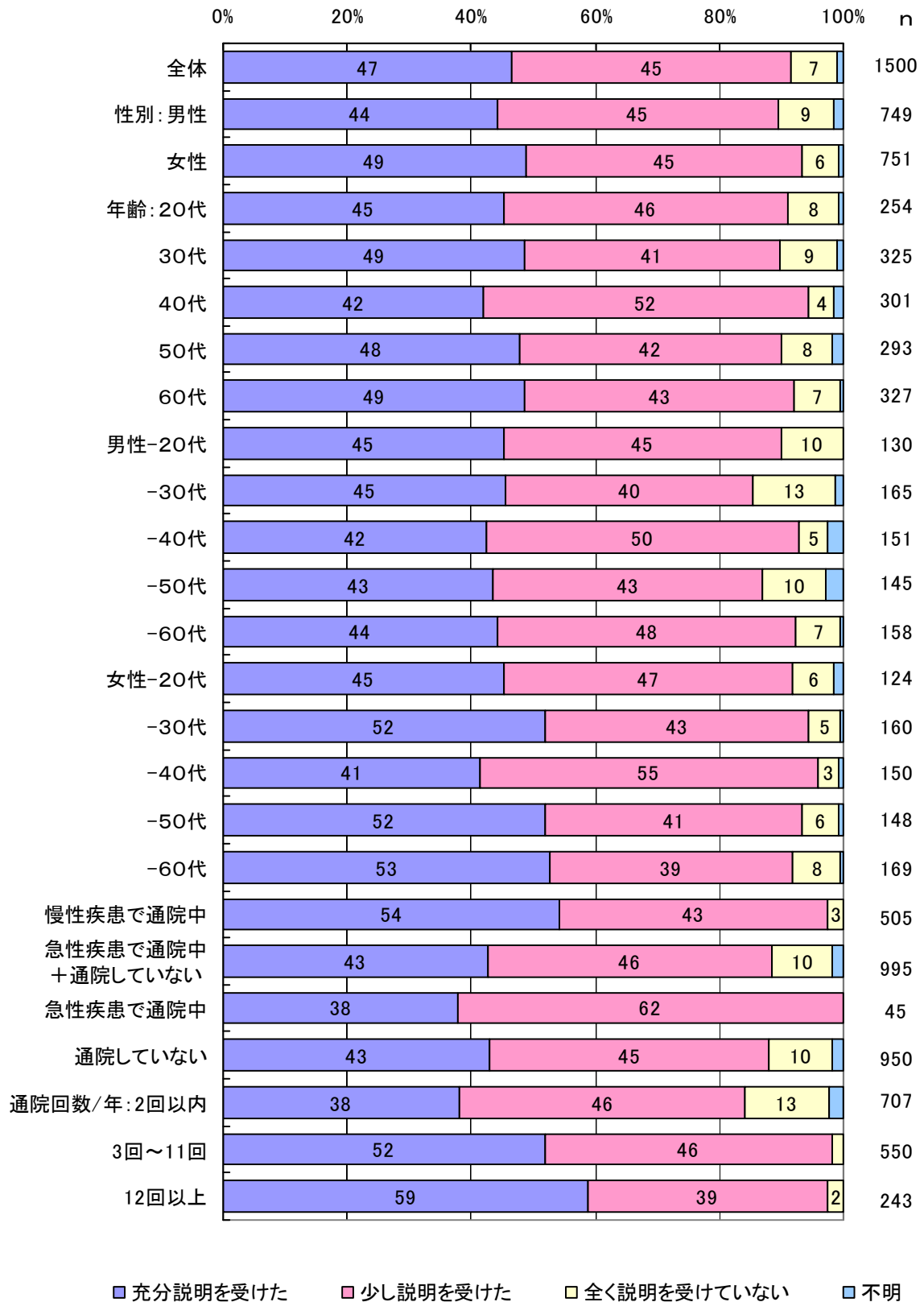
説明をする人と説明内容の関係をみると、「効き目」「副作用」については薬剤師や看護師よりも医師から説明を受ける割合が高い。その他の項目については大きな差は見られない。

Q8. あなたは、その時に処方された薬の「薬の名前」「効き目」「使用方法」「使用量」「副作用」について、医師や薬剤師、看護師から説明(印刷物も含む)を受けましたか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. 充分説明を受けた
2. 少し説明を受けた
3. 全く説明を受けていない(→Q9へ)



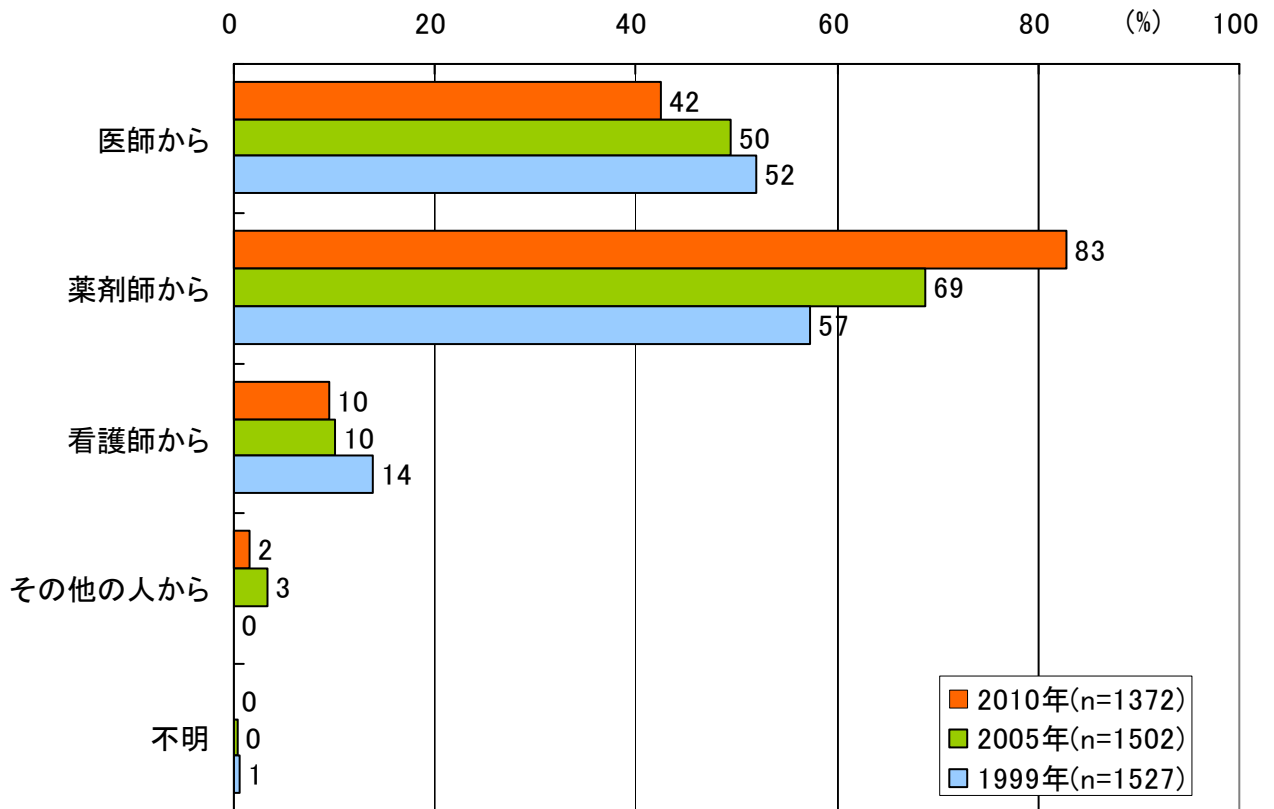
Q8. 処方薬についての説明有無



Q8SQ1. 処方薬について説明をした人

Q8SQ1. 【Q8で「1.充分説明を受けた」「2.少し説明を受けた」を選んだ方】
 処方された薬の説明は、誰から受けましたか。(〇はいくつでも)

1. 医師から
2. 薬剤師から
3. 看護師から
4. その他の人から



Q8SQ1. 処方薬について説明をした人

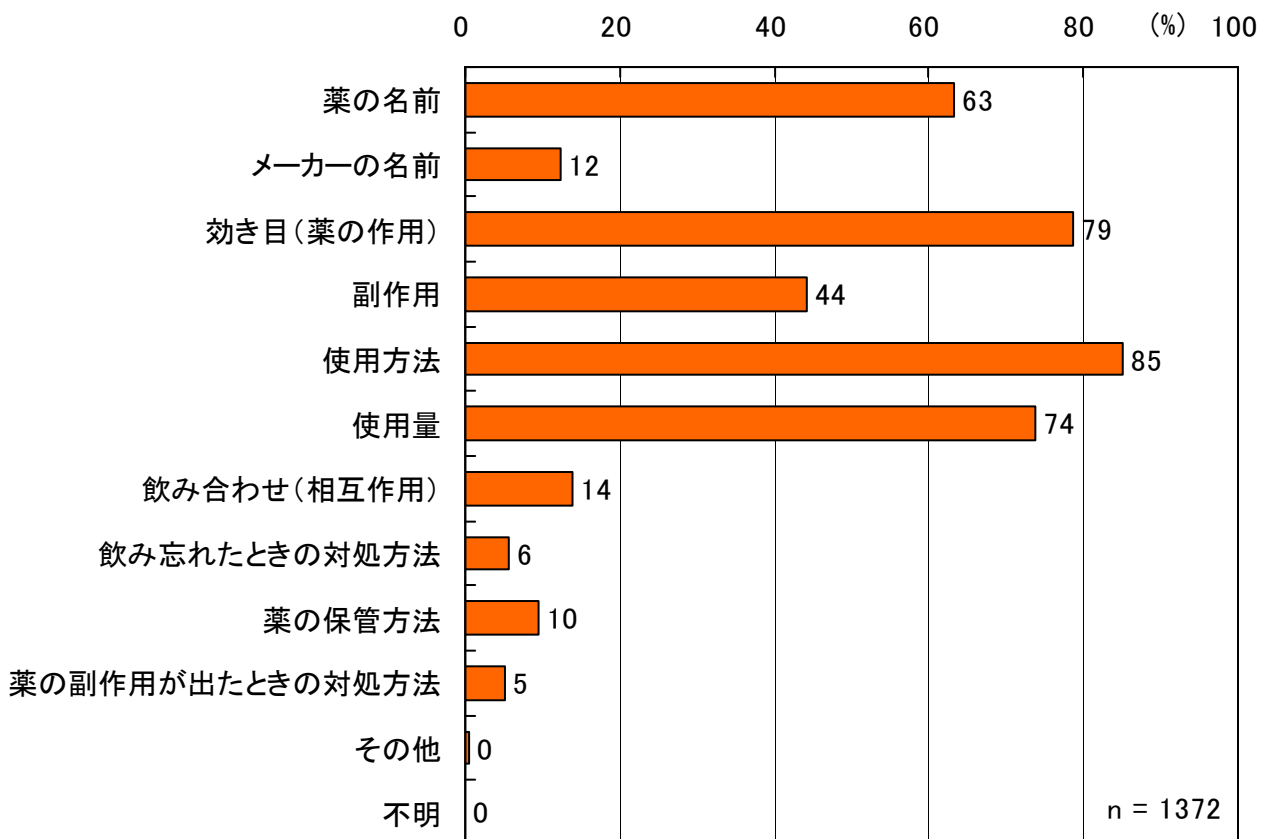
(%)	医師から	薬剤師から	看護師から	その他の人から	不明	n
全体	42	83	10	2	0	1372
性別 男性	42	81	10	1	0	670
女性	43	84	9	2	0	702
年齢 20代	43	81	11	3	0	231
30代	44	84	9	1	0	292
40代	40	85	9	2	0	284
50代	42	83	9	0	0	264
60代	44	81	10	2	0	301
男性 - 20代	44	80	12	2	0	117
- 30代	46	79	10	1	0	141
- 40代	36	81	11	1	0	140
- 50代	40	83	11	0	0	126
- 60代	42	83	9	3	0	146
女性 - 20代	42	82	11	4	0	114
- 30代	42	88	9	1	0	151
- 40代	43	88	8	2	1	144
- 50代	43	83	7	1	0	138
- 60代	45	79	10	1	0	155
慢性疾患で通院中	51	83	7	1	0	492
急性疾患で通院中 +通院していない	38	83	11	2	0	880
急性疾患で通院中 通院していない	53	84	16	2	0	45
37	83	11	2	0	835	
通院回数/年: 2回以内	33	82	10	2	0	595
3回~11回	45	84	9	1	0	540
12回以上	59	82	8	2	0	237

Q8SQ2. 処方薬の説明内容

Q8SQ2. 【Q8で「1.充分説明を受けた」「2.少し説明を受けた」を選んだ方】

処方された薬について、どのような説明(印刷物も含む)を受けましたか。(○はいくつでも)

1. 薬の名前
2. メーカーの名前
3. 効き目(薬の作用)
4. 副作用
5. 使用方法
6. 使用量
7. 飲み合わせ(相互作用)
8. 飲み忘れたときの対処方法
9. 薬の保管方法
10. 薬の副作用が出たときの対処方法
11. その他()



Q8SQ2. 処方薬の説明内容

(%)	薬の名前	メーカーの名前	効き目（薬の作用）	副作用	使用方法	使用量	飲み合わせ（相互作用）	飲み忘れたときの対処方法	薬の保管方法	薬の副作用が出たときの対処方法	その他	不明	n	
	全体	63	12	79	44	85	74	14	6	10	5	0	0	1372
	性別 男性	61	13	77	38	83	71	16	5	8	5	1	0	670
	女性	65	11	80	50	87	76	12	6	11	5	0	0	702
	年齢 20代	63	13	83	48	87	76	15	6	8	4	1	0	231
	30代	67	11	82	46	82	73	16	5	11	4	0	0	292
	40代	61	13	77	38	84	74	11	4	12	4	1	0	284
	50代	61	13	77	45	88	77	12	8	6	6	0	0	264
	60代	64	12	75	44	85	70	15	6	10	7	0	0	301
	男性 - 20代	58	10	77	41	84	75	16	5	8	4	2	0	117
	- 30代	65	13	80	38	75	67	19	5	9	3	0	0	141
	- 40代	59	14	75	31	81	71	11	4	9	4	1	0	140
	- 50代	59	13	74	38	88	74	11	7	4	5	1	0	126
	- 60代	64	15	77	43	85	69	21	5	11	9	0	0	146
	女性 - 20代	68	15	89	55	89	76	13	7	8	4	0	0	114
	- 30代	70	9	84	54	87	77	13	5	13	5	0	0	151
	- 40代	63	12	78	45	86	77	11	4	15	5	1	1	144
	- 50代	62	12	79	51	88	80	13	8	8	7	0	0	138
	- 60代	64	10	73	45	86	72	10	6	9	5	1	0	155
	慢性疾患で通院中	70	13	81	50	84	77	17	9	11	9	1	0	492
	急性疾患で通院中 + 通院していない	59	12	77	41	85	72	12	4	9	3	0	0	880
	急性疾患で通院中 通院していない	71	20	78	53	80	67	11	7	4	4	0	0	45
	通院回数/年: 2回以内	56	11	73	37	85	72	12	4	8	4	0	0	595
	3回~11回	67	13	81	47	84	73	14	6	11	5	0	0	540
	12回以上	73	14	86	56	87	79	17	8	11	9	1	0	237

		Q8 処方薬についての説明有無				n
		充分説明を受けた	少し説明を受けた	全く説明を受けていない	不明	
		(%)				
全体		47	45	7	1	1500
Q8SQ1処方薬について説明した人	医師から	60	40	0	0	583
	薬剤師から	53	47	0	0	1135
	看護師から	39	61	0	0	131
	その他の人から	19	81	0	0	21
Q8SQ2処方薬の説明内容	薬の副作用が出たときの対処方法	78	22	0	0	69
	飲み忘れたときの対処方法	78	22	0	0	76
	飲み合わせ(相互作用)	71	29	0	0	191
	薬の保管方法	69	31	0	0	131
	副作用	62	38	0	0	605
	薬の名前	58	42	0	0	867
	メーカーの名前	58	42	0	0	168
	効き目(薬の作用)	56	44	0	0	1078
	使用量	54	46	0	0	1012
	使用方法	53	47	0	0	1166

		Q8SQ2 処方薬の説明内容										n
		薬の名前	メーカーの名前	効き目(薬の作用)	副作用	使用方法	使用量	飲み合わせ(相互作用)	飲み忘れたときの対処方法	薬の保管方法	薬の副作用が出たときの対処方法	
		(%)										
全体		63	12	79	44	85	74	14	6	10	5	1372
Q8SQ1処方薬について説明した人	医師から	66	14	87	52	84	75	18	8	13	8	583
	薬剤師から	64	13	80	46	87	76	15	5	11	5	1135
	看護師から	61	13	76	41	88	82	13	5	12	7	131
	その他の人から	57	10	67	38	81	71	5	5	5	0	21

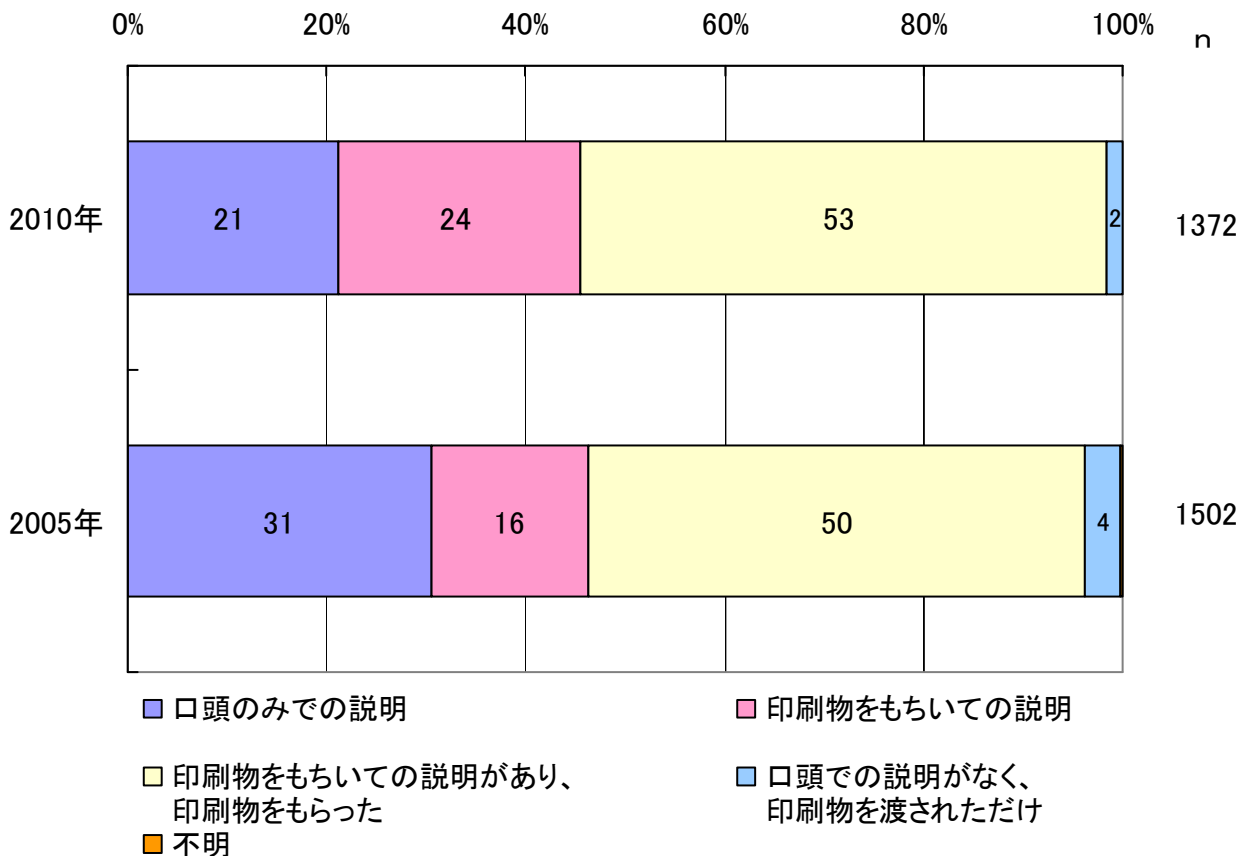
Q8SQ3. 処方薬の説明方法

説明方法は「印刷物を用いての説明があり、印刷物もらった」が 53%、「印刷物を用いての説明」が 24%、「口頭での説明がなく、印刷物を渡されただけ」が 2%であり、印刷物の利用が約 8 割を占め、「口頭のみ」は 21%となった。また通院回数が多い人ほど、印刷物もらい説明を受けている割合が高い。

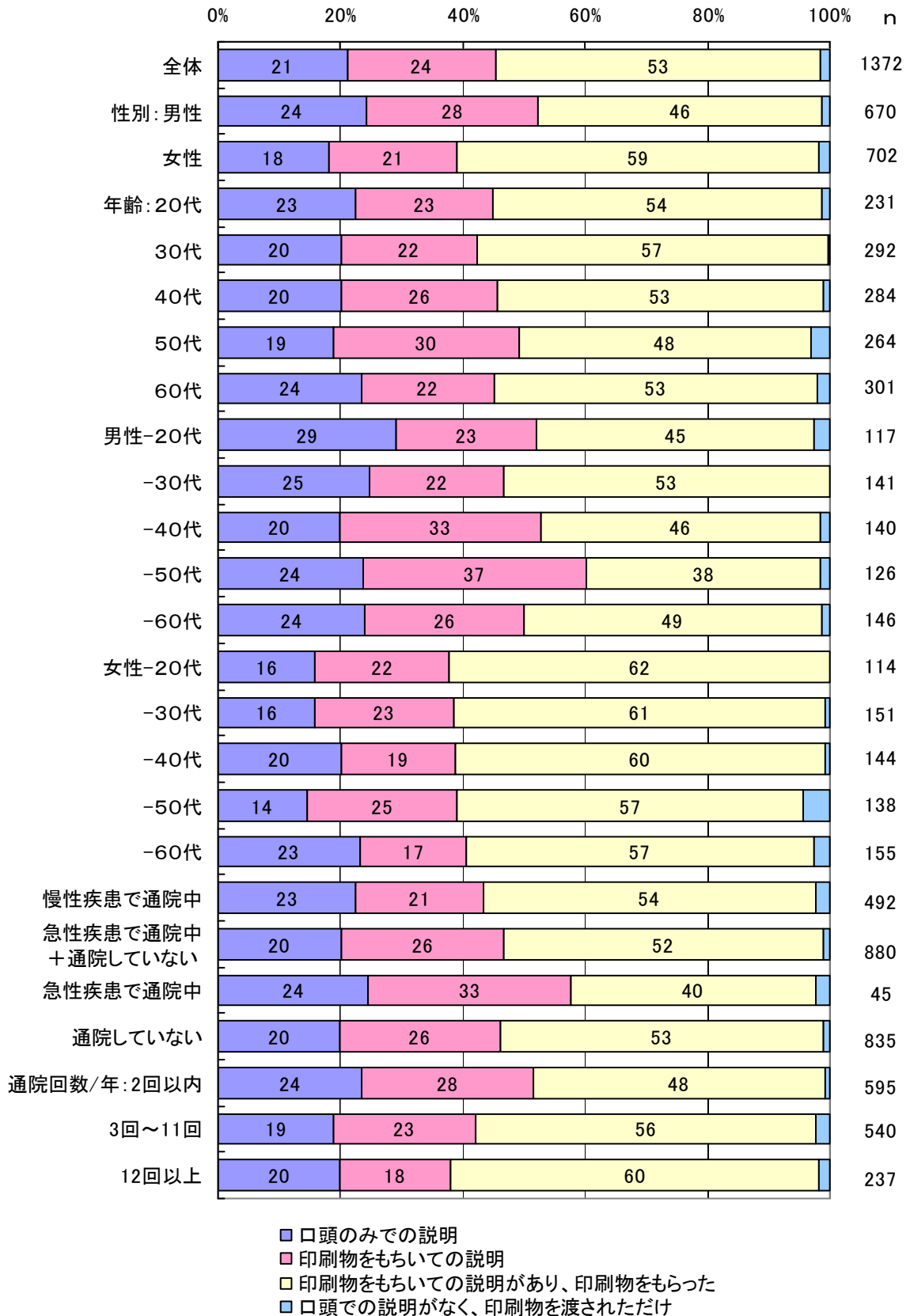
Q8SQ3. 【Q8で「1.充分説明を受けた」「2.少し説明を受けた」を選んだ方】

処方された薬について、どのように説明を受けましたか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. 口頭のみでの説明
2. 印刷物を持ちいての説明
3. 印刷物を持ちいての説明があり、印刷物もらった
4. 口頭での説明がなく、印刷物を渡されただけ



Q8SQ3. 処方薬の説明方法



処方薬について説明をした人別、処方場所別にみた「処方薬の説明方法」

説明をする人と説明方法の関係をみると、看護師は「口頭のみでの説明」が 26%に対し、医師は 21%、薬剤師は 17%である。また処方場所との関係では、院内処方では「口頭のみでの説明」が 26%、印刷物を用いての説明は 71%、院外処方ではそれぞれ 17%、81%と、院外処方の方が印刷物を用いての説明割合が高い傾向がみられた。

		Q8SQ3 処方薬の説明方法				n
		口頭のみでの説明	印刷物もちいての説明	印刷物もちいての説明があり、印刷物をももらった	口頭での説明がなく、印刷物を渡されただけ	
(%)						
全体		21	24	53	2	1372
Q8SQ1処方薬について説明した人	医師から	21	22	55	1	583
	薬剤師から	17	26	56	1	1135
	看護師から	26	16	56	2	131
	その他の人から	33	14	43	10	21
Q7SQ処方薬をももらった場所	その病院や医院で薬を受け取った	26	20	51	3	368
	医師から処方せんをもらい、病院や医院外の保険薬局で薬を受け取った	17	24	57	1	819

Q8SQ4. 処方薬の説明に対する理解度

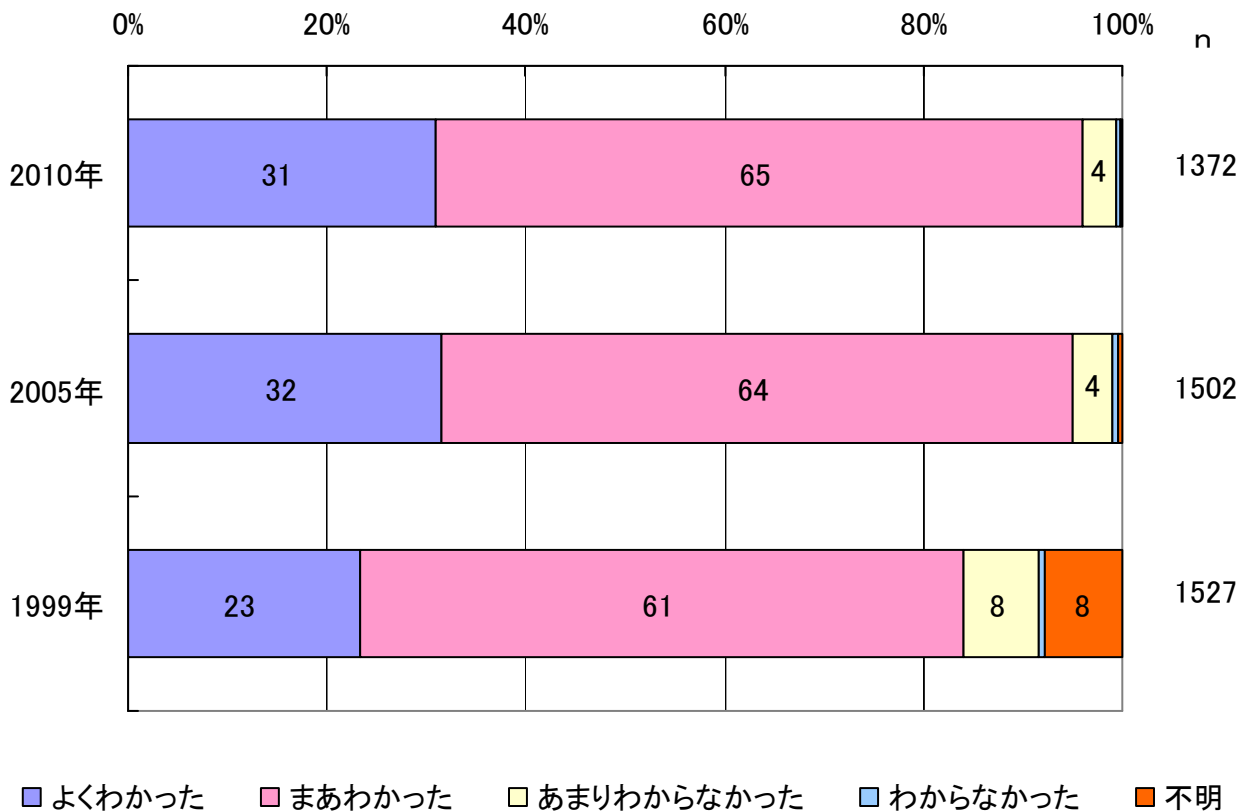
処方薬の説明に対する理解度は「よくわかった」が 31%、「まあわかった」が 65%で 96%の人が理解している。2005 年の 32%、64%と比べて、ほぼ同じ水準である。また「慢性疾患で通院中」の人は 38%、59%で、それ以外の人の 27%、68%と理解の程度は異なるものの全体的な水準はほぼ同じであった。

処方薬の説明に対する理解度(よくわかったの割合)は、「医師から」説明を受けた人、「印刷物の説明があり、印刷物をもらった人」で高くなった。両方の条件を満たした人の理解度は 48%と全体平均の 31%に比べ高くなった。

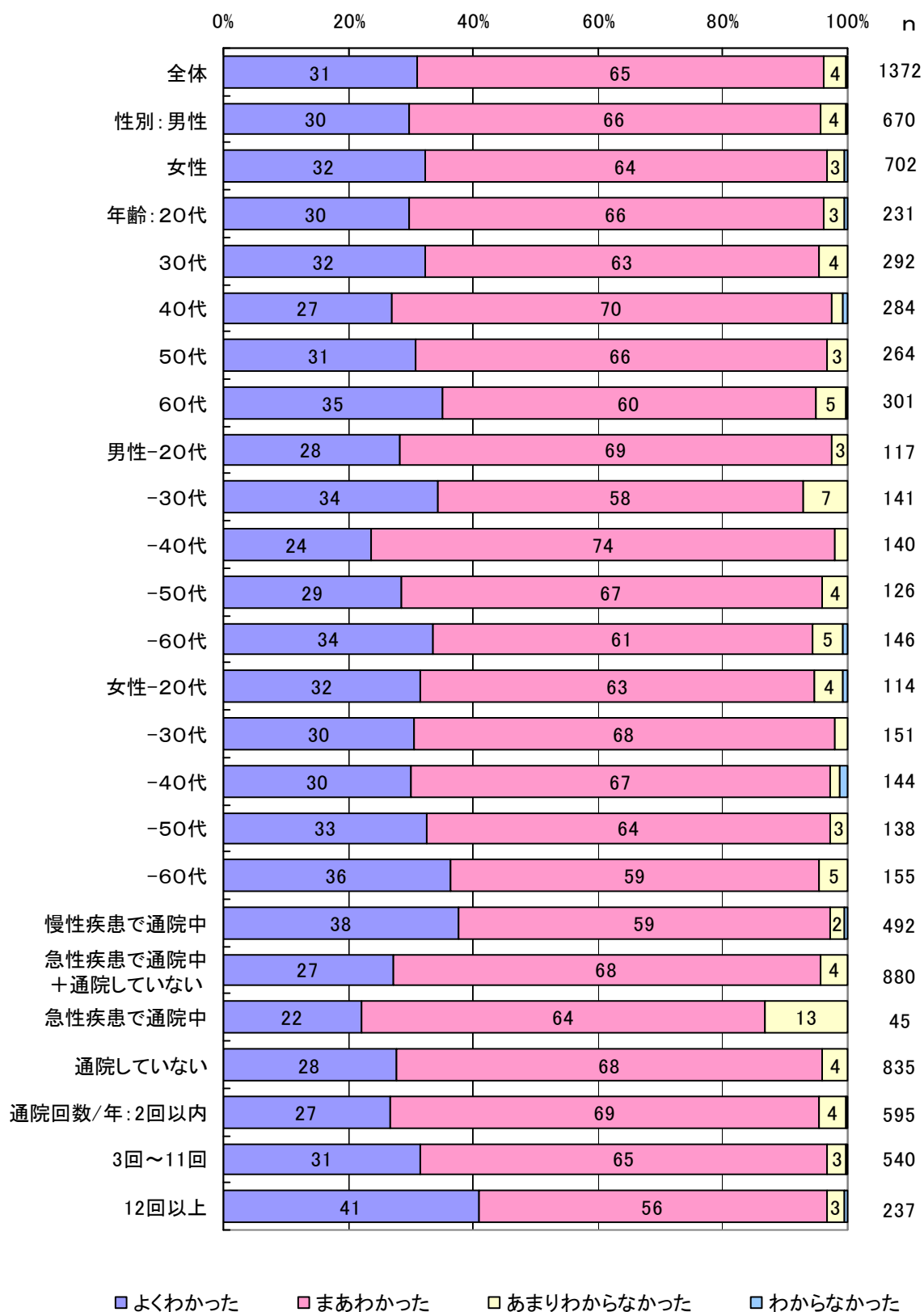
Q8SQ4. 【Q8で「1.充分説明を受けた」「2.少し説明を受けた」を選んだ方】

処方された薬の説明を受けて、どの程度、説明の内容がわかりましたか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. よくわかった
2. まあわかった
3. あまりわからなかった
4. わからなかった



Q8SQ4. 処方薬の説明に対する理解度



		Q8SQ4					n
		よくわ かった	まあわ かった	あまり わから なかつ た	わから なかつ た	不明	
(%)							
	全体	31	65	4	0	0	1372
Q8SQ1	医師から	41	57	2	0	0	583
	薬剤師から	32	65	3	0	0	1135
	看護師から	23	73	4	0	1	131
	その他の人から	10	81	10	0	0	21
Q8SQ3	口頭のみでの説明	20	72	6	1	1	289
	印刷物を持ちいての説明	26	71	3	1	0	335
	印刷物を持ちいての説明があり、印刷物をもらった	39	59	2	0	0	727
	口頭での説明がなく、印刷物を渡されただけ	5	76	19	0	0	21
Q8SQ1 × SQ3	医師から-口頭のみでの説明	30	65	6	0	0	125
	医師から-印刷物を持ちいての説明	35	65	1	0	0	127
	医師から-印刷物を持ちいての説明があり、印刷物をもらった	48	51	1	0	0	323
	薬剤師から-口頭のみでの説明	17	77	5	1	1	194
	薬剤師から-印刷物を持ちいての説明	26	70	3	1	0	291
	薬剤師から-印刷物を持ちいての説明があり、印刷物をもらった	40	58	2	0	0	636
Q8SQ2	飲み忘れたときの対処方法	70	28	1	1	0	76
	薬の副作用が出たときの対処方法	59	38	1	1	0	69
	飲み合わせ(相互作用)	46	53	1	1	0	191
	薬の保管方法	42	56	1	1	0	131
	副作用	40	59	1	0	0	605
	メーカーの名前	39	58	1	1	1	168
	薬の名前	34	63	3	0	0	867
	効き目(薬の作用)	34	63	3	0	0	1078
	使用量	32	64	3	0	0	1012
	使用方法	32	65	3	0	0	1166

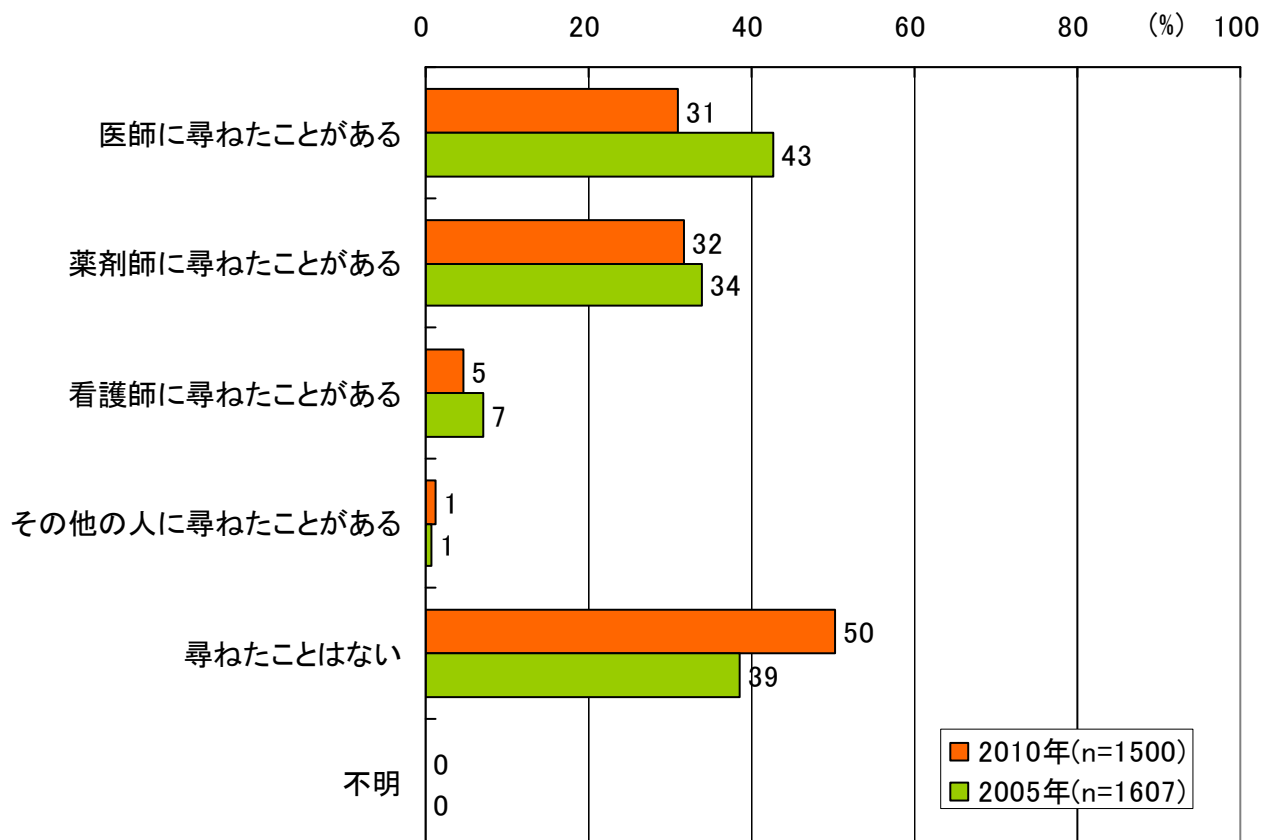
Q9. 処方薬について尋ねた経験

薬について「医師に尋ねたことがある」は 31%、「薬剤師に尋ねたことがある」32%、「看護師に尋ねたことがある」は5%であった。2005年の43%、34%、7%と比べると、特に「医師に訪ねたことがある」が12ポイント減少している。一方、「尋ねたことはない」は、2005年よりも11ポイント増加している。

性別では女性で情報希求の傾向が強く、「医師に訪ねたことがある」が 34%、「薬剤師に尋ねたことがある」が37%であるのに対し、男性ではそれぞれ 28%、27%であった。通院回数別は「12回以上」では53%、44%、「2回以内」では19%、23%と通院回数が多いほど医師や薬剤師に尋ねる傾向がみられる。また「慢性疾患で通院中」でもそれぞれ46%、40%とそれ以外の人の24%、28%を上回った。

Q9. あなたは今まで、医師が処方した薬をもらうときに「薬の名前」「効き目」「使用方法」「使用量」「副作用」について、医師や薬剤師、看護師に尋ねたことがありますか。(○はいくつでも)

1. 医師に尋ねたことがある
2. 薬剤師に尋ねたことがある
3. 看護師に尋ねたことがある
4. その他の人に尋ねたことがある
5. 尋ねたことはない



Q9. 処方薬について尋ねた経験

	医師に尋ねたことがある	薬剤師に尋ねたことがある	看護師に尋ねたことがある	その他の人に尋ねたことがある	尋ねたことはない	不明	n
(%)							
全体	31	32	5	1	50	0	1500
性別 男性	28	27	4	1	54	0	749
女性	34	37	5	1	47	0	751
年齢 20代	27	25	6	3	57	0	254
30代	30	33	5	2	53	0	325
40代	37	34	3	1	47	0	301
50代	30	35	4	1	49	0	293
60代	31	30	5	1	47	1	327
男性 - 20代	22	15	4	5	65	0	130
- 30代	27	28	4	3	56	0	165
- 40代	34	27	3	0	48	1	151
- 50代	28	31	3	0	52	0	145
- 60代	29	30	4	0	50	1	158
女性 - 20代	31	36	7	2	49	0	124
- 30代	34	38	6	1	49	0	160
- 40代	39	41	3	1	45	0	150
- 50代	32	39	5	1	46	0	148
- 60代	33	30	5	1	45	1	169
慢性疾患で通院中	46	40	4	2	35	0	505
急性疾患で通院中 +通院していない	24	28	5	1	58	0	995
急性疾患で通院中 通院していない	27	42	7	2	42	0	45
通院回数/年:2回以内	19	23	4	1	63	0	707
3回~11回	36	37	4	1	43	0	550
12回以上	53	44	6	1	28	0	243

「処方薬について尋ねた経験」別にみた意思の反映状況

治療に自分の意思が反映されていたと思う人の割合は、医師や薬剤師に処方薬について尋ねた経験がある人で高い。

		Q5 治療に自分の意思が反映されていたか				n
		思 う	思 わ な い	わ か ら な い	不 明	
(%)						
全体		49	13	38	0	1500
Q9処方薬について 尋ねた経験	医師に尋ねたことがある	62	12	26	0	465
	薬剤師に尋ねたことがある	56	16	28	0	474
	看護師に尋ねたことがある	59	16	25	0	68
	その他の人に尋ねたことがある	45	25	30	0	20
	尋ねたことはない	41	12	46	0	755

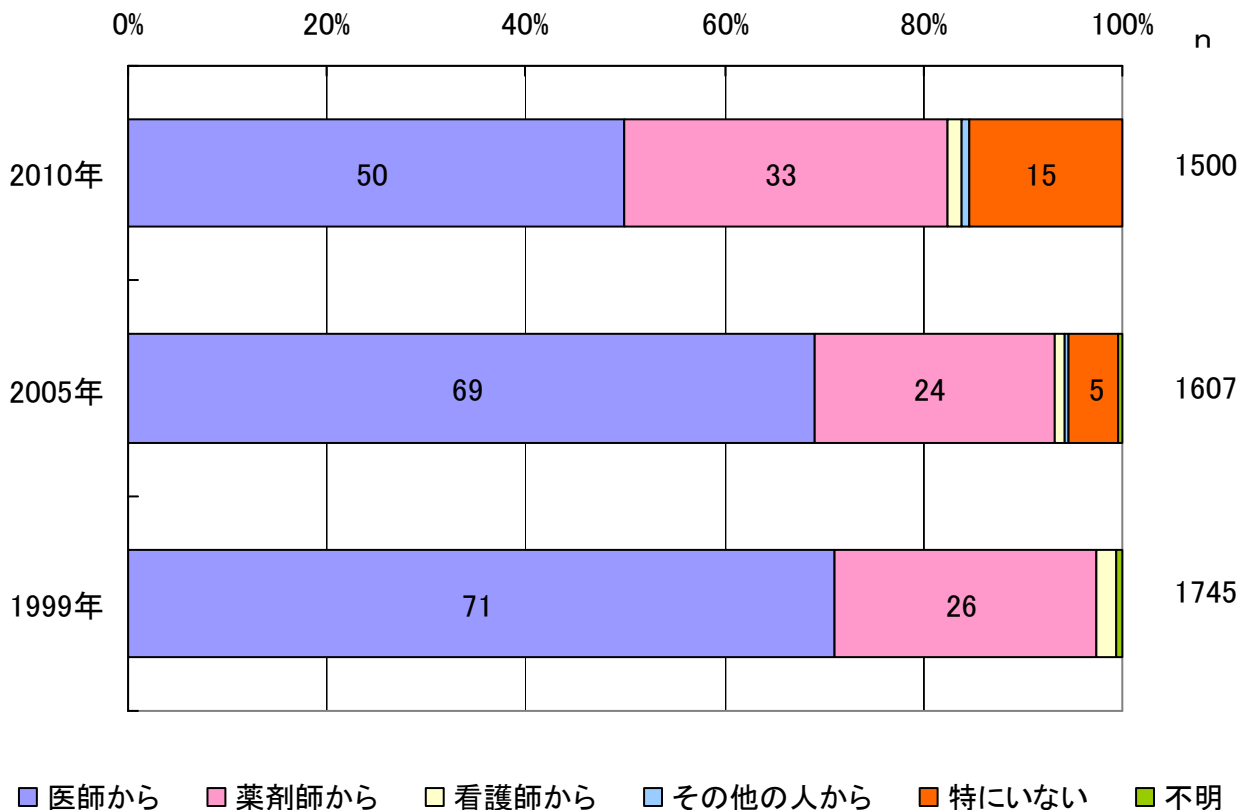
Q10. 処方薬の説明をしてほしい相手

処方薬の説明を「医師から」聞きたいは50%、「薬剤師から」が33%で、1999年の71%、26%、2005年の69%、24%に比べて「医師から」の割合が約20ポイント減少している。

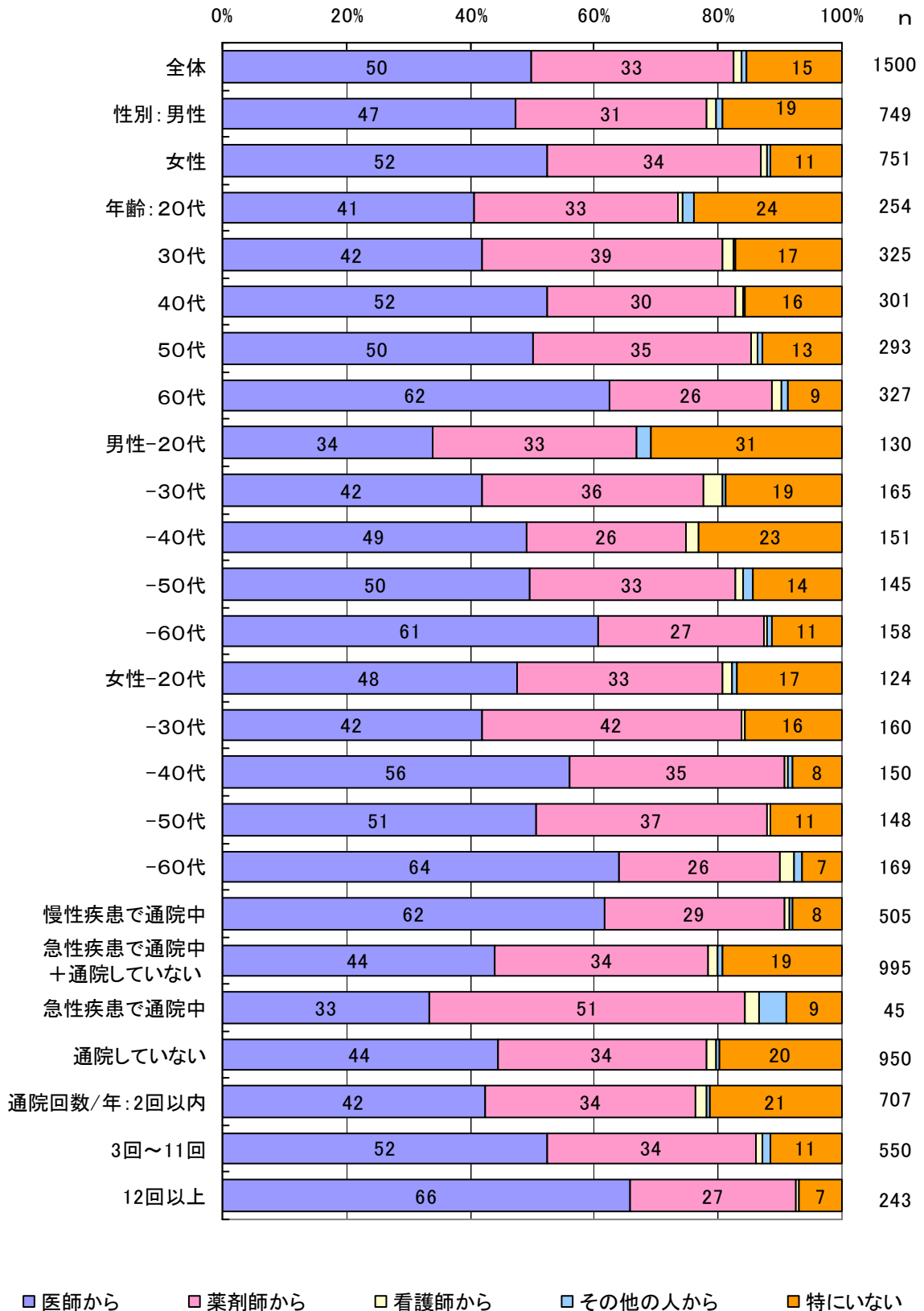
年代別にみると、「医師から」の割合が20代で41%であるのに対し、60代では62%と、年齢の高い人ほど医師からの直接の説明を希望する割合は高い。また「慢性疾患で通院中」の人では62%、通院回数の多い人では66%と、それ以外の人と差が見られた。

Q10. あなたは、医師が処方した薬の「説明」を誰から聞きたいと思いますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

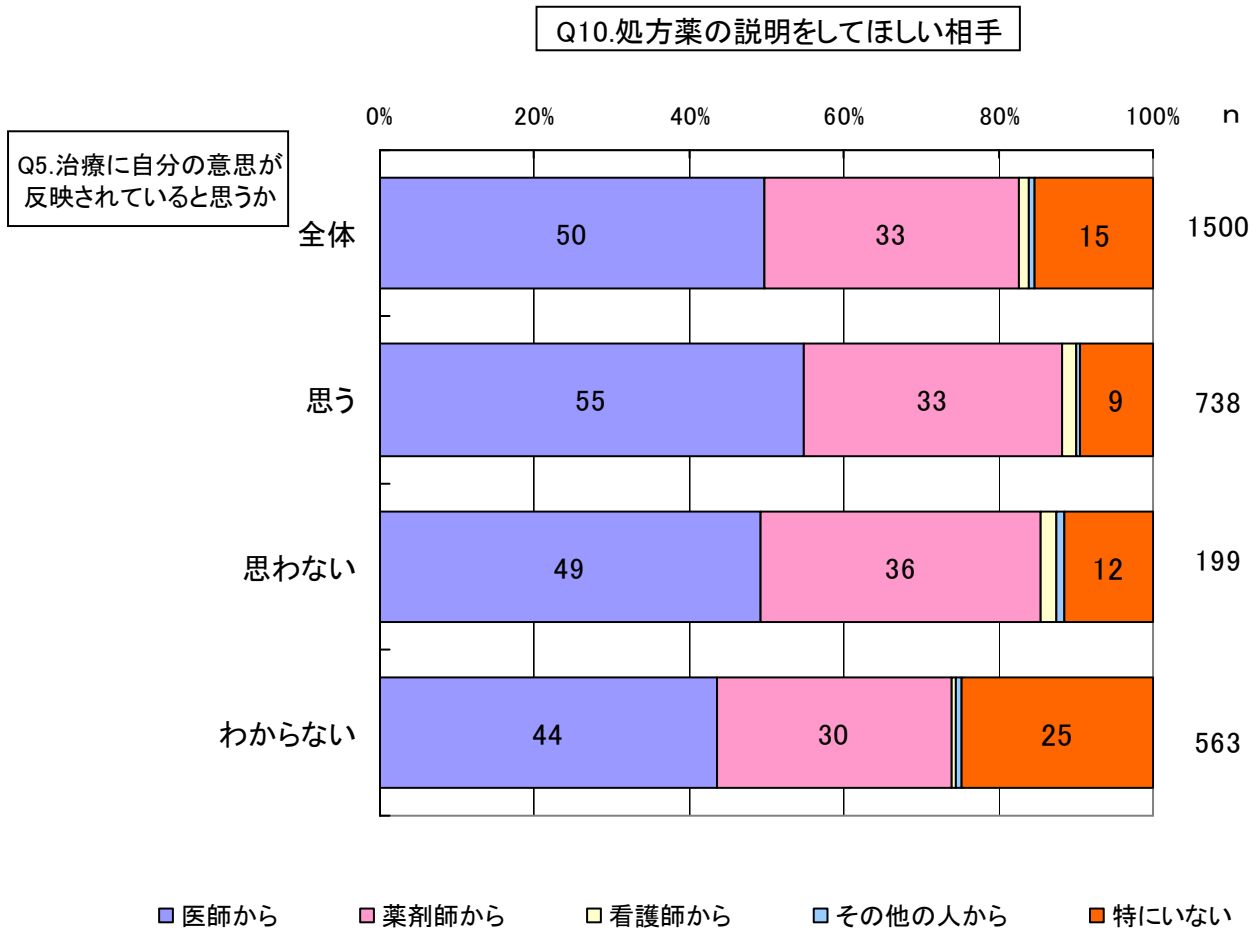
1. 医師から
2. 薬剤師から
3. 看護師から
4. その他の人から
5. 特にいない



Q10. 処方薬の説明をしてほしい相手



意思の反映別にみた「処方薬の説明をして欲しい相手」

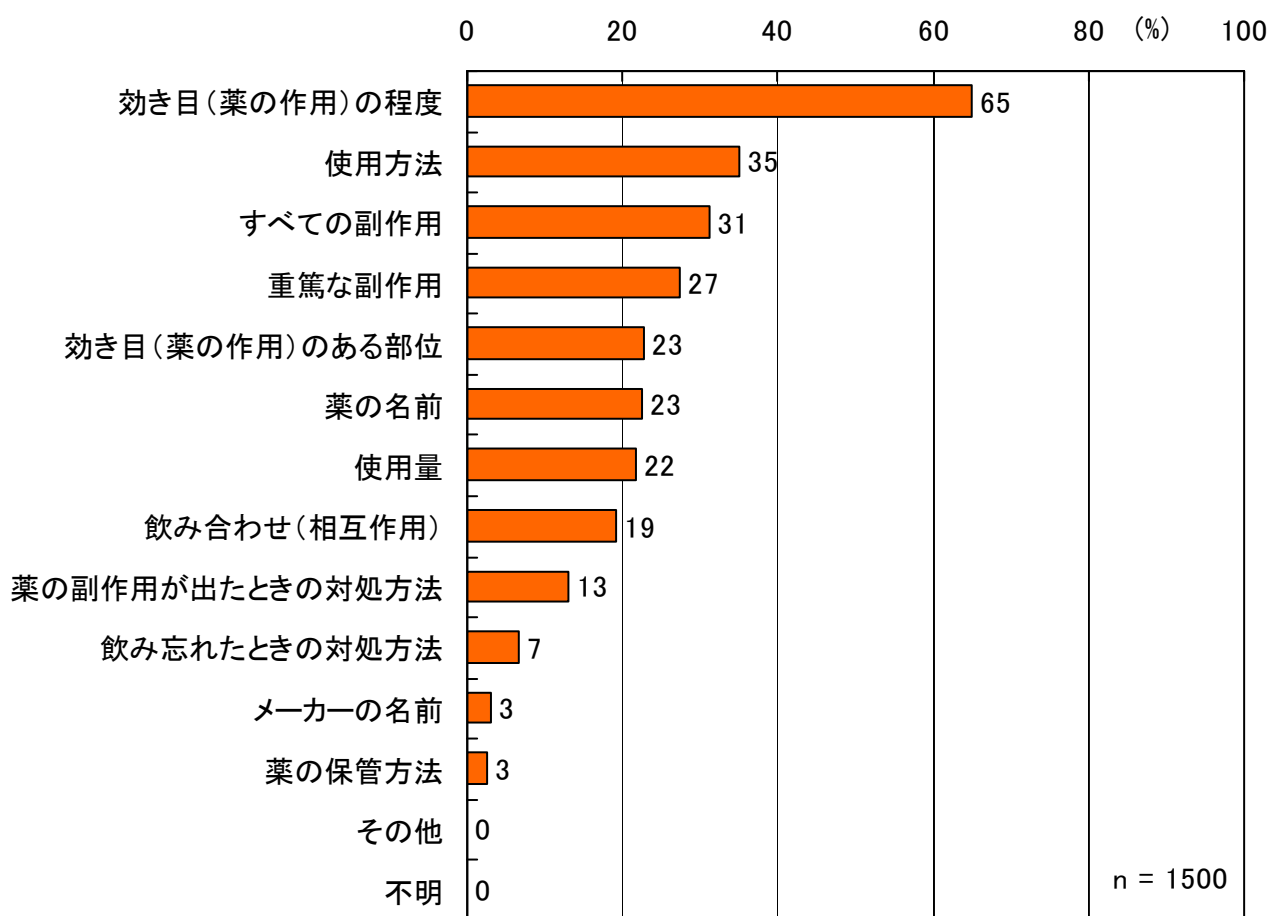


Q11. 処方薬について役立つ情報

処方薬について役立つ情報は「効き目(薬の作用)の程度」が65%で最も多く、次いで「使用方法」35%、「すべての副作用」31%があげられた。

Q11. あなたは、医師が処方した薬をもらう時、どんな情報が役立つと思いますか。当てはまるものを選んでください。(〇は3つまで)

1. 薬の名前
2. メーカーの名前
3. 効き目(薬の作用)の程度
4. 効き目(薬の作用)のある部位
5. 重篤な副作用
6. すべての副作用
7. 使用方法
8. 使用量
9. 飲み合わせ(相互作用)
10. 飲み忘れたときの対処方法
11. 薬の保管方法
12. 薬の副作用が出たときの対処方法
13. その他()



Q11. 処方薬について役立つ情報

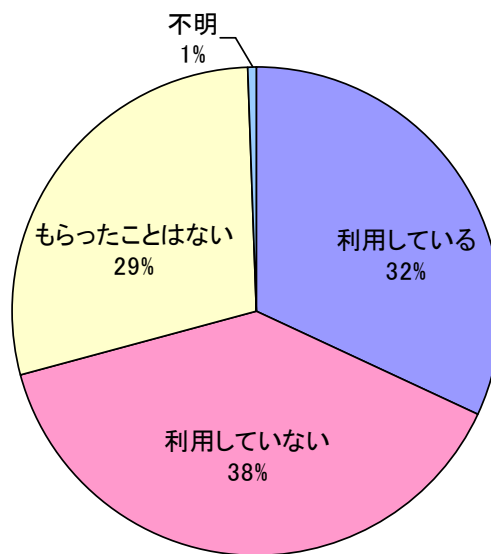
(%)	効き目（薬の作用）の程度	使用方法	すべての副作用	重篤な副作用	効き目（薬の作用）のある部位	薬の名前	使用量	飲み合わせ（相互作用）	薬の副作用が出たときの対処方法	飲み忘れたときの対処方法	メーカーの名前	薬の保管方法	その他	不明	n
全体	65	35	31	27	23	23	22	19	13	7	3	3	0	0	1500
性別															
男性	64	37	29	29	24	22	24	16	9	4	3	2	0	0	749
女性	66	33	33	26	22	23	19	22	17	9	3	3	0	0	751
年齢															
20代	65	37	30	20	22	19	27	15	10	10	5	4	0	0	254
30代	63	37	33	26	20	24	23	20	16	6	2	3	0	0	325
40代	64	32	33	29	23	22	19	22	14	6	3	3	0	0	301
50代	63	34	30	32	23	23	21	19	13	6	1	1	0	0	293
60代	70	35	31	30	27	24	19	19	12	6	3	2	1	0	327
男性 - 20代	62	39	25	21	20	24	31	12	7	7	6	3	0	0	130
- 30代	61	38	32	25	25	24	26	18	10	2	3	3	0	0	165
- 40代	64	35	26	31	22	23	24	19	9	3	4	1	0	0	151
- 50代	61	33	29	34	23	21	23	16	12	5	1	2	1	0	145
- 60代	72	39	32	31	30	20	17	15	8	4	2	3	1	0	158
女性 - 20代	67	34	35	19	25	15	23	19	13	13	4	4	0	0	124
- 30代	66	36	34	26	14	24	19	22	22	9	1	4	0	0	160
- 40代	64	29	39	26	24	21	15	25	19	9	3	5	1	0	150
- 50代	65	35	30	30	22	25	20	22	14	7	1	0	0	1	148
- 60代	68	31	30	30	24	28	21	22	15	7	5	2	1	0	169
慢性疾患で通院中	68	26	32	33	22	27	17	23	12	8	3	2	1	0	505
急性疾患で通院中 +通院していない	63	39	31	25	23	20	24	17	13	6	3	3	0	0	995
急性疾患で通院中 通院していない	62	20	33	24	22	18	22	18	20	20	7	4	0	0	45
通院回数/年:2回以内	62	39	31	25	24	22	24	16	12	4	4	3	0	0	707
3回~11回	68	33	31	28	23	19	22	21	14	9	3	3	1	0	550
12回以上	68	29	33	33	19	33	13	23	12	10	2	2	0	0	243

Q12. お薬手帳の利用状況

お薬手帳を「利用している」は 32%、「利用していない」38%、「もらったことはない」は 29%であった。「利用している」人の割合を性別にみると、男性が 26%に対し女性は 38%と女性が男性を 12 ポイント上回り、特に女性-30 代では 51%と高くなった。また通院回数が「2 回以内」では 24%であるのに対し、「12 回以上」では 43%と、通院回数が多いほどお薬手帳を利用している傾向がみられた。

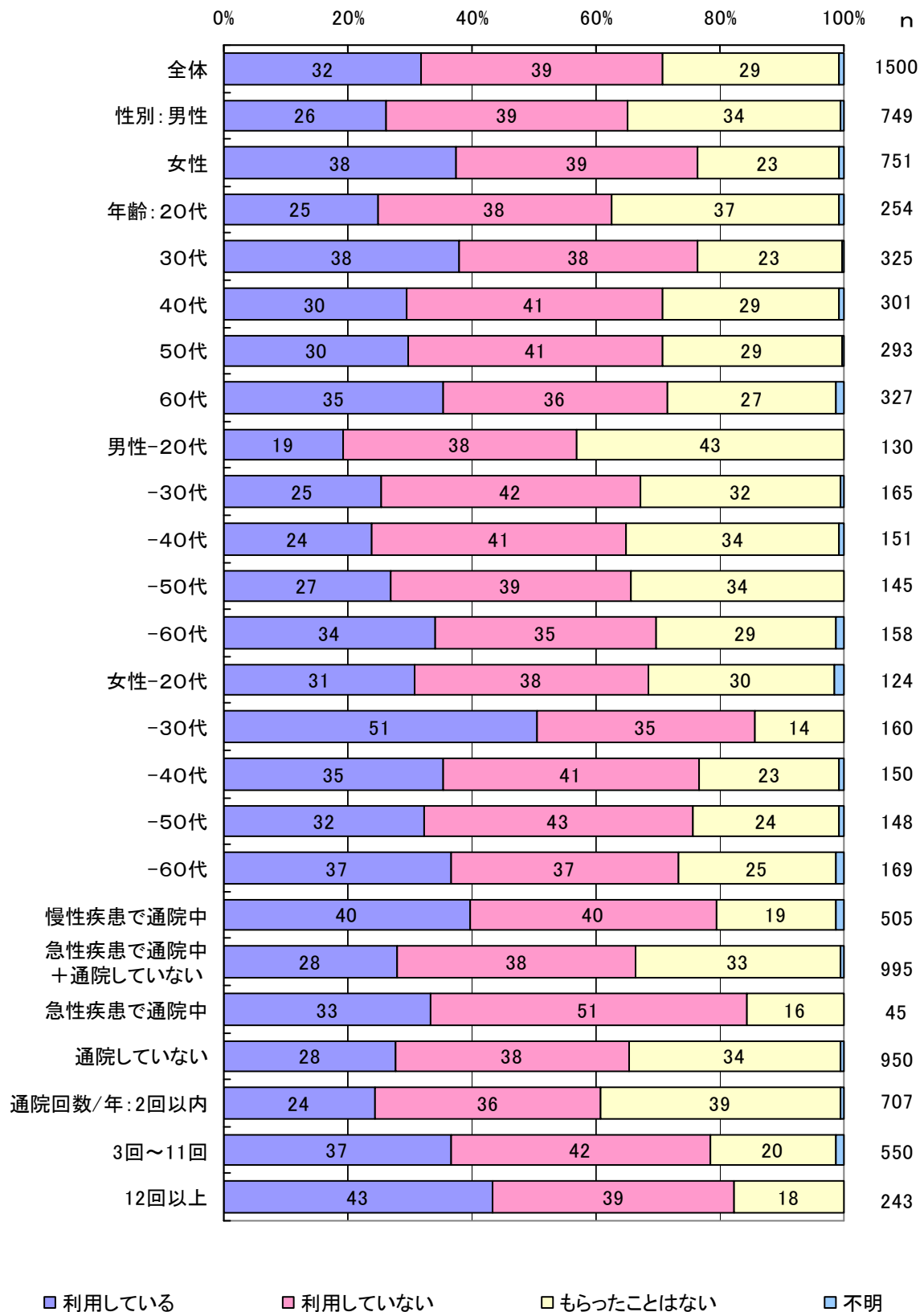
Q12. あなたは、病院や医院または保険薬局からもらっている「お薬手帳」を利用していますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. 利用している
2. 利用していない
3. もらったことはない



n = 1500

Q12. お薬手帳の利用状況



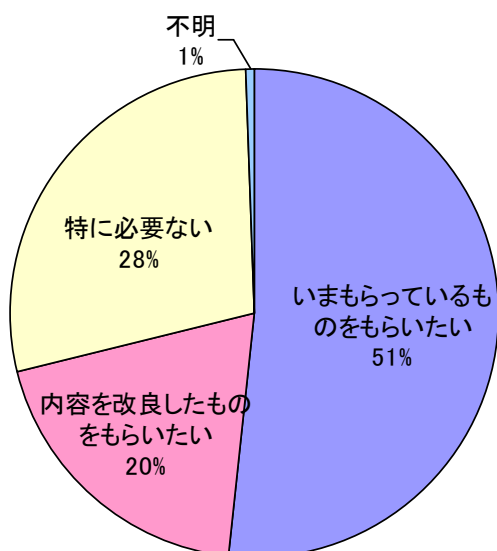
Q13. 薬の説明用紙の必要性

薬の説明が書かれた印刷物について「いまもらっているものをもらいたい」が 51%、「内容を改良したものをもらいたい」が 20%で、合計 71%が印刷物を必要としている。「特に必要ない」は 28%であった。

年代別では、20代で「必要ない」が 35%であり、特に男性-20代では 41%と高い。

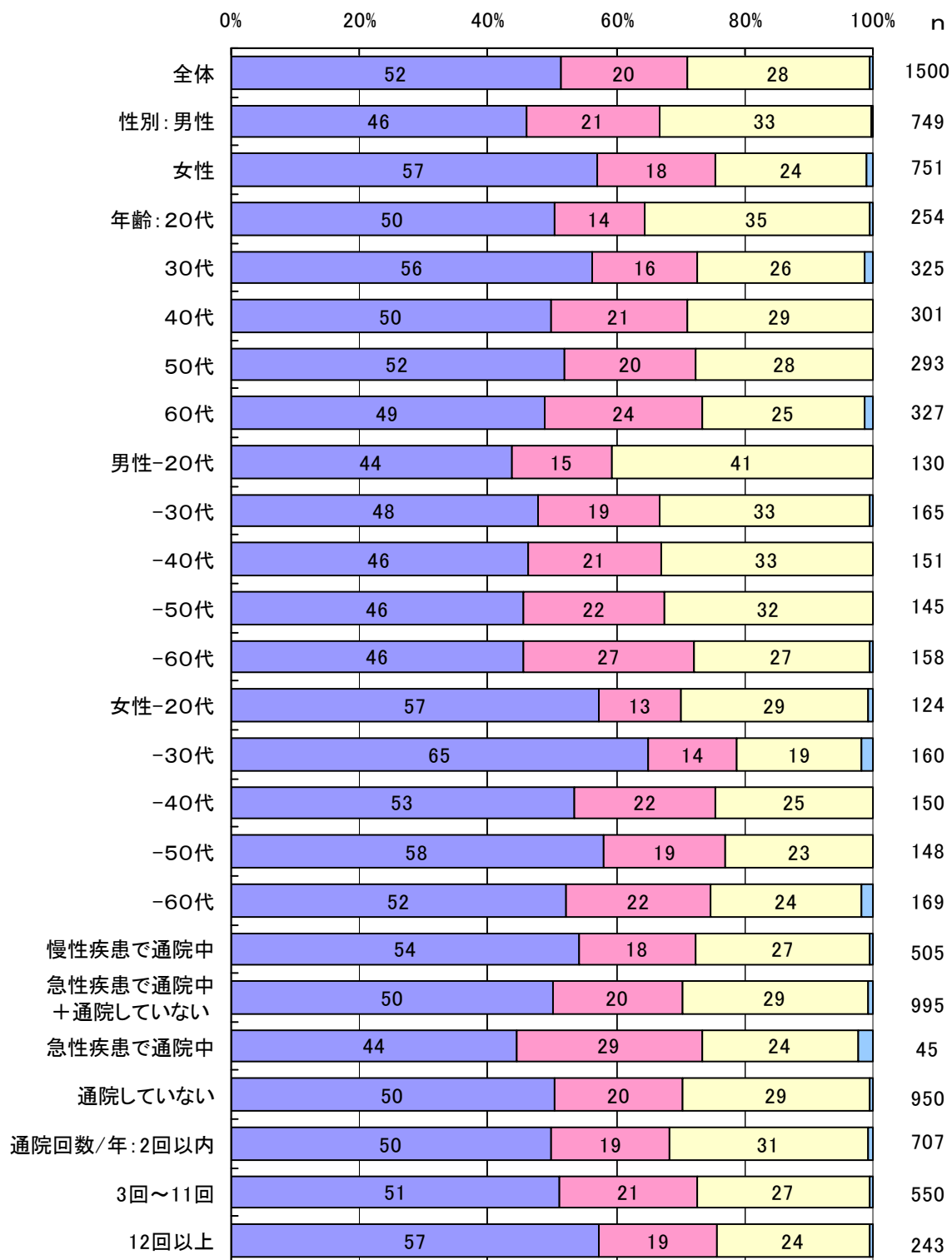
Q13. あなたは、病院や医院または保険薬局で、薬の説明が書かれた紙(印刷物)が必要と思いますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. いまもらっているものをもらいたい
2. 内容を改良したものをもらいたい
3. 特に必要ない



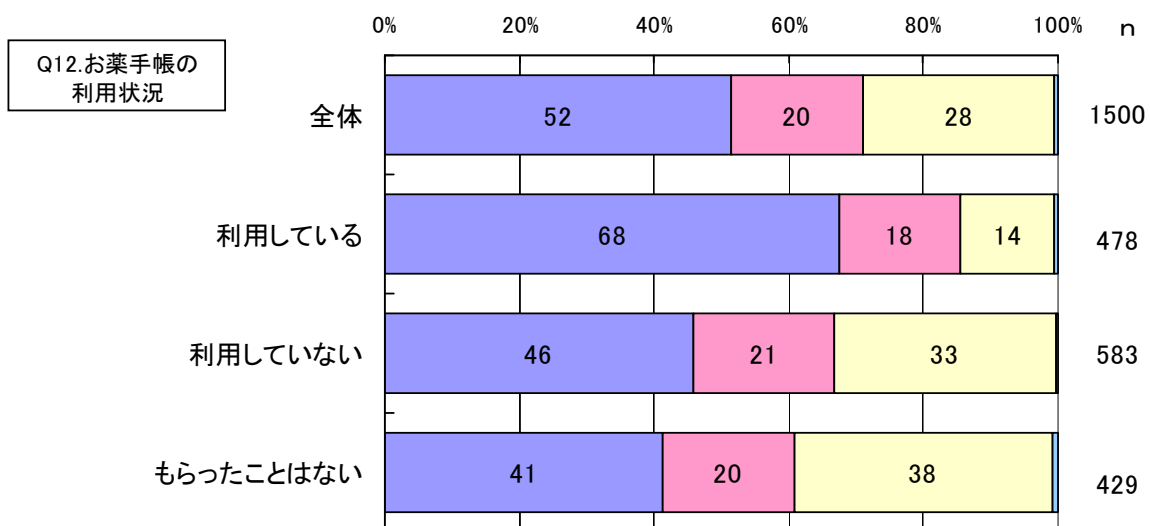
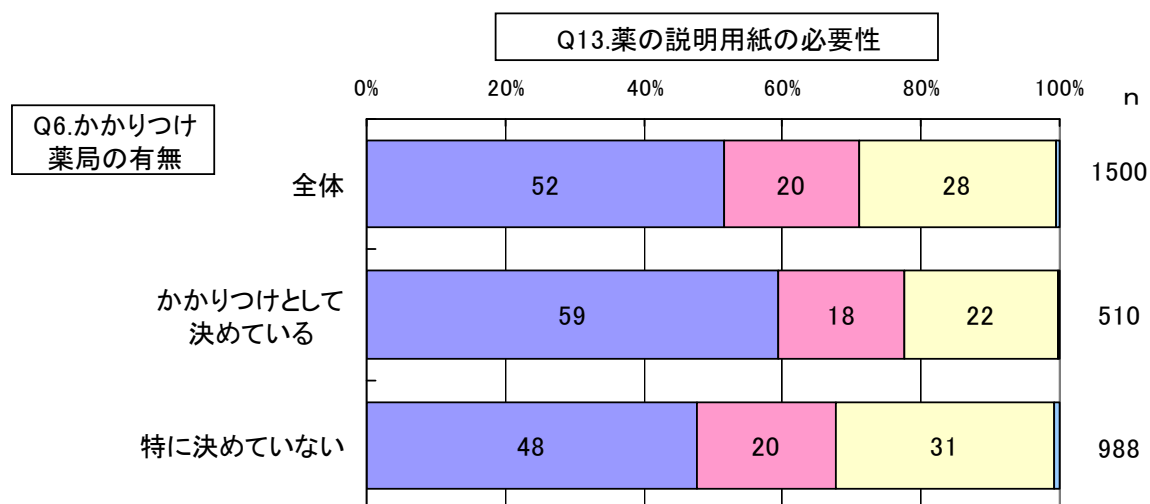
n = 1500

Q13. 薬の説明用紙の必要性



■ いまもらっているものをもらいたい ■ 内容を改良したものをもらいたい □ 特に必要ない ■ 不明

印刷物について「いまもらっているものをもらいたい」人の割合は、「かかりつけ薬局を決めている」人で59%、「決めていない」人で48%となった。またお薬手帳の利用状況別にみると、「利用している」人が68%と、「利用していない」人の46%、「もらったことはない」人の41%よりも高くなった。



■ いまもらっているものをもらいたい ■ 内容を改良したものをもらいたい □ 特に必要ない ■ 不明

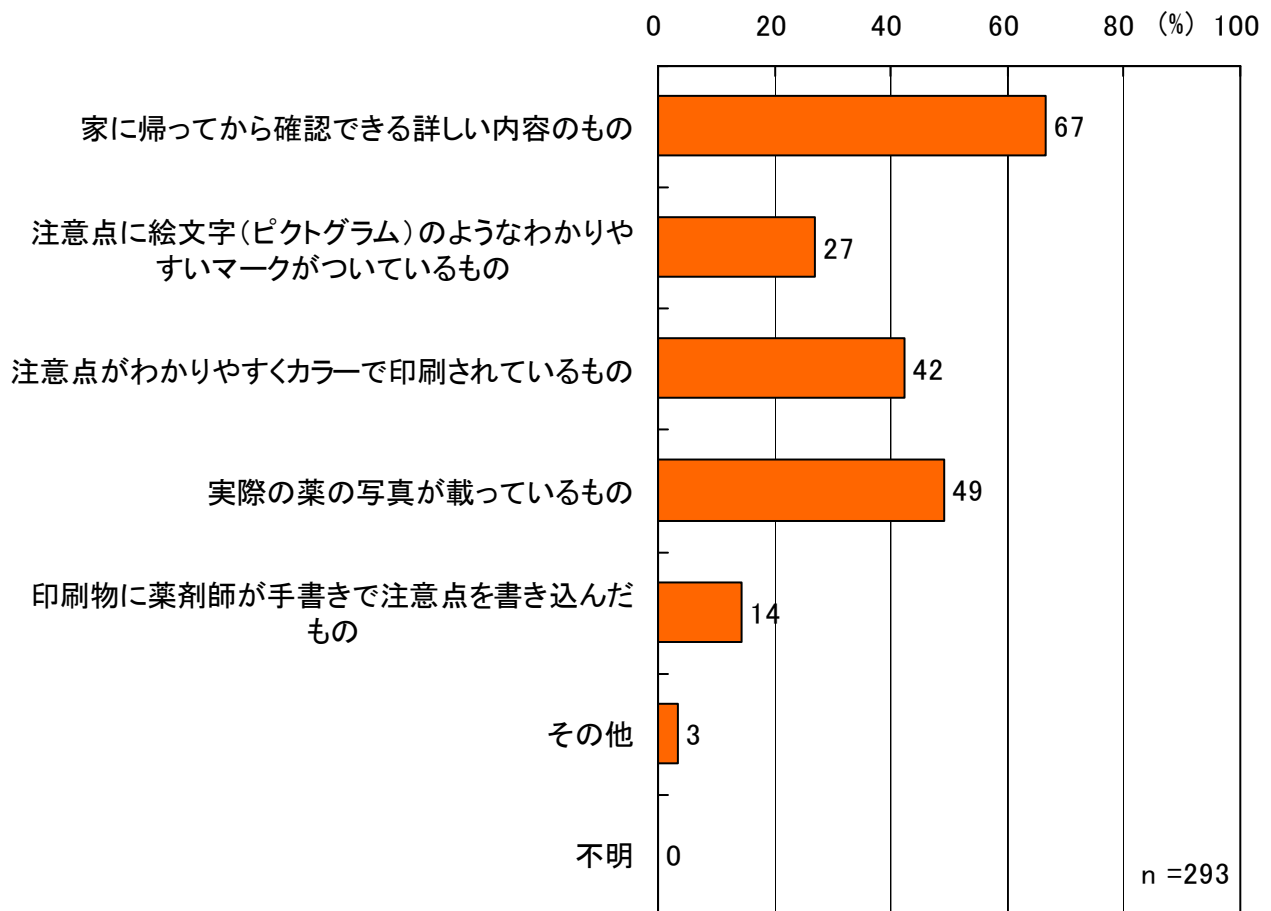
Q13SQ. 説明用紙の改良点

説明用紙の内容を改良してもらいたい点は、「家に帰ってから確認できる詳しい内容のもの」が 67%、「実際の薬の写真が載っているもの」が 49%であった。性別で見ると、男性は女性よりも「詳しい内容のもの(男性 72%、女性 60%)」、女性は男性よりも「写真が載っているもの(男性 42%、女性 58%)」を希望する割合が高い。

Q13SQ. 【Q13 で「2.内容を改良したものをもらいたい」を選んだ方】

病院や医院または保険薬局で、薬の説明が書かれた紙(印刷物)として、どのようなものがあると思いますか。(〇はいくつでも)

1. 家に帰ってから確認できる詳しい内容のもの
2. 注意点に絵文字(ピクトグラム)のようなわかりやすいマークがついているもの
3. 注意点がわかりやすくカラーで印刷されているもの
4. 実際の薬の写真が載っているもの
5. 印刷物に薬剤師が手書きで注意点を書き込んだもの
6. その他()



Q13SQ. 説明用紙の改良点

(%)	家に帰ってから確認できる詳しい内容のもの	注意点を絵文字（ピクトグラム）のようわかりやすいマークがついているもの	注意点がわかりやすくカラーで印刷されているもの	実際の薬の写真が載っているもの	印刷物に薬剤師が手書きで注意点を書き込んだもの	その他	不明	n
全体	67	27	42	49	14	3	0	293
性別								
男性	72	28	45	42	13	2	0	156
女性	60	26	39	58	16	5	1	137
年齢								
20代	64	14	50	44	6	0	0	36
30代	87	28	42	51	13	4	0	53
40代	64	28	39	53	17	9	0	64
50代	62	28	40	42	12	3	0	60
60代	60	30	44	53	19	0	1	80
男性 - 20代	70	25	60	25	10	0	0	20
- 30代	94	16	29	39	6	3	0	31
- 40代	61	32	45	45	16	3	0	31
- 50代	69	25	41	34	13	3	0	32
- 60代	69	38	52	55	17	0	0	42
女性 - 20代	56	0	38	69	0	0	0	16
- 30代	77	45	59	68	23	5	0	22
- 40代	67	24	33	61	18	15	0	33
- 50代	54	32	39	50	11	4	0	28
- 60代	50	21	34	50	21	0	3	38
慢性疾患で通院中	66	24	46	46	13	5	0	91
急性疾患で通院中 + 通院していない	67	28	41	50	15	2	0	202
急性疾患で通院中 通院していない	69	38	31	31	8	0	0	13
通院回数/年: 2回以内	70	31	40	46	14	2	0	131
3回~11回	61	23	44	52	16	2	1	117
12回以上	71	27	44	51	11	11	0	45

お薬手帳の利用状況別にみた「説明用紙の改良点」

		Q13SQ 説明用紙の改良点							n
		容家の にも帰 つてか ら確認 できる 詳しい 内	いよ注 るう意 もな のわ かり やす いマ ーク グ ラム につ いて	さ注 れて意 いる点 のわ かり やす くカ ラー で印 刷	実 際の 薬の 写真 が載 って いる もの	書 き込 んだ もの	印 刷物 に薬 剤師 が手 書き で注 意点 を	そ の 他	
(%)									
全体		67	27	42	49	14	3	0	293
Q12お薬手帳の利 用状況	利用している	66	24	48	52	16	5	0	86
	利用していない	65	26	38	53	16	4	0	121
	もらったことはな い	69	30	44	42	11	0	1	84

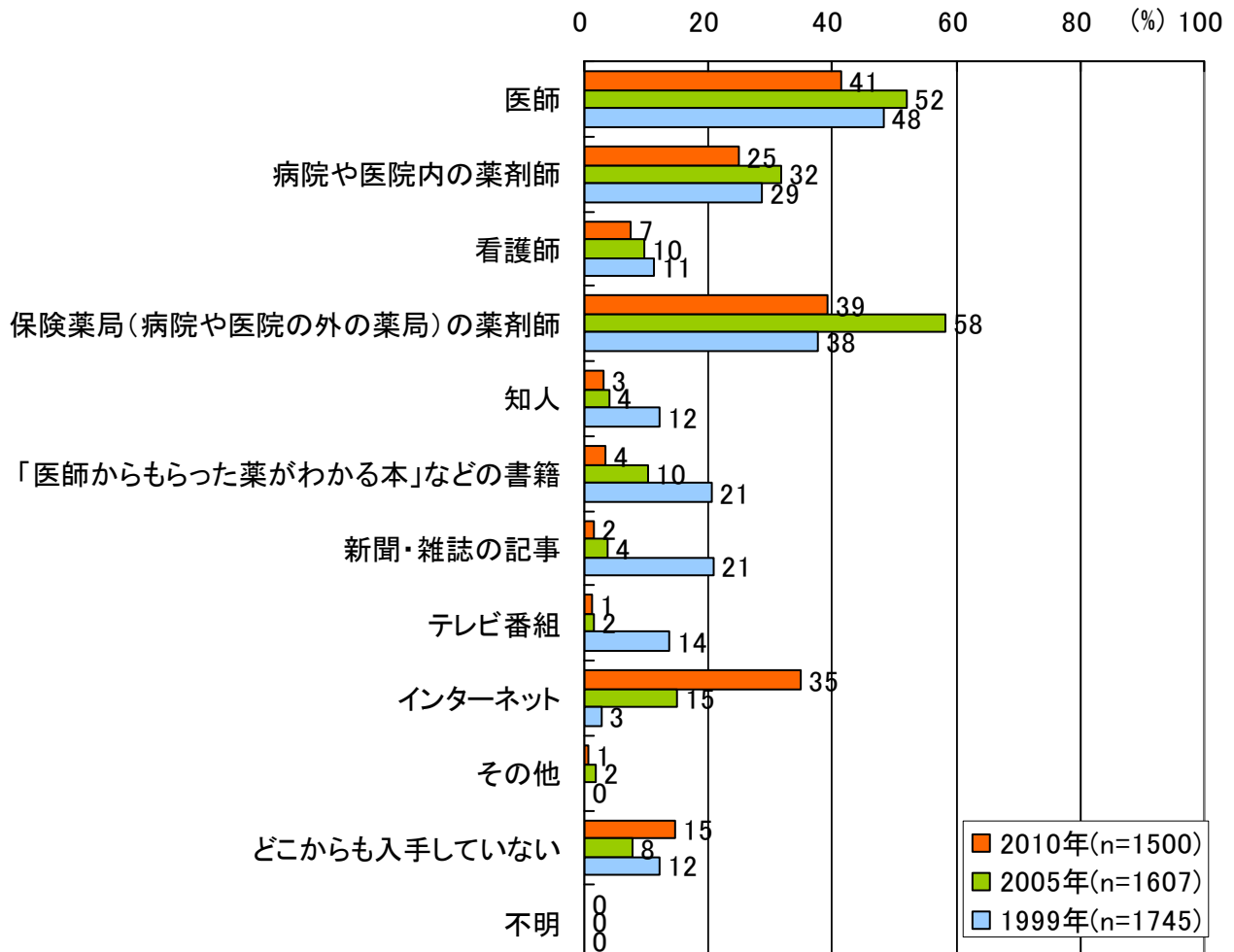
Q14. 処方薬に関する情報の入手先

処方薬に関する情報は「医師」からが41%、保険薬局の薬剤師からが39%、「インターネット」からが35%である。2005年の52%、58%、15%と比べると傾向が大きく変わっているが、これは調査方法が前回までのFAX調査からインターネット調査に変更されたことも1つの要因として考えられる。

インターネットで情報を入手するサイトは、「医薬品情報の専門サイト」からの情報入手が78%、「製薬会社のホームページ」が40%であった。

Q14. あなたは、医師が処方した薬についての情報を、どこから入手していますか。(〇はいくつでも)

1. 医師
2. 病院や院内の薬剤師
3. 看護師
4. 保険薬局(病院や医院の外の薬局)の薬剤師
5. 知人
6. 「医師からもらった薬がわかる本」などの書籍
7. 新聞・雑誌の記事
8. テレビ番組
9. インターネット
10. その他()
11. どこからも入手していない



Q14. 処方薬に関する情報の入手先

(%)	医師	病院や 医院内の 薬剤師	看護師	保険薬局 (病院や 医院の 外の薬局) の薬剤師	知人	「医師から もらった薬が わかる本」 などの書籍	新聞・ 雑誌の 記事	テレビ 番組	インター ネット	その他	どこから も入手して いない	不明	n
全体	41	25	7	39	3	4	2	1	35	1	15	0	1500
性別													
男性	39	22	9	35	3	4	2	2	31	1	16	0	749
女性	44	28	6	43	3	3	1	1	39	1	13	0	751
年齢													
20代	42	29	9	32	6	4	1	2	28	1	18	0	254
30代	41	28	8	39	4	2	2	2	37	0	16	0	325
40代	44	25	9	36	3	3	1	1	40	0	15	0	301
50代	33	23	5	46	2	5	1	0	38	1	13	0	293
60代	46	21	6	43	2	4	2	2	31	1	12	1	327
男性 - 20代	41	23	9	28	6	5	2	4	25	0	20	0	130
- 30代	39	24	8	34	3	4	4	3	33	0	19	0	165
- 40代	38	22	10	23	2	3	1	1	34	1	17	0	151
- 50代	28	23	8	42	3	3	1	1	36	1	13	0	145
- 60代	48	20	7	48	2	5	2	1	28	2	13	1	158
女性 - 20代	43	35	10	35	5	3	0	0	32	2	16	0	124
- 30代	43	32	7	44	4	1	1	0	42	1	13	0	160
- 40代	50	29	7	49	3	3	1	1	46	0	12	0	150
- 50代	38	22	2	49	1	7	1	0	40	1	13	0	148
- 60代	45	21	5	39	3	3	3	2	33	0	12	1	169
慢性疾患で通院中	55	23	6	50	3	4	2	1	43	1	7	0	505
急性疾患で通院中 +通院していない	34	26	8	34	3	4	2	1	31	0	19	0	995
急性疾患で通院中 通院していない	42	33	7	44	7	13	4	7	31	0	7	0	45
通院していない	34	25	8	34	3	3	1	1	31	0	19	0	950
通院回数/年: 2回以内	32	24	8	33	3	3	2	1	29	1	22	0	707
3回~11回	45	25	7	42	4	4	1	1	37	0	10	0	550
12回以上	60	27	7	53	2	5	4	3	50	2	5	0	243

Q14SQ. 薬の情報を入手するサイト

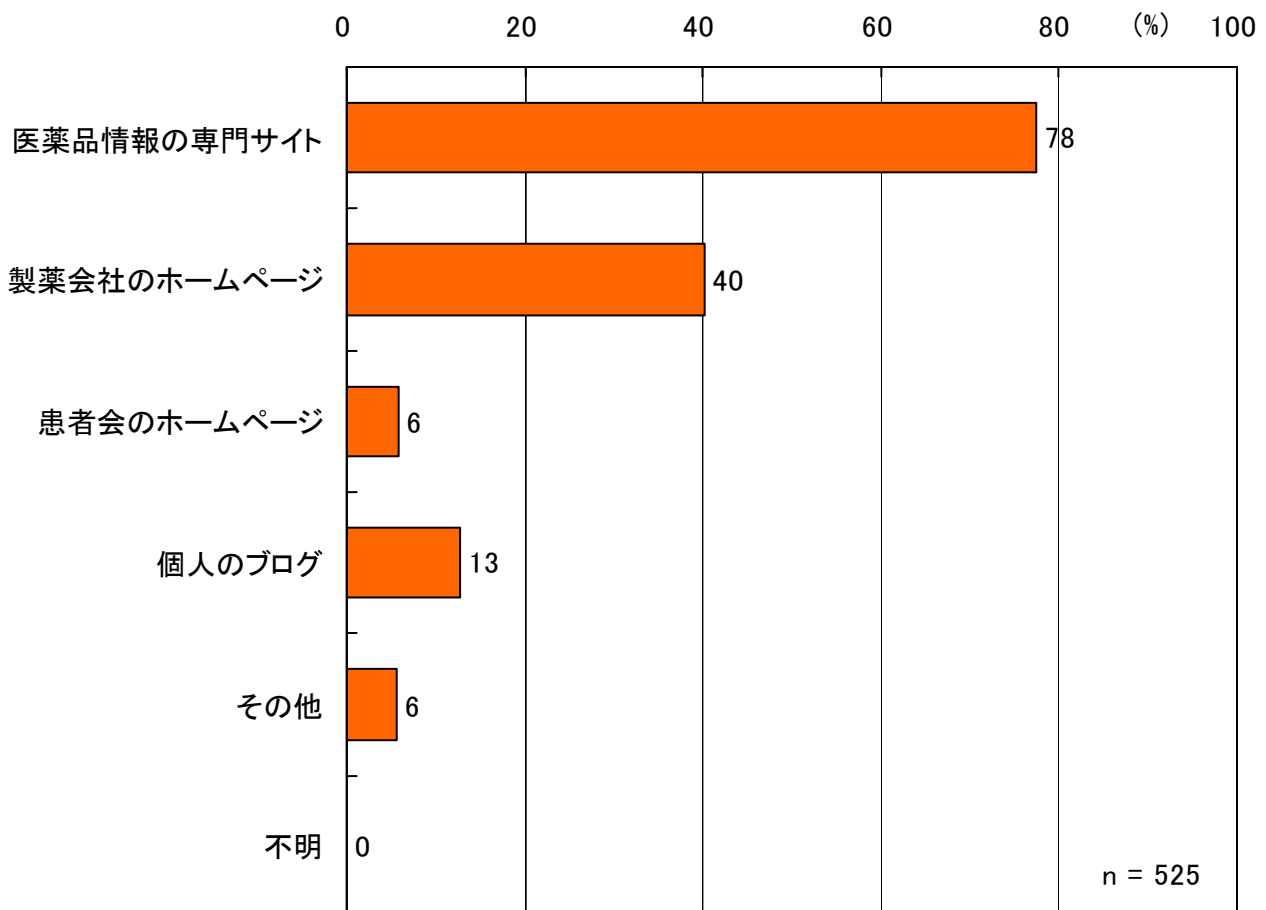
Q14SQ. 【Q14で「9.インターネット」を選んだ方】

医師が処方した薬についての情報をインターネットのどのようなサイトで薬の情報を入手されていますか。

(日頃利用されているサイト、検索サイトでヒットしたホームページ経由等)

(〇はいくつでも)

1. 医薬品情報の専門サイト
2. 製薬会社のホームページ
3. 患者会のホームページ
4. 個人のブログ
5. その他()



Q14SQ. 薬の情報を入手するサイト

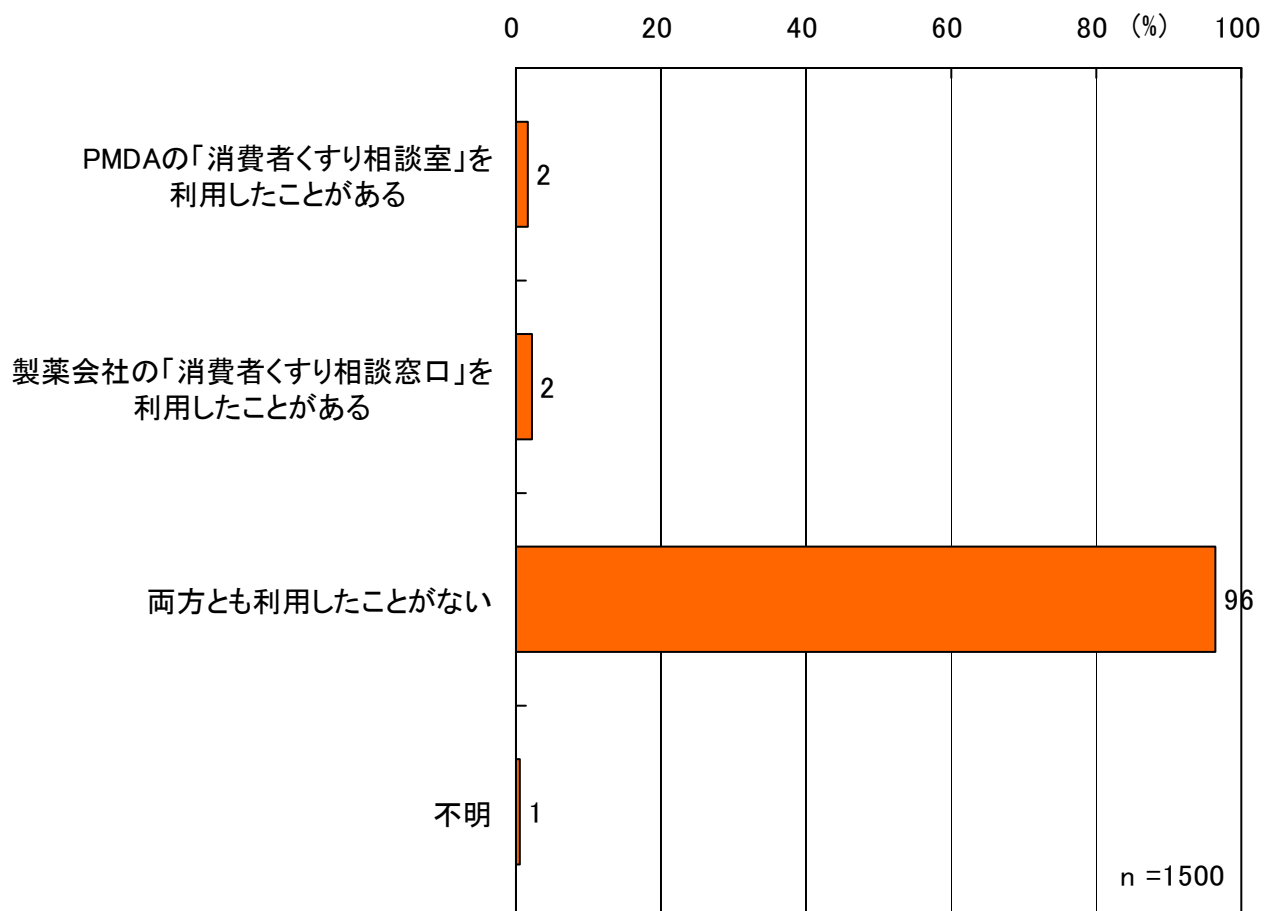
(%)	医薬品情報の専門サイト	製薬会社のホームページ	患者会のホームページ	個人のブログ	その他	n
全体	78	40	6	13	6	525
性別 男性	82	42	10	11	5	235
女性	74	39	2	14	6	290
年齢 20代	74	33	6	19	10	72
30代	79	39	8	21	5	121
40代	74	48	7	11	9	121
50代	78	42	5	5	1	111
60代	81	35	1	9	4	100
男性 - 20代	78	38	13	19	6	32
- 30代	81	43	13	17	6	54
- 40代	75	58	12	10	8	52
- 50代	85	38	12	8	2	52
- 60代	91	31	0	2	2	45
女性 - 20代	70	30	0	20	13	40
- 30代	78	36	4	24	4	67
- 40代	74	41	4	12	10	69
- 50代	73	46	0	3	0	59
- 60代	73	38	2	15	5	55
慢性疾患で通院中	79	38	6	10	7	216
急性疾患で通院中 +通院していない	77	42	5	15	4	309
急性疾患で通院中 通院していない	79	43	7	36	0	14
	77	42	5	14	4	295
通院回数/年: 2回以内	77	42	5	12	5	202
3回~11回	75	37	4	15	4	202
12回以上	83	43	9	10	8	121

Q15. 消費者くすり相談室やくすり相談窓口の利用経験

「消費者くすり相談室を利用したことがある」は 2%、「消費者薬相談窓口を利用したことがある」も 2%で、利用している人はとても少ないと言える。これらのサービスの存在自体が認知されていない可能性も考えられる。

Q15. あなたは、医薬品医療機器総合機構(厚生労働省の関係機関、以下 PMDA)の「消費者くすり相談室」や各製薬会社の「消費者くすり相談窓口」を利用したことがありますか。(○はいくつでも)

1. PMDA の「消費者くすり相談室」を利用したことがある
2. 製薬会社の「消費者くすり相談窓口」を利用したことがある
3. 両方とも利用したことがない



Q15. 消費者くすり相談室やくすり相談窓口の利用経験

(%)	PMDAの「消費者くすり相談室」を利用したことがある	製薬会社の「消費者くすり相談窓口」を利用したことがある	両方とも利用したことがない	不明	n
全体	2	2	96	1	1500
性別 男性	3	3	95	1	749
女性	1	1	98	1	751
年齢 20代	3	4	96	0	254
30代	2	2	96	0	325
40代	2	1	97	1	301
50代	1	1	97	1	293
60代	1	2	96	1	327
男性 - 20代	5	5	93	0	130
- 30代	3	3	95	1	165
- 40代	2	2	96	1	151
- 50代	3	2	95	1	145
- 60代	2	2	96	0	158
女性 - 20代	0	2	98	0	124
- 30代	1	2	98	0	160
- 40代	1	1	97	1	150
- 50代	0	1	98	1	148
- 60代	1	2	96	1	169
慢性疾患で通院中	2	1	97	1	505
急性疾患で通院中 +通院していない	2	2	96	1	995
急性疾患で通院中 通院していない	9	13	82	0	45
通院していない	1	2	97	1	950
通院回数/年: 2回以内	1	2	97	1	707
3回~11回	2	3	96	1	550
12回以上	2	1	97	1	243

Q16. 処方薬の服用状況

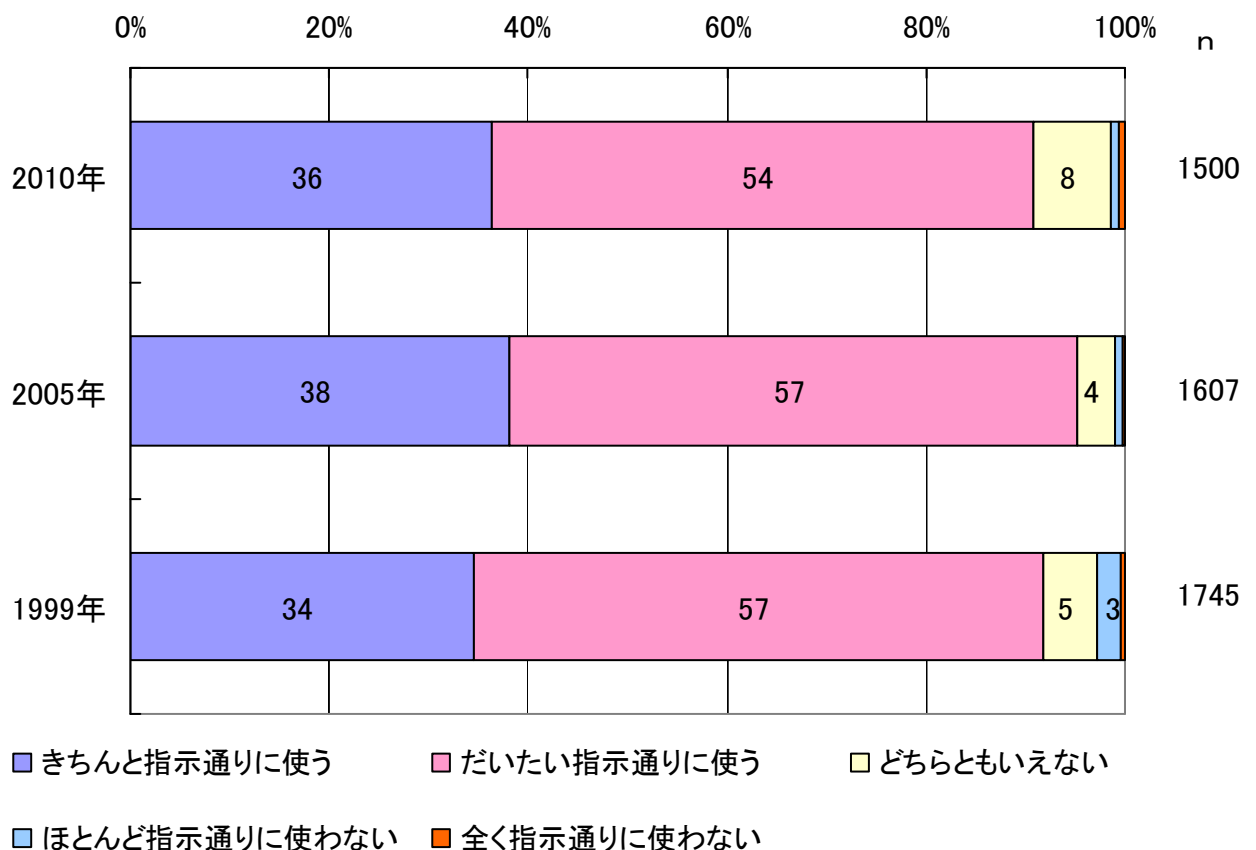
処方薬を「きちんと指示通りに使う」は 36%、「だいたい指示通りに使う」が 54%で合計 90%であり、「指示を守る」姿勢がうかがえる。1999 年の 34%、54%、2005 年の 38%、57%と比べ大きな変化は見られない。「きちんと指示通りに使う」は 60 代で 45%と全体を上回るが、その他の年代は 33~34%にとどまっている。また「慢性疾患で通院中」の人では 42%、それ以外の人では 33%となった。通院回数別では「2 回以内」が 32%に対し、「12 回以上」では 46%と、通院回数が多いほど高くなる傾向となった。

余った処方薬については「すぐに捨てる」が 8%、「保存して時間がたてば捨てる」が 49%で合計 57%が捨てると回答した。「保存しておいて同じ症状の時に使う」は 39%で、特に「慢性疾患で通院中」の人で 47%と高くなった。また 3 回以上通院している人は同じ症状の時に使おうと考える傾向が見られる。

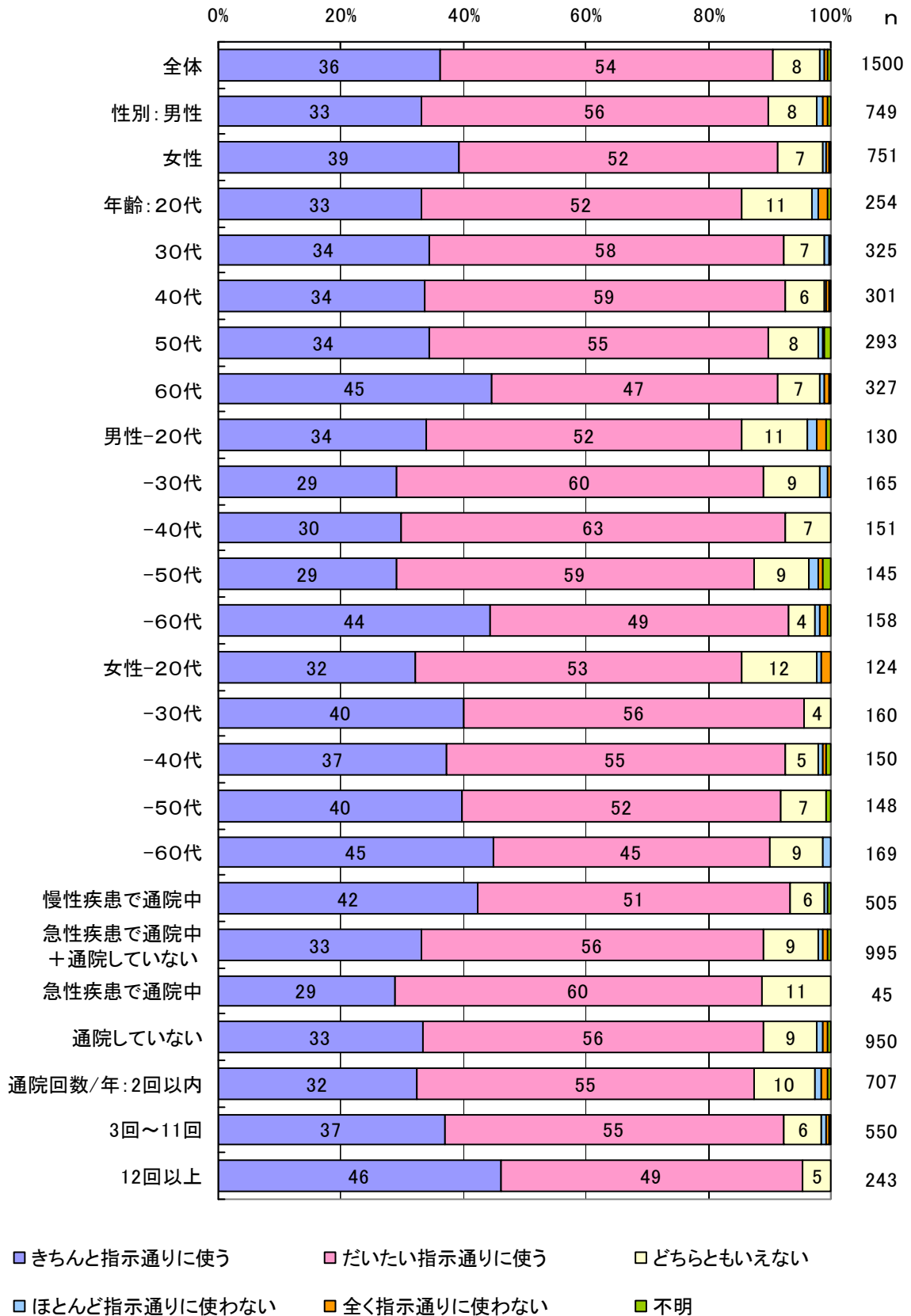
余った処方薬について「医療費が無駄だと思う」が 48%、「次の診療のときに医師や薬剤師に伝えるべきである」が 27%、「きちんと飲んでないので良くならない」が 26%であった。

Q16. あなたは、医師が処方した薬を、指示通りに使いますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。
(○はひとつ)

1. きちんと指示通りに使う
2. だいたい指示通りに使う
3. どちらともいえない
4. ほとんど指示通りに使わない
5. 全く指示通りに使わない



Q16. 処方薬の服用状況

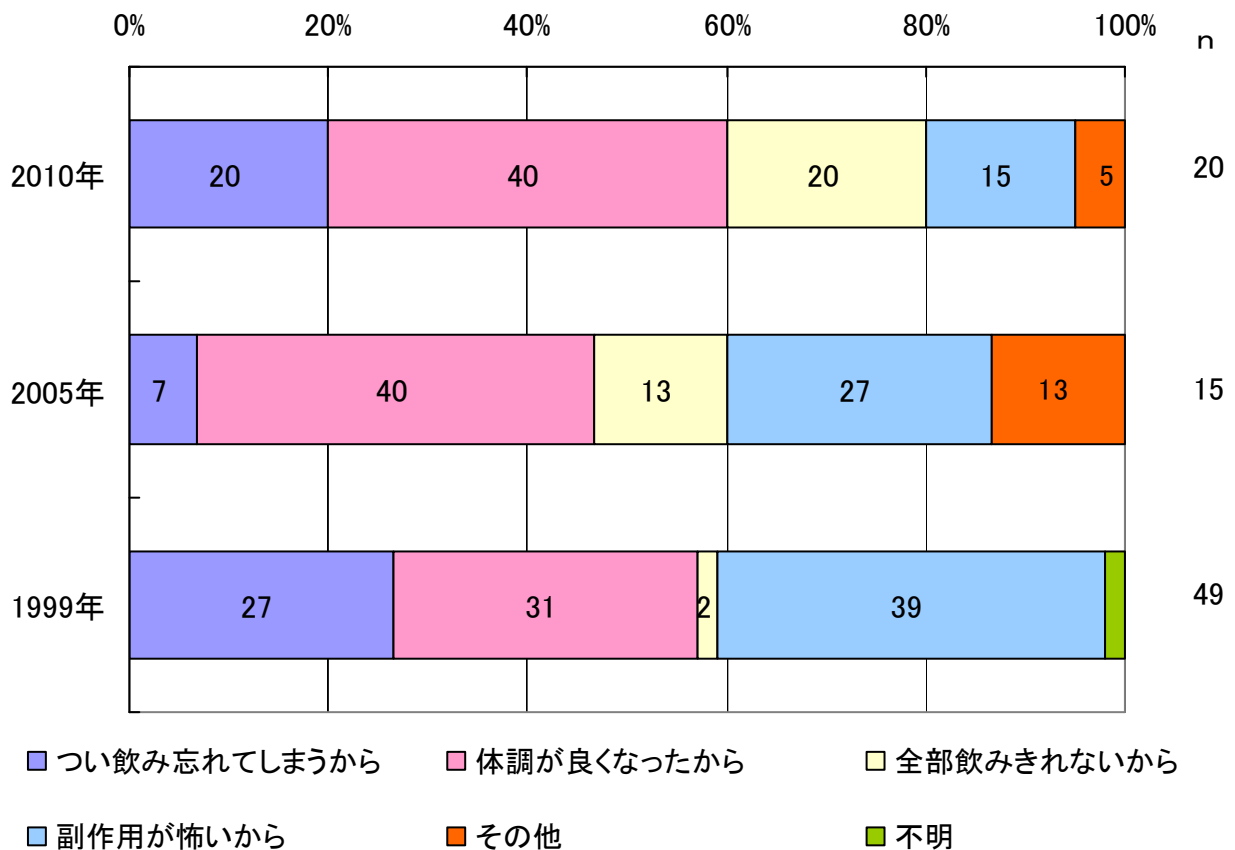


Q16SQ1. 処方薬を指示通りに使わない理由

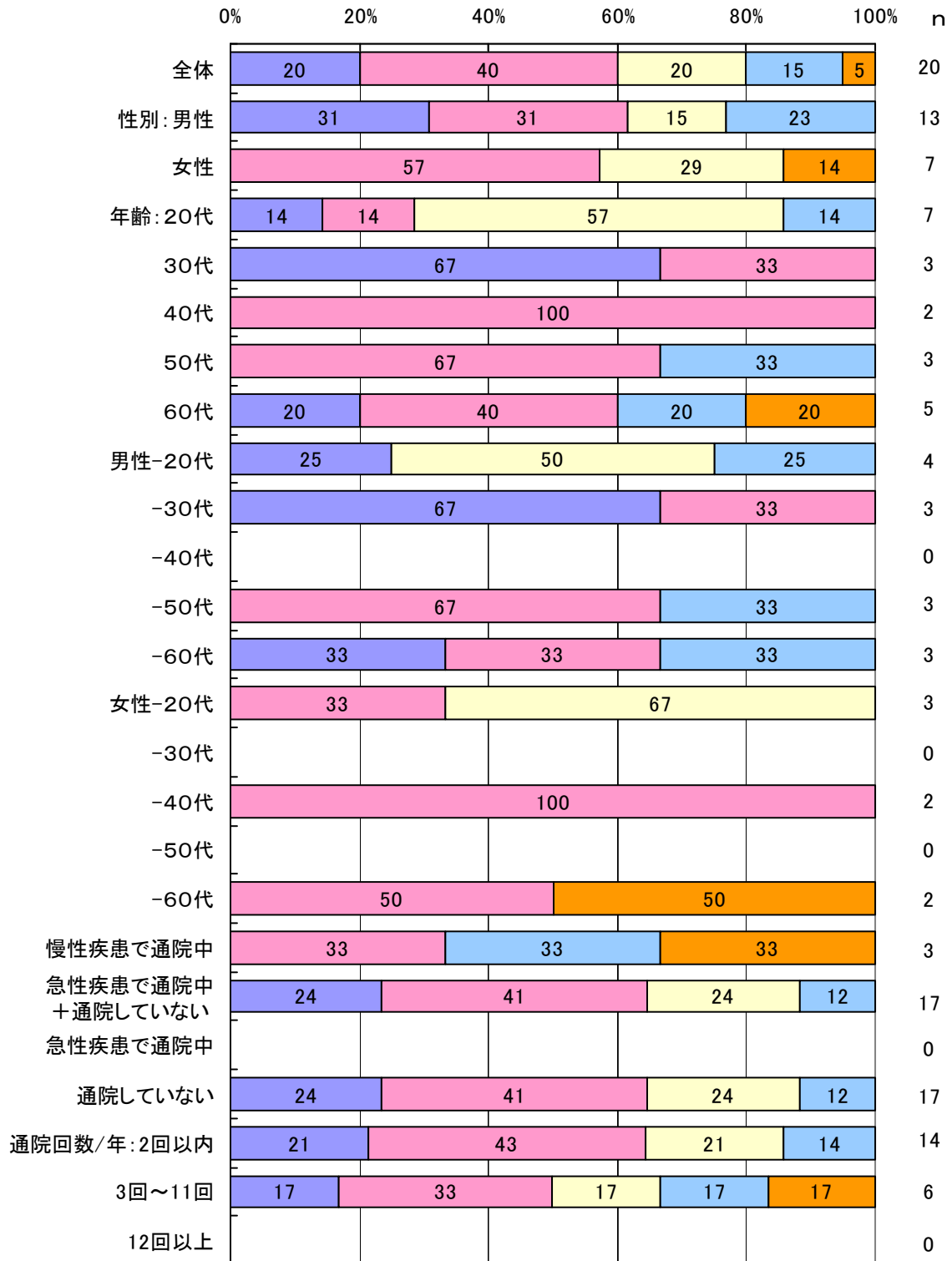
Q16SQ1. 【Q16 で「4.ほとんど指示通りに使わない」「5.全く指示通りに使わない」を選んだ方】

あなたが、医師が処方した薬を、指示通りに使わない理由は何ですか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. つい使い忘れてしまうから
2. 体調が良くなったから
3. 全部使いきれないから
4. 副作用が怖いから
5. その他()



Q16SQ1. 処方薬を指示通りに使わない理由



-
-

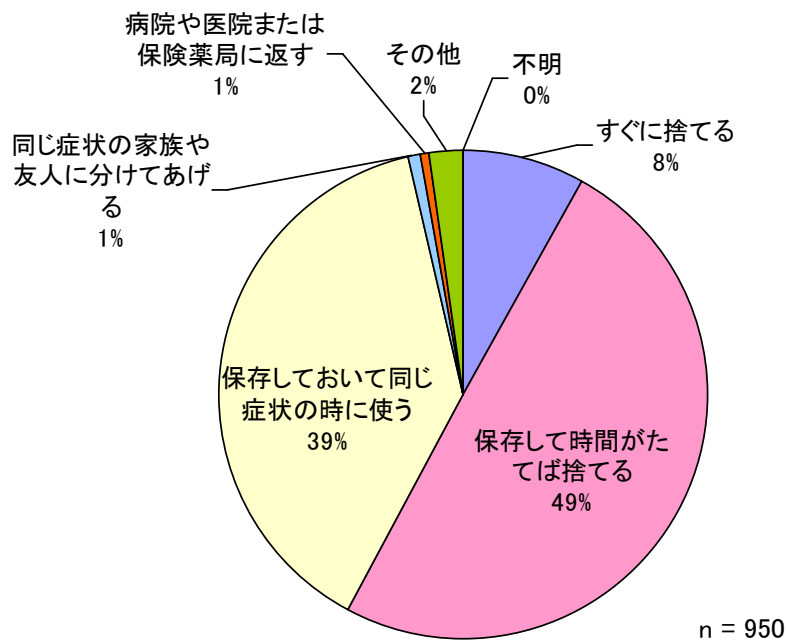
*n数が少ないので参考値として提示する。

Q16SQ2. 余った処方薬の取り扱い

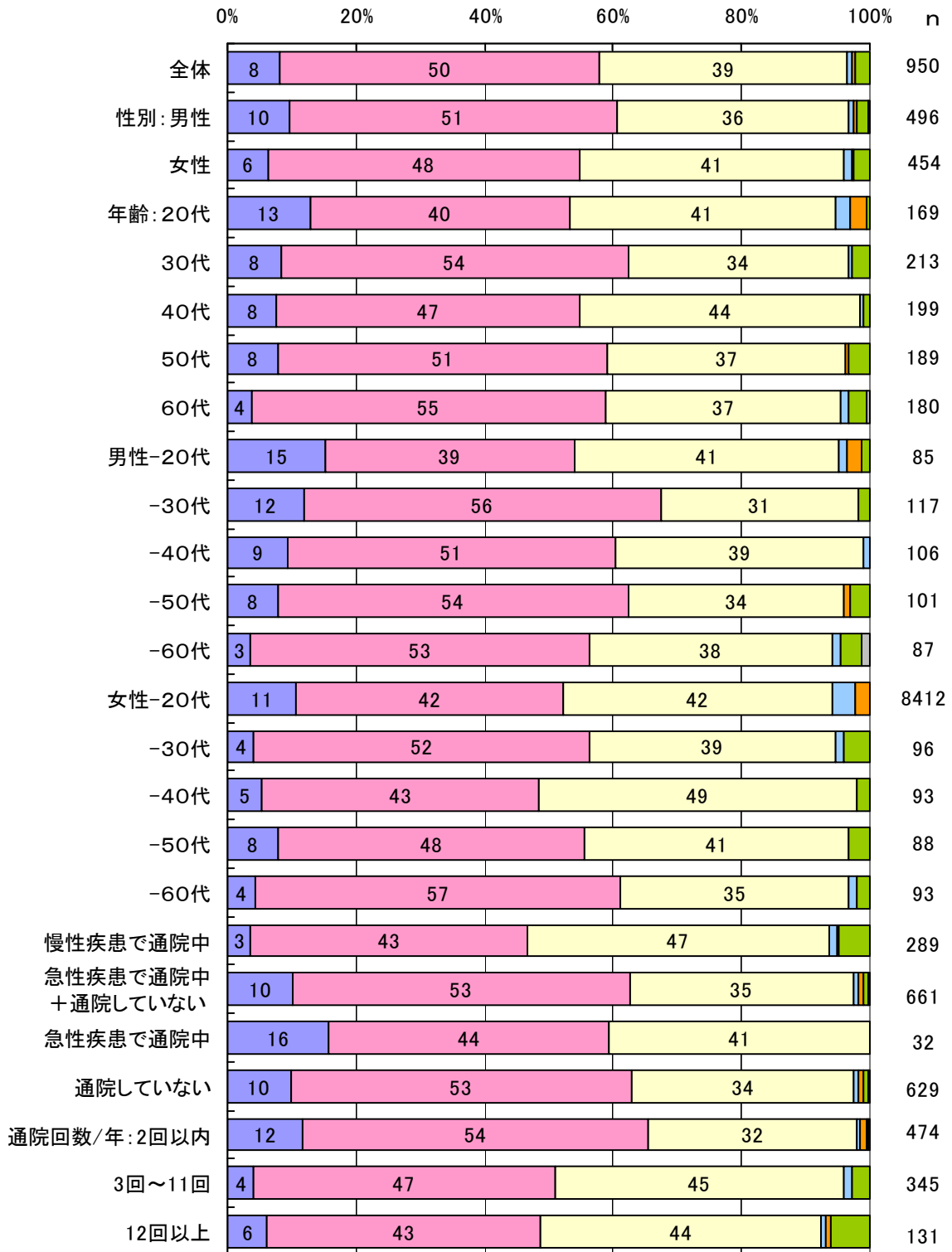
Q16SQ2. 【Q16で「2. だいたい指示通りに使う」～「5. 全く指示通りに使わない」を選んだ方】

医師が処方した薬を、きちんと指示通りに使わない場合、医師が処方した薬が手元に余ることがあると思いますが、どうしていますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. すぐに捨てる
2. 保存して時間がたてば捨てる
3. 保存しておいて同じ症状の時に使う
4. 同じ症状の家族や友人に分けてあげる
5. 病院や医院または保険薬局に返す
6. その他()



Q16SQ2. 余った処方薬の取り扱い



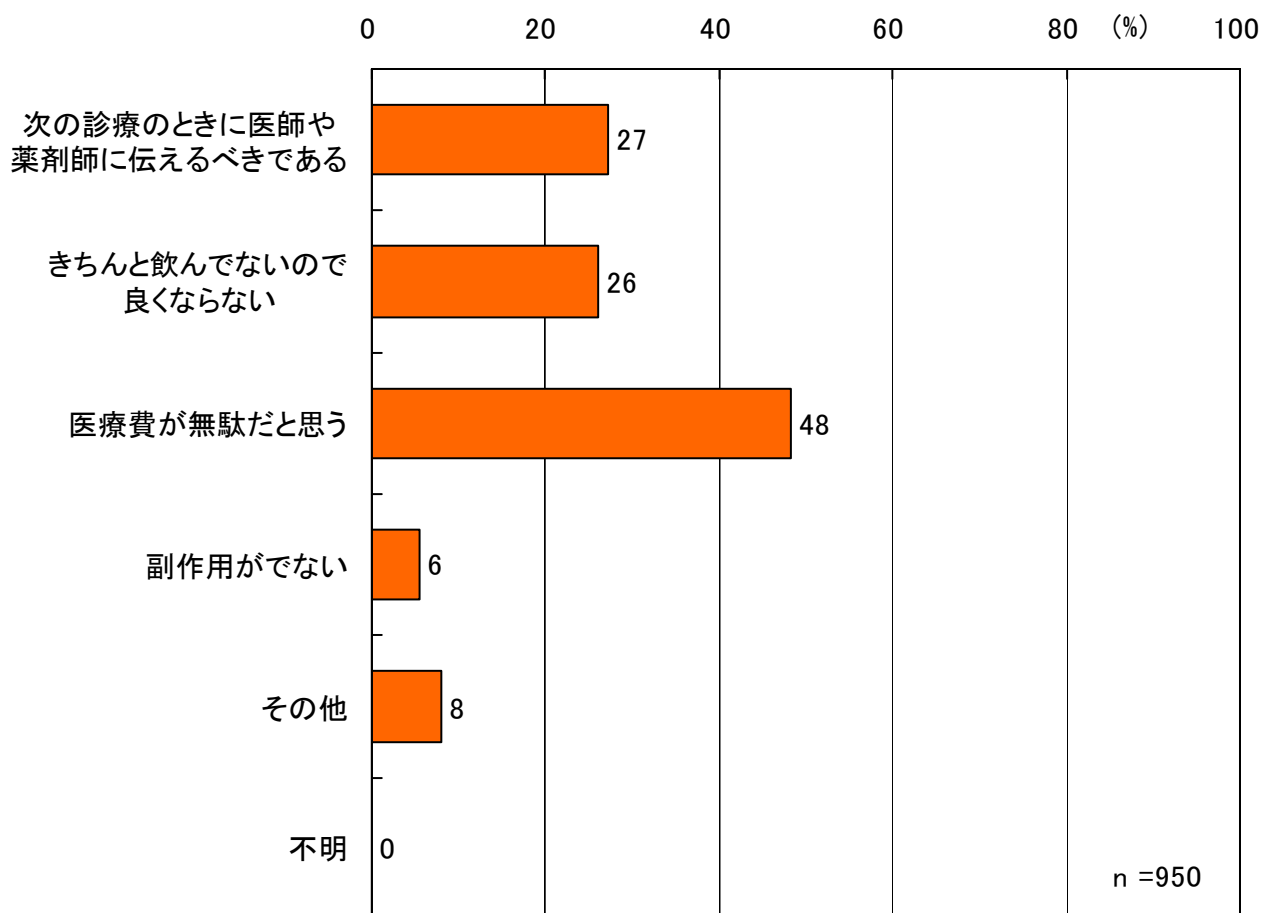
- すぐに捨てる
- 保存しておいて同じ症状の時に使う
- 病院や医院または保険薬局に返す
- その他
- 不明
- 同じ症状の家族や友人に分けてあげる

Q16SQ3. 余った処方薬について

SQ3. 【Q16 で「2. だいたい指示通りに使う」～「5. 全く指示通りに使わない」を選んだ方】

医師が処方した薬を、きちんと指示通りに使わない場合、薬が手元に余ることについてどう思われますか。あなたのお考えに近いものに当てはまるものを選んで下さい。(○はいくつでも)

1. 次の診療のときに医師や薬剤師に伝えるべきである
2. きちんと飲んでないので良くならない
3. 医療費が無駄だと思う
4. 副作用がでない
5. その他()



Q16SQ3. 余った処方薬について

(%)	でや次の ある薬の 剤師診 師療の にと 伝えき るべき に医師	できち 良くと くなら ならん ないで ないの	医療費 が無駄 だと思 う	副作 用がで ない	その他	不明	n
全体	27	26	48	6	8	0	950
性別 男性	30	27	45	6	6	0	496
女性	25	25	52	5	10	0	454
年齢 20代	23	31	49	9	4	0	169
30代	23	25	48	6	10	0	213
40代	26	30	44	5	11	0	199
50代	34	27	48	4	7	0	189
60代	31	17	53	4	8	1	180
男性 - 20代	29	32	46	11	2	0	85
- 30代	24	25	48	8	7	0	117
- 40代	29	32	38	5	8	0	106
- 50代	32	29	44	5	7	0	101
- 60代	36	17	51	1	7	0	87
女性 - 20代	17	31	51	7	5	0	84
- 30代	22	26	48	4	15	1	96
- 40代	22	28	52	4	14	0	93
- 50代	36	25	52	3	7	0	88
- 60代	27	16	56	8	10	1	93
慢性疾患で通院中	40	24	45	5	7	1	289
急性疾患で通院中 +通院していない	21	27	49	6	9	0	661
急性疾患で通院中	31	34	44	0	16	0	32
通院していない	21	27	50	6	8	0	629
通院回数/年: 2回以内	21	27	50	7	7	0	474
3回~11回	29	28	47	3	11	1	345
12回以上	45	19	47	6	5	0	131

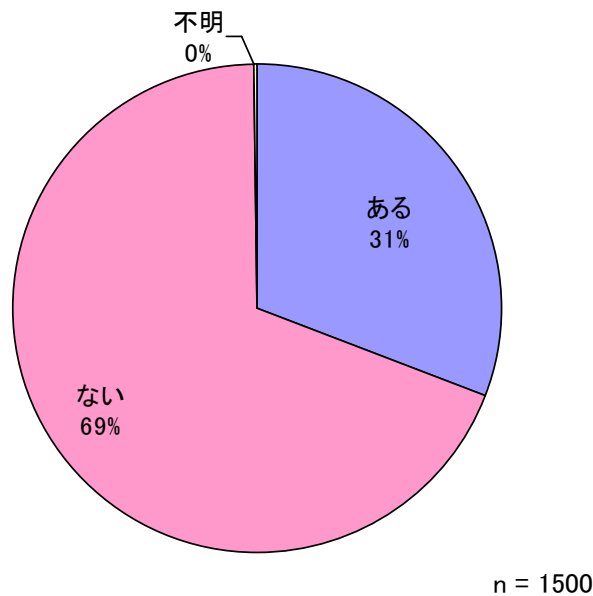
Q17. 1年以上使い続けている薬の有無

1年以上使い続けている薬が「ある」は31%、「ない」は69%である。「ある」の割合は、年齢による差が大きく、20代が17%であるのに対し、60代では50%と半数を占める。「慢性疾患で通院中」の人では79%、通院回数が「12回以上」では81%と全体を大きく上回った。

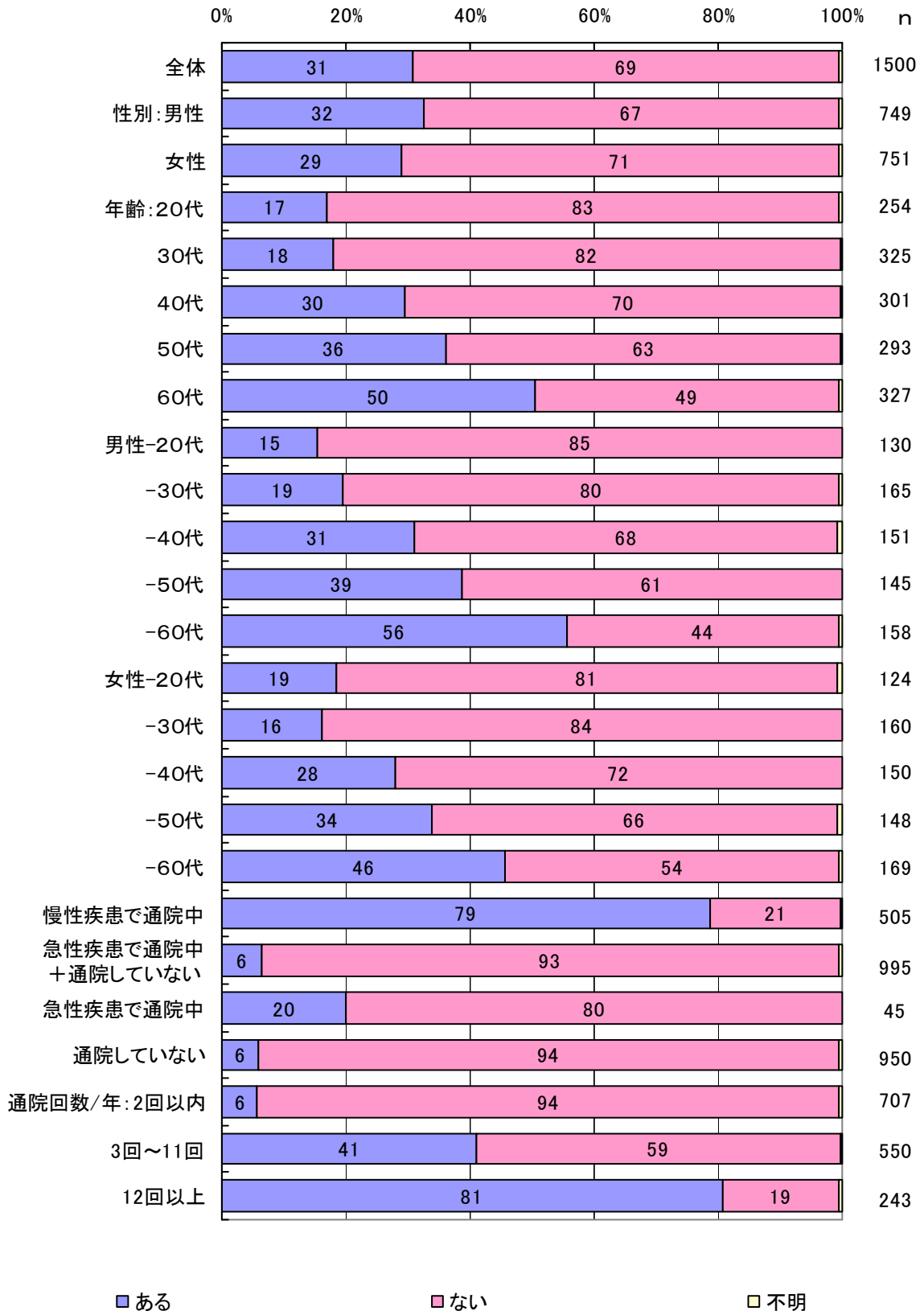
使い続けている薬について、「定期的に服用状況を聞かれている」は59%、「自分から服用状況を教えている」は13%で合計72%が定期的な確認を行っている。一方で、「問題ないから黙って使い続けている」も27%存在している。

Q17. 現在、処方された薬で1年以上使い続けている薬がありますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。
(○はひとつ)

1. ある。
2. ない。



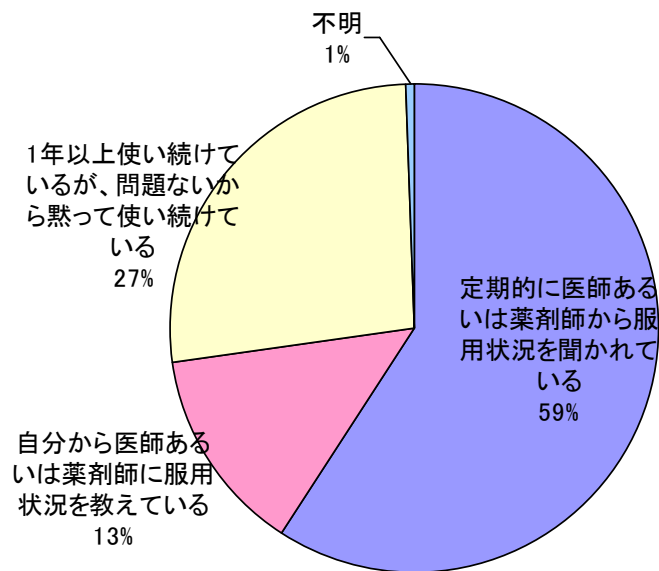
Q17. 1年以上使い続けている薬の有無



Q17SQ. 1年以上使い続けている薬の定期的な確認

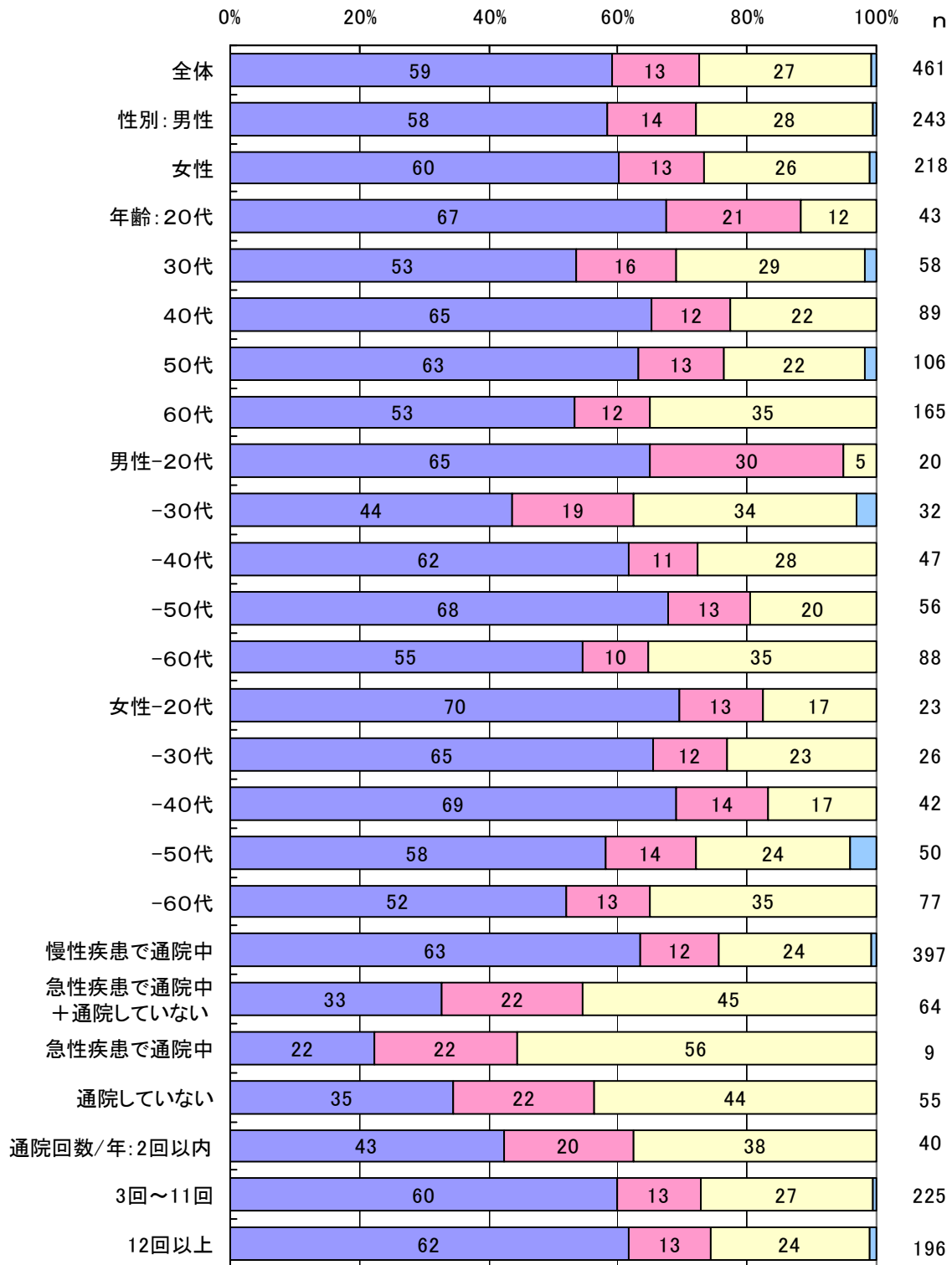
Q17SQ. 【Q17で「1.ある」を選んだ方】1年以上使い続けている薬について定期的な確認はしていますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(〇はひとつ)

1. 定期的に医師あるいは薬剤師から服用状況を聞かれている。
2. 自分から医師あるいは薬剤師に服用状況を教えている。
3. 1年以上使い続けているが、問題ないから黙って使い続けている。



n = 461

Q17SQ. 1年以上使い続けている薬の定期的な確認



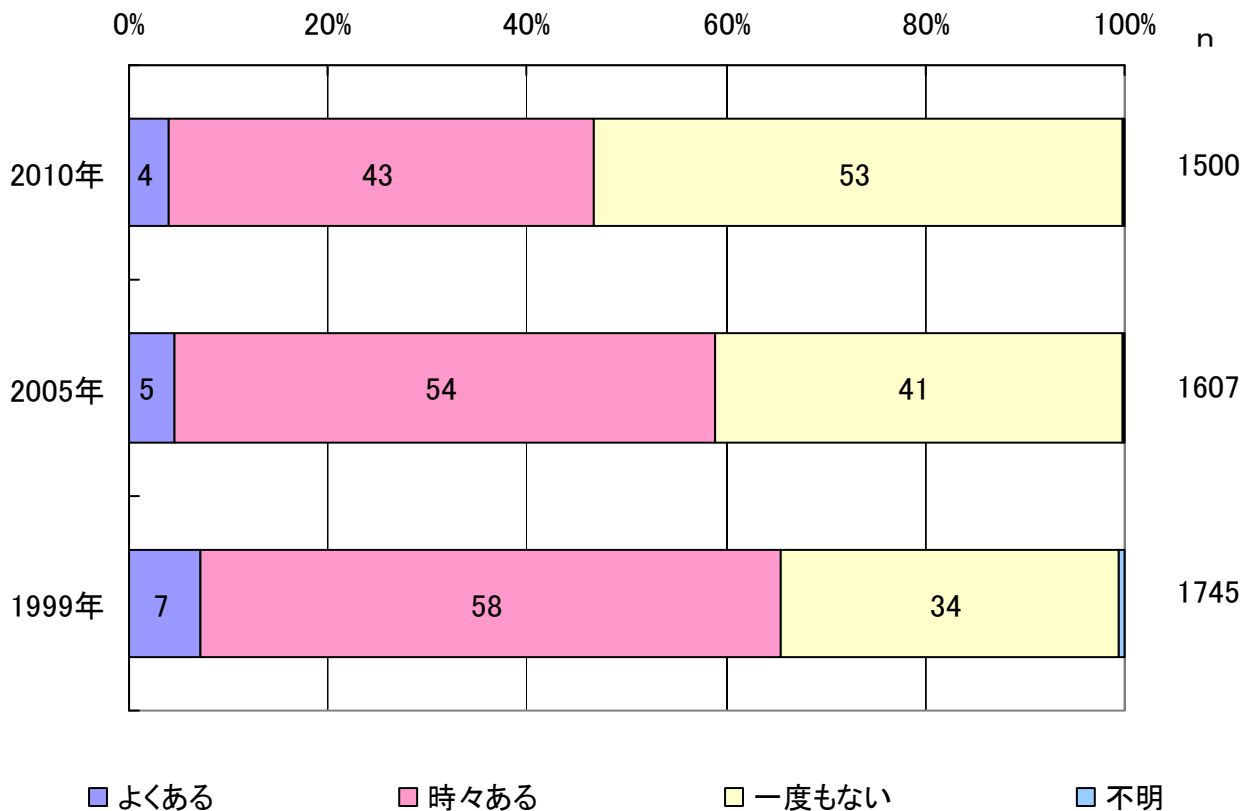
- 定期的に医師あるいは薬剤師から服用状況を聞かれている
- 自分から医師あるいは薬剤師に服用状況を教えている
- 1年以上使い続けているが、問題ないから黙って使い続けている
- 不明

Q18. 処方薬に対する不安

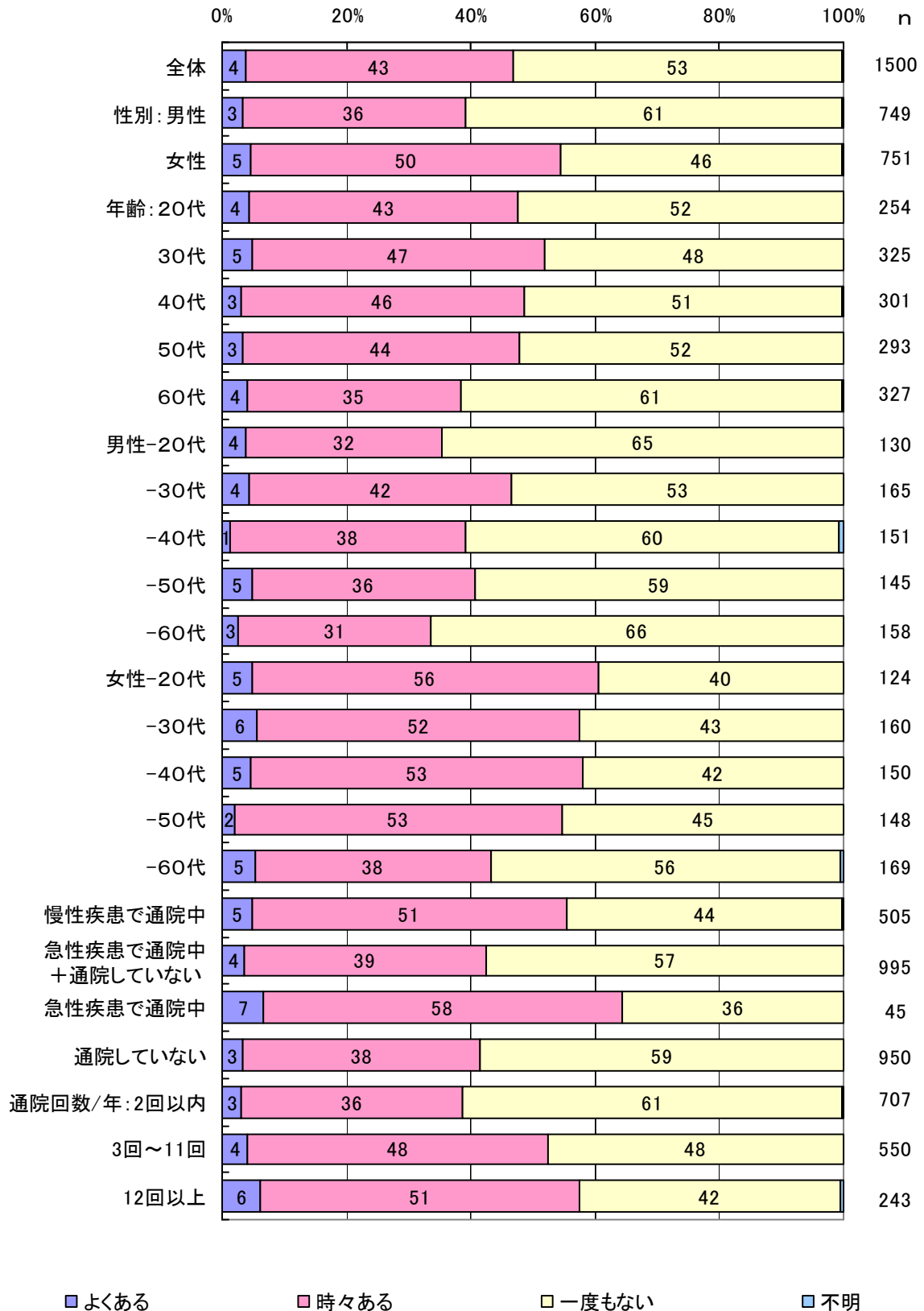
処方薬に関する不安に思うことが「よくある」は4%、「時々ある」は43%で、合計47%が不安を感じた事があると回答している。1999年の7%、58%、2005年の5%、54%と比較し、徐々に不安が減少する傾向がみられる。性別では男性がそれぞれ3%、36%であるのに対し、女性は5%、50%と女性の方が不安を感じる割合が高い。また年代別では60代でそれぞれ4%、35%と全体を下回っているのが特徴的である。通院回数別では通院回数が多いほど不安が高い傾向が見られた。

Q18. あなたは、医師が処方した薬について、不安に思ったことはありますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. よくある
2. 時々ある
3. 一度もない



Q18. 処方薬に対する不安



意思の反映状況別にみた「処方薬に対する不安」

処方薬に対する不安のある人(よくある、時々ある)の割合は、治療に自分の意思が反映されていると思わない人で高くなった。

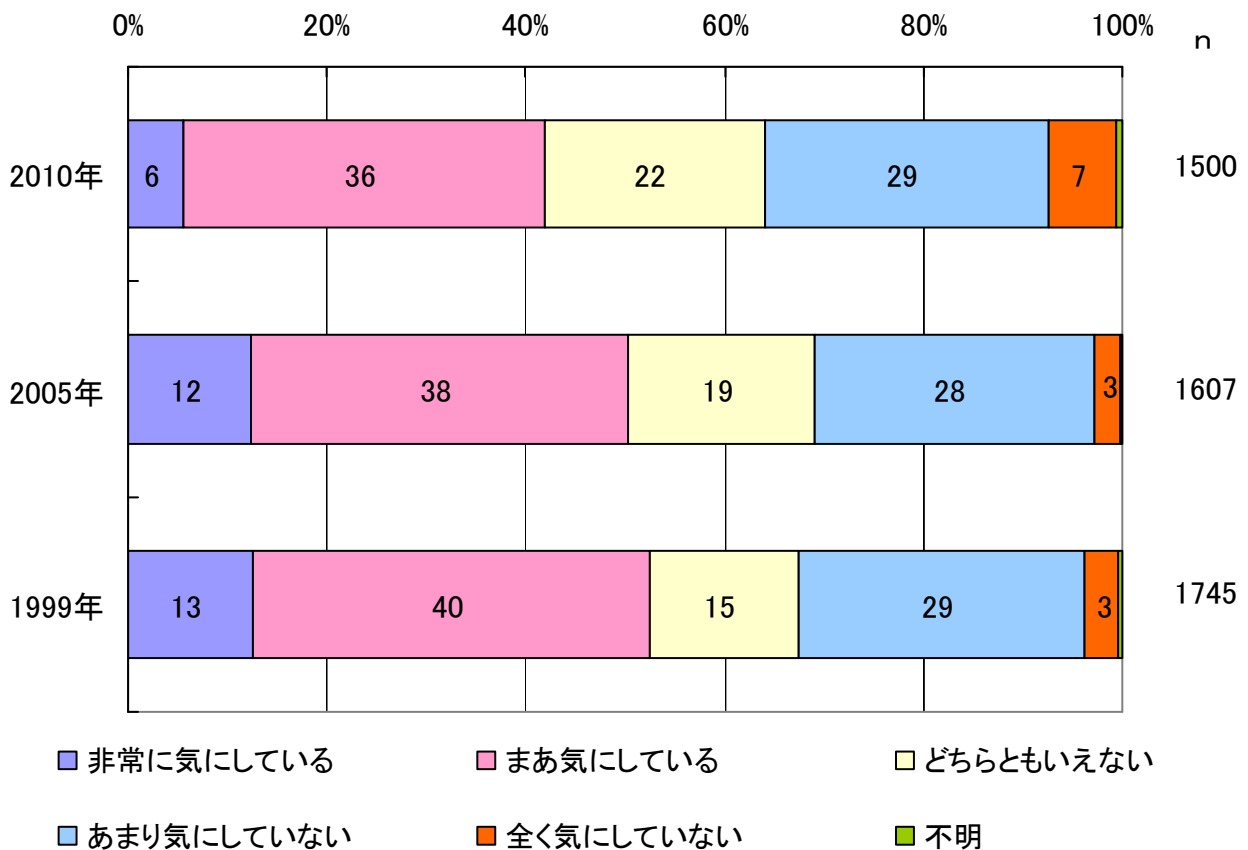
		Q18 処方薬に対する不安				n
		よくある	時々ある	一度もない	不明	
(%)	全体	4	43	53	0	1500
Q5治療に自分の意思が反映されていたか	思う	3	40	57	0	738
	思わない	10	56	34	0	199
	わからない	3	41	55	0	563

Q19. 副作用に対する不安

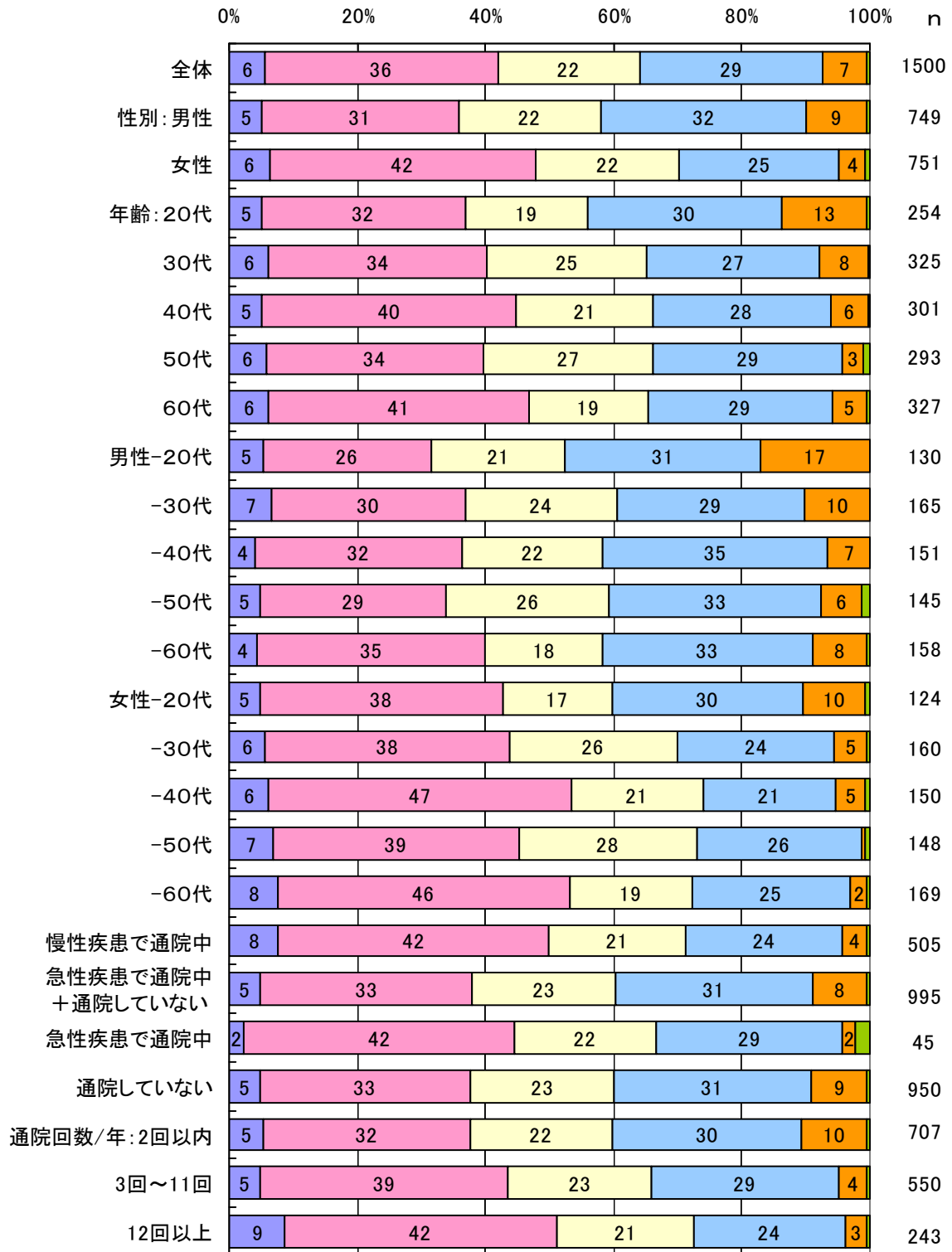
副作用を「非常に気にしている」は6%、「まあ気にしている」は36%で合計42%が気にしていると回答している。1999年の13%、40%、2005年の12%、38%と比較すると、少しずつではあるが減少傾向にある。性別では男性が5%、31%であるのに対し、女性では6%、42%と女性の方が不安を感じる割合が高い。

Q19. あなたは、医師が処方した薬を使うとき、副作用をどの程度気にしていますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. 非常に気にしている
2. まあ気にしている
3. どちらともいえない
4. あまり気にしていない
5. 全く気にしていない



Q19. 副作用に対する不安



- 非常に気にしている
- まあ気にしている
- どちらともいえない
- あまり気にしていない
- 全く気にしていない
- 不明

意思の反映状況別にみた「副作用に対する不安」

副作用に対する不安のある人(非常に、まあ気にしている)の割合は、治療に自分の意思が反映されていると思わない人で高くなった。

		Q19 副作用に対する不安						n
(%)		非常に気にしている	まあ気にしている	どちらともいえない	あまり気にしていない	全く気にしていない	不明	
	全体	6	36	22	29	7	1	1500
Q5治療に自分の意思が反映されていたか	思う	6	36	21	30	6	1	738
	思わない	9	44	19	22	5	1	199
	わからない	4	34	25	28	8	0	563

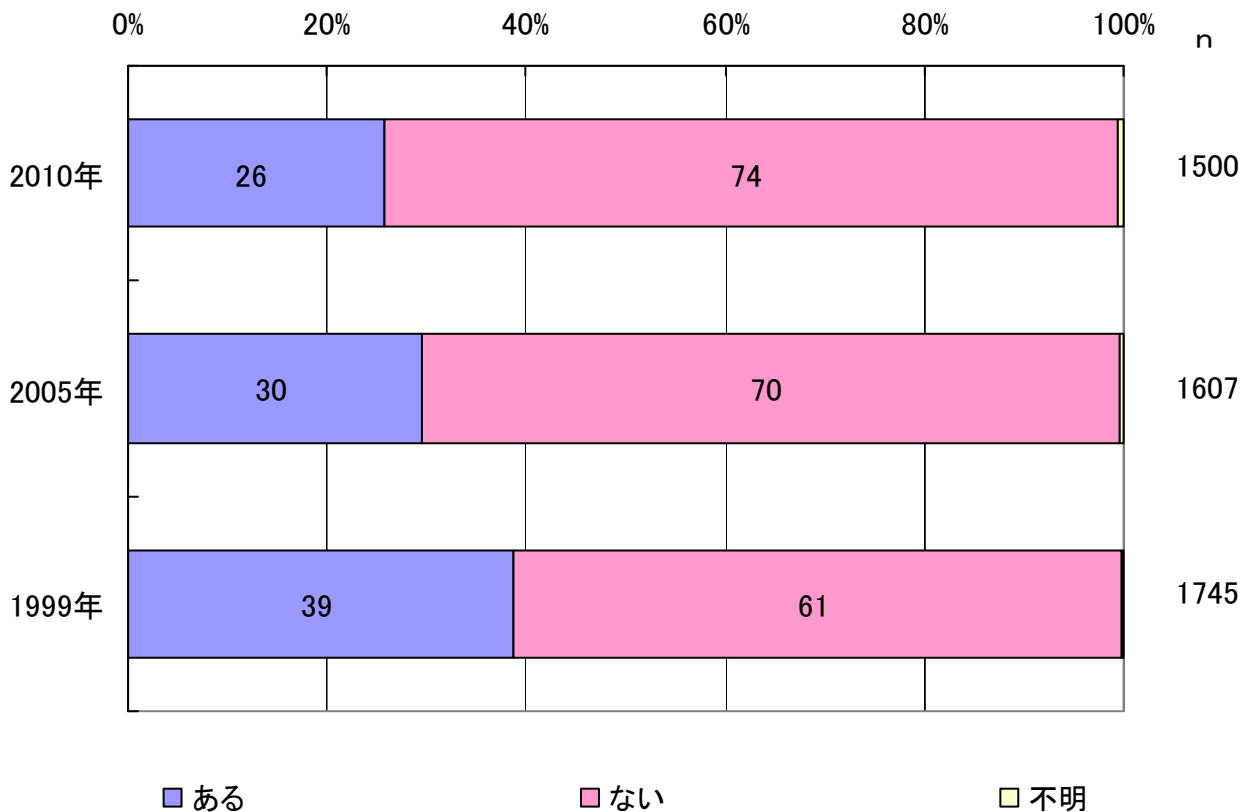
Q20. 処方薬による副作用の経験

副作用の経験が「ある」は26%で、1999年の39%、2005年の30%から減少傾向にある。「慢性疾患で通院中」は38%で、それ以外の人20%を大きく上回った。また通院回数が多くなるほど副作用の経験が高くなる傾向が見られた。

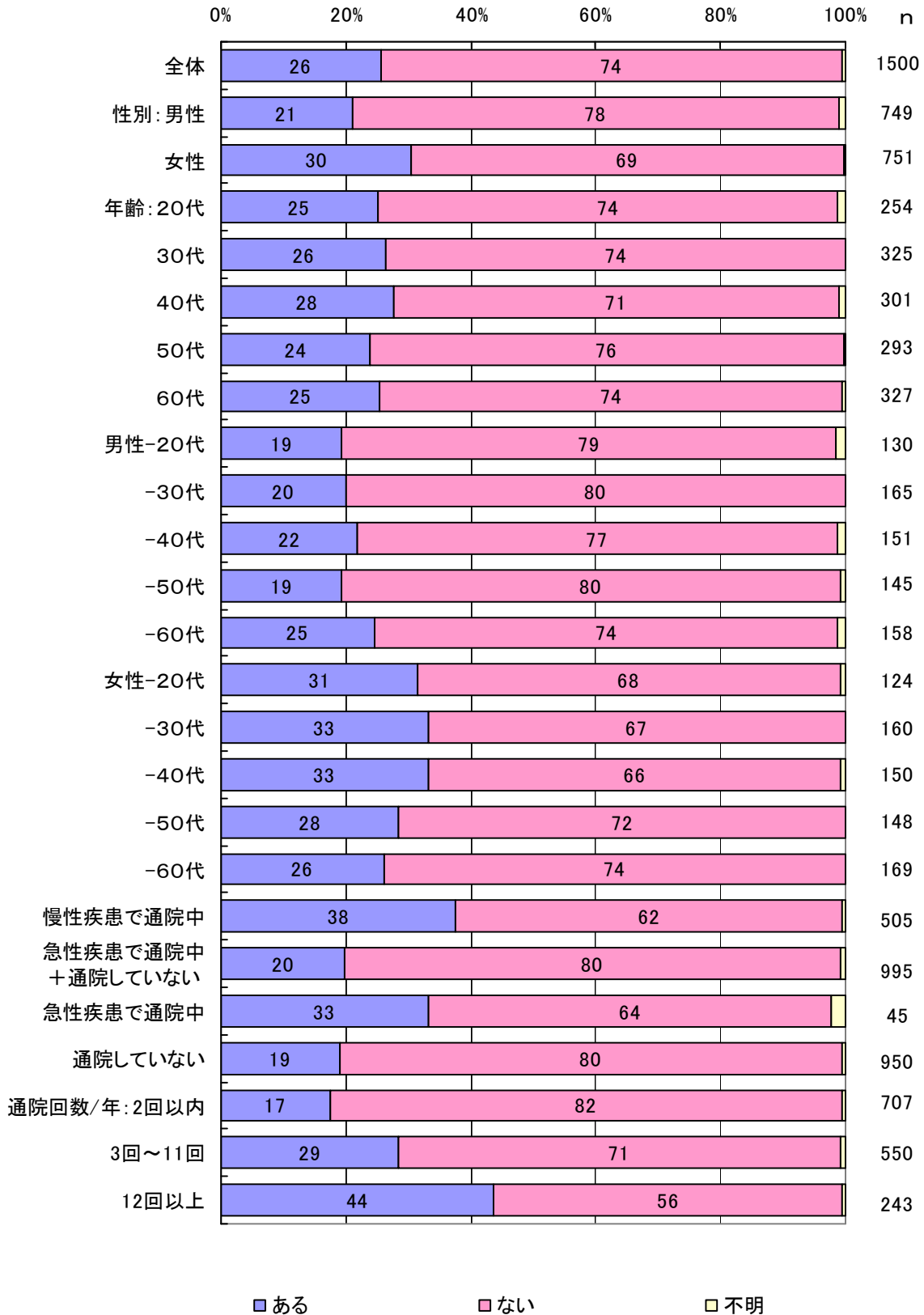
副作用が出たときに「医師に相談した」が67%、「薬をのむのをやめた」が24%、「インターネットで調べた」が20%である。2005年の74%、40%、8%と比較し、「インターネットで調べた」の割合が増加しているが、これもQ14同様に調査手法の変更も1つの要因として考えられる。また通院回数が多いほど、医師に相談したり、インターネットで調べる傾向が見られた。

Q20. あなたは、過去に医師が処方した薬の副作用と思われる経験をしたことがありますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. ある
2. ない



Q20. 処方薬による副作用の経験

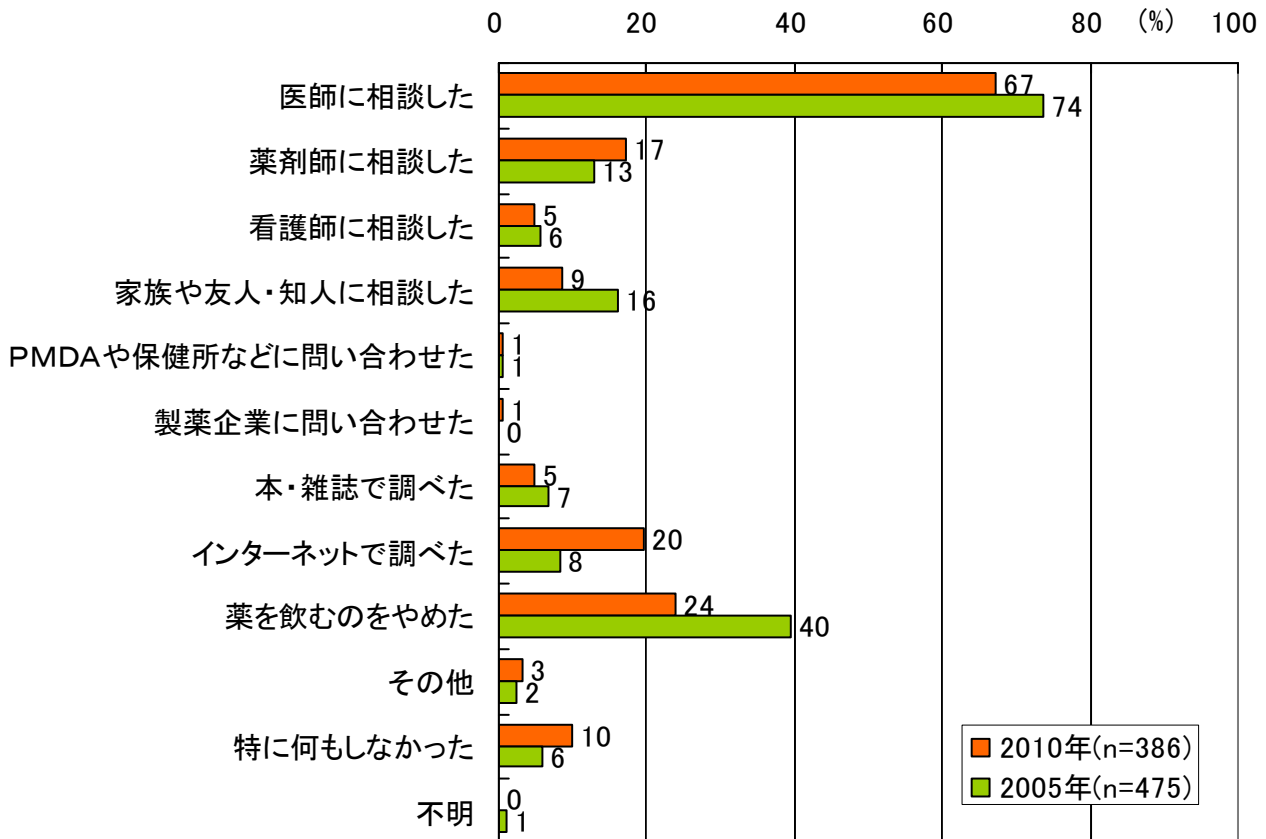


Q20SQ. 処方薬による副作用発現時の対応

Q20SQ. 【Q20で「1.ある」を選んだ方】

あなたは、医師が処方した薬の副作用が出たと思われた時に、どのようにしましたか。(〇はいくつでも)

1. 医師に相談した
2. 薬剤師に相談した
3. 看護師に相談した
4. 家族や友人・知人に相談した
5. PMDAや保健所などに問い合わせた
6. 製薬企業に問い合わせた
7. 本・雑誌で調べた
8. インターネットで調べた
9. 薬を飲むのをやめた
10. その他()
11. 特に何もしなかった



Q20SQ. 処方薬による副作用発現時の対応

(%)	医師に相談した	薬剤師に相談した	看護師に相談した	家族や友人・知人に相談した	PMDAや保健所などに問い合わせた	製薬企業に問い合わせた	本・雑誌で調べた	インターネットで調べた	薬を飲むのをやめた	その他	特に何もしなかった	不明	n
全体	67	17	5	9	1	1	5	20	24	3	10	0	386
性別 男性	67	18	6	3	1	1	6	19	16	3	12	0	158
女性	67	16	4	12	0	0	4	20	29	3	8	0	228
年齢 20代	50	23	9	11	0	2	0	22	20	3	16	0	64
30代	63	16	3	9	0	0	6	19	23	1	14	0	86
40代	73	18	8	12	0	1	7	30	19	4	6	0	83
50代	73	17	4	7	1	0	7	19	31	3	6	0	70
60代	73	12	0	4	1	0	4	10	25	5	8	1	83
男性 - 20代	44	24	16	0	0	4	0	24	8	4	8	0	25
- 30代	61	24	6	3	0	0	9	12	15	3	21	0	33
- 40代	73	9	9	6	0	3	6	30	21	0	9	0	33
- 50代	68	25	4	7	4	0	11	29	18	4	11	0	28
- 60代	82	13	0	0	0	0	5	5	15	5	10	0	39
女性 - 20代	54	23	5	18	0	0	0	21	28	3	21	0	39
- 30代	64	11	2	13	0	0	4	23	28	0	9	0	53
- 40代	74	24	8	16	0	0	8	30	18	6	4	0	50
- 50代	76	12	5	7	0	0	5	12	40	2	2	0	42
- 60代	66	11	0	7	2	0	2	14	34	5	7	2	44
慢性疾患で通院中	77	18	4	9	1	1	5	22	21	3	7	0	190
急性疾患で通院中 +通院していない	58	16	6	8	0	0	5	17	27	4	12	1	196
急性疾患で通院中 通院していない	53	33	13	13	0	0	7	27	40	0	0	0	15
通院回数/年: 2回以内	53	15	5	6	0	0	5	17	25	7	14	1	123
3回~11回	69	18	5	11	1	1	3	16	28	1	10	0	157
12回以上	80	19	5	8	1	0	8	28	16	2	6	0	106

意思の反映状況別にみた「処方薬による副作用の経験」

		Q20 処方薬による副作用の経験			
		あ る	な い	不 明	n
(%)					
全体		26	74	1	1500
Q5治療に自分の 意思が反映されて いたか	思う	27	72	1	738
	思わない	32	67	1	199
	わからない	21	78	0	563

1年以上使っている薬の有無別にみた「処方薬による副作用の経験」

処方薬による副作用の経験がある人の割合は、1年以上使い続けている薬がある人で高くなった。

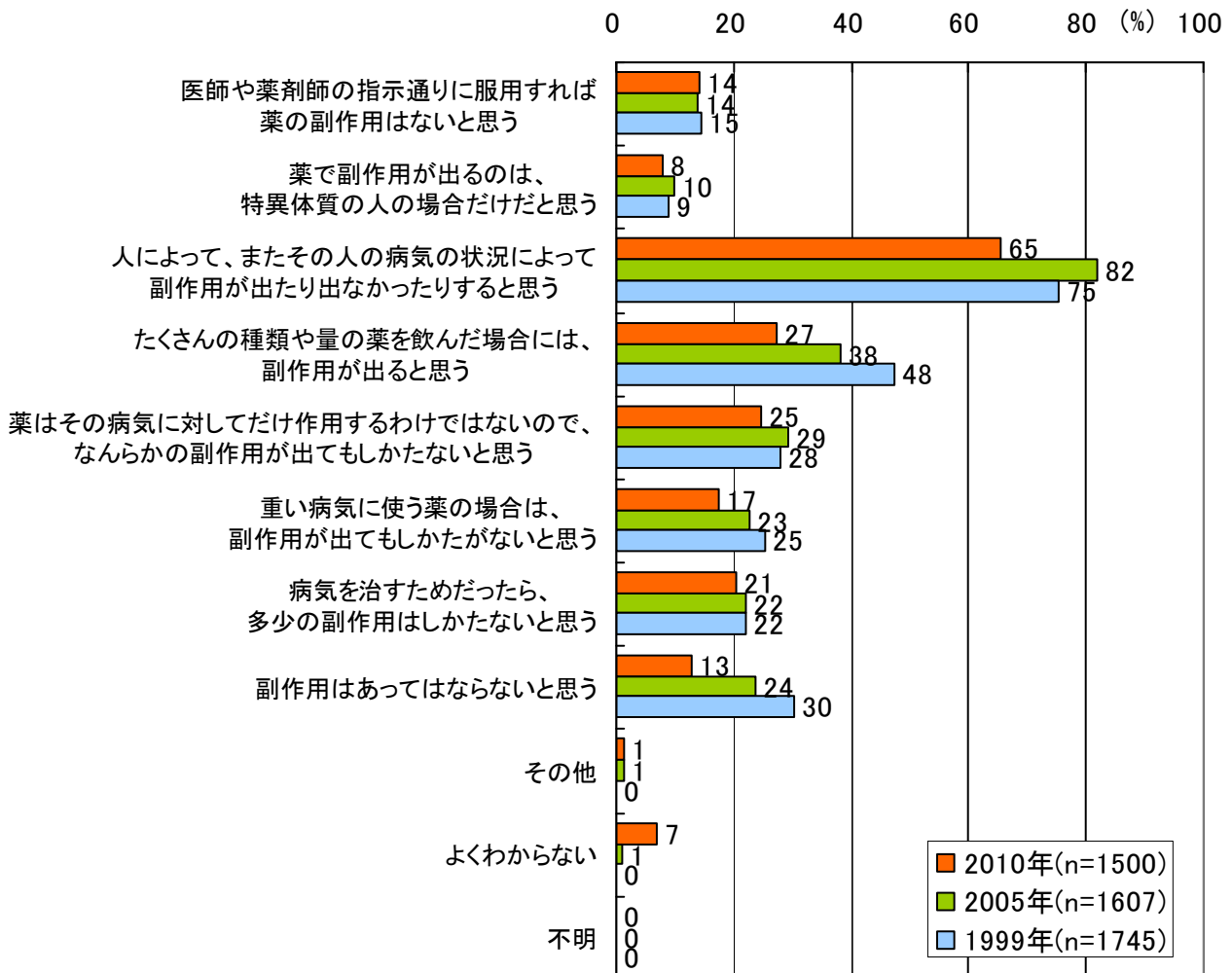
		Q20 処方薬による副作用の経験			
		あ る	な い	不 明	n
(%)					
全体		26	74	1	1500
Q17 1年以上使っ ている薬の有無	ある	39	61	1	461
	ない	20	80	1	1033

Q21. 処方薬による副作用についての考え

処方薬の副作用について「人によって、またその人の病気の状況によって副作用が出たり出なかったりと思う」が65%、「たくさんの種類や量の薬を飲んだ場合には、副作用が出ると思う」が27%、「薬はその病気に対してだけ作用するわけではないので、なんらかの副作用が出てもしかたないと思う」が25%であった。2005年の82%、38%、29%と同じ傾向ではあるが、回答率は減少した。また通院回数が多いほど副作用の発生に受容的な回答が多く見られた。

Q21. あなたは、医師が処方した薬の副作用について、どうお考えですか。(○はいくつでも)

1. 医師や薬剤師の指示通りに服用すれば薬の副作用はないと思う
2. 薬で副作用が出るのは、特異体質の人の場合だけだと思う
3. 人によって、またその人の病気の状況によって副作用が出たり出なかったりと思う
4. たくさんの種類や量の薬を飲んだ場合には、副作用が出ると思う
5. 薬はその病気に対してだけ作用するわけではないので、なんらかの副作用が出てもしかたないと思う
6. 重い病気に使う薬の場合は、副作用が出てもしかたがないと思う
7. 病気を治すためだったら、多少の副作用はしかたないと思う
8. 副作用はあってはならないと思う
9. その他()
10. よくわからない



Q21. 処方薬による副作用についての考え

(%)	医師の副作用や薬剤師の指示通りに服用すれば	薬の場合だけだと思ふ	薬の副作用が出るのは、特異体質の人	人によって、またその人の病気の状況	に、副作用が出ると思ふ	たくさん種類や量の薬を飲んだ場合	出てもおかしくないと思ふ	薬はその病気に對してだけ作用するわけでもない	重い病気に使う薬の場合、副作用が出てもおかしくないと思ふ	病気を治すためだったら、多少の副作用は仕方ないと思ふ	副作用はあつてはならないと思ふ	その他	よくわからない	不明	n
全体	14	8	65	27	25	17	21	13	1	7	0	1500			
性別															
男性	16	8	60	28	24	19	21	12	2	8	0	749			
女性	12	8	70	26	25	16	20	13	1	6	0	751			
年齢															
20代	18	12	56	23	24	20	24	10	2	11	0	254			
30代	15	6	69	22	25	18	20	9	0	7	0	325			
40代	11	7	70	29	27	17	23	11	1	7	0	301			
50代	12	8	68	28	25	16	17	13	2	4	0	293			
60代	16	7	63	34	23	17	19	20	2	6	0	327			
男性 - 20代	19	8	55	22	25	23	27	9	2	14	0	130			
- 30代	18	7	58	25	23	18	18	8	0	12	0	165			
- 40代	12	7	65	32	23	19	23	12	1	7	0	151			
- 50代	12	10	64	28	27	18	20	8	3	5	1	145			
- 60代	20	8	59	32	25	15	20	23	3	4	0	158			
女性 - 20代	17	15	58	23	23	17	20	11	1	8	0	124			
- 30代	12	4	80	19	26	18	23	10	1	3	1	160			
- 40代	9	8	75	25	31	15	23	10	2	7	0	150			
- 50代	12	6	72	28	24	14	14	18	1	3	0	148			
- 60代	12	6	66	36	21	18	18	17	1	8	0	169			
慢性疾患で通院中	14	8	69	27	29	19	23	17	3	4	0	505			
急性疾患で通院中	14	8	63	27	22	16	19	11	1	8	0	995			
+通院していない	18	16	56	40	33	18	29	18	0	0	0	45			
急性疾患で通院中	14	7	64	27	22	16	19	10	1	9	0	950			
通院していない	14	7	60	27	20	16	16	10	1	10	0	707			
通院回数/年: 2回以内	14	7	60	27	20	16	16	10	1	10	0	707			
3回~11回	14	8	70	28	26	18	24	14	1	5	0	550			
12回以上	16	8	72	26	33	22	26	18	3	3	0	243			

処方薬の説明方法別に見た「処方薬による副作用についての考え」

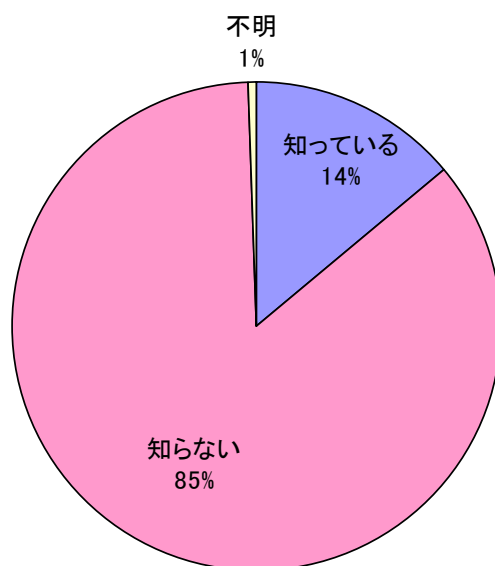
		Q21 処方薬による副作用についての考え										n	
		医師や薬剤師の指示通りに服用すれば薬の副作用はないと思う	薬で副作用が出るのは、特異体質の人の場合だけだと思う	人によって、またその人の病気の状況によって副作用が出たり出なかつたりすると思う	たくさんさんの種類や量の薬を飲んだ場合には、副作用が出ると思う	薬はその病気に対してだけ作用するわけではないので、なんらかの副作用が出てもしかたないと思う	重い病気に使う薬の場合は、副作用が出てもしかたがないと思う	病気を治すためだったら、多少の副作用はしかたないと思う	副作用はあつてはならないと思う	その他	よくわからない	不明	
(%)													
	全体	14	8	65	27	25	17	21	13	1	7	0	1500
Q8SQ3処方薬の説明方法	口頭のみでの説明	17	8	57	26	23	17	17	15	2	11	0	289
	印刷物を持ちいての説明	14	8	57	23	18	13	20	11	0	7	0	335
	印刷物を持ちいての説明があり、印刷物ももらった	14	8	74	30	28	20	23	12	2	4	0	727
	口頭での説明がなく、印刷物を渡されただけ	0	10	62	24	19	19	24	29	0	5	0	21

Q22. 医薬品副作用被害救済制度の認知

国の医薬品副作用被害救済制度を「知っている」は14%、「知らない」は85%であり、救済制度の認知度が低いことがわかる。また「急性疾患で通院中」の人、通院回数が多い人ほど救済制度について知っている割合が高い。

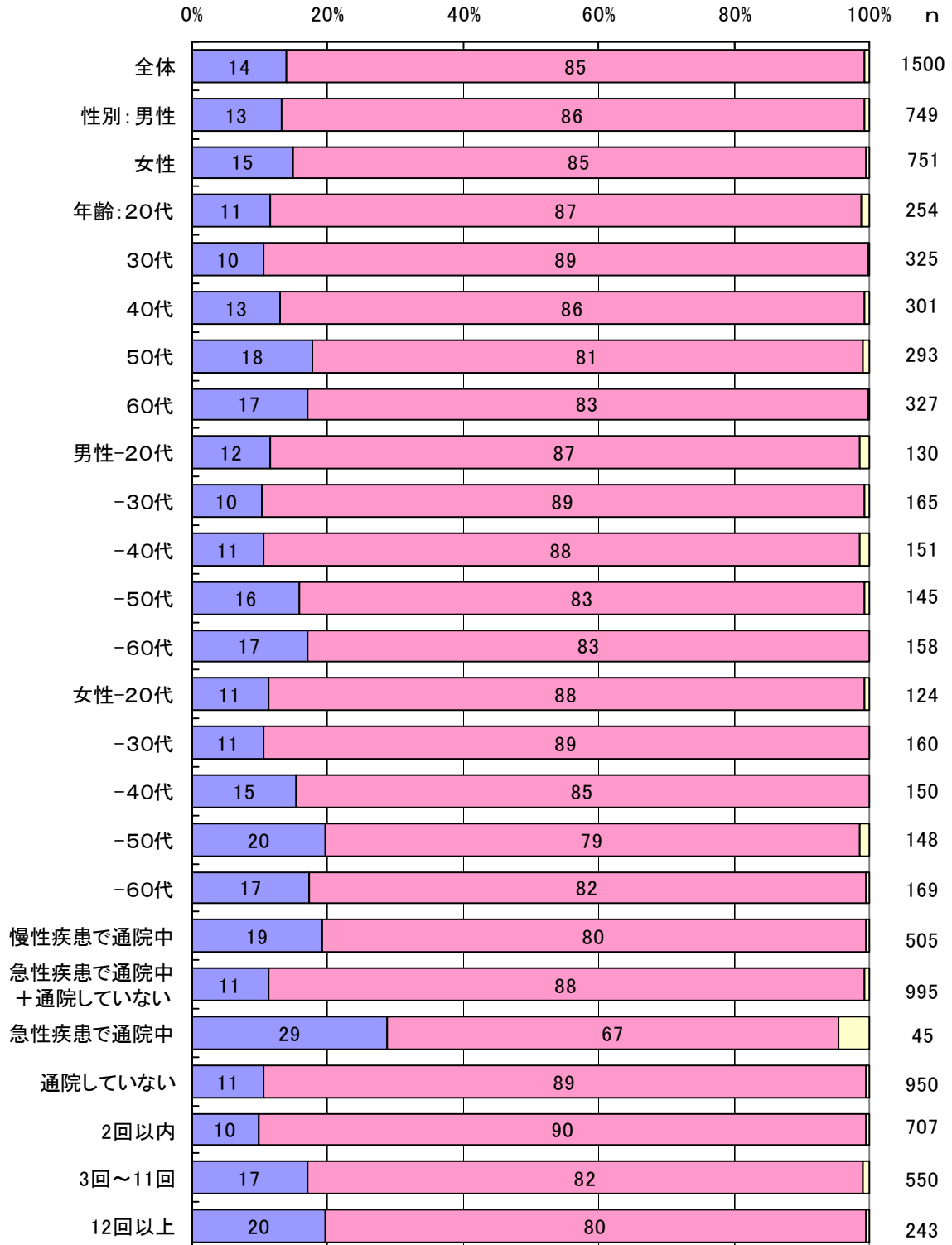
Q22. 国の医薬品副作用被害救済制度があることを知っていますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。
(○はひとつ)

1. 知っている
2. 知らない



n = 1500

Q22. 医薬品副作用被害救済制度の認知



□ 知っている

□ 知らない

□ 不明

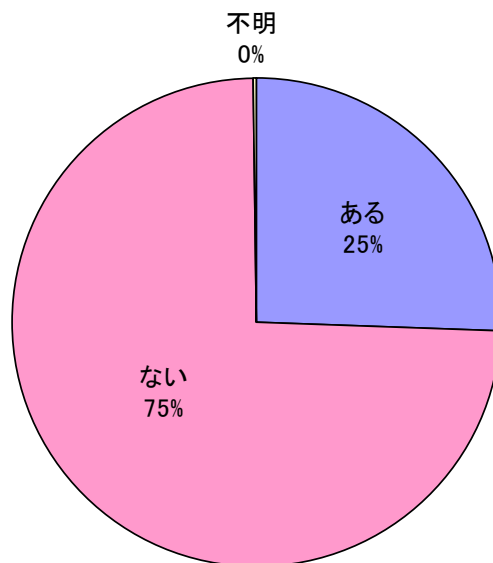
Q23. 市販薬購入の際の相談有無

市販薬の購入時に薬剤師などに相談したことが「ある」は25%、「ない」は75%であった。「ある」は女性が30%で男性21%に比べ9ポイント高く、年代別では20代で14%と低くなった。また通院回数が多いほど相談する傾向が見られる。

相談の結果「自分に合う薬を選択できた」が47%、「症状などを聞いてくれて、薬の使い方がわかった」が67%である。20代ではそれぞれ69%、63%、60代では35%、74%であり、年代により感想が異なっている。

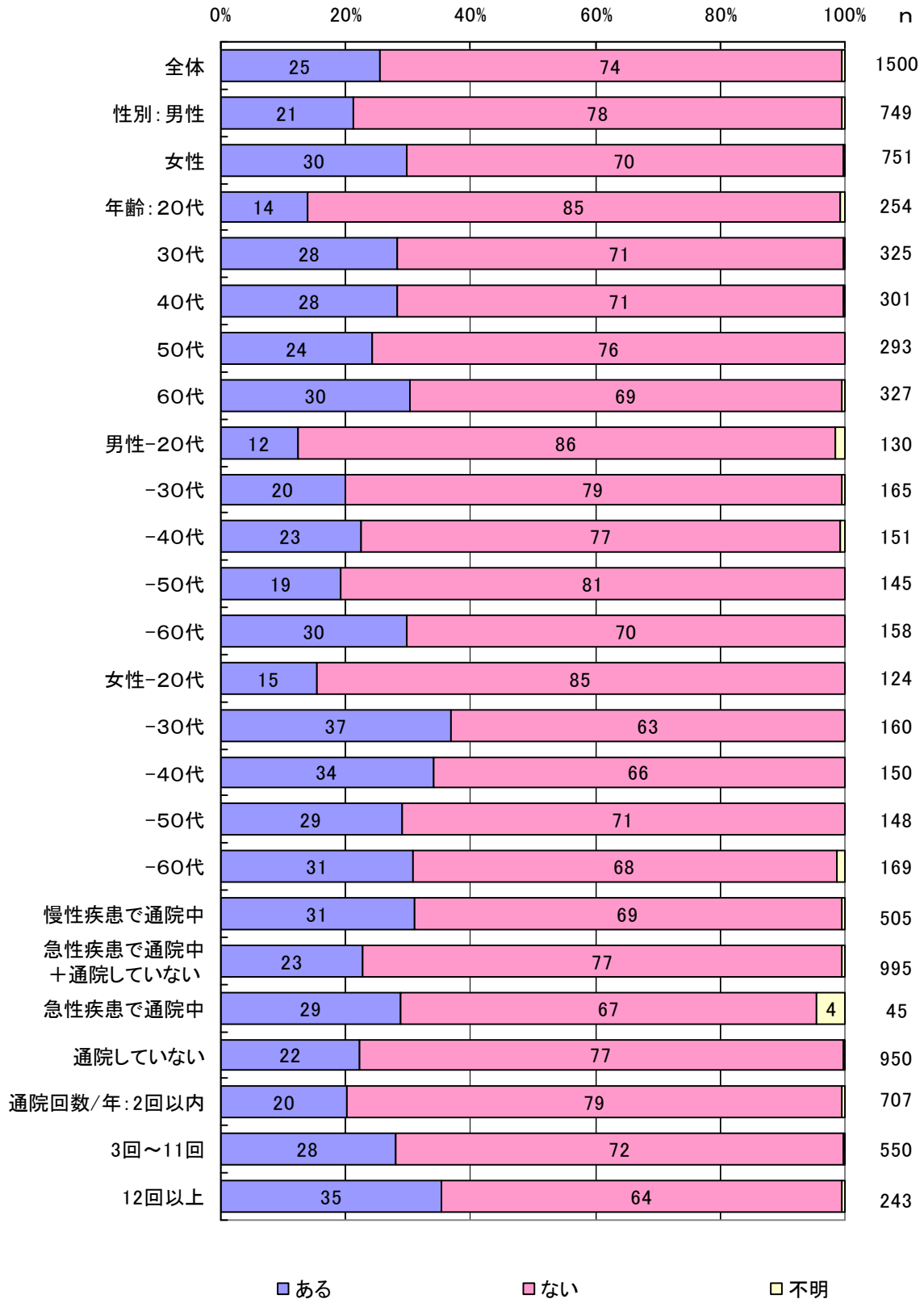
Q23. あなたは、過去に市販の薬(一般用医薬品)を買うにあたり、薬剤師や登録販売者に相談したことがありますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. ある
2. ない



n = 1500

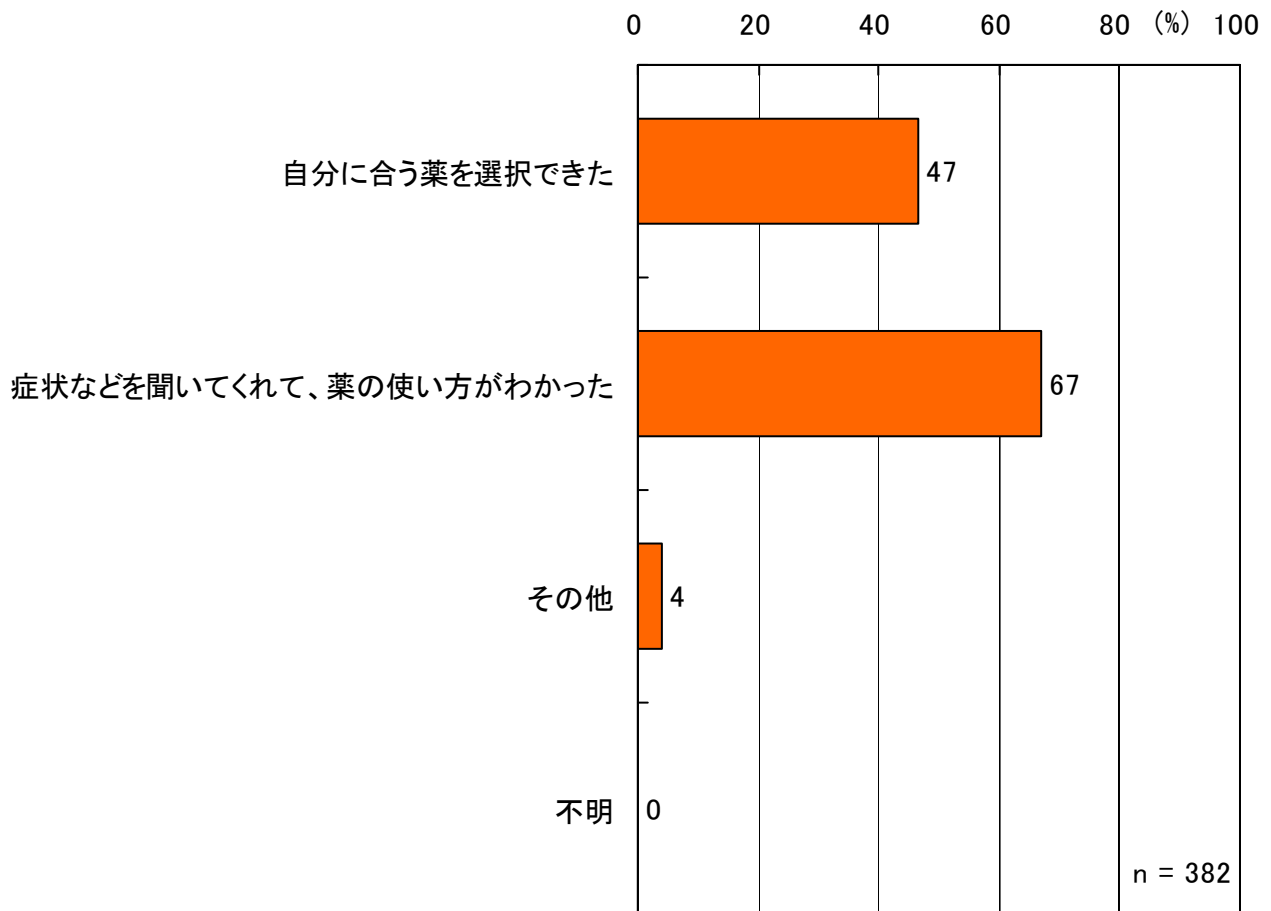
Q23. 市販薬購入の際の相談有無



Q23SQ1. 市販薬購入の際の相談結果

Q23SQ1. 【Q23 で「1.ある」を選んだ方】薬剤師や登録販売者に相談の結果、どう思いましたか。(〇はいくつでも)

1. 自分に合う薬を選択できた。
2. 症状などを聞いてくれて、薬の使い方がわかった。
3. その他()



Q23SQ1. 市販薬購入の際の相談結果

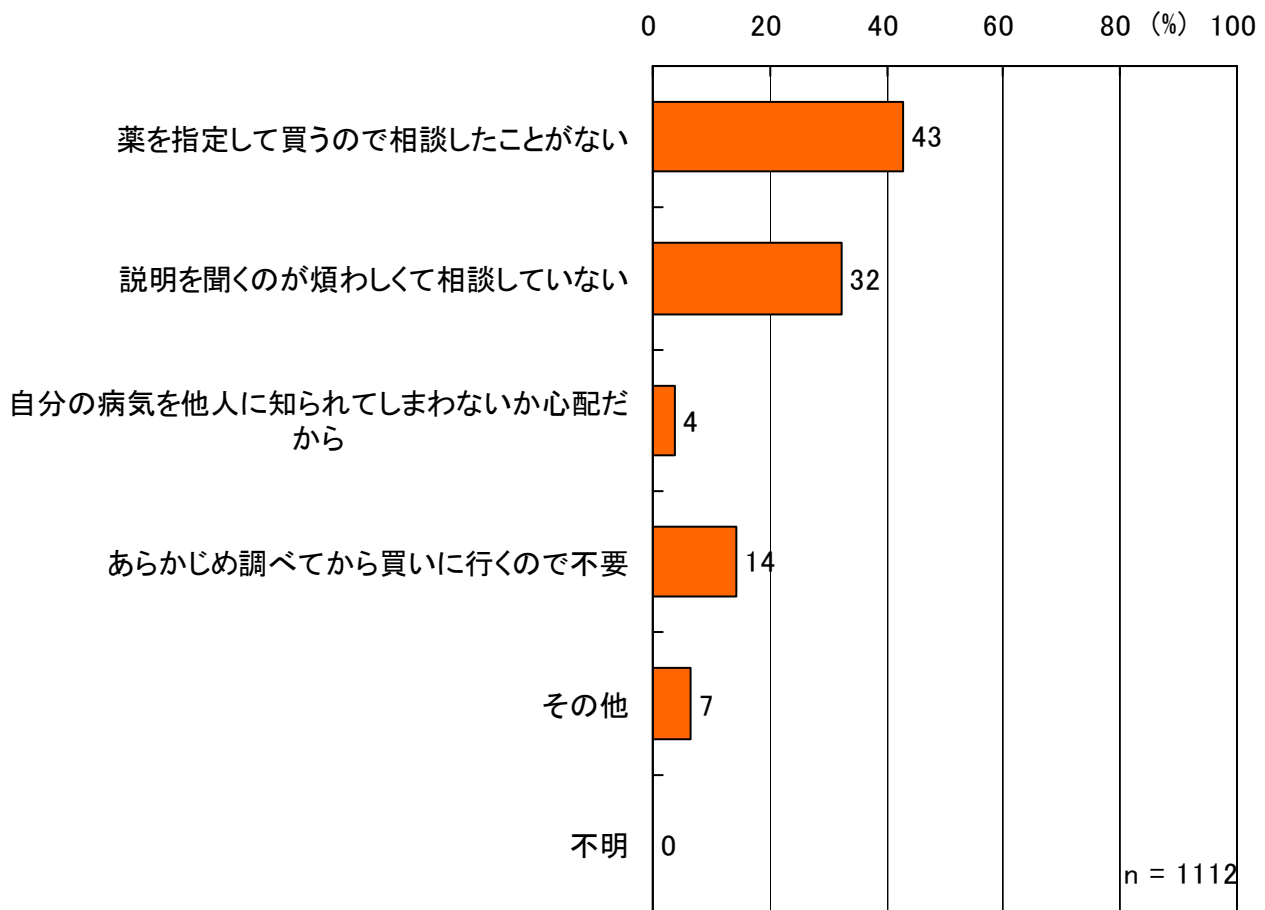
(%)	自分に合う薬を選択できた	の症状などがわかって、薬	その他	不明	n
全体	47	67	4	0	382
性別 男性	52	62	2	1	158
女性	43	71	5	0	224
年齢 20代	69	63	3	0	35
30代	52	61	4	1	92
40代	45	69	5	0	85
50代	46	65	6	0	71
60代	35	74	2	0	99
男性 - 20代	81	38	0	0	16
- 30代	70	52	0	3	33
- 40代	41	65	6	0	34
- 50代	36	79	4	0	28
- 60代	47	66	0	0	47
女性 - 20代	58	84	5	0	19
- 30代	42	66	7	0	59
- 40代	47	73	4	0	51
- 50代	53	56	7	0	43
- 60代	25	81	4	0	52
慢性疾患で通院中	48	66	4	0	157
急性疾患で通院中 +通院していない	46	68	4	0	225
急性疾患で通院中 通院していない	54	54	8	0	13
通院回数/年:2回以内	49	65	4	1	142
3回~11回	44	68	4	0	154
12回以上	48	69	3	0	86

Q23SQ2. 市販薬購入の際に相談しない理由

薬剤師や登録販売者に相談しない理由は、「薬を指定して買うので相談したことがない」が 43%、「説明を聞くのが煩わしくて相談していない」が 32%である。通院回数が少ないほど、相談することに煩わしさを感じる傾向が見られる。

Q23SQ2. 【Q23 で「2.ない」を選んだ方】薬剤師や登録販売者に相談しないのは、どうしてですか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. 薬を指定して買うので相談したことがない。
2. 説明を聞くのが煩わしくて相談していない。
3. 自分の病気を他人に知られてしまわないか心配だから。
4. あらかじめ調べてから買いに行くので不要。
5. その他()



Q23SQ2. 市販薬購入の際に相談しない理由

(%)	薬を指定して買わないので相談したことがない	説明を聞くのが煩わしく相談しない	自分の病気を他人に知られてしまわないか心配だから	あらかじめ行く調べてから買いかじめる必要	その他	不明	n
全体	43	32	4	14	7	0	1112
性別 男性	41	36	4	14	6	0	587
女性	45	28	4	15	7	0	525
年齢 20代	35	41	3	17	4	0	217
30代	40	35	8	11	5	0	232
40代	43	31	4	16	6	0	215
50代	45	32	3	12	8	0	222
60代	50	23	2	15	10	0	226
男性 - 20代	35	46	3	14	3	0	112
- 30代	37	37	10	11	5	0	131
- 40代	39	35	3	17	6	0	116
- 50代	41	40	2	9	8	0	117
- 60代	52	23	0	16	9	0	111
女性 - 20代	35	36	4	19	5	1	105
- 30代	45	33	5	11	6	1	101
- 40代	48	25	5	15	6	0	99
- 50代	50	24	4	14	8	0	105
- 60代	48	23	3	15	11	0	115
慢性疾患で通院中 急性疾患で通院中 +通院していない	43	27	3	17	9	0	346
急性疾患で通院中 通院していない	43	35	4	13	5	0	766
慢性疾患で通院中 通院していない	53	37	3	3	3	0	30
通院回数/年:2回以内	41	36	5	14	5	0	562
3回~11回	44	31	3	13	9	0	394
12回以上	48	23	3	20	6	0	156

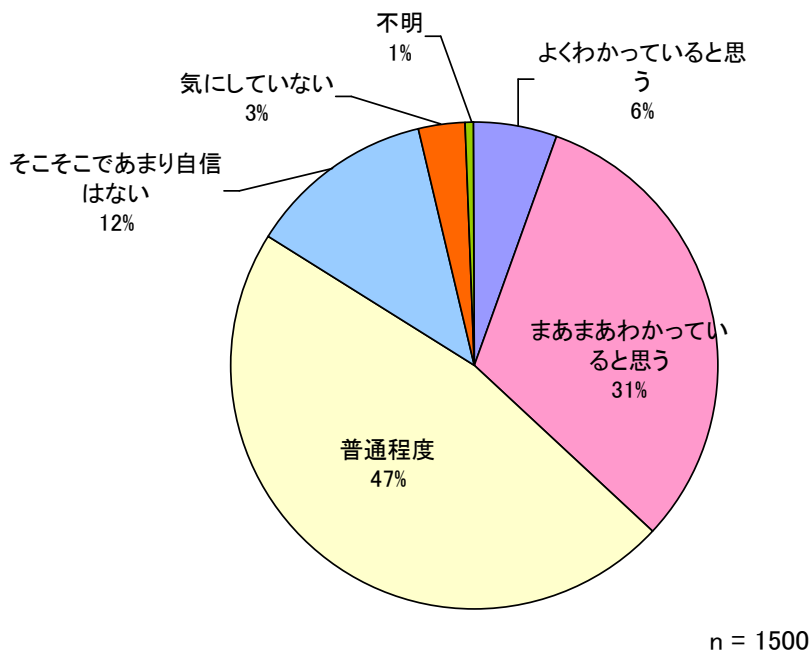
Q24. 使用薬の特性の理解度

使用している薬について「よくわかっていると思う」は 6%、「まあまあわかっていると思う」は 31%で合計 37%が理解していると回答した。年代別では 20 代でそれぞれ 6%、24%、60 代では 6%、38%で高齢者ほど理解度が高い。また「慢性疾患で通院中」では 10%、40%、通院回数「12 回以上」では 12%、47%と薬についてよく理解して使用している割合が高い。

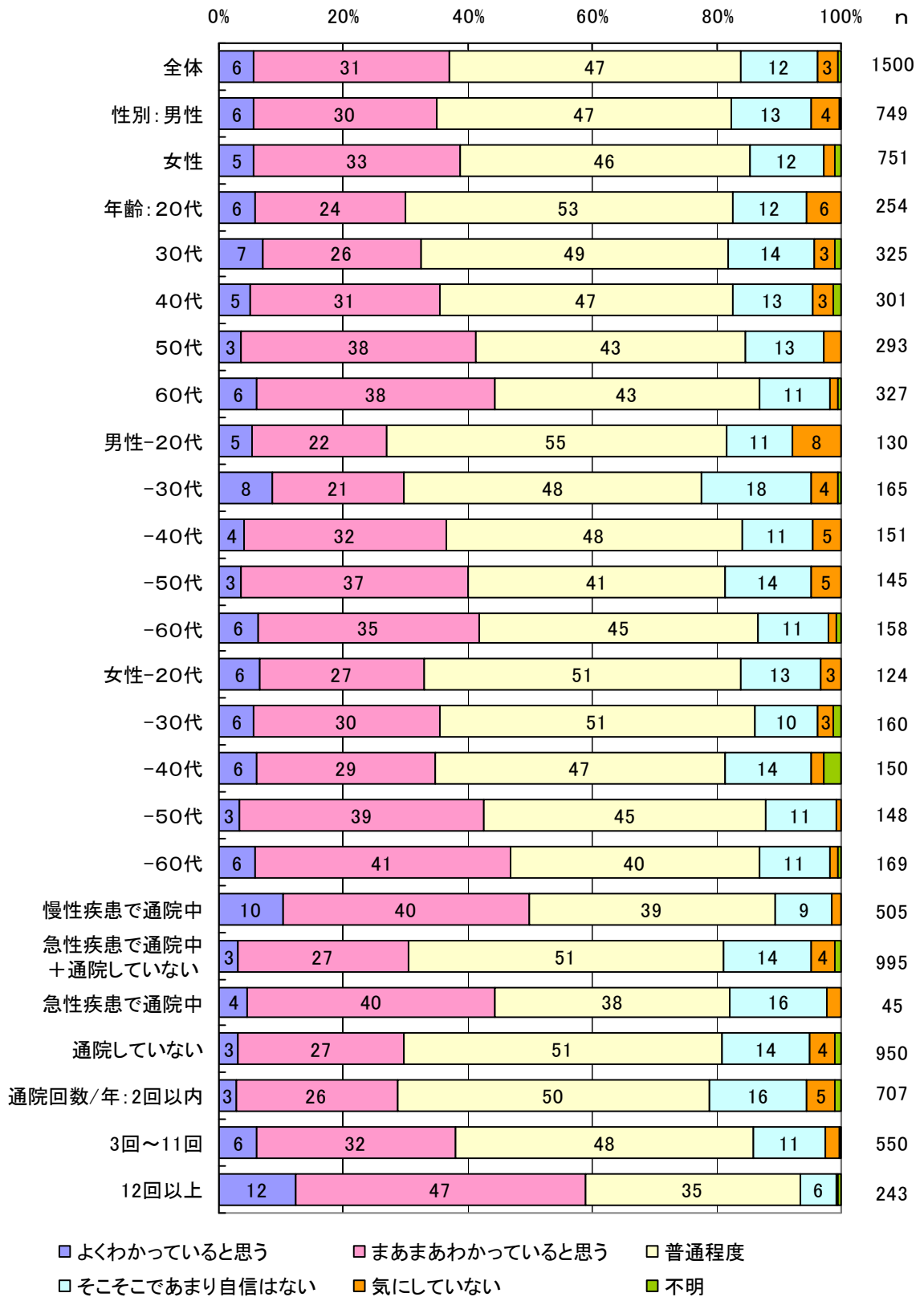
薬の特性に関する知識は「医師、薬剤師、看護師などの専門家から」得たい人は 69%、「インターネットで」が 67%であった。60 代ではそれぞれ 72%、55%で専門家からの割合が高くなったが、その他の年代ではほぼ同じ割合となった。また通院回数が多い人ほど専門家から情報を得ようとする傾向がみられた。

Q24. あなた自身が用いている薬の特性(効き目、副作用、使用法など)についてどの程度理解できていると思いますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. よくわかっていると思う。
2. まあまあわかっていると思う。
3. 普通程度。
4. そこそこあまり自信はない。
5. 気にしていない。



Q24. 使用薬の特性の理解度

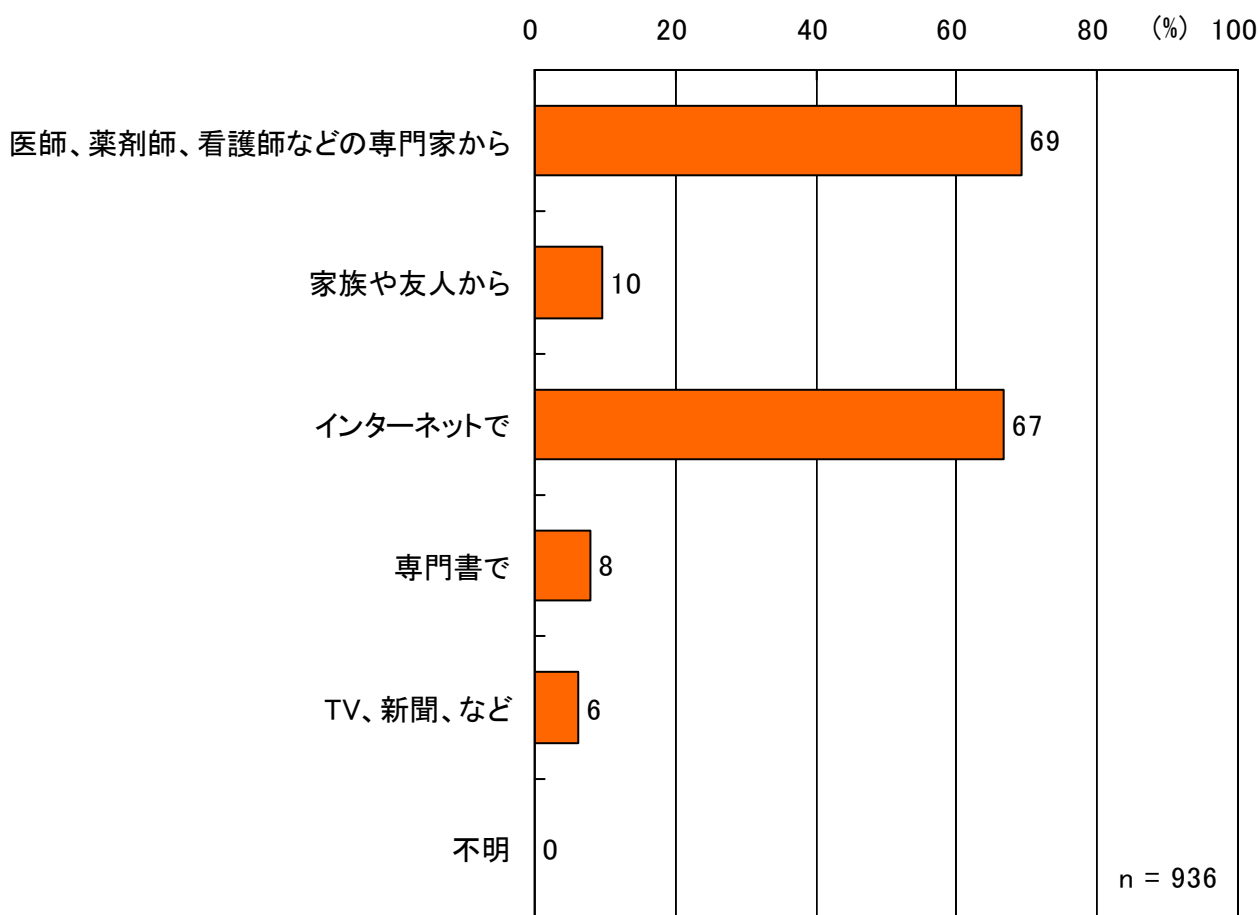


Q24SQ. 使用薬に関する知識の習得方法

Q24SQ. 【Q24 で「1.よくわかっていると思う」、「2.まあまあ分かっていると思う」以外を選んだ方】

これから薬の特性について理解しようとする、どのような方法で知識を得たいと思いますか。(○は
いくつでも)

1. 医師、薬剤師、看護師などの専門家から。
2. 家族や友人から。
3. インターネットで。
4. 専門書で。
5. TV、新聞、など



Q24SQ. 使用薬に関する知識の習得方法

(%)	どの医師、 専門薬剤師、 看護師など から	家族や友人から	インターネットで	専門書で	TV、新聞、 など	不明	n
全体	69	10	67	8	6	0	936
性別 男性	67	8	65	8	6	0	484
女性	71	11	69	7	6	1	452
年齢 20代	62	13	65	8	6	0	178
30代	69	10	71	10	7	0	216
40代	72	9	71	10	6	1	190
50代	70	6	71	6	8	0	172
60代	72	8	55	5	5	1	180
男性 - 20代	58	12	68	6	5	0	95
- 30代	70	10	66	9	6	0	115
- 40代	67	8	61	10	6	0	96
- 50代	62	7	71	8	8	0	87
- 60代	78	3	56	9	7	0	91
女性 - 20代	67	16	61	10	6	0	83
- 30代	67	10	76	11	8	0	101
- 40代	78	11	81	10	5	1	94
- 50代	79	5	71	4	8	0	85
- 60代	66	13	54	1	3	2	89
慢性疾患で通院中	78	9	64	9	4	0	253
急性疾患で通院中 +通院していない	66	10	68	7	7	0	683
急性疾患で通院中 通院していない	76	0	56	24	16	0	25
通院回数/年:2回以内	64	10	68	6	6	0	497
3回~11回	72	8	66	9	6	0	340
12回以上	87	9	61	13	7	0	99

意思の反映状況別にみた「使用薬の特性の理解度」

使用薬の特性について理解している人(よくわかっている、まあまあわかっている)の割合は、治療に自分の意思が反映されていると思う人でたかくなった。

		Q24 使用薬の特性の理解度						n
		よくわかっている	まあまあわかっている	普通程度	そこそこではない	気にしていない	不明	
(%)	全体	6	31	47	12	3	1	1500
Q5治療に自分の意思が反映されていたか	思う	9	41	41	8	2	0	738
	思わない	3	27	50	17	2	2	199
	わからない	2	21	54	17	5	1	563

1年以上使用している薬の有無別にみた「使用薬の特性の理解度」

使用薬の特性について理解している(よく、まあまあわかっている)人の割合は、1年以上使っている薬がある人でない人を上回った。

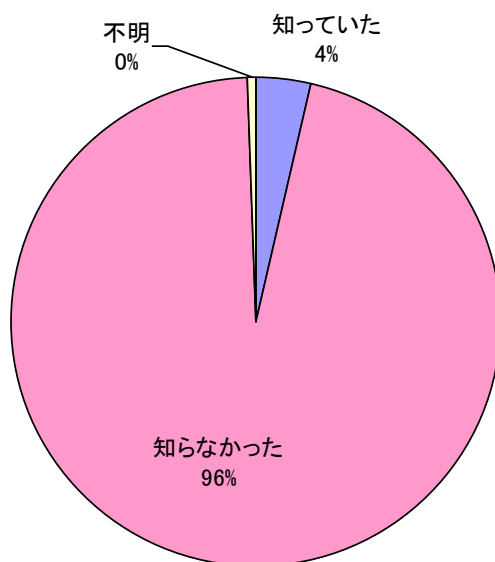
		Q24 使用薬の特性の理解度						n
		よく と思う か つ て い	まあ あ ま あ わ か つ て い	普 通 程 度	そ こ そ こ で あ ま	気 に し て い な い	不 明	
(%)	全体	6	31	47	12	3	1	1500
	Q17 1年以上使っている薬の有無							
	ある	10	42	38	9	1	0	461
	ない	3	27	51	14	4	1	1033

Q25. 中学校での「医薬品教育」の認知状況

「医薬品教育」について「知っていた」は4%、「知らなかった」は96%で認知度が低いことがわかる。

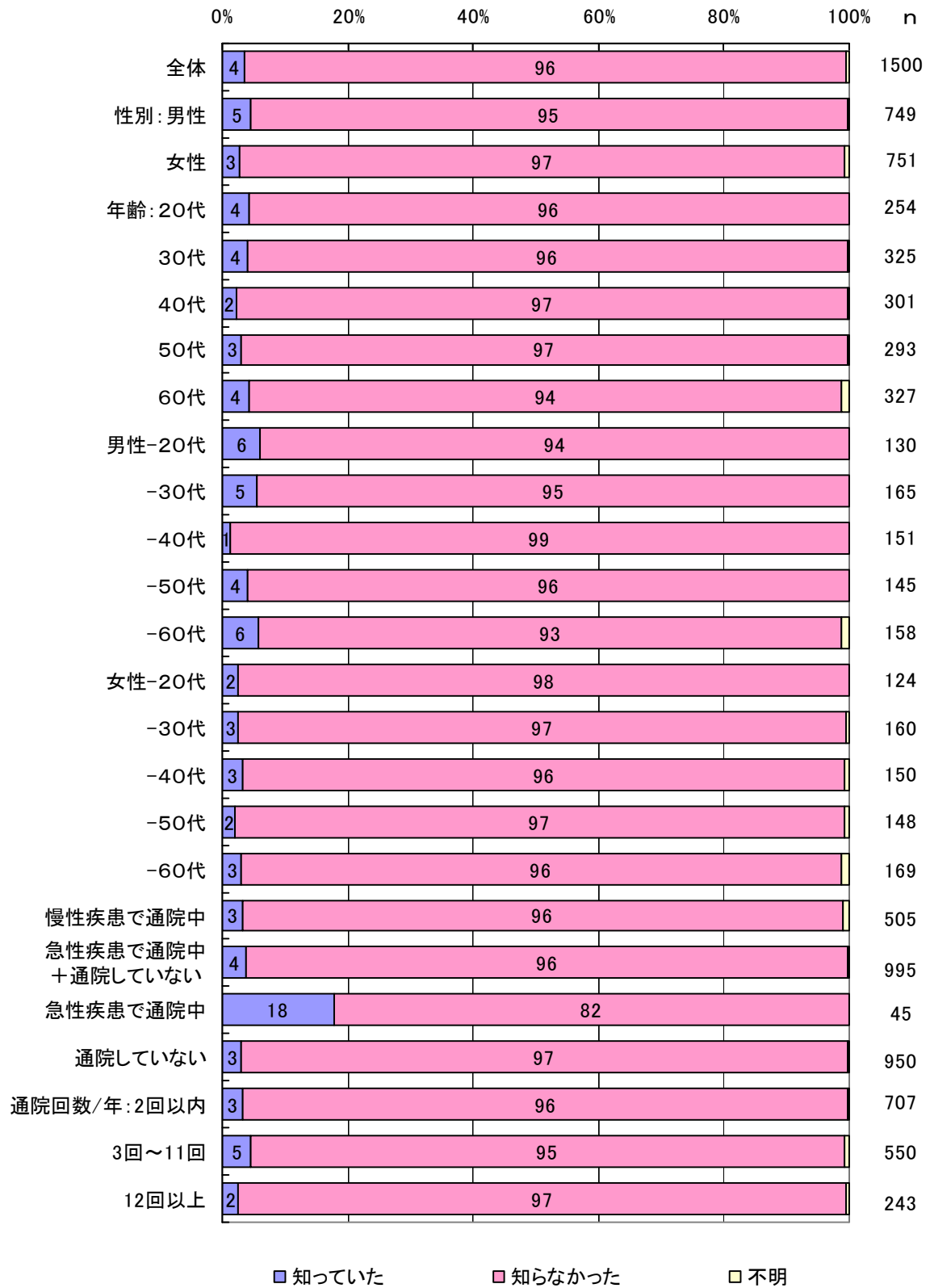
Q25. 中学校で「医薬品教育」(平成24年度から)が行われることになりました。「医薬品教育」では「医薬品の主作用と副作用があることおよび正しい薬の使い方」を学ぶことになります。知っていましたか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. 知っていた。
2. 知らなかった。



n = 1500

Q25. 中学校での「医薬品教育」の認知状況



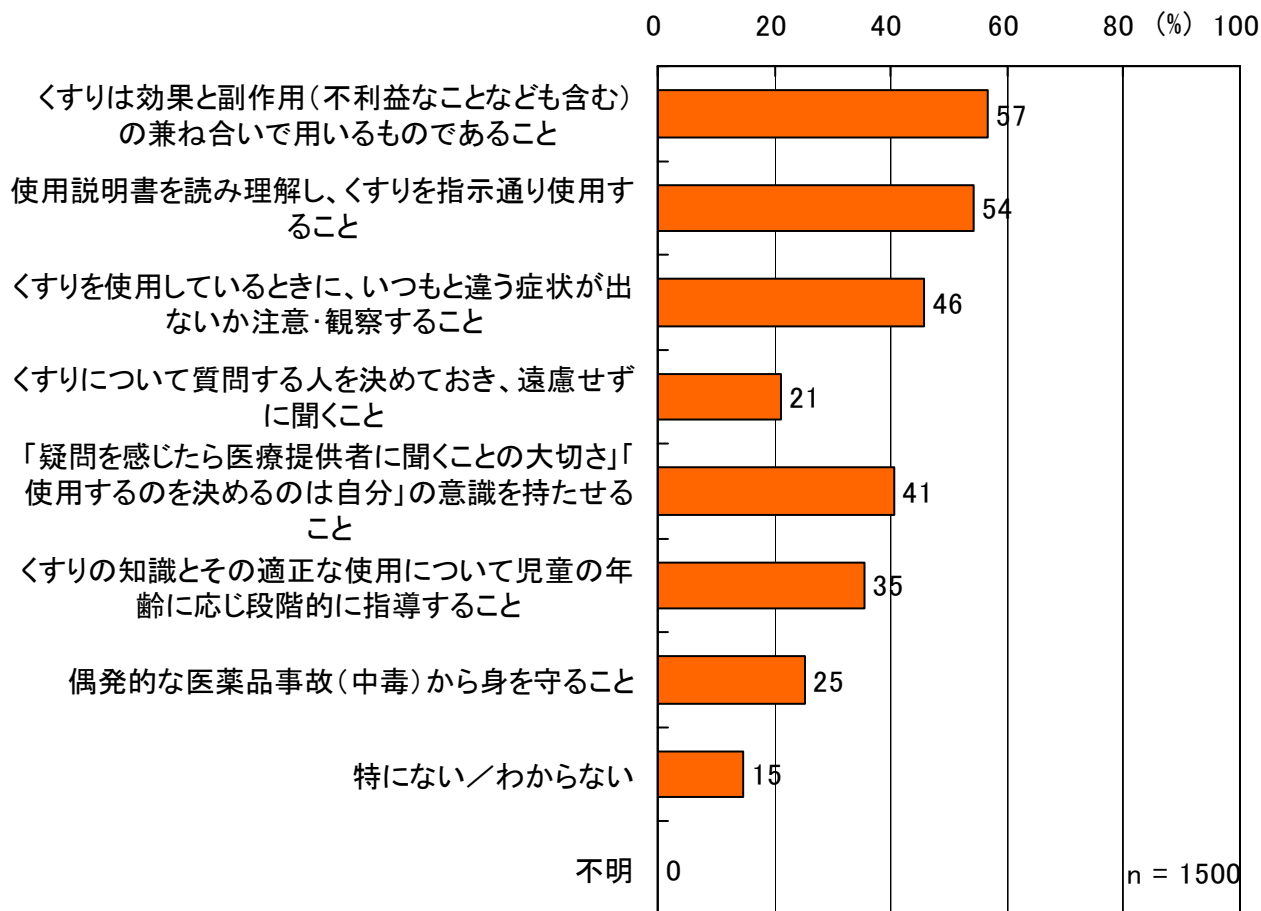
Q26. 中学校での「医薬品教育」で必要と思うこと

「医薬品教育」で特に必要だと思うのは「くすりは効果と副作用（不利益なことなども含む）の兼ね合いで用いるものであること」が 57%、「使用説明書を読み理解し、くすりを指示通り使用すること」が 54%、「くすりを使用しているときに、いつもと違う症状が出ないか注意・観察すること」が 46%であった。

また全体的に男性よりも女性、通院回数が多い人で回答率が高く、医薬品教育に対する関心が高いと言える。年代別では 20 代で「特にない/わからない」が 25%と、全体の 15%を 10 ポイント上回り、関心の低さがうかがえる。

Q26. あなたは「医薬品教育」において、薬について具体的に特に必要だと思うのはどれですか。（〇はいくつでも）

1. くすりは効果と副作用（不利益なことなども含む）の兼ね合いで用いるものであること。
2. 使用説明書を読み理解し、くすりを指示通り使用すること
3. くすりを使用しているときに、いつもと違う症状が出ないか注意・観察すること
4. くすりについて質問する人を決めておき、遠慮せずに聞くこと
5. 「疑問を感じたら医療提供者に聞くことの大切さ」「使用するのを決めるのは自分」の意識を持たせること
6. くすりの知識とその適正な使用について児童の年齢に応じ段階的に指導すること
7. 偶発的な医薬品事故（中毒）から身を守ること
8. 特にない／わからない



Q26. 中学校での「医薬品教育」で必要と思うこと

(%)	子どもを含むことの兼ね合いで用いるものでないこと	くすりは効果と副作用（不利益なことなど）を併せて説明すること	使用説明書を読み理解し、くすりを指示すること	違う症状が出ないか注意・観察すること	くすりを使用しているときに、いつともき、遠慮せずに質問すること	くすりについて質問する人を決めておくこと	「疑問を感じたら医療提供者に聞くこと」の大切さを「使用するのを決めるのは自分」の意識を持たせること	「疑問を感じたら医療提供者に聞くこと」の大切さを「使用するのを決めるのは自分」の意識を持たせること	児童の年齢に応じた段階的に指導すること	くすりの知識とその適正な使用について	偶発的な医薬品事故（中毒）から身を守る	特になし／わからない	不明	n
全体	57	54	46	21	41	35	25	15	0	1500				
性別 男性	56	49	38	19	35	32	19	17	0	749				
女性	58	60	54	23	46	39	32	13	0	751				
年齢 20代	52	44	35	20	31	30	20	25	0	254				
30代	60	50	46	24	39	35	26	15	0	325				
40代	55	57	45	20	40	36	26	14	0	301				
50代	59	58	50	20	42	36	27	11	0	293				
60代	57	60	50	21	48	38	27	10	0	327				
男性 - 20代	49	38	28	14	25	25	16	29	0	130				
- 30代	60	43	41	22	36	35	20	18	0	165				
- 40代	52	54	39	16	36	31	17	15	1	151				
- 50代	55	51	42	21	34	34	21	13	0	145				
- 60代	61	57	37	19	42	33	21	10	0	158				
女性 - 20代	54	50	42	26	38	35	24	21	0	124				
- 30代	61	58	53	25	42	36	33	13	0	160				
- 40代	57	61	51	25	45	41	35	14	0	150				
- 50代	62	64	57	20	50	39	33	8	0	148				
- 60代	53	63	62	22	54	43	33	9	0	169				
慢性疾患で通院中	61	57	52	25	48	39	28	11	0	505				
急性疾患で通院中 + 通院していない	55	53	42	19	37	33	24	16	0	995				
急性疾患で通院中 通院していない	53	67	49	24	40	36	24	11	0	45				
通院回数/年: 2回以内	54	50	41	18	35	31	22	18	0	707				
3回~11回	57	56	48	21	45	36	27	12	0	550				
12回以上	64	63	54	29	49	45	31	11	0	243				

医薬品教育の認知状況別にみた医薬品教育で必要と思うこと

		Q26「医薬品教育」で必要と思うこと									n					
		のく 兼す ねり 合は い効 で果 用と いる副 もの作 である用 こと(不 利益 なこ とな ども 含む)	く す り を 使 用 し て い る こ と	出 な い か 注 意 ・ 観 察 す る こ と	く す り を 使 用 し て い る こ と に い つ も と 違 う 症 状 が	に 聞 く こ と	く す り に つ い て 質 問 す る 人 を 決 め て お き 、 遠 慮 せ ず	「 疑 問 を 感 じ た ら 医 療 提 供 者 に 聞 く こ と の 大 切 さ 」 「 使 用 す る の を 決 め る の は 自 分 」 の 意 識 を 持 た せ る こ と	「 疑 問 を 感 じ た ら 医 療 提 供 者 に 聞 く こ と の 大 切 さ 」 「 使 用 す る の を 決 め る の は 自 分 」 の 意 識 を 持 た せ る こ と	に 応 じ 段 階 的 に 指 導 す る こ と		く す り の 知 識 と そ の 適 正 な 使 用 に つ い て 児 童 の 年 齢	偶 発 的 な 医 薬 品 事 故 (中 毒) か ら 身 を 守 る こ と	特 に な い ／ わ か ら な い	不 明	
(%)																
全体		57	54	46	21	41	35	25	15	0	1500					
Q25「医薬品教育」 の認知状況	知っていた	59	63	48	24	39	26	24	4	0	54					
	知らなかった	57	54	45	21	41	36	26	15	0	1439					

調査票

くすりに関するアンケート(2010年版改訂第8案)

Q1 あなたの現在の健康状態について、当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. 全く健康
2. まあ健康(普通)
3. あまり健康ではないが、医者にかかるほどではない
4. 医者にかかっている

Q2 普段、あなたは、風邪ぎみや腹痛等のような体の変調を覚えた時、最初にどうしますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. 休養をとったり、栄養のあるものを食べたり、体を動かしたり(運動)して様子を見る。
2. まず市販の薬(一般用医薬品)を使い、様子を見る。
3. とにかく医者に行き、診察を受け、薬をもらう。

Q3 あなたは、病院や医院(以下、歯科や産科は除く)をどのように選んでいますか。(○はいくつでも)

1. かかりつけの病院や医院がある。
2. インターネットなどで調べて選ぶ。
3. 人に聞いて評判の良い病院や医院を選ぶ。
4. その都度、近くの病院や医院を適当に選ぶ。

Q4 あなたは、最近に利用した、または現在利用している病院や医院について、どの程度満足していますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. 満足している
2. まあ満足している
3. あまり満足していない
4. 不満がある
5. 現在も過去にも利用したことがない

SQ【Q4で「1.満足している」もしくは「2.まあ満足している」を選んだ方】

利用している病院や医院に満足している点は、どんなことですか。(○はいくつでも)

1. 医師の腕が良いので
2. 医師や看護師が親切なので
3. 医師や看護師がよく話を聞いてくれるので
4. 治療法などをよく説明してくれるので
5. 薬についてよく説明してくれるので
6. 薬の量が適切なので
7. よく効く薬を出してくれるので
8. 設備・機器が充実しているので
9. 治療費が安いので
10. 待ち時間が短いので
11. 病院や医院内で薬を出してくれるので
12. 夜間、土・日も診察してくれるので
13. その他()

Q5 あなたは、自分の病気の治療(方針や過程)について自分もしくは保護者の意思が反映されていたと思いますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. 思う。
2. 思わない。
3. わからない。

SQ1【Q5で「1.思う」を選んだ方】自分もしくは保護者の意思が、どんな時に反映されていたと思いましたか。(○はいくつでも)

1. 手術について説明を受けた時。
2. 治療法を変える時。
3. 処方薬を変更する時。
4. 副作用ではないかと聞いた時。
5. 医師から納得のいく説明がされた時

SQ2【Q5で「2.思わない」を選んだ方】自分もしくは保護者の意思が反映されていないことについてどう思いますか。(○はいくつでも)

1. 病気や治療法などの知識がないから、意思が出せない。
2. 医師とは相談しにくいので難しい。
3. 病気や治療について事前に学習できる機会がない。
4. 治療や薬については医師に任せただけだから必要ない。

Q6 あなたは、処方せんを出して薬をもらう保険薬局を決めていますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. かかりつけとして決めている。
2. 特に決めていない。

SQ 【Q6で「1.かかりつけとして決めている」を選んだ方】薬局を決めている理由はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

1. スタッフの対応がとてもよい
2. ジェネリック医薬品を取り揃えている
3. 待ち時間が短い
4. いろいろ相談できる薬剤師がいる
5. 薬について知りたいことを教えてくれる
6. 話をよく聞いてくれる
7. 薬局内が清潔である
8. 市販の薬等の品揃えが多い
9. 良い薬局との評判を耳にしている
10. 家族・知人も利用している
11. 営業時間の都合が良い
12. 家・職場からの距離が近い
13. 病院からの距離が近い
14. 薬局の外観または、インテリアがよい
15. 備品(機器など)がよい
16. インターネットで探すことができる
17. 特にない
18. その他()

Q7 あなたが、最近(過去1年以内)、病院や医院に行き、薬をもらいましたか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(〇はひとつ)
(病院や医院で処方せんをもらい、保険薬局で薬をもらう場合も含めてお答え下さい。)

1. はい
2. いいえ

SQ 【Q7で「1.はい」を選んだ方】あなたは、その時に、どこで薬をもらいましたか。(〇はいくつでも)

1. その病院や医院で薬を受け取った
2. 医師から処方せんをもらい、病院や医院外の保険薬局で薬を受け取った
3. 覚えていない

Q8 あなたは、その時に処方された薬の「薬の名前」「効き目」「使用方法」「使用量」「副作用」について、医師や薬剤師、看護師から説明(印刷物も含む)を受けましたか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(〇はひとつ)

1. 充分説明を受けた
2. 少し説明を受けた
3. 全く説明を受けていない(→Q9へ)

SQ1 【Q8で「1.充分説明を受けた」「2.少し説明を受けた」を選んだ方】

処方された薬の説明は、誰から受けましたか。(〇はいくつでも)

1. 医師から
2. 薬剤師から
3. 看護師から
4. その他の人から

SQ2 【Q8で「1.充分説明を受けた」「2.少し説明を受けた」を選んだ方】

処方された薬について、どのような説明(印刷物も含む)を受けましたか。(〇はいくつでも)

1. 薬の名前
2. メーカーの名前
3. 効き目(薬の作用)
4. 副作用
5. 使用方法
6. 使用量
7. 飲み合わせ(相互作用)
8. 飲み忘れたときの対処方法
9. 薬の保管方法
10. 薬の副作用が出たときの対処方法
11. その他()

SQ3 【Q8で「1.充分説明を受けた」「2.少し説明を受けた」を選んだ方】

処方された薬について、どのように説明を受けましたか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(〇はひとつ)

1. 口頭のみでの説明
2. 印刷物をもちいての説明
3. 印刷物をもちいての説明があり、印刷物ももらった
4. 口頭での説明がなく、印刷物を渡されただけ

SQ4 【Q8で「1.充分説明を受けた」「2.少し説明を受けた」を選んだ方】

処方された薬の説明を受けて、どの程度、説明の内容がわかりましたか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(〇はひとつ)

1. よくわかった
2. まあわかった
3. あまりわからなかった
4. わからなかった

Q9 あなたは今まで、医師が処方した薬をもらうときに「薬の名前」「効き目」「使用方法」「使用量」「副作用」について、医師や薬剤師、看護師に尋ねたことがありますか。(○はいくつでも)

1. 医師に尋ねたことがある
2. 薬剤師に尋ねたことがある
3. 看護師に尋ねたことがある
4. その他の人に尋ねたことがある
5. 尋ねたことはない

Q10 あなたは、医師が処方した薬の「説明」を誰から聞きたいと思いますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. 医師から
2. 薬剤師から
3. 看護師から
4. その他の人から
5. 特にいない

Q11 あなたは、医師が処方した薬をもらう時、どんな情報が役立つと思いますか。当てはまるものを選んでください。(○は3つまで)

1. 薬の名前
2. メーカーの名前
3. 効き目(薬の作用)の程度
4. 効き目(薬の作用)のある部位
5. 重篤な副作用
6. すべての副作用
7. 使用方法
8. 使用量
9. 飲み合わせ(相互作用)
10. 飲み忘れたときの対処方法
11. 薬の保管方法
12. 薬の副作用が出たときの対処方法
13. その他()

Q12 あなたは、病院や医院または保険薬局からもらっている「お薬手帳」を利用していますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. 利用している
2. 利用していない
3. もらったことはない

Q13 あなたは、病院や医院または保険薬局で、薬の説明が書かれた紙(印刷物)が必要だと思いますか。

当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. いまもらっているものをもらいたい
2. 内容を改良したものをもらいたい
3. 特に必要ない

SQ 【Q13 で「2.内容を改良したものをもらいたい」を選んだ方】

病院や医院または保険薬局で、薬の説明が書かれた紙(印刷物)として、どのようなものがあるとよいと思いますか。(○はいくつでも)

1. 家に帰ってから確認できる詳しい内容のもの
2. 注意点に絵文字(ピクトグラム)のようなわかりやすいマークがついているもの
3. 注意点がわかりやすくカラーで印刷されているもの
4. 実際の薬の写真が載っているもの
5. 印刷物に薬剤師が手書きで注意点を書き込んだもの
6. その他()

Q14 あなたは、医師が処方した薬についての情報を、どこから入手していますか。(○はいくつでも)

1. 医師
2. 病院や医院内の薬剤師
3. 看護師
4. 保険薬局(病院や医院の外の薬局)の薬剤師
5. 知人
6. 「医師からもらった薬がわかる本」などの書籍
7. 新聞・雑誌の記事
8. テレビ番組
9. インターネット
10. その他()
11. どこからも入手していない

SQ【Q14で「9.インターネット」を選んだ方】

医師が処方した薬についての情報をインターネットのどのようなサイトで薬の情報を入手されていますか。
(日頃利用されているサイト、検索サイトでヒットしたホームページ経由等)
(〇はいくつでも)

1. 医薬品情報の専門サイト
2. 製薬会社のホームページ
3. 患者会のホームページ
4. 個人のブログ
5. その他()

Q15 あなたは、医薬品医療機器総合機構(厚生労働省の関係機関、以下 PMDA)の「消費者くすり相談室」や各製薬会社の「消費者くすり相談窓口」を利用したことがありますか。(〇はいくつでも)

1. PMDAの「消費者くすり相談室」を利用したことがある
2. 製薬会社の「消費者くすり相談窓口」を利用したことがある
3. 両方とも利用したことがない

Q16 あなたは、医師が処方した薬を、指示通りに使いますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(〇はひとつ)

1. きちんと指示通りに使う
2. だいたい指示通りに使う
3. どちらともいえない
4. ほとんど指示通りに使わない
5. 全く指示通りに使わない

SQ1【Q16で「4.ほとんど指示通りに使わない」「5.全く指示通りに使わない」を選んだ方】

あなたが、医師が処方した薬を、指示通りに使わない理由は何ですか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(〇はひとつ)

1. つい使い忘れてしまうから
2. 体調が良くなったから
3. 全部使いきれないから
4. 副作用が怖いから
5. その他()

SQ2【Q16で「2.だいたい指示通りに使う」～「5.全く指示通りに使わない」を選んだ方】

医師が処方した薬を、きちんと指示通りに使わない場合、医師が処方した薬が手元に余ることがあると思いますが、どうしていますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(〇はひとつ)

1. すぐに捨てる
2. 保存して時間がたてば捨てる
3. 保存しておいて同じ症状の時に使う
4. 同じ症状の家族や友人に分けてあげる
5. 病院や医院または保険薬局に返す
6. その他()

SQ3【Q16で「2.だいたい指示通りに使う」～「5.全く指示通りに使わない」を選んだ方】

医師が処方した薬を、きちんと指示通りに使わない場合、薬が手元に余ることについてどう思われますか。あなたのお考えに近いものに当てはまるものを選んで下さい。(〇はいくつでも)

1. 次の診療のときに医師や薬剤師に伝えるべきである
2. きちんと飲んでないので良くならない
3. 医療費が無駄だと思う
4. 副作用がでない
5. その他()

Q17 現在、処方された薬で1年以上使い続けている薬がありますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(〇はひとつ)

1. ある。
2. ない。

SQ【Q17で「1.ある」を選んだ方】1年以上使い続けている薬について定期的な確認はしていますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(〇はひとつ)

1. 定期的に医師あるいは薬剤師から服用状況を聞かれている。
2. 自分から医師あるいは薬剤師に服用状況を教えている。
3. 1年以上使い続けているが、問題ないから黙って使い続けている。

Q18 あなたは、医師が処方した薬について、不安に思ったことはありますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(〇はひとつ)

1. よくある
2. 時々ある
3. 一度もない

Q19 あなたは、医師が処方した薬を使うとき、副作用をどの程度気にしていますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. 非常に気にしている
2. まあ気にしている
3. どちらともいえない
4. あまり気にしていない
5. 全く気にしていない

Q20 あなたは、過去に医師が処方した薬の副作用と思われる経験をしたことがありますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. ある
2. ない

SQ【Q20で「1.ある」を選んだ方】

あなたは、医師が処方した薬の副作用が出たと思われた時に、どのようにしましたか。(○はいくつでも)

1. 医師に相談した
2. 薬剤師に相談した
3. 看護師に相談した
4. 家族や友人・知人に相談した
5. PMDAや保健所などに問い合わせた
6. 製薬企業に問い合わせた
7. 本・雑誌で調べた
8. インターネットで調べた
9. 薬を飲むのをやめた
10. その他()
11. 特に何もしなかった

Q21 あなたは、医師が処方した薬の副作用について、どうお考えですか。(○はいくつでも)

1. 医師や薬剤師の指示通りに服用すれば薬の副作用はないと思う
2. 薬で副作用が出るのは、特異体質の人の場合だけだと思う
3. 人によって、またその人の病気の状況によって副作用が出たり出なかつたりすると思う
4. たくさんの種類や量の薬を飲んだ場合には、副作用が出ると思う
5. 薬はその病気に対してだけ作用するわけではないので、なんらかの副作用が出てもしかたないと思う
6. 重い病気に使う薬の場合は、副作用が出てもしかたがないと思う
7. 病気を治すためだったら、多少の副作用はしかたないと思う
8. 副作用はあってはならないと思う
9. その他()
10. よくわからない

Q22 国の医薬品副作用被害救済制度があることを知っていますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. 知っている
2. 知らない

Q23 あなたは、過去に市販の薬(一般用医薬品)を買うにあたり、薬剤師や登録販売者に相談したことがありますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. ある
2. ない

SQ1【Q23で「1.ある」を選んだ方】薬剤師や登録販売者に相談の結果、どう思いましたか。(○はいくつでも)

1. 自分に合う薬を選択できた。
2. 症状などを聞いてくれて、薬の使い方がわかった。
3. その他()

SQ2【Q23で「2.ない」を選んだ方】薬剤師や登録販売者に相談しないのは、どうしてですか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. 薬を指定して買うので相談したことがない。
2. 説明を聞くのが煩わしくて相談していない。
3. 自分の病気を他人に知られてしまわないか心配だから。
4. あらかじめ調べてから買いに行くので不要。
5. その他()

Q24 あなた自身が用いている薬の特性(効き目、副作用、使用方法など)についてどの程度理解できていると思いますか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. よくわかっていると思う。
2. まあまあわかっていると思う。
3. 普通程度。
4. そこそこであまり自信はない。
5. 気にしていない。

SQ 【Q24 で「1.よくわかっていると思う」、「2.まあまあ分かっていると思う」以外を選んだ方】
これから薬の特性について理解しようとする、どのような方法で知識を得たいと思いますか。
(○はいくつでも)

1. 医師、薬剤師、看護師などの専門家から。
2. 家族や友人から。
3. インターネットで。
4. 専門書で。
5. TV、新聞、など

Q25 中学校で「医薬品教育」(平成24年度から)が行われることになりました。「医薬品教育」では「医薬品の主作用と副作用があることおよび正しい薬の使い方」を学ぶこととなります。知っていましたか。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. 知っていた。
2. 知らなかった。

Q26 あなたは「医薬品教育」において、薬について具体的に特に必要だと思うのはどれですか。(○はいくつでも)

1. くすりは効果と副作用(不利益なことなども含む)の兼ね合いで用いるものであること。
2. 使用説明書を読み理解し、くすりを指示通り使用すること
3. くすりを使用しているときに、いつもと違う症状が出ないか注意・観察すること
4. くすりについて質問する人を決めておき、遠慮せずに聞くこと
5. 「疑問を感じたら医療提供者に聞くことの大切さ」「使用するのを決めるのは自分」の意識を持たせること
6. くすりの知識とその適正な使用について児童の年齢に応じ段階的に指導すること
7. 偶発的な医薬品事故(中毒)から身を守ること
8. 特にない/わからない

【最後にあなたご自身について伺います】

F1 性別は。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. 男性
2. 女性

F2 年齢は。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. 20代
2. 30代
3. 40代
4. 50代
5. 60代

F3 職業は。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. 経営・管理職
2. 専門・技術職
3. 自営業
4. 常勤のお勤め人
5. パート・アルバイト(派遣社員・契約社員含む)
6. 専業主婦
7. 学生
8. 無職(定年退職後も含む)
9. その他()

F4 最終学歴。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. 中学卒
2. 高校卒
3. 短大・高専・専門学校卒
4. 大学・大学院卒

F5 現在の通院状況。最も当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. 慢性的な病気で通院中である
2. カゼやケガなどの急性疾患で通院中である
3. 現在通院していない

F6 この1年間の通院の回数は。当てはまるものをひとつ選んで下さい。(○はひとつ)

1. 2回以内
2. 3回～11回
3. 12回以上

F7 お住まいは。当てはまるものをひとつ選んで下さい。

[]都・道・府・県

以上、ご協力ありがとうございました。